

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

令和 8年 3月 31日

杉並区長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町1丁目5番地4-712

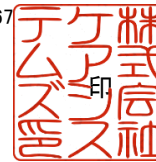
評価機関名 株式会社 ケアシテムズ

認証評価機関番号

機構 06 - 167

電話番号 03-3511-5035

代表者氏名 和田 俊一



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	伊藤 一郎	経営	H1601010
	②	和田 俊一	経営	H0601057
	③	和田 輝美	福祉	H1001021
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	高円寺東学童クラブ			
事業所連絡先	〒	166-0003		
	所在地	東京都杉並区高円寺南1丁目7番22号 高円寺東児童館		
	TEL	03-3315-1802		
事業所代表者氏名	館長 深沢 勝			
契約日	2025 年 7 月 15 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 10 月 15 日			
利用者調査結果報告日	2026 年 2 月 7 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 10 月 15 日			
自己評価結果報告日	2026 年 2 月 7 日			
訪問調査日	2026 年 2 月 14 日			
評価合議日	2026 年 2 月 14 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は、調査実施日現在、当事業所を利用している全ての利用者を対象にアンケートを実施した。事業所と評価機関の連名による依頼状にアンケート用紙と返信用封筒を同封して対象者に配付、回答は評価機関に直接送付してもらった。 事業評価に際しては、事前説明を行うとともに、職員からも個々の標準項目にチェックを入れた分析シートを回収し参考とした。 第三者性確保については、当評価機関と事業者の間には特別な関係は存在せず、中立公正な立場で調査を実施した。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません
- 別添の理由書により、公表には同意しません

年 月 日

事業者代表者氏名 館長 深沢 勝 印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)安全・安心な学童クラブ運営 2)子どもの利益や成長段階に応じた対応を行い、子どもの声を取り入れた運営 3)保護者の気持ちに寄りそった対応と関係づくり 4)地域の対応学童クラブや子どもの居場所施設との連携 5)良好なコミュニケーションがとれた職場関係づくり</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>「杉並区人材育成方針」では、目指す職員像を「主体的に意欲と能力を高め、新たな課題に挑戦していく職員」、目指す職場像を「共に学び、助け合い、みんなで作る風通しの良い職場」と定めている。 この事を年頭に、区民であり、学童クラブ利用者である子どもたちや保護者と日々関わっている。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>杉並区学童クラブ運営指針で学童クラブの基本姿勢が3つ述べられています。その使命を忘れないで、職務を行っています。</p> <p>(1)子ども一人ひとりを尊重し、子どもが安心して、安全に過ごせる居場所とする。 (2)子どもたちがともに育つ中で、自らの可能性を発揮し、健やかに成長するように支援する。 (3)地域や関係機関と連携・協力して安心して楽しく子育てができるように支援する。</p>

調査対象

調査日現在、当事業所の利用登録者総数である55名を調査対象とした。回答者の年齢構成は、1年生9名、2年生11名、3年生8名、4年生1名、5年生1名であった。

調査方法

アンケートは、QRコードを付した依頼文を配付し、評価機関に直接電送してもらう方法と、アンケート用紙を事業所にて配付してもらい回答は返信用封筒にて評価機関に直接送付してもらう方法の2種類で実施した。

利用者総数

55

共通評価項目による調査対象者数

アンケート	聞き取り	計
55	0	55
30	0	30
54.5	0.0	54.5

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

利用者調査全体のコメント

回答者の属性は、「利用者本人」が40.0%、「家族と相談」が56.7%、「家族が代弁」が3.3%であった。総合的な満足度に関する調査の結果は、対象者の90.0%が「よい」または「ややよい」と回答し、「どちらともいえない」が6.7%、「ややよくない」が3.3%であり、大変高い満足度が得られている。項目別では、＜生活について＞に関する5設問は1設問において、大変高い満足度であった。「職員は話を聞いてくれたり、相談にのってくれるか」では、80.0%の大変高い満足度が得られている。＜安心・快適性＞に関する4設問は2設問において、大変高い満足度であった。特に「けが・体調不良時の対応」では、96.7%の大変高い満足度が得られている。＜あなたを大切にしてくれているか＞に関する2設問は「気持ちを大切にしてくれるか」において、83.3%の大変高い満足度が得られている。＜嫌なことや、してほしいことについて＞では、「困ったり、してほしいこと」は、概ねの利用者が満足とする回答を得られているが、「職員以外への相談の案内」については、さらに高い満足度が望まれる結果であった。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	21	7	0	2
「はい」が70.0%、「どちらともいえない」が23.3%、「無回答・非該当」が6.7%であり、高い満足度であった。自由意見では、「普通」、「たまに友だちがあおってくる」、「おもちゃが少なくてつまらない」という声が聞かれた。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	24	3	1	2
「はい」が80.0%、「どちらともいえない」が10.0%、「いいえ」が3.3%、「無回答・非該当」が6.7%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「相談することがない」、「あまり話すことがない」、「こうしてほしいと伝えたことを聞いてもらえない」という声が聞かれた。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	22	8	0	0
「はい」が73.4%、「どちらともいえない」が26.6%であり、高い満足度であった。自由意見では、「リクエストおやつが楽しいです」、「リクエストおやつが大好きです」、「楽しくないときもある」という声が聞かれた。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	19	5	0	6
「はい」が63.3%、「どちらともいえない」が16.7%、「無回答・非該当」が20.0%であった。自由意見では、「聞いてはくれるけど、願いはかなわない」という声が聞かれた。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	22	6	1	1
「はい」が73.4%、「どちらともいえない」が20.0%、「いいえ」が3.3%、「無回答・非該当」が3.3%であり、高い満足度であった。自由意見では、「話してはくれるけど、あまり話をきいてくれない」という声が聞かれた。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	19	8	2	1
「はい」が63.3%、「どちらともいえない」が26.7%、「いいえ」が6.7%、「無回答・非該当」が3.3%であった。自由意見では、「糊とかがついてることがある」、「ちょっと汚れているときがある」という声が聞かれた。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	26	4	0	0
「はい」が86.7%、「どちらともいえない」が13.3%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「特定の職員が名前を呼び捨てにすることが嫌だ」という声が聞かれた。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	29	1	0	0
「はい」が96.7%、「どちらともいえない」が3.3%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「転んでいるのに「すぐ立ちなさい」と言ってくる職員がいる」という声が聞かれた。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	22	3	0	5
「はい」が73.4%、「どちらともいえない」が10.0%、「無回答・非該当」が16.6%であり、高い満足度であった。自由意見では、「いじめはないです」、「自分たちで解決する」という声が聞かれた。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	25	3	0	2
「はい」が83.3%、「どちらともいえない」が10.0%、「無回答・非該当」が6.7%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「先生による」という声が聞かれた。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	19	2	0	9
「はい」が63.3%、「どちらともいえない」が6.7%、「無回答・非該当」が30.0%であった。自由意見は特になかった。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	16	5	0	9
「はい」が53.3%、「どちらともいえない」が16.7%、「無回答・非該当」が30.0%であった。自由意見では、「そういうことが今までなかった」、「先生に話しても良くならない時がある」という声が聞かれた。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	10	2	6	12
「はい」が33.3%、「どちらともいえない」が6.7%、「いいえ」が20.0%、「無回答・非該当」が40.0%であった。自由意見では、「そういうことはありませんでした」、「質問の意味がわからない」という声が聞かれた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている 〇非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している 〇非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える 〇非該当
	カテゴリー1の講評	
	方針と目標を職員と保護者に具体的に周知している 区の方針は児童青少年課から示され、メール通知と年初の館長会で共有された内容を全職員へ周知している。運営計画は決められた様式に沿って担当職員が作成し、作成過程で方針や目標を確認するため、職員全体で共通認識を持ちやすい環境になっている。保護者には入会案内で理念・目標を示し、見学時に目指す基本や集団生活の考え方、安全に過ごすための方針、当クラブの特徴を説明している。各学童クラブの目標はしおりにも記載し、6月の保護者会で資料を用いて説明している。新規入会者には質問への対応を通じて学童クラブの位置づけを補足している。 年度方針と面談を通じ職員の方向性を揃えている 年度当初に経営層が方針を全職員へ伝え、課の組織目標として子どもの安心安全、区の子ども育成支援における役割、区の中長期計画を踏まえた学童クラブの役割、職場運営やライフワークバランス等の視点を整理して示している。区のルールに基づき、目標申告シートを用いたヒアリングを行い、職員ごとの担当業務や仕事の目標を聞き取り、区の方針に沿った業務の進め方へつなげている。あわせて個人のプライベートな意向も確認し、働き方の見通しを共有している。面談を通じて方向性の確認と動機づけを行い、クラブ運営のリードにつなげている。 重要案件を所管課手順で処理し媒体を使い分けて周知している 入会手続きなどの重要案件は所管課が定めた手順に沿って処理し、共通案件は通知と館長会を通して周知している。大きな方針事項は館長会で共有され、通常の情報はメールで関係者に共有される形としている。保護者への周知は内容の性質と緊急性で使い分けており、毎月のおたよりは定例の連絡や急がない内容を中心に扱っている。急ぐ事項はでんじょばとで発信し、回答を求める内容にも対応している。メールはでんじょばとの機能として使い、緊急性が高い場合は電話連絡も行っている。情報伝達の手段を整理し、決定事項が保護者に届くよう対応している。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>日常対応と面談を通じ多面的に状況を把握している</p> <p>利用者の状況は日々の育成場面や保護者のお迎え時の会話から把握し、集団生活の中で生じるトラブルや気になる様子については都度確認している。区全体で実施する利用者アンケートも活用し、意向や要望を把握している。職員については年3回(6月・12月・3月)のヒアリングを行い、学童クラブ内の状況認識や保護者対応の課題、業務上の意見、個人の意向を聞き取っている。日常のミーティングでも意見交換を行い、現場の声を把握している。地域の状況は関係会議への参加を通じて情報を得ている。</p> <p>区計画と前年度課題を踏まえ運営計画を組み立てている</p> <p>運営計画は課の組織目標および前年度に整理した課題を基に作成している。中長期計画は区全体の総合計画や子ども分野の計画に位置づけられ、単年度では青少年課の計画を意識して具体化している。支援が必要な子どもへの対応を重視し、目立ちにくい子どもにも目が届く小規模クラブの特性を踏まえた配慮を計画に反映している。予算は区から配当される枠組みに基づき、児童館全体の中で按配して運営に充てている。</p> <p>月次報告と日常実践を通じ計画を確認し次年度へ反映している</p> <p>年度当初に策定した運営計画に基づき、月次では利用者数や登録状況、行実施などの外形的事項を整理し報告している。数値や実施状況を確認しながら日々の運営を行っているが、年度途中に体系立てた中間評価の機会が多く設けていない。実際の運営では、子どもの様子や集団状況に応じて当初計画に固執せず対応方法を調整している。安心安全を基盤に判断し、その過程で得た気づきや改善点を翌年度の計画作成時に組み込む流れとしている。計画と実践を往復させながら見直しを行っている。</p>		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ3の講評

区の倫理規定に基づき法令遵守の意識を共有している

区の倫理規定に基づき勤務できるよう、全職員を対象とした研修を実施し、確認テストや情報セキュリティを含めた内容で理解を確認している。所管課からは職員の不適切行為や性加害防止に関する通達研修も行われ、事例を共有しながら公務員としての倫理意識を確認している。個人情報保護についても区の基準に沿って取り扱いを徹底している。日常業務では子どもの対応に関する気づきを職員間で伝え合える関係を築き、相互に振り返る環境を整えている。規範意識を職場内で共有しながら業務にあたっている。

区制度と連動した苦情対応体制を整えている

苦情解決制度については区全体の仕組みに基づき、保健福祉サービス苦情調整委員会の利用や区長への要望・苦情メール制度があることをポスター掲示等で周知している。クラブに関する苦情が寄せられた場合は所管課から通知を受け、事実確認を行ったうえで対応方針を決定している。区の制度と連動した流れの中で対応する体制を取っており、個別対応にとどまらず組織として処理する仕組みとなっており、利用者の意見や要望が行政ルートを通じて把握される構造である。

地域子育てネットワークを通じ情報共有と連携を行っている

児童館が事務局となり地域子育てネットワーク会議を年1回開催し、地域の関係機関が集まりそれぞれの運営状況や課題を共有している。学童クラブとしても参加し、地域の子どもの様子や動向を把握するとともに、当学童クラブの状況を伝えている。会議を通じて児童館や他機関の視点から子どもを捉える機会となっており、単独では得られない情報を共有できる場となっている。地域の中で子どもを支える一員として位置づけを確認し、相互理解を深める機会としている。

カテゴリ-4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>各種マニュアルに基づきリスク対策を整理している</p> <p>事故・災害・感染症・防犯等のリスクについては、危機管理対策課が作成したマニュアルを基礎とし、児童青少年課がこれまでの経験を踏まえて内容を整理している。各学童クラブではそれらのマニュアルを活用し、日常運営の中で対応手順を確認している。感染症、防犯、火災、災害など分野ごとに対応方法が定められており、想定される事態ごとに行動基準を共有している。保護者対応については各クラブで状況に応じて行う体制となっている。区の枠組みを基盤にリスク対応を整理している。</p> <p>訓練と説明機会を通じ非常時対応を具体的に共有している</p> <p>BCPや災害対応については、防災訓練や危機管理訓練を通じて職員が実際の行動を確認できるようにしている。感染症や防犯対応も含め、各種マニュアルを基に訓練を行い、非常時の役割分担を意識づけている。災害時の引き渡し方法については、入会説明会や保護者会で資料を用いて説明し、保護者が手順を理解できるようにしている。連絡手段としてはでんしよばとを活用することをあらかじめ示している。設備は古い部分もあるが、定期的な点検や修理を行い安全確保を図っている。訓練と説明を通じて、職員と保護者双方に対応の流れを示している。</p> <p>事故発生後は原因分析と共有を行い再発防止を図っている</p> <p>事故が発生した場合は、まず職員間で状況を共有し、常勤職員を中心に事実関係と原因を整理している。その結果を踏まえ、改善策を検討し、対応内容をできるだけ速やかに保護者へ説明するようにしている。単に個別事案として処理するのではなく、なぜ発生したのかを確認し、今後の対応方法や見守り体制を見直している。共有内容は職員間で確認し、同様の事案が起きた際に同じ判断ができるよう意識を揃えている。事故対応を組織的な振り返りの機会として位置づけている。</p>		

5 カテゴリー5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ-5の講評

定期面談を通じ職員の意向を把握し配置に反映している

採用および基本的な人員配置は区が行い、配属方針に基づいてクラブ運営を進めている。年3回実施するヒアリングでは、目標申告シートを用いて業務目標や役割の確認を行い、職員一人ひとりの意向や不安、職場で感じている課題を聞き取っている。面談は単なる確認にとどまらず、個々の気持ちを整理し、運営を円滑に進めるための調整機会として位置づけている。人事に関する課題は児童青少年課へ相談する仕組みがあり、区の体制と連動して対応している。職員の声を把握したうえで役割分担や業務配慮につなげている。

区研修と共有体制により学びを組織内に広げている

児童青少年育成課が実施するスキルアップ研修や専門研修への参加機会が設けられており、希望者が参加できるようシフトを調整している。同一研修に参加が集中しないよう調整しながら、複数の職員が異なる研修に参加できる体制を取っている。研修終了後は報告書を作成し館長が確認したうえで、ミーティングで内容を共有している。資料は供覧できるようにし、参加していない職員も内容を確認できる状態としている。外部研修で得た知識を職場内で伝達し、日常の育成場面で活用できるようにしている。

日常の情報共有と新人支援により組織連携を保っている

日々の打合せでは細かな事項も共有し、職員が知らない情報がない状態を目指している。常勤・非常勤それぞれの立場を踏まえ、必要な内容を整理しながら伝達している。職場内チャットも活用し、時間差勤務の中でも情報が届く仕組みを整えている。新人が入職した際には担当職員を配置し、業務手順や育成の考え方を具体的に伝え、早期に職場に馴染めるよう支援している。面談や日常の共有を通じて不安を把握し、職員間の連携を維持しながら組織としての対応力を高めている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度の重要課題として「子どもの安心・安全確保」を掲げ、入室管理システムの導入を進めている。従来は紙の連絡帳を通じて出欠や帰宅時間を確認していたが、子どもを介したやり取りとなるため伝達漏れや記入忘れが生じることがあり、出欠管理の正確性を高める必要を感じていたことが背景にある。学童クラブでは出欠管理と帰宅時間の把握が安全確保の基盤であるとの認識から、保護者がスマートフォンで直接入力できる仕組みに切り替えている。導入にあたっては職員体制自体は変更せず、出欠確認担当を明確にし、その日の出欠状況を一元的に把握する運用としている。さらにクラブ内のホワイトボードにも反映させ、複数の職員が状況を視認できるようにしている。帰宅予定時刻と子どもからの申し出にずれが生じた場合には電話で保護者に確認する体制をとり、確認作業を徹底している。紙から電子媒体への移行により、保護者にとっても利用しやすく、管理面の向上を図る取り組みとしている。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

導入後は、1か月分の利用予定が一元的に確認できるようになり、変更内容や入力漏れが一覧で把握できるようになっている。出欠や帰宅予定時刻の確認精度が高まり、当日の状況把握が迅速に行えるようになっている。保護者からはスマートフォン入力の利便性が評価され、紙よりも使いやすいとの声があり、誤入力への修正対応も容易になっている。入力内容を職員が即時に確認できることで、帰宅時間の見通しが立ちやすくなり、安全確認の流れが整理されている。一方、危機管理時にシステムを通じてどのような文面や内容を発信するかについては、学童クラブおよび児童青少年課で統一的な基準を明確に整理することが求められている。地域差への配慮も踏まえながら、より適切な運用方法を検討することを今後の課題としている。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度の重要課題として「子育て支援と家庭・関係機関との連携」を掲げている。背景には、支援を要する子どもや気になる行動を示す子どもが増えている状況があり、学童クラブ単独では対応に限界を感じる場面があるとの認識がある。家庭との信頼関係づくりを基盤とし、顔を合わせた直接対話を大切にしている。子ども同士のトラブルや暴言が生じた場合には事実確認を行い、双方の保護者に経過を説明し理解を得られるよう努めている。その際、日常の良い行動や成長の様子も併せて伝えるようにしている。職員間では加害者を一方的に決めつけず、双方の経過を共有し公平な視点を持つよう意識している。支援を要するケースでは子ども家庭支援センターや小学校と情報共有を行い、家庭支援児への対応を連携して進めている。関係機関との連携を通じ、より幅広い支援につなげることを目的とした取り組みとしている。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った<input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった<input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った<input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた<input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

取り組みを通じて、保護者との情報共有が進み、対応への理解や感謝の言葉が寄せられている。療育機関の活用についても理解が得られるようになり、家庭と学童クラブの間で支援方針を共有しやすくなっている。子ども家庭支援センターとの連携により、他の気になるケースについても紹介や相談が可能となり、支援の選択肢が広がっている。関係機関との協力関係が具体的な助言や支援につながっている。一方で、発達障害の診断には至らないが配慮が必要と感じる子どもが増えている状況があり、より早期の段階から学校や支援機関と情報共有を行うことが必要と感じている。対話の方法や連携の範囲を広げ、継続的に関係性を深めていくことを今後の検証課題としている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>合同説明会を開催して、地域の関連サービスの説明を合わせて行っている</p> <p>児童館の案内にも学童クラブの情報を掲載し、関係機関や各職場などにも配布して、情報提供に取り組んでいる。さらに、就学時健診時には学童クラブの入会のしおりや合同説明会のお知らせを配付して周知に努めている。その際には一般的な入会のスケジュールなどを伝えたり、地域の関連サービスの説明を併せて行うなど、幅広い情報提供に取り組んでいる。学童クラブに加え、放課後等居場所事業があることを踏まえ、利用を希望する子どもや保護者が比較しやすいように資料を作成して合同説明会を実施している。</p> <p>見学などの要望があった際には、随時、見学を受け入れている</p> <p>子どもや保護者の問い合わせや見学などの要望があった際には、随時、見学を受け入れることにしている。保護者の就労時間を考慮し、希望する時間に個別対応とし、柔軟に実施することになっている。また、クラブの説明以外にも、子育て相談にも丁寧に対応したり、必要に応じて外部の専門機関などを案内するなど、コミュニケーションを図ることになっている。杉三小学校の生徒を対象として、高円寺東学童クラブ、杉三学童クラブ、杉三小放課後居場所事業の3種類のサービスがあることを踏まえ、必要に応じて資料の配付をしている。</p>		

サブカテゴリ-2	
2	サービスの開始・終了時の対応
サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 8/8	
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している ○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている ○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している ○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇〇)</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望が決められた書式に記録し、把握している ○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している ○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている ○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている ○非該当
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている ○非該当
サブカテゴリ-2の講評	
<p>利用開始にあたり、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明し理解を促している</p> <p>新入会説明会を開催しており、各種の資料(入会のしおり・学童クラブ利用料等およびおやつ代納入方法・学童クラブの通所に関する注意事項・アレルギー疾患について・災害時等の子どもの引き渡しについて・学童クラブ防災携帯カード・入退会管理システムの導入およびご登録依頼についてなど)に沿って説明を行い、質疑にも応答している。また、入会面談においても質問があれば丁寧に応答するなど、開始にあたり、基本的ルール、重要事項などを子どもや保護者の状況に応じて説明し、理解を促している。</p> <p>発達面で配慮が必要な子どもについては詳しい情報を把握することに努めている</p> <p>発達面で特に配慮が必要な子どもの受け入れについては、入会面談時に保護者から見た子どもの特徴や様子、配慮してほしいことを詳しく聞き取ることにしている。また、関係機関と連絡を取って在籍している園での様子を見学し、担当職員からの情報収集にも取り組んでいる。特別支援児童入会審査会では、子ども発達センターや児童青少年課と情報共有し、学童クラブで安全に過ごすための話し合いをしている。職員全体で特徴や育成方法などの情報を共有し、必要に応じて環境整備などの配慮に取り組んでいる。</p>	

サブカテゴリー3

3 個別状況の記録と計画策定 サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 10/10

評価項目1
 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している 評点(0000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2
 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3
 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー3の講評

育成支援の計画は、年度末に職員間で当年度の振り返りを行い作成している
 育成支援の計画は、年度末に職員間で当年度の振り返りを行い、学童クラブ運営報告をベースに学童クラブ運営計画を作成している。毎日打ち合わせを行い、子どもの行動や状況を把握し、適宜見直しをしながら支援を行っている。また、発達面で特に配慮が必要な子どもに対しては、年度当初に育成計画を立て、毎日前日の様子を報告し情報を共有しており、必要に応じて、適宜対応を見直し、変更している。さらに、保護者会では口頭においても経緯やねらいを詳しく説明し、育成目標や計画を伝え、欠席の家庭には後日報告書を配付している。

子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載する仕組みが整っている
 子どもの変化やケガに関しては学童クラブ日誌に毎日記録している。また、次の日の打ち合わせ時に全職員に伝え、情報を共有するなど、子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載する仕組みが整っている。日常運営内の具体的な育成方法については、学童クラブ日誌に記載し、必要に応じて個別記録を残すなど、育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している。配慮が必要な子どもについては、日誌や個別記録に記載し、日々の打ち合わせ時にも職員全体で話し合い、記録を共有する流れとしている。

子どもの様子の引き継ぎは随時行い、情報共有が図れるようにしている
 日々の育成記録については、職員がいつでも見られるようにしており、育成支援の計画の内容や記録を全職員が共有しながら各種の業務に反映させることができるようにしている。また、子どもの様子の引き継ぎは随時行い、情報共有が図れるようにしている。年度末には運営計画の進捗や達成状況を共有して、次年度計画に反映させることにしている。そのほかの情報は、打ち合わせ時に全職員に伝えて記録を記入し、伝え漏れがないように配慮している。子どもや保護者の状況に変化があった場合は、都度申し送りや引き継ぎで共有を図っている。

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー5の講評			
<p>個人情報収集に関して保護者から同意を得たうえで対応している 入会面談時に外部とのやり取りを説明した上で、任意で同意書の記入を得ているが、子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている。写真撮影時の配慮や、子どもに関する情報の共有範囲について、保護者や子ども本人に確認しており、日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している。また、子どものプライバシー保護について、杉並区の規程に基づき、個人情報収集に関して保護者から同意を得たうえで対応している。</p> <p>保護者との面談内容も援助計画に反映させ、家庭との連携を大切にしている 入会面談や個人面談で得た家庭の価値観や生活習慣、学習状況、友人関係に配慮して支援を行っている。子どもや保護者に寄り添った声かけを心がけ、得た情報は口頭や日誌などで共有を行うとともに、家庭によっては配慮事項などを記録するなど、職員間で子どもや保護者の情報共有に努めている。保護者との面談内容も援助計画に反映し、家庭との連携を大切にしている。</p> <p>虐待対応は常にアンテナを張りながら、関係機関との連携が取れるようにしている 子ども間のトラブルの記録と情報共有を日々実施して、職員間で連携して対応できるようにしており、都度、課題を検討し、予防・再発防止に努めている。各家庭を理解し、個々の家庭環境に対応するとともに、見守りが必要な家庭に対しては、関係機関の協力体制を築いている。虐待対応は常にアンテナを張りながら、関係機関との連携が取れるようにしている。虐待防止マニュアルの確認を行い、学習の機会を充実させることを目指している。</p>			

サブカテゴリー6

6 事業所業務の標準化

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー6の講評

サービスの基本事項や手順などを明確にして遵守に努めている

入会に関する事務のマニュアルや、管理・運営面の事務説明会資料で事務手順などを設け、学童クラブが提供しているサービスの基本事項や手順などを明確にしている。毎年度利用者アンケートを実施しており、その際にはマニュアルなどを見返し、提供しているサービスが定められた基本事項や手順などに沿っているかどうかを定期的に点検・見直しをして、必要に応じて改善している。さらに、計画作成や各種の事業推進においてもマニュアルや資料を活用している。職員はわからないことが起きた際や、業務点検の手段として日常的に手引書などを活用している。

運用ルールについては利用者の意見を反映しながら改定を行っている

区で定められている管理運営面は、所管課によって毎年見直されている。高円寺東学童クラブ入会のしおりは、年度末に見直し・改訂をしている。提供しているサービスの基本事項や手順などは変更の時期や見直しの基準が定められている。職員や子ども・保護者からの意見や提案を参考に、入会のしおりの改訂などを通じて、提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しに反映するようにしている。課の共通ルール・学童クラブの運用ルールが基準に基づき適正に設定されており、適宜改定が行われている。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4

サービスの実施項目

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

29 / 29

1 評価項目1

子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目1の講評

子どもの姿を共有しながら一人ひとりの理解を深めて援助している

入会時の面談で把握した家庭状況や子どもの様子に加え、日常生活の中で見られる姿を職員間で共有しながら支援を行っている。常勤職員は午前中に児童館担当と学童クラブ担当で子どもの様子を確認し、午後には短時間職員も含めて学童クラブ全体で打ち合わせを行い、気になる行動や関わり方について話し合っている。共有した内容は学童クラブ日誌や打ち合わせ記録に残し、日々の関わりに反映できるようにしている。特別な配慮が必要な子どもについては個別の記録にも整理しながら、子どもの様子を継続して把握できるようにしている。

異年齢での班活動を通して子ども同士の関係づくりを支えている

学童クラブでは班活動を取り入れており、おやつ前のテーブル拭きなどの日常の場面を班で行っている。帰りの会では司会やゲームの進行を子どもが担うこともあり、生活の中で役割を持つ機会としている。誕生日会やハロウィン、クリスマスなどの行事でも班でゲームに取り組む場面があり、学年を越えて関わる機会となっている。人数規模が大きすぎないこともあり、普段の遊びの中でも自然に集まって遊ぶ様子が見られ、ごっこ遊びなどを通して学年の違いを意識せずに関わる姿も見られている。生活と遊びの両面で異年齢の関係が生まれる環境である。

子どもの思いを聞き取りながら関係の調整を行っている

日常生活の中では大きなトラブルは多くないものの、遊びの場面などで小さな行き違いが生じることがある。そうした際には職員が間に入り、子どもの話を聞きながら状況を整理し、それぞれの思いを伝え合えるように関わっている。言葉でうまく気持ちを表せない子どもには、気持ちを聞き取ったり言葉を補ったりしながらやりとりを支えている。特別な配慮が必要な子どもについては職員が見守りながら一緒に過ごし、遊びに参加しやすいよう職員が仲立ちを行いながら子ども同士の関係が続くよう援助している。

2 評価項目2

日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2の講評

生活の流れを示し子どもが見通しを持って過ごせるようにしている

学童クラブは児童館内2階の育成室を拠点として運営しており、来所するとタブレットで入室を確認し、ロッカーに荷物を置いて手洗いを行った後、自由遊びの時間となる。おやつや帰宅の時間など生活の区切りはチャイムや帰りの会でも知らせており、子どもが一日の流れを理解しながら過ごせるようにしている。早帰りの子どもについては帰りの会に参加できない場合もあるため、名前を伝えて挨拶をしてから帰ることを知らせるなど、子どもが自分の行動や時間などを意識できるようにしている。

遊びの内容や場所を工夫し子どもが選んで活動できるようにしている

学童クラブの育成室に加え、児童館3階の図工室・図書室・遊戯室を使用することもできるため、複数の場所や遊びを用意することで、子どもがその日の気分や関心に合わせて過ごせるようにしている。遊戯室ではドッジボールなど体を動かす遊びが行われ、15分ごとに遊びを入れ替える仕組みとしている。参加する遊びは子ども同士で相談したりじゃんけんで決めたりしており、連続利用の回数にも決まりを設けている。室内ではままごとなどの玩具やカードゲーム、ボードゲームなどの遊びが行われ、宿題や本を読む子どもは図書室やクラブ室で過ごしている。

生活の約束を示し子どもが自分で行動できるようにしている

生活の中で役割や約束を共有しながら、学童クラブでの生活に必要な習慣が身につくようにしており、室内には机の並べ方やおやつ約束、学校休業日の過ごし方などを掲示し、子どもが確認できるようにしている。遊びの片づけは玩具の種類ごとに棚へ戻すことを基本としており、おやつ前と帰りの会前には片づけの時間を設けている。また、おやつ時には良い関わりが見られた子どもを紹介することもあり、友達を助けた行動や作品づくりへの取り組みを共有している。生活の中でルールを確認しながら過ごすことが、集団での生活の理解につながっている。

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当	
評価項目3の講評			
<p>子どもが役割を担いながら参加できる行事を行っている 日常生活に変化を持たせる取り組みとして、誕生日会や季節行事などを行っている。誕生日会では司会を担当する子どもを募集し、2～3名で進行を行う形とし、進行の流れは台本を用意しており、誕生日カードを渡す場面や音楽を流す場面などを子どもが担っている。誕生日の子どもには写真を撮るなど特別な時間を設け、その日は最初におやつを選べるようにしている。3学期からは1年生も司会を担当するなど、学年に関わらず参加できる機会となっている。リクエストおやつの日も設けており、行事としての楽しみにつながっている。</p> <p>子どもの発案や意見をもとに行事や活動を企画している 行事の企画にあたっては子どもの意見を聞きながら進めており、ハロウィンやクリスマスなどの行事では企画者を募集し、企画書の作成や司会などを子どもが担っている。夏休みには毎週工作活動を行い、ミサンガや組みひも、シャボン玉づくりなどさまざまな制作に取り組んでいる。将棋ブームがあった際には子どもの発案で将棋大会を行い、児童館の利用者も含めて総当たりで対戦する形とした。オセロ大会などの活動も行われ、子ども同士が関わりながら楽しむ機会となっており、子どもから出たアイデアを取り入れながら行事や活動をつくっている。</p> <p>行事の予定や活動の様子を保護者へ伝えている 学童クラブの行事や日常の活動については毎月配信するクラブだよりを通して保護者に伝えている。行事予定を知らせるとともに、リクエストおやつの日や誕生日会の日程なども掲載し、子どもが参加できるようにしている。ハロウィン行事では仮装ができることを事前に伝えるなど、行事の内容が分かるようにしている。行事終了後には活動の様子も報告し、防災訓練や防災紙芝居に取り組んだ際の子どもの様子なども伝えている。行事の実施だけでなく、その過程や結果を共有することで、学童クラブでの生活の様子が保護者にも伝わるようにしている。</p>			
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当	
評価項目4の講評			
<p>新1年生が学童クラブの生活に慣れるよう段階的に援助している 新1年生が安心して学童クラブの生活を始められるよう、新年度開始当初は学校への迎えを行い、通所の経路や交通ルールを確認しながら安全に通えるようにしている。入学おめでとう会では上級生が遊びを紹介する機会を設け、学童クラブでの過ごし方が分かるようにしている。毎週木曜日には遊戯室で1年生だけが利用できる時間を設け、遊び方や場所の使い方を知る機会としている。1年生は入学後しばらく緊張して過ごす様子も見られることから、生活の流れの中で少しずつ班活動など異年齢の関係に慣れていけるようにしている。</p> <p>子どもが生活の流れを理解して過ごせるようにしている 子どもが安心して生活できるよう予定を確認しながら過ごしており、帰宅時間は子ども自身も把握しているが、保護者からの連絡内容と異なる場合には連絡を取り確認している。不明な点がある場合にも保護者へ連絡を行い、誤りが生じないようにしている。早帰りの子どもも多いため、帰宅の時には館内放送で知らせるほか、職員が声をかけて確認している。塾や習い事に出かける子どももいることから、時間を守って出発できるよう配慮している。5時前には半数ほどが帰宅する状況となるが、それぞれの予定に合わせて過ごせるようにしている。</p> <p>子どもが安心して過ごせるよう環境を整えている 子どもがその時の気持ちや状況に応じて過ごし方を選べるよう環境を整え、遊びの場面では児童館の遊戯室や図書室なども利用しながら活動しているが、気持ちを落ち着けたい時には一人で過ごせる場所としてテントを用意している。クールダウンのためにテントに入りたいという希望があった場合には、そこで本を読むなど落ち着いて過ごせるようにしている。日々の生活の中では子どもの様子に目を向けながら関わり、安心して過ごせる時間となるよう配慮しており、環境の工夫を通して、子どもが自分の状態に合わせて過ごし方を選べるようにしている。</p>			

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>学校と日常的に情報を共有しながら子どもの生活を見守っている 学校との情報共有を日常的に行い、学校でケガやトラブルがあった場合には担任や副校長から連絡が入ることがあり、学童クラブでも状況を把握できるようにしている。学童クラブからも必要に応じて学校へ連絡を行い、子どもの様子を伝えている。連絡は主に電話で行われ、日常生活の中で気になる様子が見られた場合には互いに情報を共有している。現在は大きな対応を必要とする事例は見られていないが、必要な時に連絡を取り合える関係を保ちながら、学校生活と学童クラブでの生活がつながるようにしている。</p> <p>配慮が必要な子どもについて関係機関と連携している 家庭状況や発達面で配慮が必要な子どもについては、関係機関と情報を共有しながら対応している。子ども家庭センターが関わる家庭については家庭の状況に配慮しながら連絡を取り、子どもの様子を共有している。また、特別な支援が必要な子どもについては学校と状況を確認しながら関わり方を検討している。今後は放課後等デイサービスの利用に向けて障害福祉の担当部署との連携も予定されており、必要な支援につながるよう調整を進めている。日常生活で見られる子どもの姿を関係機関と共有することで、子どもが安心して過ごせる環境につなげている。</p> <p>新1年生の入会に向けて学校との情報交換を行っている 新1年生が学童クラブでの生活を円滑に始められるよう、入会前に学校と情報交換を行っている。子どもの様子や配慮が必要な点などについて確認し、学童クラブでの関わりに活かしている。当学童クラブには二つの公立小学校から子どもが通っているため、入会前の情報交換については両校と行えるようにしていくことを検討している。また、必要に応じて保育園の見学などを行い、子どもの生活の様子を確認することもある。学校や就学前施設との情報共有を通して、新1年生が安心して学童クラブの生活を始められるようにしている。</p>		
6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りで配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p>班でのおやつを通して落ち着いて食べられるようにしている 学年や授業時間によって来所時間が異なるため、おやつ時間を調整しながら提供している。3時10分頃に準備を行い、15分頃から食べ始める流れとし、1・2年生は遊びの後に育成室でおやつ時間を迎えるが、3年生以上は帰所後すぐにおやつをとる日もある。おやつには子どもが集まることから、生活上の連絡事項を伝える場としても活用している。食べ終わった後は片づけやごみの整理を行い、それぞれの帰宅時間に合わせて過ごしている。また、学校休業日の昼食についても同じ席で食べるなど、生活の流れが分かりやすくなるようにしている。</p> <p>おやつを楽しめるよう内容や提供方法を工夫している おやつ時間が子どもにとって楽しみとなるよう、内容や提供方法を工夫している。複数のおやつを用意し、その中から選べる形としているほか、人気の少ないものについては「ラッキー5」として追加で取れるようにしている。飲み物は麦茶を基本としているが、ジュースを用意することもある。リクエストおやつの日を設けるほか、ハロウィンなど季節行事の際にはパッケージを工夫するなど雰囲気づくりも行っている。節分では恵方巻の代用で筒形のお菓子を食べるなど、子どもが楽しめる形で季節の行事を取り入れるようにしている。</p> <p>食物アレルギーに配慮しながら安全に提供している 食物アレルギーのある子どもが安心しておやつを食べられるよう、提供方法を工夫している。アレルギー源となる食品は購入時に原材料を確認し、提供しないようにしているほか、特別なおやつを用意する場合にも原材料を確認し、できるだけ同じものを食べられるように配慮している。エピペンを持参している子どもについては、毎日職員が確認する体制とし、ロッカーには赤枠で表示するなど、職員が分かりやすく把握できるようにしている。また、家庭から食べ物を持参する場合には事前に保護者へ確認を行うなど、安全に配慮しながら提供している。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>子どもの体調やケガの状況に目を向けながら健康管理に取り組んでいる</p> <p>子どもの様子に目を向けながら健康管理を行っており、遊戯室では体を動かす遊びも多いため、ケガにつながらないよう職員が見守りながら関わっている。ケガがあった場合には状況を確認し、特に首から上のケガについては保護者へ連絡を行っている。子どもの体調に変化が見られる場合には声をかけ、必要に応じて検温を行い事務室で休めるようにしている。体調不良や気になる様子が見られた場合には、迎えに来た保護者へその日の様子を伝えている。生活の中で気になったことも共有することで、子どもの健康状態を保護者とともに確認できるようにしている。</p> <p>職員研修や備品の整備を行い健康安全への対応体制を整えている</p> <p>アレルギー対応についてはエビペンの研修を実施しており、アレルギー発作を想定したロールプレイングなどを通して対応方法を確認している。また、嘔吐処理セットを育成室や事務室、トイレなど複数の場所に配置し、必要な時にすぐ使用できるようにしている。月に2回ほど公園へ出かける日を設けており、参加を希望する子どもを名簿で確認し、職員2名で引率している。特別な配慮が必要な子どもについては職員が付き添うなど、安全に配慮しながら活動を行っており、体制を整えることで、子どもが安心して活動できる環境づくりにつなげている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者が相談しやすいように、常々細やかな関係作りに努めている</p> <p>入会面談時や、日常的に保護者とのやりとり時に得た情報に配慮しており、保護者に対しては必要な情報提供や、各種の支援・援助や就労などの個々の事情に応じた支援に反映させることにしている。また、保護者同士が交流できる機会(親子交流会やおまつり)を設けたり、ケガやトラブル時だけでなく、日々の様子や成長をお迎え時や電話連絡時に細部についても伝え、連携につなげている。個人面談時には楽しそうな様子だけでなく、気になる行動やこれから起こりそうなトラブルなどを伝え、同じ方向性で関わっていけるよう丁寧な対応を心がけている。</p> <p>保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている</p> <p>子どもの出欠席の確認などは、「安心でんしょぱと」で日々の出欠席、帰宅時間、お迎えの有無を確認している。また、不明な点については電話で確認し、不明確なままにしないようにしている。電話連絡があった場合は保護者と確認し、間違いがないように記録も残している。所在が確認できない場合は迅速に捜索を行い、必要に応じて関係機関と連携して安全確保に努めることにしている。お迎え時には、その日の遊びやトラブル、ケガの有無を伝えることで、保護者と日々の様子を共有している。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目9の講評		
<p>今後も地域資源を活用し、子どもの経験幅をさらに広げていく取り組みが期待される</p> <p>地域の公園や学校の体育館で学童クラブの行事や活動を実施するなど、地域資源を活用して子どもが多様な体験や交流をできる機会を確保している。施設外に出かけることで自分の学区外を知ることができたり、声をかけ合える人が増えたなどの声も聞かれている。さらに、放課後等居場所事業とも連携を継続し、放課後の活動の選択肢を広げている。これらの取り組みにより学童クラブ内に留まらず、地域の様々な環境や人と関わる機会が確保されている。今後も地域資源を活用し、子どもの経験幅をさらに広げていく取り組みが期待される。</p> <p>子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している</p> <p>学童クラブでは、地域との交流を大切にし、子どもが地域社会と関わる機会を提供している。地域のお祭りに参加し、地域の子どもや大人との触れ合いを深めているほか、近隣の関係機関にポスターを掲示することで、地域とのつながりを図っている。具体的には、杉三小PTA主催のおまつりに、学童クラブの子どものゲーム屋さんを出店することにつなげている。学童クラブの行事に地域の人の参加を呼びかけたり、地域の行事に参加するなど、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル①	出欠管理体制の強化と安全確認の精度向上を図っている	
内容①	出欠管理と帰宅時間の確認を安全確保の基盤と位置づけ、入退室管理システムを活用して月間予定を一元的に把握している。出欠確認担当を定め、クラブ内のホワイトボードにも反映させることで複数の職員が状況を共有できる体制としている。帰宅予定時刻と実際の申し出に差が生じた場合は電話で保護者へ確認する運用を徹底している。マニュアルや訓練とあわせて日常的な確認作業を積み重ね、安全管理の精度向上と事故防止につなげている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-2-2	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている
タイトル②	個別の声かけや支援を行うなど、利用前の生活を踏まえた援助に取り組んでいる	
内容②	入会時には、入会面談時に聞き取った配慮してほしいことなどを考慮して育成に反映させることにしている。また、気になることがあった際には、連絡帳や口頭にて保護者に伝えて連携を図っている。4月初旬は、新入会者に対して上級生が学童クラブのルールや部屋の使い方などを教え、利用開始時の不安やストレスの軽減につなげている。また、子どもの援助に必要な個別事情や要望は、決められた書式に記録し共有している。個別の声かけや支援を行うなど、利用前の生活を踏まえた支援に取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-2	日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している
タイトル③	長期休みの時間を活かした活動内容の工夫を行っている	
内容③	夏休みなどの長期休みには、長い時間を過ごす中で生活が単調にならないよう活動内容に変化を持たせている。長期休み中のみ利用できる玩具を用意しているほか、ジグソーパズルなど時間をかけて取り組める遊びも増やしている。折り紙についても通常は枚数を制限しているが、長期休みには大きな作品づくりに取り組むなど、子どもが時間を使って遊び込めるようにしている。工作や製作など集中して取り組める活動を取り入れながら、長時間の生活の中でさまざまな遊びに触れられるようにしている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	些細なことでも相談してもらえるような保護者との関係づくりを大切にしている
	内容	保護者からの要請をはじめ、クラブからも伝えたいことなどがある場合には、必要に応じて個別面談を行うことにしている。また、お迎え時や電話連絡で情報共有を行い、常に保護者と共通認識が図れるような関係づくりに力を入れている。子どもの様子や発達の状況について、クラブと保護者間の温度差がないようにコミュニケーションを図ることを大切にしている。行事では自分の子どもの様子を知ることに加え、子どもを介して保護者が交流する場となるように配慮するなど、些細なことでも相談してもらえるような関係づくりを大切にしている。
2	タイトル	児童館内での運営を活かし多様な関わりを経験できるようにしている
	内容	学童クラブは児童館内で運営していることから、児童館の行事や活動に参加する機会があり、学童クラブの子どもだけでなく他校の子どもと同じ場で過ごす時間がある。館内では上級生が利用する時間帯もあり、遊びの場面で自然に関わる様子が見られている。遊戯室や図書室など館内の活動を通して、普段の学童クラブの生活とは異なる子どもと一緒に遊びや活動に取り組む場面が生まれている。学童クラブの生活に加えて児童館の活動にも参加できることにより、さまざまな子どもと関わる経験につながっている。
3	タイトル	年度方針と定期面談を通じ組織の方向性を共有している
	内容	年度当初に課の組織目標を踏まえた方針を全職員へ示し、子どもの安心安全や区の育成支援における学童クラブの役割を具体的に確認している。目標申告シートを活用した年3回のヒアリングでは、業務目標の確認に加え、職員の意向や不安、働き方への希望も丁寧に聞き取っている。日常の打合せやチャットによる情報共有も重ね、常勤・非常勤を含めた共通理解の形成を図っている。区の方針と現場実践を結びつけ、職員の意識を揃えながら運営を進めている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	地域での情報発信力をさらに向上させることを目指している
	内容	区役所ホームページ、区広報、児童館掲示、配布など、子どもや保護者が入手できる各種の媒体で、学童クラブの情報を提供している。区ホームページでは、高齢者や視力の弱い方への対応として、ホームページの読み上げサービスも提供している。また、各種の媒体は4言語対応など、子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容を分かりやすいものとしている。さらに、近隣の保育園や幼稚園に合同説明会を開催したり、私立校や指定校変更にも情報提供など、より多様な対象への周知に向けて、情報提供の方法や機会づくりが期待される。
2	タイトル	子どもの姿を多面的に共有できるようにしていくことを課題としている
	内容	職員間の打ち合わせでは、短時間職員が関わりの中で困ったことや対応に迷った場面について共有することが多くなっている。しかしながら、子ども同士の関係づくりがうまくいった場面や、友達を助ける姿なども見られていることから、そのような様子についても職員同士で伝え合えるようにしていきたいと考えている。活動の中で見られた変化や成長の姿を共有することで、子どもの理解を深めることにもつながると捉えている。子どもの姿を多面的に捉えながら、日々の関わりの中で見られるさまざまな様子を職員間で共有していくことを課題としている。
3	タイトル	計画の進捗確認と評価方法の整理を進めている
	内容	運営計画は課の組織目標や前年度の課題を踏まえて策定し、月次では利用者数や行事实施状況などの外形的事項を整理している。一方で、年度途中に目標達成度を体系的に確認し、数値や具体的成果として整理する機会は十分には設けていない。日々の運営の中で柔軟な見直しは行っているが、計画段階で設定した目標と実際の成果を明確に照合する仕組みは限定的である。進捗確認と振り返りの方法を整理し、計画・実践・評価を意識的に結びつける流れを強化していくことを課題としている。

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

令和 8年 3月 31日

杉並区長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町1丁目5番地4-712

評価機関名 株式会社 ケアシテムズ

認証評価機関番号

機構 06 - 167

電話番号 03-3511-5035

代表者氏名 和田 俊一



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	伊藤 一郎	経営	H1601010
	②	渋谷 清	福祉	H1801013
	③	和田 輝美	福祉	H1001021
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	上荻学童クラブ			
事業所連絡先	〒	167-0043		
	所在地	東京都杉並区上荻1丁目20番13号 上荻学童クラブ併設		
	TEL	03-3392-2356		
事業所代表者氏名	館長 芦田 修司			
契約日	2025 年 7 月 15 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 10 月 15 日			
利用者調査結果報告日	2026 年 1 月 10 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 10 月 15 日			
自己評価結果報告日	2026 年 1 月 10 日			
訪問調査日	2026 年 1 月 17 日			
評価合議日	2026 年 1 月 17 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は、調査実施日現在、当事業所を利用している全ての利用者を対象にアンケートを実施した。事業所と評価機関の連名による依頼状にアンケート用紙と返信用封筒を同封して対象者に配付、回答は評価機関に直接送付してもらった。 事業評価に際しては、事前説明を行うとともに、職員からも個々の標準項目にチェックを入れた分析シートを回収し参考とした。 第三者性の確保については、当評価機関、担当評価者と事業者との間に事実上、人事上の関係は一切存在しないことを確認し、中立公正な評価に努めた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません
- 別添の理由書により、公表には同意しません

年 月 日

事業者代表者氏名 館長 芦田 修司 印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p>
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p>
	<p>1)職員の自主性、やる気を尊重する</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p>
	<p>(1)職員に求めている人材像や役割 責任感の強い、積極性のある姿勢</p>
	<p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感) 自主性、やる気のある姿勢</p>

調査対象

調査日現在、当事業所の利用登録者総数である68名を調査対象とした。回答者の年齢構成は、1年生7名、2年生8名、3年生2名、4年生2名であった。

調査方法

アンケートは、QRコードを付した依頼文を配付し、評価機関に直接電送してもらう方法と、アンケート用紙を事業所にて配付してもらい回答は返信用封筒にて評価機関に直接送付してもらう方法の2種類で実施した。

利用者総数

68

共通評価項目による調査対象者数

アンケート	聞き取り	計
68	0	68
19	0	19
27.9	0.0	27.9

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

利用者調査全体のコメント

回答者の属性は、「利用者本人」が52.6%、「家族と相談」が47.4%であった。
 総合的な満足度に関する調査の結果は、対象者の89.5%が「大変満足」または「満足」と回答し、「どちらともいえない」が10.5%であり、大変高い満足度が得られている。
 項目別では、＜生活について＞に関する5設問は1設問において、大変高い満足度であった。特に「おやつ時間は楽しいか」では、84.2%の大変高い満足度が得られている。
 ＜安心・快適性＞に関する4設問は1設問において、大変高い満足度であった。特に「けがや体調不良時に安心できるよう職員は助けてくれるか」では、89.5%の大変高い満足度が得られている。
 ＜利用者個人の尊重＞に関する2設問は、概ねが満足であった。
 ＜不満・要望への対応＞では、「不満や要望への対応」は高い満足度であったが、「外部の苦情相談窓口の案内」についてはさらに高い満足度が望まれる結果であった。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	11	7	0	1
「はい」57.9%、「どちらともいえない」が36.8%、「無回答・非該当」が5.3%であった。自由意見では、「サバとシルバニアとおままごとするのが楽しい」、「サバとか楽しい」、「一輪車ができる時間がもう少しほしい」という声が聞かれた。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	13	3	0	3
「はい」が68.4%、「どちらともいえない」が15.8%、「無回答・非該当」が15.8%であった。自由意見では、「相談できるのかできないのかも知らなかった」、「話は聞いてくれるが、直ぐにはではなく、あとで、となる」という声が聞かれた。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	16	3	0	0
「はい」が84.2%、「どちらともいえない」が15.8%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「美味しい、バイキングが楽しみ」、「超楽しいです」、「好きなおやつがあまりない」という声が聞かれた。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	10	3	0	6
「はい」が52.6%、「どちらともいえない」が15.8%、「無回答・非該当」が31.6%であった。自由意見では、「話し合いをやったことがない」という声が聞かれた。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	13	3	0	3
「はい」が68.4%、「どちらともいえない」が15.8%、「無回答・非該当」が15.8%であった。自由意見では、「どんなルールがあるのかわからない」という声が聞かれた。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	15	1	2	1
「はい」が78.9%、「どちらともいえない」が5.3%、「いいえ」が10.5%、「無回答・非該当」が5.3%であり、高い満足度であった。自由意見では、「まんがが散乱している」という声が聞かれた。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	15	1	0	3
「はい」が78.9%、「どちらともいえない」が5.3%、「無回答・非該当」が15.8%であり、高い満足度であった。自由意見では、「かわいいあだ名をつけてもらえて、子どもは喜んでます」という声が聞かれた。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	17	0	0	2
「はい」が89.5%、「無回答・非該当」が10.5%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「優しく対応してくれた」という声が聞かれた。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	14	1	0	4
「はい」が73.6%、「どちらともいえない」が5.3%、「無回答・非該当」が21.1%であり、高い満足度であった。自由意見では、「自分から言わないと助けてくれない」、「ケンカをしたことがない」という声が聞かれた。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	12	1	1	5
「はい」が63.1%、「どちらともいえない」が5.3%、「いいえ」が5.3%、「無回答・非該当」が26.3%であった。自由意見では、「気持ちを聞かれたことがない」という声が聞かれた。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	9	1	0	9
「はい」が47.3%、「どちらともいえない」が5.4%、「無回答・非該当」が47.3%であった。自由意見では、「内緒話をしたことがないからわからない」、「秘密の話をしたことがない」という声が聞かれた。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	14	1	0	4
「はい」が73.6%、「どちらともいえない」が5.3%、「無回答・非該当」が21.1%であり、高い満足度であった。自由意見では、「先生とあまり話したことがない」という声が聞かれた。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	7	3	1	8
「はい」が36.8%、「どちらともいえない」が15.8%、「いいえ」が5.3%、「無回答・非該当」が42.1%であった。自由意見は特になかった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている 〇非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している 〇非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える 〇非該当
	カテゴリー1の講評	
	理念や方針を日常判断に結び付け職員間で共有して運営している 理念や年度方針について、文書として示すだけでなく、日常の出来事や事案対応の中で繰り返し言葉にして共有している。子ども同士のトラブルや生活上の判断場面では、「子ども一人ひとりを尊重する」という考え方を判断軸として示し、なぜその対応を選んだのかを職員間で説明している。常勤職員と会計年度任用職員それぞれの役割の違いを踏まえながら、事案ごとに理念との結び付きを補足し、判断の背景を共有している。理念や方針が抽象的な言葉に留まらず、職員の具体的な行動や判断として理解されるよう整理している。	
	職員の役割を明確にし、職員間で事案ごとに丁寧に説明して判断基準を揃えている 職員間では杉並区共通の学童クラブマニュアルを土台にしつつ、常勤職員と会計年度任用職員に求める役割を事案ごとに言葉で示している。昨年度に職員構成が大きく変わった経緯を踏まえ、会計年度任用職員は子どもの見守りを中心に担い、常勤職員は見守りに加えて書類作成や保護者連絡も担うとしている。日常で何か起きた際は、どの立場がどこまで判断し、誰に引き継ぐかを確認し、必要な説明を重ねて認識のずれを小さくしている。役割の違いを前提に連携し、業務の見通しを揃え、新任職員にも都度説明し、迷いが出た時は立ち返っている。	
	事故やケガはクラブ長が関与し事案の性質ごとに現場判断と報告の境界を整理している 判断の線引きは事案の性質ごとに整理している。子ども同士のトラブルは現場職員が対応し、経緯と対応はクラブ長が報告を受けて把握する流れとしている。事故やケガにつながった事案はクラブ長が必ず関与し、初動の確認、保護者への連絡内容、再発防止の視点までを含めてまとめている。現場が迷う場合は関与を依頼する経路も持っている。保護者対応は年2回の保護者会と日々の迎いの会話を基本にし、連絡帳を記さないなど接点にくい家庭にはクラブ長も加わって働きかけ、判断が偏らないよう調整している。対応の優先順位を共有している。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>児童館全体の計画構造に位置づけ学童クラブの役割を明確に整理している</p> <p>学童クラブの事業計画は、児童館の年間事業計画の一部として構成され、建物機能としての学童クラブという位置づけのもとで整理されている。計画作成の段階から学童クラブ側も参画し、安全面や空間の使い方など、学童クラブ特有の課題を共有したうえで反映している。学童クラブ単独で完結する計画ではなく、児童館全体の運営方針や行事計画と連携させながら、重点とする事項を整理している。施設全体の動きの中で学童クラブの役割を捉え、計画と実際の運営が乖離しないよう意識して進めている。</p> <p>行政報告と地域協議を往復させながら事業の振り返りを積み重ねている</p> <p>事業報告については、毎月、児童青少年育成科への定期報告を行い、行事や事業を実施する際には、地元区民と計画段階から意見を交わしている。実施後には振り返りの場を設け、内容や進め方について整理している。学童クラブの活動は、児童館の報告書の中の一機能として位置づけられ、児童館全体の動きと合わせて報告している。単なる実施記録に留めず、地域と共有した内容や振り返りの過程を含めて報告することで、行政と地域の双方と情報を往復させながら運営を進めている。</p> <p>引き継ぐ情報と個人裁量の範囲を分けて運営判断を整理している</p> <p>振り返りや評価の結果については、すべてを一律に引き継ぐのではなく、内容に応じて整理している。学年が上がるにつれて子どもの特徴が変化するため、特に配慮が必要な子どもについては個別に引き継ぎ、次年度の対応や計画につなげている。一方、全体的な傾向については、前年度の人員入れ替わりの影響もあり、十分に整理しきれなかった側面がある。日々の運営や報告書類の表現については、行政の枠組みを踏まえつつ、一定の裁量を個人に委ねる整理とし、判断の幅を持たせた運営としている。</p>		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ-3の講評

子どもの意見を拾い判断と実施の流れを組織的に支えている

子どもから出された「こういう遊びがしたい」といった意見については、職員が日常の中で丁寧に拾い上げている。内容や状況に応じて、現場で対応可能なものは工夫しながら実現し、予算や手続きが必要な場合はクラブ長が判断して進めている。ダンスをしたいという要望に対しては、機器の購入や無料配信サービスの活用を組み合わせ対応した。意見の吸い上げ、判断、決裁、実施後の運営を役割分担しながら進め、子どもの声が形になる過程を組織として支えている。

学校や地域と情報を往復させながら運営の調整を行っている

学校や地域との関係では、児童館の行事や祭りの際に育成委員やPTAなどから意見を受け取り、行事後の振り返りを通して課題を整理している。非常時には集団下校の対応を行い、1年生については担任と話し合いながら情報を共有し、学校と学童クラブの認識がずれないように調整している。建物条件や空間の制約、成長に伴う居心地の変化についても、児童館のプログラムと連動させながら検討し、必要に応じて保護者と状況を共有している。

カテゴリ-4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>消火器確認と訓練形態を組み合わせ建物条件を踏まえ防災の備えを丁寧に進めている 防災面では消火器の確認、月1回の防災訓練を実施している。訓練は学童クラブ単独、児童館主導、保育園との合同などで行い、建物内の関係部署と動きを合わせている。建物の老朽化で危険が生じやすい箇所は児童青少年課へ伝え、修繕の順序を共有している。衛生面では玩具を最低週2回消毒し、受け入れ時にも職員が表情や動きを見て体調を確かめている。体調不良が疑われる場合は事務所で検温し、休息場所を確保したうえで保護者へ連絡するなど、観察と対応を組み合わせている。下校後の利用で受け入れ判断の機会は多くないが、確認を積み重ねている。</p> <p>児童館主導の文書と独自資料を区別し現場の判断で周知と使い分けを都度行っている マニュアルは現場の課題と記載内容の不一致部分があるとの認識が示されている。年度ごとに課題となる事案が変化する中で、文書化されていない領域も残り、運用では現場判断を優先する場面が生じている。学童クラブ独自の資料として「会計年度任用職員にお願いしたいこと」を整理した文書を用い、常勤職員にも共有して対応の基準を揃えている。現場で起きた事案は打ち合わせで背景と手順を補足し、翌日以降の対応に反映している。避難訓練の手順は児童館主導の文書に沿い、児童館機能の中で学童運営を行うとして、文書の種類と適用範囲を区別している。</p> <p>不審者対応と大地震時の待機を想定し保護者連絡と拠点判断を職員間で共有している 不審者事案では外に出ないことを基本とし、保護者へメールで迎えを依頼する流れを想定している。大地震時には最後の迎えまで待機することを前提にしておき、状況に応じて引き渡しの手順を整理している。施設が建設約50年経過のため耐震面の不安があり、避難場所について近隣との合意が整っていない点も共有されている。学校避難の選択肢がある一方、保護者が学童クラブを居場所として捉えていることを踏まえ、連絡が取りにくい状況では学童クラブを拠点にしたいという考えが示されている。児童館側とも情報を合わせ、想定のすり合わせを行っている。</p>		

5 カテゴリー5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ-5の講評

職員が判断しやすいよう責任を引き受け背中で支える関わりを行っている

職員には子どもと向き合う中で「のびのびと仕事に取り組んでほしい」という考えが共有されており、日常の判断については、多くの場合は現場に任せる整理が取られている。対応に迷いが生じた際には、クラブ長が状況全体を踏まえて判断を補い、進め方の方向性を示している。現場で試みたことに対して即座に制限を設けるのではなく、経過を見たとうえで必要な整理を行う姿勢が取られている。職員は自らの判断に責任を持ちながら行動でき、行き詰まった場合には支えが得られる関係性の中で支援が進められている。

日常と個別の対話を通して職員の迷いや気づきを丁寧に拾い上げている

職員の迷いや気づきは、様子を見るだけでは把握しきれないという前提に立ち、日々のミーティングや個別の打ち合せを通して拾い上げている。短い時間でも対話の機会を確保し、その中で示された違和感や考えを整理し、クラブ長が判断できる材料として共有している。表に出にくい課題についても、個別のやり取りを重ねることで言葉にし、運営上の判断につなげている。職員の発言が否定されず受け止められることで、迷いを抱え込まずに相談できる土台が作られている。

限られた人員体制の中で役割を調整し日常運営を回している

人材面では常勤職員の絶対数が少ない状況が共有されており、産休により一時的に1名体制となる時期が生じている。制度上は定数を満たしているものの、実際の運営では補完が必要となり、学童クラブから児童青少年課へ申請したうえでアルバイトを確保している。杉並区に関わりのある人材が協力する形も多く、役割を調整しながら日々の業務を回している。限られた体制であることを前提に、無理のない配置と業務分担を意識した運営が行われている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度の重要課題として、児童が安心して過ごせる身近な居場所づくりを掲げ、遊び環境と安全面の見直しに取り組んだ。建物の老朽化により、ハード面では補修が必要な箇所が見られ、遊具の破損や配置によって危険が生じやすい状況があった。また、前年度はクラブ長体制が変わる移行期でもあり、子どもたちが健やかに成長し、のびのびと過ごせる環境を改めて整える必要性が共有されていた。こうした背景を踏まえ、職員が日常的に安全確認を行い、遊具や空間の状態を把握することを基本とした運営に整理した。遊び方についても、事故やトラブルにつながりやすい場面を意識し、職員が先回りして声をかけたり配置を調整することで、子どもが安心して過ごせる環境を整えることとした。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

毎朝の室内点検や、玩具の消毒を週2回以上行う運用が続けられ、遊具の状態を職員が日常的に把握する流れが作られた。破損が見られた場合には、職員の判断で修理可能なものと買い替えが必要なものを区別し、危険が生じる前に使用を控える対応が行われた。特に週末明けの月曜日には点検を厳重に行うことで、管理の抜け漏れが起きにくくなり、遊具の配置や状態に対する職員の意識も揃えやすくなった。一方で、環境は日々変化し、忙しさの中で点検が形式化しやすい側面もあることが確認された。こうした振り返りを踏まえ、安全な居場所づくりは単年度で完結するものではなく、日常点検を軸に継続して取り組む必要があるため、同じテーマでの取り組みを続ける判断につながっている。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

当学童クラブは、障害のある子どもの利用が多いという特性を持ち、児童館と協力しながら、多様性をどのように子どもたちに伝えていくかが重要な課題として共有されていた。特別な学習や説明の場を設けるのではなく、日常の遊びや生活の中で自然に関わり、それぞれの特徴を受け入れながら過ごせる環境を整えることを目標とした。日々の運営の中では、障害のある子どもが遊びに入りにくい場面や、周囲の子どもが関わり方に戸惑う様子も見られていたため、誰もが参加しやすい活動内容を工夫し、無理に関わりを促さず、安心して同じ場を共有できる時間を積み重ねる方針とした。折り紙や工作、交流事業などを通じて、自然な形で接点を持てる機会を意識的に設けている。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った<input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった<input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った<input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた<input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

折り紙や工作では工程を簡単にし、短時間でも参加しやすい内容とすることで、これまで参加をためらっていた子どもが関わる場面が見られた。交流事業を通じて、顔を合わせる機会を重ねる中で、相手の存在を意識し、声をかけたり様子を気にかけてりする姿が増えている。完全にフラットな関係とは言えないものの、相手に対して優しさを持って接する場面が積み重なり、子どもたちの中で多様性を受け止める感覚が育まれていることが共有された。これらの変化は一度の取り組みで大きく現れるものではなく、日常の関わりの積み重ねによるものとして受け止めている。前年度の経験を通して、同じテーマで継続して取り組むことで、自然な理解と交流が進むとの認識が職員間で共有され、引き続き同様の取り組みを行う判断につながっている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ-1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-1の講評		
<p>主に区のHPや月1回発行のクラブだよりなどで情報を発信している</p> <p>主に区のHPや月1回発行のクラブだよりなどで、このクラブの情報を発信している。区のHPには利用対象、入会できる期間、利用できる日と時間、利用料金、申し込み方法などの基本情報のみが掲載されており、クラブの雰囲気を伝える内容は十分ではない。一方、毎月発行しているクラブだよりでは、予定や大切な連絡事項をイラストや太文字で分かりやすく示しており、情報提供の工夫が見られる。今後は、HPやだよりなどでさらにクラブの特色や雰囲気を伝える工夫を進めることが期待される。</p> <p>クラブ見学などの要望については丁寧に対応している</p> <p>区内に学童クラブは多数設置されているが、基本的には自宅から近い小学校区内に設置されている学童クラブのいずれかに申し込むのが通常である。そのため、見学の問い合わせは少なく、年末年始にかけて2～3件である。電話などで問い合わせを受けると保護者の都合に合わせて日程調整を行い、子どものいる夕方時間帯に来てもらい、施設内を案内しながら各部屋の役割や子どもたちの過ごし方などについて説明している。見学後に入会を希望する保護者には必要書類一式を渡している。</p>		

サブカテゴリ-2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 7/8
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇●)</p>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2の講評		
入会にあたり子どもや保護者にサービス内容を説明している 入会が決まった子どもに対しては2月下旬に「学童クラブ入会等承認通知書」が郵送されるが、その中に3月中に開催される入会説明会のお知らせが入っており、その説明会で学童クラブでの生活の流れや入会にあたっての持ち物、また提出書類等についての説明がされている。また、杉並区の学童クラブでは「安心でんしょばと」という入退室管理システムを導入していることから、保護者には3月下旬までにそのシステムに登録するよう要請している。		
利用開始の際には子どもの不安やストレスが軽減されるよう配慮している 利用開始にあたって、子ども一人ひとりについて必要な個別支援については、入会面談で保護者から聞き取った記録や児童台帳などで把握し、それを職員間で共有するようにしている。新しく入った子どもにはそれぞれ上級生の世話係をつけるようにして、その子の不安やストレスを軽減するようにしている。また、クラブ内でイベントを開催し、新しく入った子どもが楽しめるように配慮もしている。毎月誕生会を実施し、5月に保護者会および親子交流会を開いている。		

サブカテゴリー3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

10/10

評価項目1

子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している

評点(0000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー3の講評

子どもに合わせた目標に沿って育成支援の計画を作成している

学童クラブの育成支援目標は、区の児童青少年センターが毎年作成しており、クラブではその目標に沿って育成支援計画を作成している。基本となるのは年間計画で、この計画はクラブをどのような方向にしていきたいかという方針を示したものである。計画を作る際には、地域の実情に合わせることを大切にしている。作成した計画は職員全員が確認し同意のうえで決定し、保護者会で年1回説明している。

子どもに関する記録を細かく作成するように努めている

日々の子どもの様子や活動は、できるだけ細かく記録するようにしている。その日の子ども達の姿や大小さまざまなトラブル、イベントでの様子、良かったことや困ったこと、集団でスポーツや宿題に取り組む姿などに気づいたことは、日々の打合せノートやクラブ全体の日誌に細かく記録している。職員全員が時間を見つけて確認し、チェック表に記録している。障害のある子どもについては、他の子どもとは分けて別途支援計画を作成している。

子どもの状況に関する情報は職員間で共有するようにしている

子どもに関する情報は、職員の日々のミーティングで伝えあったり職員各自が打合せノートやクラブ全体の日誌を読んで確認するなど、全員で情報共有するようにしている。子どもや保護者の状況に大きな変化があった場合についても同様の方法で情報共有を図るようにしている。しかし、常勤職員と非常勤職員とでは勤務時間が異なっていたり、ミーティングに出られないことがあるなど、情報の引き継ぎや共有にミスが生じることもあり、情報共有についてのさらなる工夫が期待される。

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和りとりする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われないよう組織的に予防・再発防止を徹底している		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー5の講評			
<p>子どものプライバシー保護には十分注意している 子どものプライバシー保護については十分注意しており、入会前に一人ひとりに個人情報の収集・利用についての同意書を得ている。実際に子どもの情報提供の必要が生じた場合には、電話や対面等で同意を得ようとしている。また、プライバシーの保護についてはクラブ会等でも説明して理解を得ようとしている。子どもたちから相談がある場合には、プライバシーに配慮してほかの子どもに聞かれないよう別室で対応している。また、着替えなどは男女別で行うよう配慮している。</p> <p>援助の実施においては子どもの意思を尊重している 日常の場面では、子ども一人ひとりの意思を尊重し、必要に応じて声をかけるとともに、話がある場合は別室で丁寧に聞くようになっている。水遊びでは子どもたちに「水遊び委員会」を作ってもらい、自分たちでルールを考えて遊ぶ活動を行った。また、子ども同士の暴力やいじめが起こらないよう注意しているが、昨年春のトラブルを受け、職員会議で話し合い、事前の声かけに重点を置く対応策に変更した。</p>			

サブカテゴリー6	
6 事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している <input type="radio"/>非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている <input type="radio"/>非該当
サブカテゴリー6の講評	
業務の標準化を図るためマニュアルなどを整備している 区作成のマニュアルとしては、災害対応、クラブの運営、防犯、感染症対策などが準備されているが十分とは言えない状況で、不明なところは職員が話し合いながら対応している。基本的な運営手順に沿っているかについては訓練時に読み合せて確認し、年度末に振り返りを行って反省点を明確にして次年度につなげている。分からないことが生じた際には職員で話し合い、明確なルールを作って紙面に記し、職員全員に配って周知するようにしている。	
質の向上を目指した業務水準の見直しのため関係者の声を集めようとしている クラブの基本事項や手順等の見直しに向け、関係者全員の声を集める取り組みを進めている。まず子どもたち一人ひとりの気持ちを受け止め、それをいかに大切にしていけるかについて、職員や保護者の意見を集める取り組みに努めている。職員については、常勤だけでなく非常勤も参加し、出てきた課題に対してタイムリーに話し合いを行っている。保護者に対してもお便りにアンケートを入れ、改善点を探るようにしている。	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	29 / 29
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>子ども一人ひとりの状況を共有しながら発達や生活背景をとらえている</p> <p>日々のミーティングを午後と夕方の2回実施し、クラブ長を中心に学童職員、児童館職員、非常勤職員などが参加して子どもの様子を共有している。行動面だけでなく、気持ちの変化や家庭での様子なども話題にし、打ち合せノートへ記録して周知している。日常の中で見られた小さな変化や気になる様子を職員間で言葉にして確認することで、特定の職員だけが状況を把握するのではなく、複数の視点から子どもの姿をとらえるようにしている。共有された内容は日々の見守りや声かけに反映し、継続的に子どもの全体像を理解しようとする姿勢が見られている。</p> <p>子ども同士の関係を調整しながら双方の思いを尊重した関わりを行っている</p> <p>子ども同士のけんかやトラブルが生じた際には、職員が間に入り、双方の話を聞きながら気持ちを受け止めることを大切にしている。一方的に判断するのではなく、それぞれの思いや背景を確認しながら仲立ちを行い、関係が落ち着くよう支援している様子が見える。また、状況によっては本人が家庭で伝えることを尊重するなど、子どもの主体性にも配慮している。トラブルを止めるのではなく、子ども同士の関係が継続できるよう見守りを行う姿勢を持つようにしており、日常の関わりの中で互いを認め合えるような関係づくりを意識した援助が行われている。</p> <p>配慮が必要な子どもについて学校と連携しながら見守りを行っている</p> <p>配慮が必要な子どもについては、日々のミーティングの中で行動の様子や成長の経過を共有し、職員間で関わり方を確認しながら援助につなげている。子どもの自我や気持ちを尊重し、集団の中で窮屈さやストレスが見られる場面では職員が間に入り、気持ちを聞きながら安心して過ごせるよう配慮している。特別支援学級に在籍する子どもについては、学校との情報共有を行い、必要な場合にはクラブ長を通じて副校長を窓口とした連携を図っている。学校での様子や学童での過ごし方を相互に確認することで、生活の連続性を意識した見守りが行われている。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p>日々の流れの中で子どもが自分で動けるよう生活の仕組みを整えている</p> <p>学童クラブでは、来所後に荷物を置き、連絡帳を提出し、帰宅時間をホワイトボードへ自分で表示する流れを設けており、子どもが自分の行動を意識しながら過ごせるようにしている。帰宅時間や迎えの有無についてはアプリを活用して把握し、齟齬が生じた場合は保護者へ連絡して確認を行うなど、安全面にも配慮している。日々の生活の中で職員が細かく指示を出すのではなく、子ども自身が流れを理解して行動できるよう支援しており、学年や利用状況に応じて声かけを行いながら生活の見通しを持てるようにしている。</p> <p>活動場所や時間を調整しながら集団の中で過ごせるよう工夫している</p> <p>利用人数が多い中で、限られた空間を安全に活用するため、ホールの使用時間を学年ごとに区切るなどの調整を行っている。隣接する保育園の利用状況も踏まえ、使用可能な時間帯を設定し、子どもが順番に活動できるよう配慮している。宿題については日常的に一律の時間を設けず、自主性を尊重した過ごし方としている一方で、長期休みには生活のリズムを整えるために学習時間を設定するなど、状況に応じた運用を行っている。集団の中で過ごしながらも、それぞれの過ごし方を選べるようにすることで、無理のない生活の展開につなげている。</p> <p>新入所児が安心して生活に慣れていけるよう段階的な援助を行っている</p> <p>新年度の受け入れにあたっては、学校と連携した集団下校を行い、職員が付き添いながら学童クラブでの生活へ移行できるようにしている。特に1年生に対しては、過ごし方やルールを分かりやすく説明し、生活の流れを理解できるよう丁寧に関わっている。4月下旬には歓迎の行事を実施し、新しい環境に慣れるきっかけをつくっているほか、帰宅時間や休みの情報を把握しながら受け入れ体制を整えている。数か月かけて徐々に生活に慣れていく過程を見守りながら、子どもが安心して日常を過ごせるよう支援を行っている。</p>			

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当

評価項目3の講評

日常の延長として季節や生活に沿った行事を取り入れている

行事は特別なイベントとして切り離して行うのではなく、日々の生活に変化や楽しみを加える機会として位置づけられている。毎月の誕生日会をはじめ、夏の水遊び、ハロウィン、クリスマス会など、季節に合わせた活動を取り入れながら、子どもが楽しみを持って過ごせるようにしている。3月には外部の公園へ出かける計画を立てるなど、日常とは異なる体験の機会も設けている。行事を通して学年を超えて関わる場面が生まれ、日常の遊びや生活にもつながるよう工夫しており、無理なく参加できる内容として計画されている。

子どもの思いや意見を取り入れながら活動内容を組み立てている

行事や活動の中では、子どもの声を取り入れることを意識しており、水遊びでは子どもたちの希望をもとに実施内容を決めている。遊び方のルールや使用する道具についても子ども同士で話し合いながら決める場面を設け、自分たちで活動をつくっていく経験につなげている。水鉄砲の準備や名前の記入なども子ども自身が関わり、活動への参加意識を高めている。職員が内容を一方的に決めるのではなく、子どもの発想や意見を取り入れながら進めることで、行事が日常の延長として自然に位置づくよう配慮している。

行事の内容を保護者へ伝えながら理解と協力を得ている

行事の実施にあたっては、保護者に向けておたより等で内容を伝え、活動への理解が得られるようにしている。水遊びなど安全面への配慮が必要な活動では、実施方法や体制を丁寧に伝えようとして進めており、職員配置や人数の調整を行いながら実施している。また、行事によっては保護者へ協力を依頼することもあり、学童クラブでの活動の様子を家庭と共有する機会となっている。行事を通して子どもの生活や成長の様子が伝わるよう意識し、家庭と学童クラブの双方で子どもを見守る関係づくりにつなげている。

4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当

評価項目4の講評

子どもの小さな変化を共有しながら安心して過ごせる居場所づくりを行っている

子どもが安心して学童クラブに通い続けられるよう、日々の打ち合せの中で表情や様子の変化を共有し、職員間で気づきを持ち寄り取り組みを行っている。顔色や普段との違いなど、小さな変化も話題にしなが見守りにつなげており、学校や児童館での出来事も含めて情報を共有している。子どもが自分から気持ちを発信できるよう見守る姿勢を大切にし、必要に応じて職員が声をかけるなど、安心して過ごせる関係づくりを意識している。各育成室に職員を配置し、子どもの様子に目を向けながら過ごせる体制を整えている。

一日の流れを示しながら見通しを持って過ごせるよう援助している

長期休みなど1日を通して利用する期間には、学習時間やクラブ会、遊び、昼食などの流れを設定し、子どもが見通しを持って生活できるようにしている。活動時間や場所の制約についても事前に伝え、生活の流れを理解したうえで過ごせるよう配慮している。お弁当や配食サービスの利用、習い事や塾への参加など、子どもごとの予定も把握しながら受け入れを行い、名札や事前確認を通して安全に過ごせるようにしている。見守りを基本としつつ、必要な場面では職員と一緒に遊びに入るなど、状況に応じた関わりを行っている。

子どもの過ごし方に合わせて環境や空間を調整している

学年や活動内容に応じて使用する部屋や時間を調整し、子どもが落ち着いて過ごせるよう環境を整えている。児童館内に学童クラブのスペースが設けられている環境であるが、限られた空間の中でも過ごす場所を分けることで活動が重なりすぎないように配慮し、子ども同士が安心して過ごせるようにしている。また、一人で過ごしている子どもや遊びが見つからない子どもには職員が声をかけ、状況に応じて遊びへつなげる関わりも行っている。常勤職員が少ない中でも、短時間勤務の職員へマニュアルを共有し、同じ視点で見守りが行えるようにしている。

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目5の講評		
<p>学校との情報共有を通して子どもの生活の連続性を意識した対応を行っている</p> <p>学童クラブと学校との間では情報交換の機会を設け、子どもが放課後も安心して過ごせるよう連携を図っている。学校生活の中で起きた出来事や持ち物に関するルールなどについて情報を共有し、学童クラブでの生活とのずれが生じないようにしている。シール交換など子ども同士のトラブルにつながりやすい事柄についても学校と確認しながら対応を検討しており、放課後の生活が学校生活から切り離されないよう意識した取り組みが行われている。日々の関わりの中で得られた情報を職員間で共有しながら、子どもが落ち着いて過ごせる環境づくりにつなげている。</p> <p>不登校や登所が不安定な子どもについて家庭や学校と連携しながら対応している</p> <p>不登校傾向のある子どもについては、家庭との連絡を取りながら状況を把握し、子どもの気持ちに配慮した受け入れを行っている。長期間来所がない場合には家庭へ連絡して様子を確認し、必要に応じて学校へ情報を共有している。学童クラブに来やすい環境づくりを意識し、無理に参加を促すのではなく、その子どもの状況に合わせた対応を検討している。背景や事情によって支援の方法が異なるため、児童青少年センターとも相談しながら判断を行い、関係者間で共通理解を持ちながら見守りを行っている。</p> <p>関係機関と役割を確認しながら支援につなげている</p> <p>配慮が必要な子どもへの対応にあたっては、学校だけでなく児童青少年センターなど関係機関と連携しながら支援を行っている。子どもの状況に応じて情報共有や相談を行い、学童クラブのみで抱え込まないよう役割を確認しながら対応している。必要な支援が継続して行われるよう、関係機関との連絡を通じて状況を整理し、子どもにとって無理のない関わりとなるよう配慮している。日常の見守りの中で得られた気づきを共有しながら、関係者と協力して子どもの生活を支える体制づくりを進めている。</p>		
6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目6の講評		
<p>子どもが落ち着いておやつを楽しめるよう時間や場面を調整している</p> <p>おやつ時間は、帰宅時間や学年の違いを踏まえて複数回に分けて設定されており、それぞれの生活リズムに合わせて無理なく参加できるようにしている。早く帰宅する子ども、学校内活動の後に登所する子どもなど利用状況が多様であるため、時間帯を分けることで混雑を避け、落ち着いて食べられる環境を保っている。座る場所を固定せず、その日の友達関係や過ごし方に合わせて選べるようにしている点も、安心して過ごせる雰囲気づくりにつながっている。おやつ時間を生活の区切りとして位置づけ、子どもがほっとできる場面となるよう配慮している。</p> <p>来所時間や子どもの好みに合わせて内容や量を工夫している</p> <p>おやつは日常的な提供に加え、誕生日会や季節行事の際に特別な内容を取り入れるなど、楽しみを感じられる工夫が見られる。子どもの好みや食べやすさに配慮し、甘いものと塩辛いものを組み合わせるほか、食べ進まない場合には別の食品を用意するなど柔軟に対応している。スペシャルおやつではアンケートを行い、子どもの希望を反映しながら内容を決める場面もあり、自分たちで選ぶ経験につながっている。季節に応じてアイスを取り入れるなど変化を持たせながら、日常の中に楽しみが生まれるよう工夫が続けられている。</p> <p>アレルギーへの対応を保護者と連携しながら行っている</p> <p>食物アレルギーのある子どもについては、事前に保護者と確認を行い、症状の程度に応じた対応を取りながら安全に配慮している。除去対応が可能な場合は内容を調整し、重いアレルギーの場合には家庭から持参したおやつを使用するなど、個別の状況に合わせた方法を選択している。持参されたおやつは冷蔵庫で保管し、提供時には取り違えが起きないように職員間で確認を行うなど、日常の運用の中で注意が払われている。保護者とのやり取りを通して情報を更新しながら、子どもが安心しておやつ時間を過ごせるよう配慮している。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>日常の声かけを通して健康や安全への意識を持てるようにしている</p> <p>子どもが自分の健康や安全に関心を持てるよう、日々の生活の中で職員が継続的に声かけを行っている。来所時やおやつ前の手洗いについては、生活の流れの中で自然に身につくよう繰り返し伝え、子どもが自分から行動できるよう援助している。遊びの場面では、ケガに気づきやすい動きについて注意を促し、自分たちで気をつけながら過ごせるよう関わっている。また、ケガが起きた際には状況を丁寧に聞き取り、保護者へ伝えることを大切にしており、子ども自身が出来事を振り返る機会にもなっている。</p> <p>体調の変化を早期に捉えながら家庭と連携した対応を行っている</p> <p>体調不良や感染症への対応では、顔色や元気の様子など普段との違いに気づくことを大切にし、必要に応じて検温や休息の対応を行っている。元気がない場合には静かに過ごせるよう配慮し、無理に活動へ参加させないようにしている。発熱など体調の変化が確認された際には家庭へ連絡を取り、状況を共有しながら対応を進めている。静養が必要な場合には職員室内の静養スペースを活用し、安心して休める環境を確保している。日々の見守りの中で小さな変化をとらえながら、家庭と連携した健康管理が行われている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者が安心して子育てができるよう支援している</p> <p>保護者にはそれぞれの事情に配慮して支援することを伝えている。土曜日の利用や平日の利用時間延長、スポット利用についても個別の事情に合わせて対応するようにしている。また、保護者同士が交流する機会も設けている。5月と7月に開催する保護者会、父母会との共済行事として5月の親子交流会、秋の「たのしさバクハツ！天沼まつり」、そして春の遠足などを実施している。しかし、参加者が限られているなど、さらなる工夫が期待される。</p> <p>保護者と職員との信頼関係を深め子どもに対する共通認識を持てるよう努めている</p> <p>保護者との信頼関係を深めるため、保護者とコミュニケーションする機会を増やすよう取り組んでいる。保護者と顔を合わせられる場では積極的に声をかけ、子どもについて話すようにしている。親子交流会などでは保護者とさまざまな話題で話をするように心がけ、クラブでの様子を伝えたり家での様子を聞いたりすることで、子どもへの理解を深めている。また、保護者から心配事などを聞いた際には、丁寧に対応するようにしている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域資源を活用して子どもが多様な体験や交流ができる機会作りに期待したい</p> <p>学童クラブの周辺には、JRの駅や交番、病院、大小の公園、区立郷土博物館分館、お寺や八幡神社など、多様な社会資源が存在している。子どもたちは日中学校で過ごすため直接利用する機会は限られるが、クラブでの活動に生かせる体験や交流の場としての余地があると考えられる。近隣の障害児通所施設との交流も行っており、子どもたちの希望を踏まえた活動や外部資源の活用など、さらなる工夫が期待される。</p> <p>子どもたちが地域の子どもや大人と交流する機会の確保に取り組んでいる</p> <p>この学童クラブは児童館と一体的に運営されている。児童館は「18歳未満の子どもが自由に利用することができる児童福祉施設で、専門の職員(児童厚生員)を配置して遊びを通じた子どもの健全育成活動を行う」施設であることから、地域や多様な人たちとの交流は期待できる。また、区立施設であるということから行政上のつながりを活用することも可能である。地区対抗のドッジボール大会のほか、子どもたちが地域の人々と交流するためのさらなる工夫が期待される。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル①	日常点検と運営調整を軸に安全と環境を整える取り組みを進めている	
内容①	施設の老朽化や空間の制約を踏まえ、毎朝の点検や玩具の消毒、破損時の迅速な判断を日常業務として位置づけている。玩具については職員が状態を確認し、修理可能なものと買い替えが必要なものを見極めながら対応している。週明けには点検を厳重に行い、利用状況の変化や危険が生じやすい箇所を早期に把握する工夫も行われている。また、児童館の年間計画と連動させながら、安全面や環境面の課題を整理し、学童クラブとしての運営に反映している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-3	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している
タイトル②	子どもの状況等に関する情報が記録の回覧により職員全体で共有できるようになった	
内容②	昨年はこのクラブの運営全体についての打ち合わせの記録がなかったが、今年度は記録を作成し、チェック表を添えて全員に回覧するように改善している。以前は「知らなかったという声が多かったが、今年度はアルバイト職員も含めて熱心に目を通すようになり、職員全体で情報を共有できるようになっている。これらの情報共有により子どもたちにも伝える内容が統一され、子どもたちの中で生じていた混乱が少なくなっていることが確認できている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-2	日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している
タイトル③	子どもの自主性や主体性を尊重しながら集団の中での関わりを支えている	
内容③	来所後の持ち物整理や帰宅時間の確認などを子ども自身が行う流れをつくり、自分の生活を自分で把握できるようにしている。また、活動への参加を一律に求めるのではなく、それぞれの過ごし方や気持ちを尊重しながら関わっている。集団生活の中では、限られた空間や時間を調整しながら学年ごとの活動を組み立て、子ども同士が無理なく関わる環境を整えている。遊びが見つからない子どもには職員が声をかけ、関係が広がるよう見守りながら援助しており、子どもが安心してのびのび過ごせるよう配慮した関わりが行われている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもたちの中で生じたトラブルを放置せず対応することで、子どもたちが安心して過ごせる場になってきている
	内容	これまで職員が放置してきた子どもたちの中で生じるトラブルについて、放置せず、職員全員で対応することに努めている。些細なことでも職員全員で情報共有し、対応にあたることで、子どもたちが困っていることや不快に感じたことを隠さず話すようになっている。その結果、子どもたちの発信が増え、クラブが子どもたちにとって安心して楽しめる場となってきている。
2	タイトル	子どもの小さな変化を丁寧に受けとめながら見守りを行っている
	内容	職員は子どもの表情や発言、日々の様子を細かく見ながら関わりを続けている。顔色や元気の有無など、わずかな変化にも気づくよう意識し、気になる様子があれば声をかけて話を聞くなど、子どもの背景を確認しながら見守りにしている。関わりの中で子どもが抱えている事情が分かることもあり、日常の観察が援助につながっている。子どもが安心して過ごせるよう、過度に介入するのではなく、必要な場面で支える姿勢が共有されており、一人ひとりの様子に目を向けた関わりを続けている。
3	タイトル	子どもの状況を起点に判断を重ね職員間で支え合う運営を行っている
	内容	日常の運営では、理念や方針を抽象的に掲げるのではなく、子ども同士のトラブルや生活上の判断場面で具体的に用いている。双方の思いを聞き取り、言葉になりにくい背景を整理しながら、職員が仲介役となって解決に向かう対応が重ねられている。判断に迷う場合はクラブ長が関与し、事案の性質に応じて現場と経営層の役割を切り分けている。また、職員の役割や判断範囲についても事案ごとに言葉で確認し、立場の違いを前提に連携している。こうした判断により、子ども一人ひとりを尊重する姿勢が日常の運営に反映されている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	子ども達が抱えている不安などのサインをとらえられるよう職員全員の注意深い見守りが期待される
	内容	子ども達が抱えている秘密や不安をクラブの職員は十分に捉えられていない場合があることが憂慮される。問題行動の裏には何か不安を感じる原因があり、その前に子どもたちがサインを出していることも多いと考えられる。挨拶の様子や話し声、表情、普段と違う行動や話し方など、子どもたちの発するさまざまなサインに気づくことで、不安を和らげる支援につなげられる。子どもたちへの注意深い見守りが期待される。
2	タイトル	記録や共有方法を整理し、職員全体で同じ情報を確認できる仕組みづくりを課題としている
	内容	日々の情報共有は行われているものの、記録や把握した内容をより広く職員全体で確認できる仕組みづくりを進めていくことを課題として捉えている。子どもの状況を共通理解として持つためには、記録の活用方法や共有の流れを整理し、誰もが同じ情報を見ながら関わられる環境を整えることが求められている。現在行っている回覧や確認を基礎としながら、情報を整理し共有しやすい形へつなげていくことが今後の取り組みとして意識されている。
3	タイトル	日常の共有を基盤に、工夫や判断を計画や報告へ体系的に反映する体制づくりを望みたい
	内容	事業計画や事業報告は児童館全体の様式に沿って作成されており、学童クラブとして日常的に行われている工夫や判断の経緯が、文章として残されていない。運営の中では、子ども一人ひとりへの関わり方の工夫や、環境調整、保護者対応などが日々積み重ねられているが、それらが学童クラブ全体の傾向や判断の流れとして整理される機会は多くない。そのため、引き継ぎは特定の子どもへの対応が中心となりやすく、運営上の気づきが職員個人の経験に留まりやすい。日常の実践が組織として共有できるように取り組むことを望みたい。

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

令和 8年 3月 31日

杉並区長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町1丁目5番地4-712

評価機関名 株式会社 ケアシテムズ

認証評価機関番号

機構 06 - 167

電話番号 03-3511-5035

代表者氏名 和田 俊一



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	伊藤 一郎	経営	H1601010
	②	和田 俊一	経営	H0601057
	③	和田 輝美	福祉	H1001021
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	井荻学童クラブ			
事業所連絡先	〒	167-0041		
	所在地	東京都杉並区善福寺1丁目11番11号		
	TEL	03-5382-8330		
事業所代表者氏名	施設長 中本 美和			
契約日	2025 年 7 月 15 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 10 月 15 日			
利用者調査結果報告日	2026 年 1 月 15 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 10 月 15 日			
自己評価結果報告日	2026 年 1 月 15 日			
訪問調査日	2026 年 1 月 22 日			
評価合議日	2026 年 1 月 22 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は、調査実施日現在、当事業所を利用している全ての利用者を対象にアンケートを実施した。事業所と評価機関の連名による依頼状にアンケート用紙と返信用封筒を同封して対象者に配付、回答は評価機関に直接送付してもらった。 事業評価に際しては、事前説明を行うとともに、職員からも個々の標準項目にチェックを入れた分析シートを回収し参考とした。 第三者性の確保については、当評価機関、担当評価者と事業者との間に事実上、人事上の関係は一切存在しないことを確認し、中立公正な評価に努めた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません
- 別添の理由書により、公表には同意しません

年 月 日

事業者代表者氏名 株式会社 マミー・インターナショナル代表取締役 伊藤勝康 印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)企業理念:会社の存在意義は、マミーで働いている方々が幸せになるお手伝いをするためにある。そのことで、子ども達や関わるすべての人々を笑顔にすることが私たちの願いです。 2)企業スローガン:【Mommy,always there for you.(マミーはいつも人のためにあります。)]子どもから高齢者まで、全ての人のためにあります。 3)社員行動指針:【忘己利他(己を忘れて他を利する)】マミー・インターナショナルの社員として、自分を中心に物事を考えてまわりに望むだけでなく、自分をすててまずは自助の精神で行動します。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>人材像:常勤は、放課後支援員資格取得者。コミュニケーション能力があり、周囲や児童の状況を細やかに察知し、忘己利他の精神があること。 役割:児童の心に寄り添い、自分で考え、やりたいことが実現できるという3点を大切に、職員全員が同じ方向性を持って支援できること。児童がやりたいと言える環境があり、やりたいが実現できること、そして困った時には一緒に考える支援者であること。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>私たちの運営する施設は自治体からの委託事業であって、関わっている職員はすべて本事業の職員として、その責任と自覚を持ち、当事者意識をもって業務にあたる。</p>

調査対象

調査日現在、当事業所の利用登録者総数である115名を調査対象とした。回答者の年齢構成は、1年生19名、2年生18名、3年生9名、4年生1名であった。

調査方法

アンケートは、QRコードを付した依頼文を配付し、評価機関に直接電送してもらう方法と、アンケート用紙を事業所にて配付してもらい回答は返信用封筒にて評価機関に直接送付してもらう方法の2種類で実施した。

利用者総数

115

共通評価項目による調査対象者数

アンケート	聞き取り	計
115	0	115
47	0	47
40.9	0.0	40.9

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

利用者調査全体のコメント

回答者の属性は、「利用者本人」が34.0%、「家族と相談」が53.2%、「家族が代弁」が12.8%であった。総合的な満足度に関する調査の結果は、対象者の91.5%が「よい」または「ややよい」と回答し、「どちらともいえない」が6.4%、「よくない」が2.1%であり、大変高い満足度が得られている。項目別では、＜生活について＞に関する5設問は1設問において、大変高い満足度であった。「おやつ時間の楽しさ」では、83.0%の大変高い満足度が得られている。＜安心・快適性＞に関する4設問は2設問において、大変高い満足度であった。特に「けが・体調不良時の対応」では、93.6%の大変高い満足度が得られている。＜あなたを大切にしてくれているか＞に関する2設問は「気持ちを大切にしてくれるか」において、概ねの利用者が満足とする回答を得られている。＜嫌なことや、してほしいことについて＞では、「困ったり、してほしいこと」は、概ねの利用者が満足とする回答を得られているが、「職員以外への相談の案内」については、さらに高い満足度が望まれる結果であった。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	36	9	2	0
「はい」が76.6%、「どちらともいえない」が19.1%、「いいえ」が4.3%であり、高い満足度であった。自由意見では、「ドッジボールが楽しい」、「友だちと遊べて楽しい」、「新しいおもちゃがないので退屈だ」という声が聞かれた。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	35	7	1	4
「はい」が74.5%、「どちらともいえない」が14.9%、「いいえ」が2.1%、「無回答・非該当」が8.5%であり、高い満足度であった。自由意見では、「お友だちに意地悪されたときに、先生に話したら解決できる」、「ケガしたときとか、二人あやとりを一緒にやってくれる」、「注意ばかりされる。相談したくない」という声が聞かれた。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	39	7	0	1
「はい」が83.0%、「どちらともいえない」が14.9%、「無回答・非該当」が2.1%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「おかわりじゃんけんが楽しい」、「友だちと食べられて楽しい」、「お肉みたいなのが嫌だった」という声が聞かれた。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	31	2	2	12
「はい」が65.9%、「どちらともいえない」が4.3%、「いいえ」が4.3%、「無回答・非該当」が25.5%であった。自由意見では、「危ないとか「できない」とかでしたいことはできない」、「あんまり自分の意見はうまく言えていないようです」、「そんなにみんなで決めることはない気がします」という声が聞かれた。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	35	6	1	5
「はい」が74.5%、「どちらともいえない」が12.8%、「いいえ」が2.1%、「無回答・非該当」10.6%であり、高い満足度であった。自由意見では、「一年生でもわかりやすく話してほしい」、「話してくれたことはあるけど、その時理解はできなかった」、「悪いことは悪いけど、言い方が嫌」という声が聞かれた。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	28	12	2	5
「はい」が59.6%、「どちらともいえない」が25.5%、「いいえ」が4.3%、「無回答・非該当」10.6%であった。自由意見では、「机や床」、「最初はきれいだけど汚くなる」、「トイレのスリッパがたまにきれいになっていない時がある」という声が聞かれた。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	38	5	1	3
「はい」が80.9%、「どちらともいえない」が10.6%、「いいえ」が2.1%、「無回答・非該当」が6.4%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「ダメな先生もいる」、「先生たちと話したくない」という声が聞かれた。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	44	1	0	2
「はい」が93.6%、「どちらともいえない」が2.1%、「無回答・非該当」が4.3%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「お友だちの調子が悪い時に、熱が高いかなど見ている様子を見たことがある」という声が聞かれた。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	37	4	0	6
「はい」が78.7%、「どちらともいえない」が8.5%、「無回答・非該当」が12.8%であり、高い満足度であった。自由意見では、「先生が話をしてくれて、解決してくれた」、「話はするけど、約束守るとか押しつけられる」、「先生が見ていないところであるから」という声が聞かれた。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	31	7	1	8
「はい」が66.0%、「どちらともいえない」が14.9%、「いいえ」が2.1%、「無回答・非該当」が17.0%であった。自由意見では、「一応」、「聞いてくれない先生もいる」という声が聞かれた。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	24	6	0	17
<p>「はい」が51.0%、「どちらともいえない」が12.8%、「無回答・非該当」が36.2%であった。自由意見では、「ないしょの話はしていない」、「ないしょのことがありません」、「守ってくれない先生もいる」という声が聞かれた。</p>				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	27	9	3	8
<p>「はい」が57.5%、「どちらともいえない」が19.1%、「いいえ」が6.4%、「無回答・非該当」が17.0%であった。自由意見では、「困ったことがない」、「特に嫌なことがないそうです」、「困ったり嫌でも言えない(相手がやったことを認めなかったりするの、先生に言ったら話が長くなってしまって遊べなくなるから)」という声が聞かれた。</p>				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	14	5	8	20
<p>「はい」が29.8%、「どちらともいえない」が10.6%、「いいえ」が17.0%、「無回答・非該当」が42.6%であった。自由意見では、「覚えてない」という声が聞かれた。</p>				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている 〇非該当
	評価項目2 標準項目の「あり」「なし」を選択してください 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている 〇非該当
	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している 〇非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている 〇非該当
	カテゴリー1の講評	
	理念を言葉で示し職員の行動に結び付けている クラブ運営における判断軸として、「子どもにとってプラスかマイナスか」という考え方が示され、法人代表の言葉として職員に共有されている。入職時には非常勤職員も含め、具体的な場面を用いて説明されており、抽象的な理念な理解でなく、日々の関わりを考える基準として理解されている。議事録への記載や日々のミーティングでの確認を通じて、判断軸が繰り返し示され、職員が迷った際に立ち戻る視点として機能している。判断基準が個人の感覚に委ねられず、共通の言葉として浸透し、運営の中でいかされている。	
	判断の段階を整理し職員の参画を組み込んでいる 日常的な判断は、クラスリーダーや担当職員同士での話し合いを基本とし、内容に応じて副施設長、施設長へと段階的に引き上げる流れが整理されている。日々の職員ミーティングでは、運営前後の情報共有と振り返りが行われ、記録ノートを用いて判断の経過を残すようになっている。非常勤職員についても、退勤前に情報を共有する仕組みが設けられており、業務判断が属人的にならないよう配慮されている。判断後には振り返りを行い、必要に応じて原因整理や再発防止の検討を行うなど、意思決定を単発で終わらせない運営が行われている。	
	安全や環境を巡る判断を状況に応じて見直している 運営上の判断について、現場の気づきや安全面の課題を受け止め、対応を見直してきた経過が確認できる。パーテーション周辺の安全確保では、職員の指摘を受けて暫定対応を行い、その後区への申請を経て適切な資材による改善につなげている。また、庭利用を巡る近隣の課題については、地域の意見や制約を踏まえつつ、週一回の利用や学校・プラザの活用など代替手段を組み合わせ対応している。特に庭利用への保護者ニーズを把握したうえで、毎年地域との調整を続けるなど、状況に応じた判断と対応の積み重ねが運営に反映されている。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>現場の状況を踏まえた重点を事業計画に反映している</p> <p>事業計画では、職員間の情報共有を重視する姿勢が明確に示されており、日常の運営にもその考え方が反映されている。特に、在籍児童の多くが低学年である状況を踏まえ、卒室後の過ごし方を見据えた支援を計画に位置付け、放課後等居場所事業や児童館、公園などを実際に利用する経験を通して理解を深める取り組みを行っている。計画内容は行事や日々の活動と結び付けて共有されており、職員が重点を意識しながら運営にあたっている様子がうかがえる。計画が文書上にとどまらず、子どもの生活の実態を踏まえた内容として整理されている。</p> <p>振り返りを組織内で重ね計画に具体性を持たせている</p> <p>前年度の振り返りは、年度末に職員同士で話し合う場を設け、施設長が内容を整理したうえで法人全体に共有されている。その後、施設長会議で発表し意見を加えることで内容を磨き、新体制でのキックオフミーティングにおいて新年度の事業計画として職員に伝えている。重点課題についてもこの過程で整理され、計画の背景やねらいが職員に共有されている。振り返りが単なる報告にとどまらず、次年度の方向性を明確にする材料として扱われており、同じ課題を繰り返さないための工夫が計画策定の過程に組み込まれている。</p> <p>進行状況を確認し計画を柔軟に調整している</p> <p>事業計画の進行状況については、日々の職員ミーティングの中で確認が行われ、特に月の後半には達成状況や課題を振り返る機会が設けられている。計画どおりに進まない場合には、その理由を共有したうえで内容を見直し、必要に応じて修正を行っている。変更内容は朱書きで記録し、経過を振り返れるよう整理するなど、判断の過程が分かる工夫も見られる。最終的な判断は施設長が行い、修正内容を次年度の計画検討につなげる視点も持たれており、計画を固定化せず運営状況に合わせて扱う姿勢がみられる。</p>		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ-3の講評

個人情報の取扱いを手順化し管理責任を明確にしている

個人情報や配慮が必要な児童に関する情報は、管理方法と取扱手順を明確に定め、施設長および副施設長の管理責任のもとで扱われている。書類は鍵付きキャビネットで保管し、取り出しの際には記録簿に記載する仕組みを設けるなど、管理状況を確認できる運用が行われている。卒室後の書類についても、法人および自治体のルールに基づいて廃棄リストを作成し、手順に沿って処理している。電算管理に関する制約については、施設単独で判断せず区に確認を行いながら対応しており、法令や規程を踏まえた慎重な情報管理が日常業務の中に組み込まれている。

保護者の受け止めに意識し説明方法を工夫している

保護者への説明においては、庭利用や活動内容など、受け止め方に差が生じやすい事項があることを前提に、伝え方を工夫している。子どもの意向については映像を用いて説明するなど、言葉だけに頼らない方法を取り入れている。また、子どもからの話をきっかけに誤解が生じやすい点についても職員間で共有し、対応を揃えるよう努めている。障害のある子どもの受け入れや、おやつの内容・予算に関する説明では、制度や条件を踏まえた説明が必要となる場面も多く、内容を整理したうえで職員が共通認識を持って対応している。

地域や学校と協議を重ね役割を整理している

地域や学校との関係については、父母会や運営協議会を通じて定期的に意見を聞く場を設け、学童クラブの運営に反映している。運営協議会には民生委員や自治会長、小学校のPTA関係者も参加しており、地域の子育ての場としての役割を確認する機会となっている。庭利用を巡る課題についても、地域の声を踏まえながら調整を続けており、児童館や学校との連携を進めるなど、複数の関係機関と役割を分けた対応が行われている。地域との対話を通じて得た情報が、運営判断の材料として活用されている。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー4の講評		
<p>日常の見守りに安全意識を組み込み運営している</p> <p>日常の運営において、安全面への配慮が業務の一部として組み込まれている。職員は子ども同士の動きや関わりを常に意識し、けがやトラブルにつながる場面を想定しながら見守りを行っている。帰宅管理についても、子どもからの申告を踏まえた確認を行い、決まった時間に送り出せるよう対応している。安全計画の中では、職員だけでなく子ども自身が危険を考える機会を設け、写真を用いた危険予知トレーニングを実施している。日常の関わりと計画的な取り組みを結び付け、安全意識が現場に根付くよう工夫されている。</p> <p>ヒヤリハットを共有し再発防止につなげている</p> <p>ヒヤリとした事例については、記録に残すだけでなく、日々の運営会議の中で具体的な状況を共有し、その場で対応を検討している。危険箇所や対応方法について職員それぞれの気づきを出し合い、必要な改善を行う流れが定着している。クラブ内ではセーフティキーパーを役割として定め、年に数回行われるミーティングを通じて危機管理に関する知見を共有している。こうした内容はマニュアルにも反映され、個々の経験が組織の知識として蓄積される仕組みが整えられている。</p> <p>緊急時対応を想定し体制と連絡経路を整理している</p> <p>緊急時に備え、日々の運営の中で職員の役割分担を確認しながら体制を整えている。マニュアルには対応ルートが整理されており、非常勤職員にも共有されている。法人内で同一自治体に複数施設を展開していることから、地域単位での情報共有が行われ、緊急時の対応を支える仕組みとなっている。施設長不在時でも、事務室には法人や行政への連絡先が明示され、必要に応じて施設長やエリアマネージャーと連絡が取れる体制が確保されている。訓練を重ねながら、実際の対応を想定した運営が行われている。</p>		

5 カテゴリー5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリー5の講評

入職時から理念と役割を丁寧に伝える仕組みがある

新任職員に対しては、入職時に伝える内容を一覧化し、理念や基本的な考え方を共通理解として示している。「みんなが幸せになる」という考えを起点に、学童クラブで働く職員としての役割や公共施設に求められる姿勢を段階的に伝えている。社員は一年間、パート職員は一定期間を目安に、月ごとの振り返りと目標設定を行い、業務理解を深める流れが設けられている。採用面接の段階から、楽しさだけでなく大変さやリスクも含めて説明するなど、入職後のギャップを抑える工夫が行われている。

経験差を前提に職員を支える体制を整えている

職員の経験や力量には差があることを前提とし、個人に任せきりにしない体制づくりが行われている。新入職員に対しては、ブラザー&シスター制度を用いて個別にフォローし、全体ミーティングで理解しにくい内容についても補足する機会を設けている。保護者に対しては、相談しやすい職員をクラスごとに示し、必要に応じて施設長が対応する体制を取っている。臨時職員の配置や職員の入れ替わりについても、お便りを通じて共有し、保護者の安心感につなげる工夫が見られる。

言葉や関わりを振り返り職員間で共有している

職員の言葉遣いや関わりが子どもに与える影響について、共通の視点を持つための取り組みが行われている。禁止する言葉を定め、毎週セルフチェックシートで確認した結果をオープンにするなど、個人の問題にせず職員全体で振り返る仕組みが整えられている。迷いが生じた事例については共有し合い、職員同士が声を掛け合える環境づくりが進められている。入社時や年初のミーティングでは、子どもの手本となる姿勢について改めて確認し、日常の関わりに立ち返る機会としている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

井萩学童クラブでは、子どもが地域で育ち、学校生活を送り、放課後を過ごすという一連の生活の流れを重視し、地域や学校との情報共有を重要課題として位置付けてきた。学童クラブが単独で完結する場ではなく、地域の中で子どもの生活を支える一つの拠点であるという認識のもと、施設長だけでなく職員一人ひとりが地域行事や関係者との関わりに積極的に参加している。あわせて、学童クラブと放課後等居場所事業の役割の違いを明確にし、学童クラブは子どもたちの生活の場として基本的な生活習慣の定着や自立に向けた支援を担う場であることを職員間で共有している。保護者に対しても、保護者会などの機会を通じて両事業の違いや卒業後の居場所の選択肢を説明し、運営ルールや関わり方を整理して伝える取り組みを進めている。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

地域や学校との関係づくりを意識的に進めてきた結果、情報共有が職員間の共通認識として根付き、子どもの過ごしやすさを考えた対応につながっている。地域行事への参加を通じて、学童クラブの存在や役割が周囲に理解されやすくなり、地域の声を運営に反映する機会も増えている。放課後等居場所事業との違いについては、職員が役割を理解したうえで対応できるようになり、保護者からも卒業後の過ごし方を見通して考えられるようになったという反応が聞かれている。学童クラブが生活の場として担う役割を丁寧に説明することで、保護者の理解が深まり、子ども自身も自分の居場所を意識して選ぶ姿が見られるようになってきている。こうした積み重ねが、地域の中での学童クラブの位置付けを明確にする結果につながっている。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

運営体制と支援の質の維持については、保護者から寄せられる多様なニーズを踏まえつつ、子どもにとって安定した生活の場を支える体制づくりを重要課題として位置付けている。職員体制の確保や環境設定に力を入れるとともに、職員一人ひとりがスキルアップへの意欲を持って働くよう働きかけている。経験や動機が異なる職員が働く中で、気軽に職員になった人であっても、仕事の意味ややりがいを感じられる職場環境を整えることが全体のモチベーションにつながるという考え方が共有されている。職員の「やりたい」という思いを尊重し、実現できる形を模索することで、支援の質を組織全体で高めていく取り組みが進められてきた。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った<input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった<input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った<input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた<input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

こうした取り組みの結果、支援児への対応についても常勤職員だけでなく非常勤職員を含めた関わりが進み、保護者からは安心して預けられるという声が聞かれている。職員が保護者と積極的に関わる姿勢を持つことで、特定の職員への信頼が子どもの利用意欲につながる場面も見られるようになった。職員自身も、自らの役割や関わり方を意識するようになり、日常の支援に対する姿勢に変化が表れている。一方で、モチベーションを自発的に高め続けるための工夫や、子どもが主体的に活動や行事を進める中で生じる意見の違いをどう調整していくかについては、引き続き試行錯誤が続いている。これらを組織課題として捉え、経験の積み重ねを大切にしている姿勢が共有されている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー1の講評		
<p>区のホームページでパンフレットや申請書などの入会情報を取得できるようにしている</p> <p>入会のしおり、月のおたより、保護者会資料などの各種の媒体で学童クラブの情報を提供している。具体的には、パンフレットや申請書を杉並区のホームページで公開し、入会に関する詳細情報をオンラインで取得できるようにしているほか、直接学童クラブに訪れて書類を受け取ることも可能としており、多様な方法で情報を提供している。一方で説明会への参加が難しい保護者に対しても十分に情報が行き渡るよう、オンライン説明会や動画コンテンツの活用など、さらなる工夫が期待される。</p> <p>提供する情報は、イラストなどを用いて分かりやすい案内になるようにしている</p> <p>子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容は、わかりやすい内容となるよう工夫している。子ども向けには、イラストなどを用いて案内をわかりやすいものになっている。学校におたよりを配布し、活動の内容を紹介するなど、学童クラブの情報を関係機関などに提供している。また、入会申請や面談の際には、保護者に対して丁寧な情報提供が行われ、学童クラブの利用にあたっての疑問や不安を解消できるよう努めている。</p> <p>問い合わせや要望があった場合は、個別の状況に応じて早急に対応できるようにしている</p> <p>問い合わせや要望があった場合は、施設長や法人とも共有し、個別の状況に応じて早急に対応できるようにしている。いつでも見学を受け入れており、活動の様子や学童クラブの様子を説明している。下校時やおやつ時など、いつの時間帯でも見学が可能となるように、職員を臨機応変に配置したり、利用者の希望に添えるよう工夫している。今後は、保護者が情報にアクセスしやすいより幅広い情報提供の環境を整え、入会から退会に至るまで、子どもと保護者の不安を最小限に抑えられる体制を構築することも検討されたい。</p>		

サブカテゴリ-2	
2	サービスの開始・終了時の対応
サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 8/8	
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している <input type="radio"/>非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇〇)</p>	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている <input type="radio"/>非該当
サブカテゴリ-2の講評	
入会説明会の際には、しおりなどに沿って説明し理解を促している 入会説明会の際には、しおり等に沿って説明を行っている。アレルギーや配慮が必要な子どもについては、個別に面談を行い、健康面や生活面について聞き取りを行い、安全にクラブで過ごせるように取り組んでいる。サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項、サービス内容、利用者負担金等について、子どもや保護者の状況に応じて説明している。「しおりの内容」に加え、アレルギー、既往歴、配慮してほしいことを聞き取り、区指定の記録表に記載して、子どもや保護者の意向を確認している。	
退会時には子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮している 退会時には、全学年の保護者へ個人面談を実施し、井荻小放課後等居場所事業へスムーズに移行ができるよう、放課後等居場所事業利用の子どもとの交流や、合同の保護者会を行っている。また、次年度に待機児童となる可能性も踏まえて放課後等居場所事業の利用を推奨している。学童クラブに通っている子どもも放課後等居場所事業へのイベント参加や合同遊びにより、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援に取り組んでいる。	

サブカテゴリー3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

10/10

評価項目1

子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している

評点(0000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー3の講評

昨年度の反省や子どもの様子をベースに育成計画を作成している

昨年度の反省や子どもの様子をベースに発達状況を確認しながら、当該年度の目標を策定して育成計画を作成している。また、特別支援児童については個別に育成計画を立案している。それらは4月のキックオフミーティングにおいて理念とともに共有し、年間を通じて適切に実施できるようにしている。また、日々のミーティングで子どもの様子や運営状況を共有しながら、支援の方法や運営の仕方の見直しにも取り組んで支援の方向性を統一している。保護者に対しては、入会説明会や保護者会で運営目標を伝えている。

子ども一人ひとりの状況や援助の内容を具体的に記録して共有している

子どもの成長や支援内容は日誌に記載しており、ケガ等については、お迎え時に口頭、電話、連絡帳に記載して伝えることにしている。また、ミーティングにおいて日々子どもの様子を共有している。具体的な支援の内容については、日誌やミーティングノートに記載して、育成支援の計画に沿った援助の内容になっているかを確認できるようにしている。発達面で特に配慮が必要な子どもについては、日誌やミーティングノートに子どもの様子や成長、支援の方向性を記載して、一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している。

子どもの情報を共有し支援に反映させることにしている

育成支援の計画の内容や記録は、キックオフミーティングや日々のミーティングにおいて全ての職員が共有し、活用できるようにしている。子どもや保護者の状況に変化があった場合は日々のミーティングで共有し、ミーティングノートにサインをし、全職員の周知を徹底するようにしている。日々のミーティングで共有した子どもの情報は、ブロック会議や研修時の事例として職員の育成にも寄与させている。個人面談の情報も全職員から収集し、保護者からの聞き取りを記録に残し、ミーティングで共有している。

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリー5の講評			
<p>保護者の理解と協力を得ながら個人情報保護の順守に取り組んでいる 入会時に個人情報の取り扱いについて説明し、同意を得ており、子どもに関する情報を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている。保護者の理解と協力を得ながら、慎重に取り扱い、個人情報を漏らさないことを厳守している。また、マニュアルの読み合わせや心構えチェックシート、プライバシーマークテストなどで振り返りを行っている。個人情報の持ち出しについては、区の規定に基づき、書面に記録し、管理簿で確認する体制としている。</p> <p>虐待などに関するさまざまな研修に受講できる機会を多く持てるようにしている 気になるトラブルや問題があった際は、ミーティングで共有している。必要に応じて保護者にも相談して、多くの目で確認するなどによりフォローすることになっている。さらに、児童虐待に関わる研修への参加などにより、学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめなどが行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している。日々の子どもの言動や保護者の心配事を把握し、小さな変化が見られた時点で対応できるよう、職員間で情報共有を行っている。子どもの気になる言動を見逃さず、職員の対応力と気づきの部分を向上させている。</p>			

サブカテゴリー6

6 事業所業務の標準化

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー6の講評

さまざまなマニュアルを整備し、サービスの基本事項や手順などを明確にしている

さまざまなマニュアル(区、法人内)を整備し、全職員が閲覧できるようにして、学童クラブが提供しているサービスの基本事項や手順などを明確にしている。定期的にマニュアルの見直しを行い、提供している支援が、定められた基本事項や手順などに沿っているかどうか定期的に点検・見直ししている。また、マニュアルはキャビネットに保管し、いつでも誰でも閲覧できるようにしている。新入職員については、ブザー&シスター制度を活用し、わからない点を相談し、すぐに解決できるようにして、日常的に手引書などを活用している。

利用者アンケートから出された意見を運営に反映するようにしている

マニュアルは運営の状況などにより、年度末に振り返りを行っており、提供している支援の基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている。利用者アンケートから出された意見を運営に反映するよう、基本事項や手順などの見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている。アンケートの意見や要望を運営に反映し、結果内容を紙で配付しているが、保護者への周知と内容の理解をさらに向上させるために、周知方法の見直しを検討している。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4

サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	29 / 29
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>子どもの状況を多面的に把握し職員間で共有しながら援助している</p> <p>入会面談や個人面談を通して子どもの生活背景や発達の状況を把握し、日々の様子は日誌やミーティングノートに記録して職員間で共有している。常勤職員は朝の段階で放課後の対応を見据えた確認を行い、昼には非常勤職員を含めた全体ミーティングを実施し、日案や配慮事項、支援が必要な子どもの状況を共有している。さらに送り出し後にも常勤職員による振り返りを行い、時短勤務職員が翌日に状況を把握できるよう記録を残し、勤務時間や担当が異なる職員間でも子どもの姿を共通理解できるよう工夫し、支援につなげている。</p> <p>異年齢の関わりや活動を通して互いを認め合う関係づくりを行っている</p> <p>縦割りの班活動や当番活動、帰りの会での司会など、子どもが役割を持って関わる機会を日常的に設けている。長期休みにはテーマをもった活動に取り組み、学年の違う子ども同士が協力しながら過ごす経験を持てるようにしている。低学年は帰宅時間が早いことも踏まえ、班ごとに学習やおやつ時間を過ごすなど生活の流れにも配慮している。また、英語のネイティブ指導員が月1回訪問し、ゲームなどを通して異文化や言語に触れる機会を設けており、子どもたちが楽しみながら多様な文化に触れられる環境となっている。</p> <p>子どもの気持ちを受け止めながら安心して過ごせる関わりを大切にしている</p> <p>子ども同士のトラブルでは双方の話を聞き、思いを整理しながら相手の気持ちにも気づけるよう仲立ちを行っている。常勤・非常勤が各部屋に配置され、ケガやトラブルが起きた際にも速やかに対応できる体制を整えており、必要に応じて保護者への報告や記録の共有も行っている。配慮が必要な子どもについては職員がそばにつき、活動への参加の仕方や過ごし方を本人の気持ちに合わせて調整しながら、ほかの子どもと一緒に過ごせる場を大切にしている。自分から気持ちを発信しにくい子どももいるため、職員の気づきを高めていくことを課題としている。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p>子どもが自分で遊びを選びながら過ごせるよう環境を工夫している</p> <p>遊戯室の利用は学年または2学年ごとに時間を区切り、体格や体力差に配慮しながら安心して遊べる環境を整えている。ボールを使わない時間を設けることで、これまで遊戯室を利用しにくかった子どもも参加しやすくなり、遊びの選択肢が広がっている。校庭や体育館、公園での活動も取り入れ、人数や活動内容に応じて遊びの場を調整している。雨天時には室内の空間を区切るなど、限られた環境の中でも子どもが自分に合った遊びを選びながら過ごせるようにしている。</p> <p>集団活動の中で子どもが主体的に関われるよう援助している</p> <p>班活動や当番活動を取り入れ、台ふきやおやつ準備など日常の役割を子どもが担っている。校庭へ移動する際には1分間ゲームを取り入れるなど、子ども自身が行動を意識しながら集団で動けるよう工夫している。「3年生以上会議」では希望する遊具や遊びについてアンケートや話し合いを行い、参加した子どもが意見をまとめたり、部屋の使い方に関するポスターを作成したりするなど、集団の中で自分たちの生活をつくる経験につなげている。購入した遊具については、ルールを覚えた子どもが下級生へ伝える場面も見られている。</p> <p>子どもの意見を取り入れながら日常の生活や遊びの場づくりを行っている</p> <p>学童での生活や遊びのルールを掲示し、集団生活の約束が日常の中で定着するようにしている。帰りの会では、一日の振り返りや生活ルール、安全面の確認を行い、気持ちを切り替えて帰宅につなげている。安全に関わることは気づいた場面での都度伝え、遊びの中でも意識できるよう援助している。遊具の片付けやトイレのスリッパをそろえること、ロッカー整理を行うことなど、日常の行動を通して基本的な生活習慣の習得につなげている。子どもが集団の中で気持ちよく過ごせるよう、生活や遊びの場面を通して繰り返し確認しながら援助している。</p>			

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもが目標を持ち、仲間と協力しながら取り組める行事を実施している 子どもが興味を持って参加できる活動を年間を通して計画しており、誕生日会やつくみよう週間、季節のおやつ会、伝統行事にちなんだ取り組みなどを実施している。けん玉やコマなどの昔の遊びに触れる機会を設け、級を目指す取り組みや成果を発表する場をつくるなど、継続して挑戦できる内容も取り入れている。行事では、仲間と協力しながら準備や活動に取り組むことを大切に、学年に応じた役割を意識しながら参加できるようにしている。活動を通して、できた喜びや達成感を感じられる機会となるよう工夫している。</p> <p>子ども同士が意見を出し合いながら行事をつくり上げている 子ども縁日では、菓子屋さんや魚屋さん、スーパーボールすくいなど、学年を越えて意見を出し合いながら企画や準備を進めている。4年生が考えた謎解きゲームでは、学年に応じた問題を作成するなど、年下の子どもが参加しやすい内容を意識した工夫が見られた。上級生の取り組みを下級生が見て「やってみたい」と感じる場面もあり、異学年で活動をつくる経験につながっている。なないろボックスでは本や玩具、イベントなどの要望を受け取り、検討後にフィードバックを行うなど、子どもの意見を行事づくりに反映する仕組みを設けている。</p> <p>行事の取り組みを保護者と共有し理解や協力につなげている 行事の様子はクラブだよりや写真掲示、保護者会でのスライド紹介などを通して伝え、保護者が子どもの活動の過程や当日の様子を具体的に知ることができるようにしている。お迎え時にも日々の様子を伝えることで、行事に向けた取り組みや子どもの成長の姿が家庭にも伝わるようにしている。子ども縁日では父母会の参加もあり、学年を越えて協力しながら活動を進める様子を見てもらう機会となっている。企画や運営は上級生が中心となる場面が多いため、今後は下級生も話し合いや準備の過程に関われる機会を増やすことを目指している。</p>		
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもの様子を把握しながら安心して通い続けられるよう援助している 入会面談では保育園や幼稚園での集団生活の様子や本人の希望を確認し、入会後は1年生を対象とした個人面談を保護者と行いながら、困っていないかを把握している。4月当初はお迎えの機会も多いことから、日々の様子や良かったことを保護者へ丁寧に伝えるようにしている。連絡帳も活用し、健康状態やケガ、帰宅時間の変更など家庭からの情報も共有しながら、職員全体で子どもの状況を見守っている。友だちや職員に自分から声をかけにくい子どもには個別に声をかけ、ミーティングで共有しながら継続的にフォローを行っている。</p> <p>生活の区切りを明確にし、子どもが見通しを持って過ごせるようにしている 平日は30分、1日育成時は1時間の学習時間を設け、学習に取り組めるスペースを確保している。ホワイトボードにはその日の予定や校庭遊び、おやつなどの時間を示し、子どもが一日の流れを確認できるようにしている。職員からも全体へ予定を伝え、活動の見通しが持てるようにしている。4月当初は1年生のみの時間を設け、職員がつきながら生活の流れを丁寧に伝え、絵本と一緒に見る時間なども取り入れながら少しずつ環境に慣れるようにし、子どもの状況に応じた配慮を行っている。学校生活が始まると上級生が自然に1年生と関わる姿も見られている。</p> <p>活動内容に応じて室内環境を分け、安心して過ごせる場をつくっている 子どもが安心して活動できるよう、過ごし方に応じて育成室を使い分けている。静かに過ごしたい子どもや学習に集中したい子どもは育成室1、ボードゲームやごっこ遊びは育成室2、体を大きく動かす遊びやドミノなど場所を使う遊びは育成室3、読書や折り紙は育成室4とし、活動内容に合わせた環境を整えている。放課後子供教室とは運営スペースは別であるが、校庭や体育館での合同遊びや放課後の居場所事業への引率参加などを通して連携を図り、子どもが参加しやすいよう支援している。</p>		

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当

評価項目5の講評

学校と日常的に情報共有を行い、子どもの生活が円滑につながるようになっている

クラス担任とは日常的に情報を共有し、子どもの様子について相互に確認できる関係をつくっている。学校で気になることがあった際には担任が学童クラブまで様子を見に来ることもあり、学童側からも気になる様子があれば学校へ伝えるなど、双方向の連携を行っている。毎月実施される学校との調整会議には施設長が参加しており、学校やPTA、スポーツ少年団との情報交換の機会となっている。事務的な連絡だけでなく、子どもの様子についても共有しながら、学校と学童クラブの生活が切れ目なくつながるようにしている。

配慮が必要な子どもについて学校と連携しながら援助している

不登校や学校生活で不安を抱える子ども、トラブルがあった子どもについては、副校長やクラス担任と状況を共有しながら対応している。必要に応じて学校側が学級指導を行ったり、学童クラブへ足を運んで様子を確認するなど、子どもの気持ちに配慮した対応につなげている。保護者とも連携しながら、学校での様子や学童での様子を把握し、放課後の時間も安心して過ごせるよう援助している。学校には支援担当の教員もあり、教室に入りにくい子どもやサポートが必要な子どもについても情報を共有しながら対応している。

関係機関と連携しながら専門的な視点を取り入れて援助している

障害のある子どもや発達面で配慮が必要な子どもについては、保護者との共有だけでなく、巡回指導員と連携しながら支援を行っている。巡回はおおむね2か月に1回程度実施され、1日の育成の様子を見てもらいながら、関わり方や環境の工夫について助言を受ける機会があり、巡回報告書を活用し、日常の援助に専門的な視点を取り入れるようにしている。また、子どものトラブルやケガがあった際には学校や所管の子ども・子育てプラザへ報告し、関係機関と連携した対応を行っている。

6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りで配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当

評価項目6の講評

子どもが落ち着いておやつを楽しめるようになっている

おやつは班ごとに食べる形をとり、片付けも班で協力して行うことで、落ち着いた雰囲気の中で過ごせるようにしている。月1回程度、食育活動を取り入れ、季節の食材を取り上げたり、食べ物の役割について伝えたりしながら、食への関心を持てるようにしている。季節の行事に合わせた内容も取り入れ、みかんなど旬の食材を提供するなど、おやつ時間が楽しみになるよう工夫している。食育の話を行うことで、子どもが食に興味を持ち、食べ方を意識するなどの様子も見られている。

子どもの状況に合わせて内容や量を工夫している

おやつは家庭での夕食に影響が出ないよう、学年に応じておかわりの量を調整している。3品程度を基本とし、パックのおやつやプリン・ヨーグルトなどを組み合わせながら、甘いもの・しょっぱいもの・ゼリーなど味や食感が偏らないよう配慮している。好き嫌いや食べられないものについては無理に取らせず、子どもが選べるようにしている。余りが出た場合にはおかわりができるようにするなど、子どもの状況に合わせて対応を行っている。誕生日会ではリクエストを聞きながらケーキやアイスを取り入れることもあり、特別感のあるおやつ時間となっている。

食物アレルギーに配慮した提供を行っている

食物アレルギーについては、入会前の面談で保護者と確認を行い、連絡帳を通して日常的に情報を共有している。成分表の確認や提供時の対応はマニュアルに沿って行い、アレルギー一覧や確認表を活用しながら安全に提供できるようにしている。おやつは皿や座席、食べる場所を分けるなど、除去対応が確実にいけるよう配慮している。エビ研修を含む法人内研修を実施し、非常勤職員も含めた全職員が対応できる体制を整えている。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>子どもが健康や安全に関心を持てるよう日常的に援助している</p> <p>おやつ前や外遊びから戻った際の手洗いを徹底し、日常生活の中で衛生面への意識が持てるよう声かけを行っている。来所時には子どもの様子を確認し、気になる場合は声をかけたり体温を測ったりしながら早めの対応につなげている。ケガについては記録を行い、外遊びでのケガにはアイシングなどの応急対応を実施し、首から上のケガや腫れが見られる場合には保護者へ連絡し対応を確認している。毎年7月には危機予知トレーニングを行い、地域の写真を見ながら交通や災害、水害などの危険について子どもと一緒に考える取り組みを行っている。</p> <p>研修や関係者との連携を通して健康管理体制を整えている</p> <p>アレルギー対応訓練や嘔吐処理対応訓練を全職員が受講し、常勤職員は普通救命講習、施設長は上級救命講習を受講するなど、緊急時に対応できる体制を整えている。マニュアルを活用し、練習用エピペンをを用いた研修や動画視聴を通して知識と対応方法の確認を行っている。エピペンを所持する子どもについては入会前に保護者と面談を行い、受け入れ時の不安がないよう確認を重ねている。医療的ケアが必要な子どもは現在在籍していないが、日頃から研修を継続し、必要な場合に備えた体制づくりを行っている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>入会時面談や個人面談などを通じて、個々の事情に配慮して支援を行えるようにしている</p> <p>入会時の面談や個人面談などを通じて、保護者の子育ての考え方などを把握し、個々の事情に配慮して支援を行えるようにしている。お迎え時は玄関スペースまで保護者を通すことしており、お迎え時間が重なっている保護者同士が、一緒に掲示物や子どもの活動写真集などを見ることで交流のスペースにもなっている。さらに、地域行事や父母会主催のイベントなどに協力を仰ぐなど、保護者同士が交流できる機会を設けている。ユニット運営をしており、基本的には担当職員が帰宅管理や個人面談を行い、クラブ長は全ての子どもを統括する流れとしている。</p> <p>保護者と職員の信頼関係が深まるような各種の取り組みを実践している</p> <p>「おたより」によって子どもの様子を保護者に発信したり、年1回、学年ごとに個人面談、月1回、子育て相談を実施している。ユニット運営を行っており、クラス担任制にするなどにより、保護者と職員の信頼関係が深まるような体制づくりをしている。さらに、話しやすい相談しやすい関係づくりのため、お迎えの際にこまめに情報共有を行っており、相談内容は、ミーティングで全職員に共有している。また、個人面談では、保護者から要望や意見を把握し、運営協議会では保護者代表者と意見交換を行い、学童クラブ運営の参考にしている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目9の講評		
<p>地域の社会資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している</p> <p>定期的に放課後等居場所事業との交流機会を設けており、公園で一緒に遊ぶことにしている。また、乳幼児施設の子ども・子育てプラザ善福寺の幼児とネイチャーゲームを行う機会なども設けており、地域の社会資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができる機会を確保していることがうかがえる。さらに「ざりまるまつり」や「もちつき大会」など、地域イベントと一緒に実施していく中で、地域の人々が子どもや学童クラブの理解を深めてもらえる機会となるようにしている。</p> <p>クラブの行事に地域の関係者を招待して一緒に楽しめるようにしている</p> <p>1月の新春お祝い会に地域関係者(子育てネットワーク委員)を招待し、子どもと一緒に正月遊びを体験してもらうなどの機会を設けている。学童クラブの行事に地域の人の参加を呼びかけたり、地域の行事に参加するなど、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している。クラブの新春お祝い会に地域関係者を招待して子どもと交流する機会を持ったことは、子どもや地域からも評価の声が聞かれたため、継続することを計画している。さらに、地域の保育園児をクラブのイベントに招いて、学童クラブを知ってもらう機会とすることを計画している。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル①	安全と危機管理を日常業務に組み込んだ運営を行っている	
内容①	安全管理や危機管理について、計画や訓練にとどめず、日常の運営の中に組み込んだ取り組みが行われている。日々の見守りや帰宅管理に加え、職員と子どもと一緒に取り組む危険予知トレーニングを実施し、写真を用いて具体的に考える機会を設けている。ヒヤリハットは記録と共有を行い、セーフティキーパーを中心に知見を集約し、マニュアルへ反映している。緊急時の役割分担や連絡体制も明示され、非常勤職員を含めた共有が進められており、安全を組織全体で支える姿勢が運営に表れている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-2-2	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている
タイトル②	利用開始直後に、子どもの不安やストレスが軽減されるよう配慮している	
内容②	入会面談の際には家庭環境や子どもの特性を把握し、ミーティングなどで情報共有を行っている。また、利用開始時には子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握できるようにしている。保護者には、連絡帳やお迎えの際などの機会に子どもの様子をこまめに伝えるようにしている。上級生が1年生にクラブのルールを教えたり、異学年の班編成の活動をすることで交流しやすい環境づくりをしている。利用開始直後に、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮し、利用前の生活を踏まえた支援を行えるようにしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している
タイトル③	子どもの思いに寄り添い、自分で考えながら実現できる関わりを大切にしている	
内容③	子どもの心に寄り添うこと、自分で考えること、やりたいことを実現できることの3点として大切にし、職員全員が同じ方向を向いて支援にあたっている。子どもが「やってみたい」と言える環境づくりを意識し、その思いをできる限り形にできるよう関わっている。職員は指示する立場ではなく、困った時に一緒に考える支援者としての姿勢を大切にし、子どもが安心して挑戦できるよう援助している。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	入退室アプリや「おたより」により、子どもの安全確認などに取り組んでいる
	内容	保護者会では、スライドで子どもの様子を紹介したり、写真を印刷し、お迎え時に閲覧を促すなど、子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得られるようにしている。また、入退室アプリに帰宅時間の入力がない場合や、子どもの申請時間とアプリの時間が違う場合は電話をして、保護者に確認するなどの配慮をしている。連絡帳内のコメントも毎日確認する、子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている。入退室アプリの開封率が100%ではないため、おたよりを連絡帳に入れて配付している。
2	タイトル	育成を通して多様な経験と生活習慣の習得につなげている
	内容	縦割りでの活動や帰りの会、季節や行事に合わせたイベントを取り入れ、子どもがさまざまな経験を重ねながら過ごせるようにしている。異学年で関わる中で上級生の姿から学ぶ機会があり、活動を通して協力する姿も見られている。日々の育成では、挨拶や「ごめんなさい」といった生活の中で必要となる行動や言葉についても繰り返し伝え、子どもが集団生活の中で自然に身につけられるよう援助している。日常の関わりを積み重ねながら、生活面と社会性の両面を育む取り組みが行われている。
3	タイトル	判断軸と情報共有を基盤に組織的な運営を行っている
	内容	「子どもにとってプラスかマイナスか」という明確な判断軸をもとに運営が行われており、その考え方が文書や日々のミーティング、入職時の説明を通じて職員に共有されている。判断に迷う場面では、担当職員同士の話し合いから管理職による判断へと段階的な流れが整理され、記録を残しながら振り返りが行われている。こうした情報共有と意思決定の積み重ねにより、判断が属人的にならず、運営の継続性や一貫性が保たれている。職員が共通の視点を持って日常業務にあたっており、学童クラブ全体の安定した運営につながっていることがうかがえる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	なないろBOXを活用して、子ども一人ひとりの声を運営に反映させることを目指している
	内容	日々のスケジュールをホワイトボードに記載し、子どもが時間管理をしながらクラブ生活を送っている。また、なないろBOXを設置して意見を出しやすいように工夫して、日常の援助の中で子ども一人ひとりの声が把握できるようにしている。子どもが意見、相談、要望を投函した内容に対しては、職員間で共有し、運営に反映できるようにしている。ただし、困っていることの相談や運営に対する意見をさらに把握できるように、活用方法について子どもの理解が得られるようにすることを目指している。
2	タイトル	利用人数が多い中でも落ち着いて対応できる体制づくりを課題としている
	内容	在籍する子どもの人数が多いことから、来所や帰宅が集中する時間帯には慌ただしくなる場面もあることを課題として捉えている。特に帰宅時間の確認や送り出しについては、間違いが生じないよう職員間での確認や声かけを行いながら対応している。子ども一人ひとりの動きや状況を把握し、安全に送り出しができるよう、日々の業務の中で確認を重ねながら対応の精度を高めていくことを意識している。
3	タイトル	職員の関わりを揃えるための整理が必要である
	内容	職員の経験や個性により、子どもへの関わり方や言葉の使い方に差が生じる場面があり、保護者が安心感に揺らぎを感じるケースが見られる。組織として関わり方の基準を共有する取り組みは進められているものの、日常の具体的な場面に即した整理や確認が十分に行き渡っていない部分もある。学童クラブが子どもの価値観形成に影響を与える場であることを踏まえると、関わりを個人の力量に委ねず、組織全体で共通理解を深めていく視点が重要となる。職員間での振り返りや共有を通じて、安心感につながる関わりを揃えていくことを課題としている。

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

令和 8年 3月 31日

杉並区長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町1丁目5番地4-712

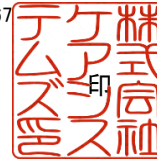
評価機関名 株式会社 ケアシテムズ

認証評価機関番号

機構 06 - 167

電話番号 03-3511-5035

代表者氏名 和田 俊一



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	杉村 寿重	経営	H2301012
	②	和田 俊一	経営	H0601057
	③	和田 輝美	福祉	H1001021
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	西荻南学童クラブ			
事業所連絡先	〒	167-0053		
	所在地	東京都杉並区西荻南3丁目5番23号		
	TEL	03-3334-0903		
事業所代表者氏名	館長 飯泉 友里			
契約日	2025 年 7 月 15 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 10 月 15 日			
利用者調査結果報告日	2026 年 1 月 13 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 10 月 15 日			
自己評価結果報告日	2026 年 1 月 13 日			
訪問調査日	2026 年 1 月 20 日			
評価合議日	2026 年 1 月 20 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は、調査実施日現在、当事業所を利用している全ての利用者を対象にアンケートを実施した。事業所と評価機関の連名による依頼状にアンケート用紙と返信用封筒を同封して対象者に配付、回答は評価機関に直接送付してもらった。 事業評価に際しては、事前説明を行うとともに、職員からも個々の標準項目にチェックを入れた分析シートを回収し参考とした。 第三者性の確保については、当評価機関、担当評価者と事業者との間に事実上、人事上の関係は一切存在しないことを確認し、中立公正な評価に努めた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません
- 別添の理由書により、公表には同意しません

年 月 日

事業者代表者氏名 館長 飯泉 友里 印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)子ども一人ひとりを尊重し、子どもが安心して、安全に過ごせる居場所とする。 2)子どもたちがともに育つ中で、自らの可能性を発揮し、健やかに成長するよう支援する。 3)地域や関係機関と連携・協力し、保護者が安心して楽しく子育てができるよう支援する。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の気持ちに寄り添い、支援する職員。 ・子どもたちが、安全・安心に遊べるように見守り一緒に遊ぶ職員。 ・保護者と信頼関係を築き、身近な相談相手としての役割を担える職員。 ・地域の方々が、いつでも気軽に立ち寄れる居場所となるように、いつでもどうぞの温かい気持ちをもっている職員。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こどもまんなか」仕事の基本は、子どものためにということ。子どものために何をすべきか何が優先か考える。 ・「チームでの仕事」個人のスキルも問われるが、チーム力がとても大きい。チームでの支援として動く。 ・「子どもと共に創る」大人だけの視点では偏ってくる。子どもと一緒に創るということを常に意識していく。

調査対象	調査日現在、当事業所の利用登録者総数である88名を調査対象とした。回答者の年齢構成は、1年生15名、2年生15名、3年生13名、4年生3名であった。
調査方法	アンケートは、QRコードを付した依頼文を配付し、評価機関に直接電送してもらう方法と、アンケート用紙を事業所にて配付してもらい回答は返信用封筒にて評価機関に直接送付してもらう方法の2種類で実施した。

利用者総数 88

	アンケート	聞き取り	計
共通評価項目による調査対象者数	88	0	88
共通評価項目による調査の有効回答者数	46	0	46
利用者総数に対する回答者割合(%)	52.3	0.0	52.3

利用者調査全体のコメント

回答者の属性は、「利用者本人」が50.0%、「家族と相談」が43.5%、「家族が代弁」が6.5%であった。総合的な満足度に関する調査の結果は、対象者の91.3%が「大変満足」または「満足」と回答し、「どちらともいえない」が8.7%であり、大変高い満足度が得られている。

項目別では、＜生活について＞に関する5設問は2設問において、大変高い満足度であった。特に「おやつ時間の楽しさ」では、95.6%の大変高い満足度が得られている。

＜安心・快適性＞に関する4設問は3設問において、大変高い満足度であった。特に「けが・体調不良時の対応」では、97.8%の大変高い満足度が得られている。

＜利用者個人の尊重＞に関する2設問は1設問において、大変高い満足度であった。「気持ちを大切にしてくれるか」では、87.0%の大変高い満足度が得られている。

＜不満・要望への対応＞では、「困ったり、してほしいこと」は、高い満足度であったが、「職員以外への相談の案内」について、はさらに高い満足度が望まれる結果であった。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答・非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味を持てるものとなっているか	39	5	1	1
「はい」が84.8%、「どちらともいえない」が10.8%、「いいえ」が2.2%、「無回答・非該当」が2.2%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「遊戯室と折り紙が楽しい」、「ドッジボールが楽しいです」、「もうちょっと楽しい遊びがほしい。迷路遊びがほしい」という声が聞かれた。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	36	8	0	2
「はい」が78.3%、「どちらともいえない」が17.4%、「無回答・非該当」が4.3%であり、高い満足度であった。自由意見では、「たくさんしてくれる」、「はい。相談にのってくれます」、「先生による」という声が聞かれた。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	44	1	0	1
「はい」が95.6%、「どちらともいえない」が2.2%、「無回答・非該当」が2.2%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「おやつが美味しいです」、「いろいろなおかしがあって楽しい」、「おにぎりや麺類が出てほしい」という声が聞かれた。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	35	2	0	9
「はい」が76. 1%、「どちらともいえない」が4. 3%、「無回答・非該当」が19. 6%であり、高い満足度であった。自由意見では、「トミカのおもちゃの遊び方の意見をちゃんと聞いてくれました」、「防災こどもまつりのお店やさんの仕事をすすめるときに、話を聞いてくれた」という声が聞かれた。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	34	7	0	5
「はい」が73. 9%、「どちらともいえない」が15. 2%、「無回答・非該当」が10. 9%であり、高い満足度であった。自由意見は特になかった。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	36	7	1	2
「はい」が78. 3%、「どちらともいえない」が15. 2%、「いいえ」が2. 2%、「無回答・非該当」が4. 3%であり、高い満足度であった。自由意見では、「きれいです」、「汚かったら片づけている」、「コロコロコミックが汚いです」という声が聞かれた。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	44	0	0	2
「はい」が95. 6%、「無回答・非該当」が4. 4%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「時々、名前を間違えられて悲しい」という声が聞かれた。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	45	1	0	0
「はい」が97. 8%、「どちらともいえない」が2. 2%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「親に連絡してくれる」、「血が出た時に絆創膏を貼ってもらいました」、「何回もケガをしているけど、話を最後まで聞いてくれた」という声が聞かれた。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	39	3	1	3
「はい」が84. 8%、「どちらともいえない」が6. 5%、「いいえ」が2. 2%、「無回答・非該当」が6. 5%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「話を聞いて仲直りさせてくれました」、「私はとても助けてもらいました」、「学童でケンカをしない」という声が聞かれた。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	40	3	0	3
「はい」が87. 0%、「どちらともいえない」が6. 5%、「無回答・非該当」が6. 5%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「自分では大切にしているように感じます」、「気持ちを話したことがないからわからない」という声が聞かれた。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	28	4	1	13
「はい」が60.8%、「どちらともいえない」が8.7%、「いいえ」が2.2%、「無回答・非該当」が28.3%であった。自由意見では、「内緒の話はしたことないけど、守ってくれる」、「秘密の話をしたことがないです」、「話したことはないのではありません」という声が聞かれた。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	36	3	0	7
「はい」が78.3%、「どちらともいえない」が6.5%、「無回答・非該当」が15.2%であり、高い満足度であった。自由意見では、「一人ぼっちにしない」という声が聞かれた。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	15	5	12	14
「はい」が32.6%、「どちらともいえない」が10.9%、「いいえ」が26.1%、「無回答・非該当」が30.4%であった。自由意見では、「初めて知りました」という声が聞かれた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている 〇非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している 〇非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている 〇非該当
	カテゴリー1の講評	
	運営計画などを職員や保護者に説明し、ともに子育てを支える関係づくりに努めている 公設直営の学童クラブであり、区が作成した中長期計画および、杉並区子どもの居場所づくり基本方針の考えに基づいて、館長が立てた目標に沿って職員が年度末に計画を立てて周知を促している。保護者に対しては年2回実施される保護者会で説明している。基本姿勢として、①子ども一人ひとりを尊重し、子どもが安心して安全に過ごせる居場所とする ②子どもたちがともに育つ中で、自らの可能性を發揮し、健やかに成長するよう支援する ③地域や関係機関と連携・協力し、保護者が安心して楽しく子育てができるよう支援する を、三本柱としている。 目標申告シートで職員は個人目標を設定し、運営計画達成の実現を個々に努めている 区の基本方針などは館長会報告として常勤および非常勤職員に伝えている。毎日行われる係会でも区のビジョンや方針を説明している。学童クラブ運営の計画には経営層のみならず職員も作成に責任を持って関わっている。職員は目標を理解した上で個々の目標申告を行い、館長との個別面談を通して指導とすり合わせが行われている。全体計画と個別目標を踏まえて、職員が日々の業務に反映できるように、館長はリーダーシップを持って各種のミーティングや職員とのコミュニケーションを図り、職員に対して個人目標が達成できるように支援している。 手順やフローが各業務ごとと発生事案ごとに作られており、必要な関係者に周知されている 重要な案件や決定については各種それぞれのフローが作られており、その手順に従って業務が実行されている。具体的には緊急時の対応方法や、館長不在時の対応方法などをはじめとして、アレルギー対応や災害対応および事故対応などで、区が作成した手順書に追加する形で整備している。区への連絡や報告も、情報連絡シートで行われている。保護者に対してはクラブだよりを毎月末に連絡メッセージアプリで配信していると共に、定期的に行われる保護者会でも資料を配付し説明も行っている。区民からの質問に対しても手順が決められている。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>地域連絡会や子育てネットワーク会議、地域教育推進協議会で情報が抽出検討されている</p> <p>年に3回の頻度で地域連絡会を開催している。参加者は町内会、小学校校長・副校長、中学校校長、保育園園長、民生委員・児童委員、地域の協力者などで地域の課題を検討している。また、地域子育てネットワーク事業の事務局を担っており、子育てネットワーク会議での情報交換や、地域教育推進協議会での情報交換、地域協力者との会話などから、大小さまざまな地域の環境や情報、課題を抽出している。子育てネットワーク会議は小学校区単位で行い、お祭りの実行委員も努めている。地域教育推進協議会は中学校区単位で行うもので、毎月開催している。</p> <p>中長期計画は、学童クラブ単独ではなく杉並区が策定し、適切な予算配分が行われている</p> <p>公設直営の学童クラブであるため、区の動向や利用者からの意見収集も速やかにできる利点がある。児童館と併設であり、地域との共催行事も多く実施しているので、地域からの信頼も厚く、抵抗なく協働できる土壌と体制が構築されている。地域の福祉に役立つ活動や取り組みはさらに多くできる可能性があり、今後の広がりも期待できる。中長期計画は学童クラブ単独ではなく杉並区総合計画・実行計画、杉並区保健福祉計画に基づいて、運営計画や目標を設定している。作成した計画に基づいて配当予算の適切な管理執行がされている。</p> <p>学童の中でも、地域の中でも、子どもたちの自発性を伸ばす活動に取り組んでいる</p> <p>学童クラブの中では、積極的に子ども会議を行い、子ども会議を通して、子どもたちの自発性を促している。毎月の誕生会の司会を努めたり、活動への意見を出して企画に関わったりしている。「まちなか・コミュニティ西荻みなみ」とも連携を図り、「こどもの時間」に参加してダンスをしたりしている。そのほかにも、お祭りや、西荻ふるさと盆踊りなどもあり、日常的に地域の協力者との関係を深め、継続させて行きたいと館長は考えている。例えば町の商店街などと連携し、おやつを商店街から調達するなどのさまざまなことが考えられ、今後の課題である。</p>		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ-3の講評

法令遵守に関するテストを毎年行い、虐待予防や虐待防止への対応も整備されている

年度初めに毎年、全職員を対象とした公務員倫理テストを実施している。これは倫理法や倫理規定およびコンプライアンスに関わるテストである。また、館長会報告を通して、法律に関することや改定された規範など、職員として守るべきことを周知している。さらに、杉並区の保育所・幼稚園等の職員による虐待等不適切な事案の通報相談窓口の創設について全職員に周知し、相互に言動を確認し合うよう指示をしている。虐待疑いのある利用者の情報を得た場合の対応やフローも明確になっており、子ども家庭支援センターや学校等との連携も取れている。

子どもの権利に関する杉並区の条約があり、苦情解決や相談など区と連携して行っている

苦情解決や相談に関するポスターやチラシを館内に掲示し、誰でも確認できるようになっている。また、杉並区のホームページで保健福祉サービス苦情調整委員制度を自由に利用できることを保護者に伝えている。子ども向けリーフレットで苦情相談のPRがされており、連絡メッセージアプリで配信されるクラブだよりでも記事を掲載して周知を図っている。学童クラブ入会案内には、杉並区子どもの権利に関する条例も記載されており、子どもにとっての大切な権利や、子どもを取り巻く大人の役割、子どもの権利相談や救済窓口に関することも掲載されている。

地域の子育て事業の事務局を担い、学生の受け入れや、開かれた体制を整えている

大学生の保育実習や、中学生の職場体験を定期的に受け入れている。地域のボランティアの受け入れも多く、囲碁やクッキング講座、お祭りの手伝い、乳幼児親子プログラムの手伝いなどを地域の協力を得ながら継続している。子育てネットワーク事業の事務局の責務を果たしており、地域教育推進協議会運営委員や西荻ふるさと盆踊り実行委員として参画している。また、地域連絡会、行政連絡会にも参加し地域活動の体制を整えている。さらに、ボランティアではなく、アルバイトとして留学生の受け入れ実績もあり、今後は多国籍にも対応できる土壌がある。

カテゴリ-4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>危機管理計画書と通報避難訓練計画書を作成し、子どもを含めた指導や訓練を行っている</p> <p>毎年、危機管理計画書を作成し、月度ごとのやるべきことを立案している。具体的には大きく、安全点検に関すること、利用者の訓練等に関すること、職員への研修や訓練に関すること、保護者への連絡等に関することに分け、実施項目の洗い出しを行い、その実施にかかる工数も見積もり、かつ責任者も決めて計画している。具体的な訓練の内容は、感染症、不審者侵入、火災、水害、地震、その他である。消火訓練には消防署にも協力を得て実施し、通報訓練も行い、煙体験やAED訓練も行っている。警察署は協力を受けて、交通安全指導を実施し備えている。</p> <p>安全意識と点検で事故の発生防止を行い、ヒヤリハットには再発防止に取り組んでいる</p> <p>ヒヤリハットを記録し、事故報告も分析と原因、それらの対応を検討し、定期的な点検で発生リスクを減らしたり、再発防止に職員全員が取り組んでいる。杉並区の危機管理マニュアルおよび、事業継続計画書に基づいて、かつコロナ禍のときの経験も生かして体制を整備し、情報の周知を図っている。事故報告は児童青少年課に報告し、ヒヤリハットは危機管理対策課に提出し、フィードバックを受けて運営に反映させている。アレルギー対応が必要な子どもが複数いるので、間違いが起きない対応に努めており、事故は起きていない。</p> <p>安全に情報は管理され廃棄サイクルも設定されており、パスワードも定期的に変えている</p> <p>情報はデータ管理と、紙のみで管理しているものがある。紙管理の情報はファイリングを行い、鍵のかかる場所に保管され、文書規程のルールに従い、期限を設けて保管と廃棄を行っている。データで管理している情報は、アクセス権限を設定して機密を担保している。職員は個人ごとのアカウントを持っており、パスワードは3か月ごとに変更を行い情報管理されている。紙ベースの情報を持ち出す場合は、持出管理簿で安全の確認と運用を行っている。懸念されることとして、ランサムウェア等に関しては、データ管理と並行して紙伝票での対応も用意している。</p>		

5 カテゴリー5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ-5の講評

職員には幅広いスキルを身に付けて欲しいと館長は考え、ローテーションを検討している

職員は全員が常勤職員か時短の会計年度任用職員で構成されており、派遣社員や契約社員はいない。新人職員は4年で異動させ、幅広いスキルを身につけられるようにローテーションを組んでいる。「同じ職場にいれば関係性は深まるがスキルは伸びない」という館長の考えがあり、業務経験を大切に育てている。ジョブローテーションに関しては、区役所内のさまざまな職務に付かせるのか、福祉系の業務の中でローテーションを組むのが良いかは、今後の検討課題としている。人材育成計画は区の主導となり1年目～3年目と、中堅で計画が立てられている。

人材の育成は課内研修や庁内研修、そして一般の外部研修でブラッシュアップさせている

杉並区職員人材育成事業実施計画に基づいて、児童青少年課課内研修予定が作成されている。研修終了後は、研修報告とミーティングでの伝達を行い、研修報告には館長が必ずコメントを記載して、職員のさらなる学びを促している。それ以外にも庁内研修もあり、一般の外部研修も行われている。4年目以降の職員は自由に外部研修を受けることができ、必ず1人に1回は研修を受講するように促している。最近人気のある研修は、特別支援教育に関する専門研修である。発達に課題がある子どもが増えてきている現状を見据え、適切な支援ができるようにしている。

館長はアンテナを張って職員の日常に注意を払い、課題を未然に防いでいる

毎月の勤怠管理で労務を把握し、毎年の健康診断とストレスチェックも実施している。産業医との面談も行っており、メンタルヘルスのサポートも十分に行われているため、休職に至るようなことは起きていない。職員個々人の意向や目標申告を出してもらい、館長と個別の面談を行い、業績把握と課題、次年度の目標が話し合われている。館長は職員の日常の動きについても目配りし、注意を払って意識を見ており、良い点を見つけ出して称賛の言葉を職員にかけている。また、係会など日々のミーティング時間を使って情報共有や事例検討などを行っている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

安全・安心で、子どもたちが通うことが楽しいと思える学童クラブ運営を行っていく。
 ①コロナ禍を経て、異年齢交流やイベントを積極的に行い、より楽しい日常運営を行っていく。
 ②子どもが、学童クラブ運営に主体的に関わるような仕組みを考え、「子どもとともに作る学童クラブ」を目指す。

【理由・背景】

子どもたちの放課後に三間(時間、空間、仲間)が失われたと言われ随分経つが、その後コロナ禍でさまざまなことが制限された子どもたちが学齢期になっており、放課後の多くの時間を過ごす学童クラブの役割は大きい。第2の家庭としての役割のほかに、異年齢集団の中で社会性を身につけられる場として学童クラブがある。子どもたちが、楽しい気持ちで安全安心を担保に自分たちが表現できる場がより求められている。

【取り組み】

・班活動の中で異年齢交流が日常的に行われ縦横のつながりを強化する。
 ・誕生会では司会やポスター作りなど、子どもが主体的に関わるようにする。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</p> <p><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</p> <p><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</p>
<p>取り組みの検証</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</p> <p><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</p> <p><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p>
<p>検証結果の反映</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</p> <p><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</p> <p><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p>

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

【取り組みの結果】

・班活動の中で異年齢交流が充実し、縦横のつながりが増え、子ども同士の新たな交流が生まれた。
 ・誕生会で司会やポスター作りなど、子どもが主体的に関わる姿が多く見られ、やっもら誕生会から「自分たちが作る誕生会」に意識が変化してきた。

【振り返り(検証)・今後の方向性】

・コロナ前のような縦横のつながりのある学童クラブ事業の運営が出来るようになり、班活動を行ったことで縦のつながりが希薄だった部分が、関わりが持てるようになった。イベントについても、誕生会は自分たちが司会をしたり、ポスターを描いたり、ゲームを考えたりできるようになり、楽しみにする子どもが増えた。
 ・上級生の力を運営に生かせるように、発言の機会として班長会議を毎月実施した。班長会議での意見を取り入れ、集団遊びの時間を毎月設定した。また、子どもたちの多様な遊びを取り入れるために、今まで実施していなかった外遊びを取り入れた。

以上のことから、子どもたちの自発性が育まれ、子どもとともに作る学童クラブになっていると評価できる。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

・保護者にとっても身近な相談機関として学童クラブを利用してもらう。
・システムを利用し、保護者との情報連絡を円滑に行っていく。また、連絡帳や電話、個人面談やお迎え時などに、積極的に子どもの様子を伝えていく。

【取り組み】

・入退室システムが導入されたばかりで、保護者が利用方法を理解できていない部分も多いが、電話連絡時等に使用方法の丁寧な説明をしている。
・全学年の保護者との個人面談を実施する。
・小学校学級担任と情報交換の時間を設ける。また、気になることは細やかな情報共有を行う。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った<input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった<input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った<input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた<input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

【取り組みの結果】

・お便りや直接お迎えの際などに、システムの利用方法について説明してきた。また、長期休暇前には電話連絡をするなど丁寧な説明を行ったことで、入力率もあがりアプリ入力 の定着化につながった。
・全学年の保護者との個人面談を実施したことで、保護者とたくさんの情報共有をすることが出来た。
・小学校とも情報共有したことで、学校の先生が学童クラブの様子を見に来てくれたり、小学校の情報を先生から直接電話連絡をもらったり、学校と細やかな情報共有が出来るようになった。

【振り返り(検証)・今後の方向性】

個人面談や電話対応、お迎え時の声かけ等、保護者一人ひとりとの関係を大切にしてきたことで様々な相談を受けるようになった。学校生活がうまくいっていないことや、生活面の心配など、学校との連携も強化することができ、小学校の職員が学童クラブの様子を見に来たり、学校の様子を教えてもらうことで、より丁寧に保護者に情報共有が出来ている。出欠管理についても保護者に直接やり方を説明したり、保護者会で周知することで入力も安定し、出欠確認の連絡も少なくなった。

以上、目標は概ね達成できたと評価できる。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー1の講評		
<p>各種の媒体によって、利用を希望する子どもや保護者へ情報を提供している</p> <p>子どもや保護者が必要な情報を適切に入手できるよう、多様な手段を用いて提供している。区のホームページをはじめ、クラブだよりや各種お知らせ、アプリ「でんしょぼと」に登録してもらい、情報を配信している。また、子どもが作成したイベントのポスターを館内に掲示する、館内の各表示にはルビをふる、イラストを添える、などの工夫により子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容を分かりやすいものになっている。なお、事業所では、通所している子どもや保護者の「ロコミ」による情報が多いことを認識している。</p> <p>保護者からの問い合わせや見学の要望に対しては丁寧な対応を心がけている</p> <p>利用を希望する保護者や子どもの館内見学、個別の電話問い合わせなどは随時受け付けている。特に、転入などで期中の受け入れにも対応しており、都度見学なども受け付けている。また、新入会希望者には面談を実施し、状況を把握することで、個々のニーズに応じた対応に努めている。入会決定後は、新入会説明会においてガイドブックを用いた説明が行われ、杉並区で定められた書類と同じ表記を用いることで、保護者にとって分かりやすい内容となるよう工夫している。</p>		

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	8/8
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受け入れに向けた配慮及び環境整備を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>新入会説明会を開催して運営内容を丁寧に理解を促している 入会時には必ず面談を行っており、学童クラブ入会案内、新入会書類などを用いて個別に説明する機会を設けている。その際には、延長利用、保護者会、個別面談などの説明も丁寧に言い、理解を促している。また、新入会説明会では子どもや保護者の意向や要望を聞き取り、記録している。さらに、年度当初の職員打ち合わせでは、新たに受け入れる子どもや継続する子どもなどの情報を共有して適切な支援や援助ができるようにしている。アプリを通じて持ち物や預かりの時間などを連絡することで、忙しい保護者にも伝わる工夫をしている。</p> <p>利用開始時の不安やストレスの軽減に力を入れている 利用開始直後には、友達関係を考慮して班編成を行ったり、保護者との密な情報交換を心がけるなど、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している。さらに、入会時の面談では、保育園や幼稚園などでの生活の聞き取りを行い、遊びなどを取り入れるなど、利用前の生活を踏まえた支援に努めている。また、発達面で特に配慮が必要な子どもの受け入れには、保育園での様子の見学、関係機関からの情報や面談での保護者からの聞き取りをベースに、支援児の担当職員を割り振って丁寧な見守りに取り組んでいる。</p> <p>退会後の生活の継続性を意識した取り組みがなされている 区として学童クラブは1年生から3年生を中心に実施しており、4年生以降は児童館への直接来館や放課後等居場所事業などの様々な放課後の過ごし方の紹介をしている。退会時を見据えて、それら各事業の案内などを行い、退所手続きの際に、退所後に利用可能な制度の説明を行い支援の継続性に配慮している。居場所事業との交流を開始し、外遊びの機会を増やすことで、子どもが自立して過ごせるよう支援している。</p>			

サブカテゴリー3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

10/10

評価項目1

子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している

評点(0000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー3の講評

育成支援の目標や計画について保護者会や個人面談を行い理解を促している

育成支援計画(学童クラブ運営計画)は、年度末に子どもの実情に合わせて目標を立て、年間計画を作成している。また、月間計画への落とし込みを行っており、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しに取り組んでいる。発達面で特に配慮が必要な子どもに対しては、年度初めに育成計画を作成し支援につなげているが、年度途中で巡回指導や事業所支援訪問を受けて計画の改善(改良)にも取り組んでいる。育成支援の目標や計画について保護者会や個人面談を行い、理解を促している。

子ども一人ひとりに関する必要な情報は、ケガやトラブルも含めて詳しく把握している

子ども一人ひとりに関する必要な情報は、打ち合わせノートや学童クラブ日誌などを通じて、その日の子どもたちの様子、ケガやトラブル等を詳しく把握している。学童クラブ運営計画に沿った援助・支援がなされているかについて具体的に記録し、振り返られるようにしている。さらに、発達面で特に配慮が必要な子どもについては、一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を打ち合わせノートや学童クラブ日誌に具体的に記録して職員間で共有できるようにするほか、面談を2回行い、丁寧に情報交換をすることで子どもの理解を深めている。

計画の内容や記録は、全職員で共有し、活用出来るようにしている

育成支援計画を全職員に配付し、内容を係会で読み合わせるなどにより、育成支援の計画の内容や記録を職員すべてが共有し、活用できるようにしている。また、毎日全体での打ち合わせやクラブ会を行い、打ち合わせノートや学童クラブ日誌、クラブ打ち合わせノートなどをもとに全職員が情報共有に取り組んでいる。打ち合わせの際には、気になる子どもの事例を出し合い、検討する時間を毎日とり記録に残すことで、全ての職員が同じように対応できるようにしている。一方で、利用開始直後に保護者としてしっかり面談する機会を設けることが課題だとしている。

サブカテゴリー5

5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5

評価項目1

子どものプライバシー保護を徹底している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー5の講評

子どもを尊重するために、一人ひとりを認めるよう心がけて対応している

入会面談の際には、学校・保育園・幼稚園などの情報共有について確認をしている。さらに、子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者から同意を得て同意書も交わしている。悩み相談、注意・指導は、個別にほかの子どもいないところで行うなど、子どものプライバシーに配慮して援助することになっている。さらに、子ども一人ひとりを尊重するために、さまざまな個性や特性に寄り添い、注意や否定をすることなく、子どもを尊重するために、一人ひとりを認めるよう心がけて対応している。

子ども一人ひとりの意見を把握する機会を増やしていくことを目指している

保護者から聞き取った情報を職員間で共有し、子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助に努めている。日々の支援では、子どもの様子を観察し、気になる行動が見られた場合は、毎日のミーティングで情報共有を行い、職員全体で見守る体制を整えている。また、子どもが自分の意見を話しやすいよう2者面談を実施し、子ども自身が悩みや相談を打ち明けられる関係づくりに取り組んでいる。さらに、さまざまな種類の子どもの会議を定期的実施するなどにより、子ども一人ひとりの意見を把握する機会を増やしていくことを目指している。

子どもや保護者に「子どもの権利」の理解を深める機会を充実させることを目指している

学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめなどが行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底しており、小さなことでも子どもの訴えを聞き取り、相手と話し合い、解決し、保護者や、学校にも情報を共有している。毎月発行のお便りに子どもの権利について掲載しており、いじめの芽を摘むために、少しでもいじめにつながるようなトラブルがあった際は学校や保護者と連携を取り、丁寧な対応を行い、子どもや保護者に「子どもの権利」について理解を深められるような機会を充実させることを目指している。

サブカテゴリー6

6 事業所業務の標準化

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(00)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映している	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー6の講評

各種のマニュアルを設け業務標準化に取り組んでいる

学童クラブを運営するうえで必要なさまざまなマニュアルを作成し、アルバイトや非常勤職員など誰が担当になっても職務にあたるようにしている。問題が起こった際には、すぐに見直し・実践を行うようにしており、職務確認事項、昼食対応マニュアル、担当マニュアルなどのマニュアルを作成し、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順などを明確にして全職員に配付している。不都合や、疑問点があった際にはその都度話し合いを行い、より良いやり方となるよう工夫することにも取り組んでいる。

各種マニュアルを整備し、適切に活用できる体制を整えている

学童クラブでは、法人で作成された各種マニュアルに基づいてサービスを提供するとともに、学童クラブ独自のマニュアルを作成し、遊戯室や工作室、音楽室などのルールを明確化することで、統一した支援を行っている。また、マニュアルは事務室の書庫に配置し、職員がすぐに確認できる体制を整えている。さらに、事故やケガの防止に向けた対策や、発生時の対応に関するマニュアルを整備し、訓練や研修を実施することで、職員の対応力を高め、安全管理を強化している。これらの取り組みにより、子どもが安心して過ごせる環境づくりが推進されている。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
		29 / 29	
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>日常的な情報共有と記録を通して子どもの理解を深めながら援助につなげている</p> <p>午前・午後に行われるミーティングでは、学童全体の予定や行事確認に加え、前日の子どもの様子や気になる行動、職員間で共有しておきたい内容などを確認している。短時間ながら継続的に実施されており、日常の小さな変化も共有できる場として機能している。内容は打ち合わせノートやクラブ日誌に記録され、職員間の引き継ぎや対応の統一に活用している。日常の関わりの中で見えてきた課題を個別の支援へとつなげ、職員全体で子どもを理解しながら援助を行う取り組みが続けられている。</p> <p>異年齢での生活や活動を通して互いを意識できる関係づくりを行っている</p> <p>異年齢で関わる機会を意識的に取り入れており、おやつや班編成や遊戯室での活動などを通して、学年を越えた関係が自然に生まれるようになっている。班は半年ごとに見直しを行い、入会当初は同じ保育園出身の子ども同士など安心できる関係に配慮しながら、夏以降には関係の広がりを意識した再編を行うなど段階的に調整している。3階の自由遊びの空間や2階遊戯室の活動では、上級生と下級生が同じ場で過ごすことにより、関わり方や距離感を学ぶ機会となっており、子ども同士の関係が豊かになるよう日常的に援助している。</p> <p>子どもの気持ちを受け止めながらトラブル時の関わりと配慮を行っている</p> <p>子ども同士のトラブルが起きた際には、双方の話を聞きながら気持ちを整理できるようにしており、感情が高ぶった状態のまま結論を急がず、子ども自身がどうしたいのかを言葉にできるように関わる姿勢を大切にしている。下級生への言葉遣いや態度、ボールの強さなどにも職員が目を配り、複数職員で見守る体制を取っている。障害や発達面で配慮が必要な子どもについても、職員が手をつなぐ、見守る、分かりやすい言葉でルールを伝えるなど個々の状況に応じた対応を行い、他児との関わりの中で安心して過ごせるよう配慮している。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p>子どもの発達段階や当日の状況に応じて遊びの環境を調整している</p> <p>遊戯室利用の時間割を掲示し、帰館した学年の状況やその日の人数を見ながら使用する順番や遊び方を調整している。子どもの希望も確認しながら遊びを決め、活動内容を固定せず状況に応じて組み立てており、学年や体格差を踏まえた使い方をを行うことで、同じ空間でも無理なく関われるよう配慮している。来館利用の子どもも多く、水曜日には中高生まで利用できる時間を設けている。以前利用していた子どもが継続して関わる場にもなっており、年齢の異なる子どもが同じ場所で過ごす機会を日常の中でつづけている。</p> <p>子どもの興味や過ごし方に合わせて活動の選択肢を用意している</p> <p>自由遊びの場面では、ブロックなどの構成遊び、人形やままごと、カードゲームなど複数の玩具を用意し、子どもが自分の好きな活動を選んで過ごせるようにしている。3階では本や漫画を読んだり宿題をする子どももあり、落ち着いて過ごしたい子どもにも対応できる環境を整えている。1年生は宿題に取り組む姿も見られ、生活の流れの中で自然に学習へ向かえるよう援助している。16時からの子供館イベントに参加する際には事前に声をかけ、子どもが見通しを持って行動できるようにしている。</p> <p>日常の生活場面を通して集団生活に必要な習慣や行動を身につけられるようにしている</p> <p>日常の生活ではハンカチの持参を促し、必要に応じて貸しタオルを用意するなど衛生面への配慮を行っている。汗をかいた際の着替えや咳が見られる場合のマスクの使用など、子どもの体調に応じた声かけも行っている。机拭きや片付けなどは子ども自身が手伝えるよう促し、帰宅前にはロッカーの確認や持ち物への記名についても継続して伝えている。遊びに入りたい様子を見ている子どもには職員が声をかけ、無理のない形で遊びに参加できるよう援助している。日常の生活と遊びの中で、子どもが安心して集団の中に入れるよう関わりを続けている。</p>			

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当	
評価項目3の講評			
<p>子どもが参加しやすい行事を取り入れ日常の活動に変化を持たせている</p> <p>子どもが関心を持って参加できるよう、進級お祝い会や誕生日会など学年や成長の節目を意識した内容を取り入れている。4月の進級お祝い会では上級生がプレゼントを用意し、学年を越えた関わりが生まれる場としている。誕生日会では食べたいおやつを事前に聞き取り、子どもの希望を取り入れながら内容を決めている。行事の中では前に出て自分の好きなことや将来なりたいものを紹介する場面も設け、子どもが自分のことを伝える経験につなげている。上級生が司会を担当するなど、子どもが役割を持って関わることで行事への意欲につながるようにしている。</p> <p>子どもの意見を取り入れながら行事や活動を組み立てている</p> <p>班長会議や帰りの会などを活用し、子どもが意見を出せる機会を設けている。意見回収ボックスの設置もあり、発言が苦手な子どもも考えを伝えられるよう工夫しているほか、職員からも声をかけながら意見を引き出している。夏休みにはコロッケパン作りやフルーツポンチ作りなどの活動を行い、子ども同士が協力しながら取り組める内容としている。親子交流会では地域を散策したり小学校体育館で活動するなど、普段とは異なる経験の機会を設けている。商店街のイベント参加やハロウィン、クリスマス会など季節の行事も実施している。</p> <p>行事の実施にあたり保護者への情報発信と連携を行っている</p> <p>ドッジボール大会は児童館対抗の行事として年1回行われており、日頃の活動が行事につながる経験となっている。1・2年生の部と3年以上の部に分けて実施し、発達段階に応じた参加ができるよう配慮されており、大会に向けては講師を招いた講習会を行い、子どもが目標を持って取り組めるようにしている。親子交流会や地域行事への参加なども取り入れ、学童クラブ内だけでなく地域との関わりの中で行事を実施している。保護者へはおたよりや連絡帳などを通して行事の様子を伝え、理解や協力を得ながら行事を進めている。</p>			
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当	
評価項目4の講評			
<p>子どもが安心して通い続けられるよう入会時から丁寧な受け入れを行っている</p> <p>新年度当初は、1年生が安心して学童クラブの生活に入れるよう、保護者による送迎や名札の着用などを通して受け入れを行っている。環境に慣れるまでの期間は一人ひとりの様子を見ながら丁寧に対応し、離れづらい子どもには無理のない形で受け入れを進めている。入会時の面談で把握した様子と実際の生活場面に違いが見られた場合には、連絡帳などを活用して保護者に状況を伝え、家庭と情報を共有しながら対応している。入会直後は学校への迎えを行い安全面に配慮し、関わりを通して子どもの気持ちに寄り添い安心して通える環境づくりを行っている。</p> <p>生活の見通しを持てる環境を整え子どもが自分で過ごし方を選べるようにしている</p> <p>学童クラブ内にはタイムテーブルを掲示し、子どもが生活の流れを確認しながら過ごせるようにしている。活動内容は細かく固定するのではなく、遊びや読書など子ども自身がその日の過ごし方を考えられるようにしている。友達と遊ぶことを楽しみに来館する子どもや、本を読んで過ごすことが好きな子どもなど、それぞれの過ごし方が尊重されている。1年生については夏頃までは様子を見ながら関わり、環境に慣れるまでの過程を丁寧に支えている。子どもが生活の流れを理解し、自分で行動を選択できるよう日常の援助を行っている。</p> <p>子どもの意見や興味を取り入れながら室内環境を整えている</p> <p>室内環境については、掲示物や作品展示を取り入れ、子ども自身が作成したものを掲示する場を設けている。時間割や班表など生活に関わる表示は職員が整理しつつ、子どもが見て分かりやすい環境となるよう工夫している。玩具についてはリクエストを聞きながら選定し、父母会の会費による購入や寄付も活用しながら内容を見直している。学年の変化や季節の変わり目に合わせて玩具の入れ替えを行い、子どもの興味に応じた環境となるよう調整している。児童館と併設しているためイベントについても連携し、子どもが活動を選択しやすい状況をつくっている。</p>			

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>学校との情報共有を行い子どもの生活の連続性を意識した支援を行っている 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、小学校の担任と話し合いの機会を設けたり、必要に応じて電話連絡を行うなど、日常的に情報共有を行っている。子どもの様子や気になる点についてその都度確認し、学校生活と放課後の生活が途切れないよう配慮している。地域連絡会では保育園や保健センターなども情報交換を行い、地域全体で子どもを見守る関係づくりを進めている。児童館のおたよりを毎月学校へ届けるほか、防災行事など地域の大きな活動では児童館が事務局となり、学校と話し合いながら連携して取り組んでいる。</p> <p>学校生活に不安を抱える子どもについて学校と連携しながら受け入れを行っている 不登校など課題を抱える子どもについては、学校での様子を電話などで確認しながら、児童館や学童クラブでの受け入れを行っている。児童館が午前中から開館していることを活かし、子どもが安心して過ごせる居場所として利用できるよう対応している。保護者とも状況を共有し、心配な点がある場合には学校へも情報を伝えるなど、関係者間で連携を取りながら支援を進めている。子どもたちにも学童クラブで受け入れていることを伝え、安心して過ごせる場として認識できるよう配慮している。</p> <p>配慮が必要な子どもの支援について関係機関と連携しながら対応している 障害のある子どもや発達面で配慮が必要な子どもについては、学校や療育機関と情報共有を行いながら支援を進めている。支援学校の様子を確認したり、作業療法士(OT)に支援場面を見てもらう機会を設けるなど、専門職の助言を受け具体的な場面に取り入れるようにしている。装具の使用や成長に伴う支援方法の変化については保護者と共有し、子どもの状態に合わせて対応を見直している。受け入れにあたっては審査会での判断や医師の見解も踏まえ、関係機関と連携しながら安全に生活できる環境を整えている。</p>		
6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作り等に配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p>子どもが楽しみを持てるようおやつの内容や提供の仕方を工夫している 子どもが楽しみにできるよう、ホワイトボードで内容を知らせ、期待感が持てる環境づくりを行っている。冷たいものや甘いもの、塩辛いものを組み合わせるなど、味や食感に変化をつけながら内容を考えている。誕生日会では特別なおやつを用意し、子どもから食べたいものを聞き取って内容を決めるなど、希望を取り入れる機会としている。欠席しても後日食べられるよう配慮し、行事の楽しさを共有できるようにしている。夏休みには手作りおやつを取り入れたり、ゲームの景品としてお替り券を用意するなど、遊びと結びつけた楽しみも取り入れている。</p> <p>子どもの来所状況や生活リズムに合わせて提供方法を調整している 帰宅時間や活動の流れに合わせ、班ごとに分けて実施する場合と全体で行う場合を調整している。子どもの喫食量を見ながら量や内容を考え無理なく食べられるよう配慮しており、複数のおやつを組み合わせる工夫や、食べたくなるような声かけを行いながら雰囲気づくりを行っている。長期休み中は学習や自由遊び、習い事など子どもの予定が多様であるため、それぞれの生活リズムに合わせておやつ時間を設定している。おやつ時間を子ども同士や職員との会話が生まれる場として位置づけ、様子を聞いたり関係を深めたりする時間としても活用している。</p> <p>食物アレルギーの状況に応じた個別対応を行っている 食物アレルギーのある子どもについては、注文時に内容を確認し、代替のおやつを用意するなど個別に対応している。除去が難しい場合には家庭から持参してもらい、1か月分をまとめて預かるなど継続的に対応できる仕組みをつくっている。座席についてもアレルギーのある子ども同士で座る、または職員が対応しやすい位置に配置するなど、安全面への配慮を行っている。日々のおやつ記録を活用しながら状況を確認し、子どもが安心しておやつ時間を過ごせるよう環境を整えている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>日常の見守りと安全への働きかけを通して健康維持につなげている</p> <p>子どもの視診を行い、会話を通して体調や様子の変化を確認しており、複数の職員で見守りを行うことで、いつもと違う様子や小さなケガにも早く気づけるようにしている。毎月の避難訓練に加え、感染症予防に関する取り組みも取り入れ、子どもが健康や安全について考える機会を設けている。手洗いやうがい、ハンカチの持参など日常的な衛生習慣についても繰り返し伝え、病気やケガの予防につながる行動を意識できるよう援助している。遊戯室や階段などケガが起こりやすい場面では人数調整や見守りを行い、安全に過ごせる環境づくりを進めている。</p> <p>専門機関や保護者と連携しながら配慮が必要な子どもへの支援を行っている</p> <p>支援児の受け入れにあたっては児童青少年センターと調整を行い、必要な支援体制を確認しながら対応している。医療的な配慮が必要な子どもについては、巡回指導や事業所支援訪問を活用し、作業療法士(OT)からの助言を日常の支援に取り入れている。専門職の助言をもとに関わり方や見守り方法を見直し、子どもが安心して過ごせるように努めている。保護者とも日常の様子を共有しながら連携を図り、子どもの状態に応じた支援が継続できるよう取り組んでいる。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>個人面談は全員と実施することで、学校や家庭での様子を把握している</p> <p>保護者に子どもの情報を丁寧に伝えることで信頼関係を築けるようにしている。迎えの際や親子交流会などの保護者との関わりを通じて信頼関係が深まるように心がけている。さらに、学童クラブ日誌、個人記録をベースに、子どもの様子や発達の状況について、迎え時や個人面談などを通じて、保護者との共通認識が得られるように取り組んでいる。個人面談は全員と実施することで、学校や家庭での様子を把握し、クラブでの様子を伝え、子どもの1日のトータルの姿を情報共有できるようにしている。</p> <p>あまり会えない保護者との情報共有の仕組み作りが必要としている</p> <p>子どもの出欠席の確認などは、入退室アプリでの出欠確認ができるようにしている。未入力の場合はアプリや電話で連絡し、必ず出欠の確認を取って保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている。さらに、迎えの際に会える保護者とはコミュニケーションが図れるが、あまり会えない保護者との情報共有の仕組みづくりが必要としている。さらに、周りの視線を気にせず保護者とゆっくり話せるスペースの確保を課題としている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目9の講評		
<p>地域の祭りに子どもスタッフとして関わることで、地域交流に積極的に取り組んでいる</p> <p>地域の公園や小学校でのイベントを開催したり、地域のお店でおやつを購入して提供するなど地域との交流の機会を創出している。さらに、地域行事や祭りに子どもスタッフとして参加するなどの機会を設けて地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している。地域の八百屋などでおやつを購入して提供することで、子どもも意識して地域に目を向ける姿が見られるようになっている。季節のイベントに参加して、お菓子をもらう機会を通じて相手に感謝の気持ちを伝えるなど、より良い関係づくりにつながっている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル①	地域活動に積極的に子どもが参加することで、自発的に考え行動できる素養を育てている	
内容①	地域の八百屋の跡地を活用した「まちなか・コミュニティ西荻みなみ」のイベントと連携を図り、「こどもの時間」イベントがあれば参加してダンスなどを子どもたちは楽しんでいる。そのほかにも、お祭りや、西荻ふるさと盆踊りなどもあり、日常的に地域の協力者との関係を深め、継続させていきたいとして推進している。学童クラブの中では積極的に子ども会議を行い、子ども会議を通して、子どもたちの自発性を促し、活動への意見を出して企画づくりにも参加できるように配慮している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-1-1	子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している
タイトル②	関係機関と連携して学童の情報提供に取り組んでいる	
内容②	保育園の年長児童保護者会、就学時健診での案内配布・保育園の保護者会に出向き、学童クラブの説明を実施するなど、学童クラブの情報を、関係機関などにも提供している。さらに、既存の子どもと保護者に対しては事前の意向調査を行い、入会希望者には必要書類をスムーズに提供できるよう準備している。また、毎年度の入会案内の配付と説明を実施して、地域の子どもや保護者が学童クラブの情報を得ることができるよう取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-4	子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている
タイトル③	子どもの意見を取り入れながら活動や行事をつくる機会を設けている	
内容③	班長会議や日常の話し合いの場などを通して、子どもが自分の考えや希望を伝えられる機会を設けている。発言が難しい子どもについても職員が声をかけながら意見を引き出し、活動内容や行事づくりに反映できるようにしている。子どもが自分の意見が取り入れられる経験を持つことで、活動への参加意欲につながるよう配慮している。今後も意見箱の設置や子ども会議など、日常的に子どもの声を取り入れられる仕組みについて検討しながら、子どもとともに学童クラブの生活をつくっていくことを大切にしている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援することを心がけている
	内容	保護者とは迎えや電話連絡を通じてコミュニケーションを図り、各種の相談などに対応することで気持ちに寄り添うことに努めている。その際には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援することを心がけている。また、保護者会(3・5・7・10月の年4回)や親子交流会(6・12月の年2回)を実施しており、保護者同士が交流できる機会を設けている。学童クラブでは、いつでも保護者が話しやすい雰囲気づくりに努め、迎えの保護者とはその日の子どもの様子を話すなど、意識的に円滑な関係づくりに努めている。
2	タイトル	子どもの思いに寄り添いながら関係づくりを進めている
	内容	職員は日常の関わりの中で子どもの話を丁寧に聞き、言葉で思いを伝えやすい子どもだけでなく、自分の気持ちを表現しにくい子どもにも目を向けながら関わっている。新年度当初は特に子どもの変化に気づけるよう意識し、家庭との情報共有を行いながら見守りを続けている。行事や日常の活動についても子どもの思いを取り入れながら進め、子どもとの関係を大切にしながら生活をともにつくっていく取り組みを行っている。アンケートでは職員の丁寧な対応についての声が聞かれており、日頃の関わりが保護者の安心感にもつながっていることがうかがえる。
3	タイトル	学童クラブと児童館が一体型運営であり、情報共有や多様な関わり合い等、相乗効果を持って組織運営されている
	内容	児童館との一体型運営のため、学童クラブ職員のみでなく児童館職員もいることで、複数の目で多様な関わりをすることができおり、子どもや保護者が職員を選べる環境になっている。常勤職員だけでなく、非常勤職員も毎日係会を実施し、子どもの情報共有を行い、課題解決に向けて全員で取り組んでおり、これらの日々の積み重ねが、子どもにとって安心できる環境と保護者にとって利用しやすい体制につながっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	日常やイベント等、地域と関わることを意識していくことを目指している
	内容	地域団体主催のダンスや季節イベントに参加し、交流会でウォークラリーを開催し、地域のお店を拠点にして実施している。クラブの行事に地域の人の参加を呼びかけたり、地域の行事に参加するなど、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している。さらに、子育てネットワーク事業を通じて、学童クラブ担当としても意欲的に関わる必要があることを認識している。関わりが広がることで、地域に目が向き、子どもたちが交流する機会を増やすことにつながるため、日常やイベント等、地域と関わることを意識していくことを目指している。
2	タイトル	施設環境や利用人数を踏まえた安全面への配慮を継続して検討している
	内容	施設の老朽化により、椅子のささくれなど、日常生活や遊びの中でケガにつながる可能性がある箇所への対応を課題としている。また、利用人数が多い時間帯には遊び場が混雑し、子ども同士の衝突が起こりやすい状況も見られることから、安全に過ごせる環境づくりについて継続的な検討が求められている。遊び方や活動場所の使い方を工夫しながら、子どもが安心して過ごせる環境を整えていくことを課題としている。
3	タイトル	経年劣化や建物の老朽化などのハード面での課題が多く、改善が望まれる
	内容	館内の老朽化が進み、育成人数に対してトイレの数が不足しているなど、環境には複数の課題が見られている。区の予算や改修工事の順番の関係から大きな改善には時間を要しており、現場では可能な範囲で環境を整えながら対応している状況である。しかし物的環境の改善には限界があるため、必要な改修について区との調整を継続して行うことが求められる。また、入退出システムの二次元コードリーダーが1台のみであり、利用者数やユニット数に対して設備が不足している点も課題として挙げられる。

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

令和 8年 3月 31日

杉並区長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町1丁目5番地4-712

評価機関名 株式会社 ケアシステムズ

認証評価機関番号

機構 06 - 167

電話番号 03-3511-5035

代表者氏名 和田 俊一



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	久保 俊明	福祉	H1801028
	②	坂本 里香子	福祉	H1302028
	③	和田 俊一	経営	H0601057
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	和田中央学童クラブ			
事業所連絡先	〒	166-0012		
	所在地	東京都杉並区和田1丁目38番18号 和田中央児童館併設		
	TEL	03-3382-0400		
事業所代表者氏名	館長 片山 雅美			
契約日	2025年 7月 15日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025年 10月 15日			
利用者調査結果報告日	2026年 1月 31日			
自己評価の調査票配付日	2025年 10月 15日			
自己評価結果報告日	2026年 1月 31日			
訪問調査日	2026年 2月 7日			
評価合議日	2026年 2月 7日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は、調査実施日現在、当事業所を利用している全ての利用者を対象にアンケートを実施した。事業所と評価機関の連名による依頼状にアンケート用紙と返信用封筒を同封して対象者に配付、回答は評価機関に直接送付してもらった。 事業評価に際しては、事前説明を行うとともに、職員からも個々の標準項目にチェックを入れた分析シートを回収し参考とした。 第三者性の確保については、当評価機関、担当評価者と事業者との間に事実上、人事上の関係は一切存在しないことを確認し、中立公正な評価に努めた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません
- 別添の理由書により、公表には同意しません

年 月 日

事業者代表者氏名 館長 片山 雅美 印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)安全・安心に、楽しく施設や事業を利用できるよう運営を継続する。 2)利用者から信頼される施設運営になっている。 3)居場所作り基本方針を念頭に、居場所機能も担う学童クラブとして児童健全育成・家庭支援を行う。 4)子どもの思いや発案を活かす事業を推進する。 5)自分たちの過ごす場所をより良くする気持ちを育てる。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童一人ひとりに寄り添い、行動と気持ち、また家庭の状況など多面的に子どもをとらえる ・学童クラブという集団での育成の良さや意義を理解した成長支援に取り組む <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員全体で役割分担を行い、一人ひとりが責任をもって取り組む ・チームワークを大事に、サポートしあい、他職員の良さに気づき、自分のスキルアップにつなげられる。

調査対象

調査日現在、当事業所の利用登録者総数である114名を調査対象とした。回答者の年齢構成は、1年生20名、2年生16名、3年生7名であった。

調査方法

アンケートは、QRコードを付した依頼文を配付し、評価機関に直接電送してもらう方法と、アンケート用紙を事業所にて配付してもらい回答は返信用封筒にて評価機関に直接送付してもらう方法の2種類で実施した。

利用者総数

114

共通評価項目による調査対象者数

アンケート	聞き取り	計
114	0	114
43	0	43
37.7	0.0	37.7

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

利用者調査全体のコメント

回答者の属性は、「利用者本人」が34.9%、「家族と相談」が65.1%であった。
 総合的な満足度に関する調査の結果は、対象者の93.0%が「よい」または「ややよい」と回答し、「どちらともいえない」が4.7%、「ややよくない」が2.3%であり、大変高い満足度が得られている。
 項目別では、＜生活について＞に関する5設問は3設問において、大変高い満足度であった。特に「学童での生活や遊びは楽しく興味が持てるか」、「おやつ時間の楽しさ」では、83.7%の大変高い満足度が得られている。
 ＜安心・快適性＞に関する4設問は2設問において、大変高い満足度であった。特に「けが・体調不良時の対応」では、93.0%の大変高い満足度が得られている。
 ＜あなたを大切にしてくれているか＞に関する2設問は「気持ちを大切にしてくれるか」において、81.4%の大変高い満足度が得られている。
 ＜嫌なことや、してほしいことについて＞では、「困ったり、してほしいこと」は、概ねの利用者が満足とする回答を得られているが、「職員以外への相談の案内」については、さらに高い満足度が望まれる結果であった。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	36	4	0	3
「はい」が83.7%、「どちらともいえない」が9.3%、「無回答・非該当」が7.0%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「将棋。友だちとあそべる」、「いろいろなおもちゃがあって楽しい」、「同じおもちゃばかりでつまらなくなってきた」という声が聞かれた。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	33	4	2	4
「はい」が76.7%、「どちらともいえない」が9.3%、「いいえ」が4.7%、「無回答・非該当」が9.3%であり、高い満足度であった。自由意見では、「やさしい」、「聞きたい事があるのに、聞けない」という声が聞かれた。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	36	6	1	0
「はい」が83.7%、「どちらともいえない」が14.0%、「いいえ」が2.3%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「とっても楽しい」、「毎日いろいろなおかしが出てたのしい」、「なかよしの友だちと隣になれない時があるから」という声が聞かれた。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	31	3	0	9
「はい」が72.1%、「どちらともいえない」が7.0%、「無回答・非該当」が20.9%であり、高い満足度であった。自由意見では、「聞いてくれる」、「やったことないからわからない」、「聞いてくれることもあるけど、グループの人だけで聞いてくれないこともある」という声が聞かれた。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	35	3	1	4
「はい」が81.4%、「どちらともいえない」が7.0%、「いいえ」が2.3%、「無回答・非該当」が9.3%であり、大変高い満足度であった。自由意見は特になかった。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	22	13	5	3
「はい」が51.2%、「どちらともいえない」が30.2%、「いいえ」が11.6%、「無回答・非該当」が7.0%であった。自由意見では、「タイミングによる」、「ちょっとだけきかない」、「トイレがたまにきかない」という声が聞かれた。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	36	3	1	3
「はい」が83.7%、「どちらともいえない」が7.0%、「いいえ」が2.3%、「無回答・非該当」が7.0%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「とてもきちんとしている」、「名前を呼び捨てされて嫌です」という声が聞かれた。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	40	1	0	2
「はい」が93.0%、「どちらともいえない」が2.3%、「無回答・非該当」が4.7%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「私はあまりなかったことがないけれど、他の人を助けているところを見ることがあります」、「自分から言うこともあるけど、先生から言うこともある」、「なったことないからわからない」という声が聞かれた。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	29	8	2	4
「はい」が67.4%、「どちらともいえない」が18.6%、「いいえ」が4.7%、「無回答・非該当」が9.3%であった。自由意見では、「自分たちで解決してる」、「見つかっていないときもある」、「見ていない時もある」という声が聞かれた。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	35	0	2	6
「はい」が81.4%、「いいえ」が4.6%、「無回答・非該当」が14.0%であり、大変高い満足度であった。自由意見は特になかった。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	24	4	1	14
<p>「はい」が55. 8%、「どちらともいえない」が9. 3%、「いいえ」が2. 3%、「無回答・非該当」が32. 6%であった。自由意見では、「秘密を言ったことがない」、「ないからわからない」、「内緒の話をしたことがない」という声が聞かれた。</p>				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	29	3	2	9
<p>「はい」が67. 4%、「どちらともいえない」が7. 0%、「いいえ」が4. 7%、「無回答・非該当」が20. 9%であった。自由意見では、「そう思うことがない」、「ないからわからない」、「相談したことがない」という声が聞かれた。</p>				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	16	2	6	19
<p>「はい」が37. 1%、「どちらともいえない」が4. 7%、「いいえ」が14. 0%、「無回答・非該当」が44. 2%であった。自由意見では、「おぼえていない」、「しらなかった」という声が聞かれた。</p>				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている 〇非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している 〇非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える 〇非該当
	カテゴリー1の講評	
	区の理念および基本方針をもとに関係者に理念等の理解浸透を図っている 当事業所は、児童館と学童クラブを一体的に運営しており、「杉並区子どもの居場所づくり基本方針」に基づいた理念および基本方針を共有している。これらは、区の子ども家庭部経営方針や児童青少年課の組織目標と連動し、年度当初に年間目標および運営計画として明文化されている。職員に対しては、年度初めの職員会議において理念や方針が説明されている。子どもや保護者に対しては、入会時に配布される「入会のしおり」などに基本方針や育成方針を明記するとともに、入会説明会で説明を行うことで周知を図っている。 施設長は会議や面談を通じて役職員の役割と責任を明確にしている 経営層である施設長は、年度当初の職員会議において学童クラブの運営方針および年度目標を提示し、その中で自らの役割と責任についても明確に説明している。さらに、年間計画や目標シートを用いて、各職員が担うべき役割や課題を具体的に示し、個別面談を通じて職員一人ひとりの理解を深める取り組みに努めている。職員は目標申告シートを基に館長または主査と面談を実施し、業務の方向性や自己の役割について確認している。また、日々の打ち合わせや終業時の振り返りの中でも、計画の進捗確認と併せて役割意識の共有が図られている。 意思決定および重要事項については、定められた手順で関係者に伝えている 意思決定については、区および所管課が定める学童クラブ運営指針に基づき実施されている。館長会議における決定事項は、職員会議を通じて常勤職員へ共有され、その後、会計年度任用職員や短時間勤務職員にも伝達される体制となっている。現場レベルでの意思決定については、担当者間での協議を経たうえで施設長と意見交換を行い、最終的な判断がなされている。保護者に対しては、「おたより」や電子連絡ツール(安心でんしよばと)、保護者会など複数の手段を活用して情報提供が行われている。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>多様な方法で情報収集して共有・検討し、事業運営上の課題を抽出している</p> <p>学童クラブを取り巻く環境については、多様な方法により情報収集が行われている。保護者の意向はアンケートや保護者会を通じて把握し、職員の意向については定例会や日常の打ち合わせにより共有されている。地域の福祉ニーズについては、町会や子育てネットワーク会議への参加を通じて情報を収集している。また、業界動向については区の部課長会議や館長会議において把握されている。経営状況は月間事業報告により確認し、これらの情報を基に職員会議などで課題の抽出と検討が行われている。</p> <p>区の基本方針や各種福祉計画に基づいて単年度計画を作成している</p> <p>中長期計画については、区の基本方針や保健福祉計画、施設マネジメント計画に基づき、単年度計画は、担当職員が年間目標の案を作成し、所管課の承認を経て決定される仕組みとなっている。計画内容は「杉並区子どもの居場所づくり基本方針」に基づいており、理念との整合性が図られている。また、重点目標については具体的な成果や実施事項が明示されており、係ごとの目標シートにおいて目標水準や期日、評価方法が設定されている。予算についても、区および部・課の方針を踏まえ、児童数に応じた編成が行われている。</p> <p>日常的な業務管理および会議を通して計画の進捗管理と必要な改善を行っている</p> <p>計画の実行にあたっては、年間計画に基づき各事業・活動ごとに具体的な計画表が作成され、進捗状況や達成度の把握が行われている。日常的には、毎日の打ち合わせおよび終業時の振り返り、週1回の定例会を通じて進捗確認と課題整理が実施されている。また、職員は自己評価を行い、期ごとに評価表を作成することで、計画の達成状況を確認している。さらに、目標申告シートを活用した個別の進捗管理も実施しており、組織全体および個人単位の両面から計画の推進が図られている。</p>		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ-3の講評

研修とともに、日常業務の中で法・規範・倫理について理解浸透を図っている

区の職員の行動規範や倫理綱領に基づき、社会人および福祉サービス従事者として遵守すべき法令や倫理について説明し、周知に努めている。職員には研修などにて理解の浸透に努めるとともに、日常業務の中で周知が図られ、終業時の振り返りにおいて業務内容の確認とともに、適切な対応が行われているかを再確認する機会が設けられている。また、人権尊重、情報管理やコンプライアンスに関する研修が毎年実施されており、全職員を対象に理解を深めている。

苦情解決および虐待防止は、区などと連携し組織的な制度・仕組みを構築している

子ども・保護者に対しては、重要事項説明書や掲示物により苦情相談の仕組みの周知に努めている。相談は電話や連絡ファイル等を通じて日常的に受け付ける体制が整備されている。虐待防止については、対応マニュアルの整備および関連資料の配布が行われており、職員への周知が図られている。疑義のある事案が発生した場合には、常勤職員への報告を徹底し、係長級を通じて関係機関と連携する仕組みとなっている。また、記録に基づく検討を行い、組織的に対応する体制が整備されている。

地域との交流機会、情報交換を行い、地域との関係づくりを強化・継続に努めている

学童クラブの活動内容については、区のホームページやパンフレットにより公表されているほか、重要事項説明書や運営規程を施設内で閲覧可能な状態で設置されている。実習生やボランティアの受け入れについては、マニュアルを整備し対応している。地域との関係構築については、子ども家庭支援センターや近隣保育園との連携や親子交流会の実施などにより体制づくりが行われている。また、小学校や地域団体と連携したネットワーク活動や会議への参加により、地域の子育て支援体制の一翼を担うことで、地域との継続的な関係づくりに努めている。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー4の講評		
<p>リスクマネジメントについては、把握から対応まで一貫した管理体制が構築されている</p> <p>リスクマネジメントについては、区および所管課の方針に基づき、各種マニュアル(危機管理マニュアル、運営マニュアル等)が整備されている。事故や緊急時の対応については、これらの指針に従い対応する体制となっている。日常的にはヒヤリハット事例の収集と要因分析が行われ、終業時の振り返りにおいて再発防止策が検討されている。感染症対策についても、学級閉鎖時の受け入れ停止など具体的な対応基準が設けられている。</p> <p>BCPを関係者へ説明・周知し、地域連携のもと総合防災訓練を実施している</p> <p>事業継続計画(BCP)については、区および所管課の規程に基づき整備されており、職員は内容を確認し、有事の役割を把握するよう努めている。子どもおよび保護者に対しても、入会時に説明および資料配付が行われている。訓練については、毎月の避難訓練や応急対応訓練が実施されているほか、地域町会や消防署と連携した合同防災訓練およびAED訓練などが実施され、災害時対応能力の向上と地域連携の強化が図られている。</p> <p>個人情報保護および文書管理については、組織的な管理体制を整えている</p> <p>情報管理については、文書管理および情報管理に関する規程が整備されており、入職時に全職員へ周知を図っている。個人情報については、施錠可能なキャビネットでの保管や、名簿使用時の点呼確認など、具体的な管理方法が実施されている。また、情報システムにおいては顔認証およびパスワード設定によりアクセス制限が設けられている。さらに、毎年コンプライアンス研修が実施され、情報管理に関する意識向上が図られている。万一の漏洩時には区の規程に基づき対応することとされており、一定の管理体制が確立されている。</p>		

5 カテゴリー5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリー5の講評

区・課が示す組織目標に基づく人材確保および人員配置が行われている

当学童クラブでは、児童館および学童クラブの一体的運営を前提とし、区の方針および児童青少年課の組織目標に基づく人材配置が行われている。必要な人材像については、「児童館・学童クラブ実習オリエンテーション」や職員向け資料において明示されており、業務内容や求められる役割の理解促進が図られている。人員配置にあたっては、「人事評価シート」を活用し、職員自身による自己評価と意向調査を踏まえ、本人の能力、課題、希望等を総合的に勘案し、個々の職員の特性を活かした配置が意識されている。

業務特性を踏まえ人材育成を図り、職員の能力向上と人材育成を進めている

区が策定したキャリアパスに基づき、職員の段階的な成長を支援する人材育成の仕組みが整備されている。児童青少年課の業務特性を踏まえ、幅広い支援力を有する人材の育成を目的として、目標申告シートを活用した目標管理制度が運用されている。各職員は年度当初に個別目標を設定し、管理職との面談を通じて達成に向けた具体的な行動計画を明確化して、課題整理を行うことで継続的な能力向上につなげている。新人職員については、育成担当者を配置し、OJTを中心とした指導体制が構築されている。

日常的なコミュニケーションと個別面談を通じて職員の意欲向上および定着を図っている

職員の意欲向上および定着を図るため、日常的なコミュニケーションと目標管理制度を組み合わせた取り組みが行われている。個別面談を通じて職員の役割認識と達成感の醸成が図られ、終業時の振り返りや定例会議を通じて業務の共有と課題の整理が行われている。職員の意見については、日常の打ち合わせや会議の場で共有され、業務改善に反映される仕組みが整えられている。健康管理面では、勤務シフトの適正管理、健康診断、ストレスチェック、ハラスメント研修の実施など、職員の心身の負担軽減に配慮した取り組みが行われている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

登録児童数が100名を超える状況にあり、子ども一人ひとりの特性や状況を把握し、安心して過ごせる環境を確保することが課題となっている。このため、子どもの個別理解を深めるとともに、自己尊重および他者尊重の視点に基づく健全育成の推進が求められている。目標として、子ども一人ひとりの性格や状況を踏まえた支援の実施、および安全・安心な環境の整備が掲げられている。具体的には、職員間での情報共有を通じた適切な関わりの実現、遊びや生活ルールの理解促進、防災意識や交通ルールの指導などが設定されている。実施事項として、日々の打ち合わせおよび終業時の振り返り、週1回の定例会議の実施、学童クラブ日誌による記録管理、保護者との個人面談の実施が行われている。また、配慮が必要な子どもの情報をホワイトボードで共有する仕組みや、帰りの会を通じた振り返りの場の設定、防災訓練の定期実施など、多面的な取り組みが行われている。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

日々の打ち合わせおよび振り返りは継続的に実施されており、子どもに関する情報共有および課題認識の統一が図られている。これにより、個々の子どもへの対応や支援方針について職員間での共通理解が形成されている。保護者との個人面談についても概ね実施されており、家庭や学校での様子の把握を通じて子ども理解の深化につなげている。一方で、定例会議については実施頻度にばらつきが生じる場合があり、体制や時間確保に課題が見られている。また、帰りの会においては発言内容の質にばらつきが見られる場面もあり、目的の再確認を通じた運用の見直しが行われている。

今後は、会議の計画的な実施と内容の充実を図るとともに、目立たない子どもへの意識的な関わりを強化する方針としている。また、ルールやマナーについて子ども自身が理解を深める機会を継続的に設けることで、安心して過ごせる環境の維持向上を図ることとしている。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

子どもの権利に関する考え方や居場所づくりの方針のもと、子どもの意見表明や主体的な参加の機会をどのように確保するかが課題となっている。このため、子どもの意向を把握し、それを活動に反映させる仕組みの構築が求められている。目標として、子どもが主体的に活動に参加できる環境の整備、遊びや学習の両面における充実した時間の提供が掲げられている。加えて、外遊びの機会の確保や、運動が得意でない子どもも含めた多様な活動機会の提供が目標とされている。実施事項として、「あそびプロジェクト」の実施や親子交流会の企画運営、外遊びの実施、子どもの発案による活動(紙芝居作成等)の支援が行われている。また、宿題や読書に取り組む時間の設定など、生活リズムを整えるための環境整備も行われている。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った<input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった<input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った<input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた<input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

「あそびプロジェクト」などの取り組みにより、子どもが自らの意見を表明し、活動として実現する経験が積み重ねられている。また、他者の意見を取り入れながら協働する機会が確保され、集団活動における関係性の構築にもつながっている。親子交流会では、子どもが主体的に進行を担うなど、役割意識の醸成が見られている。さらに、個々の子どもの得意分野を活かした活動の展開や、宿題に取り組む環境整備により、生活習慣の形成にも寄与している。一方で、活動内容や実施方法については子どもの状況に応じた柔軟な対応が求められている。今後は、子どもの主体性を尊重した活動を継続するとともに、班編成や活動内容の見直しを行いながら、より多様な参加機会の確保を図る方針としている。また、子どもとともに過ごし方を検討する取り組みを継続し、居場所としての機能の充実を図るとしてPDCAサイクルを実施している。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ-1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-1の講評		
<p>区のHPや「とうきょう福祉ナビゲーション」で情報を確認できるようになっている</p> <p>区のHPで「子ども・子育て・教育 <子どもの居場所 >学童クラブ」と検索すると、区内の学童クラブ一覧が表示され、施設の外観画像とともに、施設名、住所、電話番号などの基本情報を確認することができる。さらに、各クラブの詳細ページでは、利用可能な曜日や時間帯、休業日、最寄駅からの交通案内、地図など、保護者が利用を検討する際に役立つ具体的な情報が掲載されている。また、「とうきょう福祉ナビゲーション」においても、住所や電話番号、地図情報が掲載されており、複数の情報源から学童クラブの情報を確認することができる。</p> <p>入学直後は新しい環境に慣れるまで、安全で安心できる受け入れ体制を取っている</p> <p>入会前面談において聞き取った子どもや家庭の状況については、「生活状況調査票」に記録し、保護者には子どもの健康状況や既往歴、配慮事項などを記載する「児童台帳」や「アレルギー調査票」などを提出してもらい、個別の支援に努めている。入学式の翌日から数日間は、学童クラブ職員が小学校まで迎えに行き、子どもたちとともに学童クラブまでの通所経路を確認している。その後もしばらくの間は、学校から学童クラブまで集団下校とし、安全な移動を支援している。加えて、子どもたちが新しい環境に慣れるまでの間は、居室を分けて対応している。</p>		

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	8/8
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>保護者の不安について、職員がどのように支援しているかを共有するようにしている</p> <p>入会前の面談は保護者だけではなく、子どもも同伴で実施しており、申請書類の不備を確認しながら、子どもや家庭の様子について聞き取っている。また、入会面談では子ども本人にも質問を行い、直接会話を通じて発達の状況や理解力を把握するようにしている。聞き取りは常勤職員と書記の2名体制で行っており、子どもの引込み思案な性格への心配など、保護者の不安についても丁寧に耳を傾けている。学童クラブを利用開始後、どのように過ごし、職員がどのように支援しているかを連絡ファイルなどで保護者に共有し、信頼関係の構築に努めている。</p> <p>入会説明会では学童クラブだけでなく併設の児童館も利用できることなども説明している</p> <p>新規利用者には入会説明会を土曜日の午前中に行っているが、都合が合わない家庭に対しては、平日の17時以降にも実施するなど、柔軟な対応がなされている。説明はクラブ長と常勤職員が分担し、「入会のしおり」に沿って説明している。「入会のしおり」には、入会期間や運営日、来所・退所の流れ、学校のある日とない日のタイムスケジュール、けがや体調不良時の対応、持ち物、行事などが書かれているほか、併設の児童館についても記載があり、学童クラブと児童館の両方利用できることや、退会後の自立に向けて、違いが分かるように説明している。</p> <p>学校からの安全な移動や、子どもたちが新しい環境に慣れるための支援を行っている</p> <p>入会前面談において聞き取った子どもや家庭の状況については、「生活状況調査票」に記録し、保護者には児童の健康状況や既往歴、配慮事項などを記載する「児童台帳」や「アレルギー調査票」などを提出してもらい、これらの情報を個別の支援に活用している。入学式の翌日から数日間は、学童クラブ職員が小学校まで迎えに行き、子どもとともに学童クラブまでの通所経路を確認している。その後もしばらくの間は、学校から学童クラブまで集団下校とし、安全な移動を支援するほか、子どもたちが新しい環境に慣れるまでの間は、居室を分けて対応している。</p>			

サブカテゴリー3

3 個別状況の記録と計画策定 サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 10/10

評価項目1
子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している 評点(0000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2
子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー3の講評

年度末には全職員で振り返り、非常勤職員の意見も踏まえて次年度計画に反映させる
 年度末には運営計画の振り返りを行い、その結果を踏まえて、反省点や改善点を次年度の計画に反映させている。振り返りに際しては、全体の総括を行うとともに、非常勤職員からも意見を出してもらい、幅広い視点を取り入れている。運営計画は、子どもの尊重や安心・安全の確保などの重点目標に加え、1日のタイムスケジュール、活動ごとの方針および留意点、年間行事など、区が指定する書式に基づいて作成している。また、定期的にクラブ会議を開催し、計画の実施状況や子どもたちの様子を確認し、必要に応じて取り組みの見直しを行っている。

障害のある子どもには特別支援児育成計画を作成し学校や保護者と連携して支援している
 障害のある子どもに対しては、巡回指導による助言を取り入れながら、特別支援児育成計画を作成し、個々の特性や支援ニーズへの対応に努めている。また、子どもの様子に変化が見られたり、心配事が増えた場合には、速やかに学校の担任や保護者と情報を共有し、連携体制を強化している。今年度は、学童クラブ全体の目標を年度初めの保護者会で配付し、保護者に対して運営方針や重点事項を明確に伝えている。特別支援児育成計画については、面談などで保護者と共有することで、相互理解と協力体制の構築を図っている。

日誌や連絡ファイルの記録だけでなく、朝夕の打ち合わせで全職員が情報共有している
 学童クラブで実施した活動内容や子どもの様子については、紙の「日誌」に記録している。加えて、保護者との連絡ファイルにおけるやりとりもコピーを取り、日誌ファイルに綴じて保管している。職員はこれらの記録を確認し、子どもの状況や家庭環境について共有している。また、朝の打ち合わせや終業前の振り返りの時間を活用し、非常勤職員を含む全職員で口頭による情報共有をその日のうちに行っている。今後は紙媒体や口頭での情報共有に加え、業務の効率化および職員の負担軽減を目的として、記録システムの導入なども期待したい。

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリー5の講評			
<p>他機関からの情報収集や学童クラブ内での名前・画像の掲載可否を書面で確認している</p> <p>入会面談時には、保育園やこども発達センター、学校、医療機関などから必要に応じて情報収集を行う旨の区共通の同意書を、保護者に任意で提出してもらっている。また、クラブ独自の「お子さんの名前・写真の掲載について」により、行事の様子を館内掲示や、クラブ便り、保護者会資料への名前・画像の掲載可否を確認している。収集した個人情報クラブ内で厳正に管理し、必要な範囲で職員間で共有しながら支援に活用しているが、個人情報の内容や利用目的などについて、保護者が安心して情報を提供できるよう、さらに詳細な説明を期待したい。</p> <p>重点目標の一つに基づき、子どもが自らの意思で活動内容を選択できるよう支援している</p> <p>学童クラブ運営計画の重点目標の一つとして、「子ども一人ひとりにあった成長支援ができるよう、職員間でこまめに情報共有し、「日常の運営を工夫すること」を掲げ、これに基づき、子ども一人ひとりの意見や要望、困りごとに共感しながら、その子に寄り添ったサポートや声かけを行うよう努めている。また、おやつや帰りの会以外の時間においては、各部屋のルールを守りながら、子どもたちが自らの意思で活動内容を選択し、工作室など複数の部屋を自由に行き来できるようにし、自分に合った遊び方や過ごし方を選べる環境づくりに努めている。</p> <p>帰りの会で子どもたちが自分の思いや経験を言葉にして伝える機会を作っている</p> <p>前年度より、子どもたちの「やりたいこと」を丁寧に聞き取り、その実現に向けた環境づくりに取り組んでいる。その結果、「紙芝居を作りたい」「発表したい」といった意見が子どもたちから挙がり、紙芝居の制作を皮切りに、発表会のポスター作成や行事の担当などへと、活動の幅が広がっている。さらに、帰りの会では、一人ひとりが一日の振り返りを行い、「良かったこと」や「うれしかったこと」などを発表する時間を設けて、子どもたちが自分の思いや経験を言葉にして伝える機会とし、自己表現力や他者との関わりを育む場となっている。</p>			

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(00)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映している	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリー6の講評			
<p>業務全般の運営マニュアルのほか、より詳細な個別マニュアルが整備されている</p> <p>業務全般については、区から支給される「児童館・学童クラブ運営マニュアル」に基づき運営している。このマニュアルには、施設環境の整備・保全、健康状態の確認、ケガや事故への対応といった安全面に関する事項のほか、班活動やケンカへの対応、遊び、行事、おやつ、特別支援児童、保護者対応など、項目ごとに必要な手順や留意点が示されている。さらに、重要な分野については、「学童クラブおやつ提供マニュアル」「危機管理マニュアル」「アレルギー対応マニュアル」「虐待防止マニュアル」などの詳細な個別マニュアルが整備されている。</p> <p>マニュアルをもとに役割分担表や業務チェック表を作成し安全なクラブ運営に努めている</p> <p>業務マニュアルのほかに、クラブ独自の手順書として、クラブ運営状況報告や日誌、保護者対応、クラブだより、特別支援書類の作成、保護者会、個人面談などの役割を整理した「職員事務分担」を作成している。また、日々の流れを明確にするためのタイムテーブルを整備するとともに、工作室や音楽室、遊戯室など部屋ごとのルールを定めて掲示し、子どもがトラブルなく、安心して遊ぶことができる環境づくりを図っている。加えて、戸締りや清掃のチェック表を用いて、業務に漏れがないかを確認しながら、職員全体で安全で円滑な運営に努めている。</p> <p>学童クラブ全体でマニュアルや手順書が日常業務において活用されている</p> <p>ほとんどの職員が分からないことがあるとマニュアルを参照する習慣が身につけているが、職員が上長に質問に来た際にはマニュアルと一緒に見て確認するようにしており、マニュアルに基づく共通理解を図っている。さらに、職員会議ではマニュアルの読み合わせを実施し、内容の再確認と理解の定着に努めている。職員の自己評価において「わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している」という設問に対し、100%が「はい」と回答しており、マニュアルや手順書を日常業務において活用していることが示されている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4

サービスの実施項目

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

29 / 29

1 評価項目1

子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげることができるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目1の講評

情報共有と連携に注力し、子どもの全体的な姿を把握し援助している

入会面談時に、保護者から子どもの生活や発育状況などを聞き取り、子どもに合わせた支援を行っている。また、入会面談では子どもにも質問し、直接会話をすることで、発達面などをある程度把握している。必要に応じて、保育施設や関係機関との情報交換も行っている。縦割り班や係活動、クラブ行事などを通じて、異年齢交流を図っている。他校の子どもも多く、互いに協力し合える環境づくりをしている。年度初めは2年生以上から「一年生お世話係」を募り、縦のつながりをつくると同時に、上級生としての意識が高められるようにしている。

子ども同士が互いを尊重し合えるような関係作りに力を入れている

子ども同士互いに納得のいく解決ができるよう、日々サポートしている。けんかの際もただ謝るだけではなく、互いの気持ちの理解と次につながる支援となる声かけや方法で行っている。一人ひとりの特性に合った支援方法を職員間で話し合いながら、どの職員でも対応できるようにしているが、相性もあるのでもうまいかない時には、他の職員がサポートに入れるようチームワークで動いている。こうした取り組みにより、一人ひとりの考えを尊重し、子どもが相手の立場を考えながら話し合い、子ども同士が互いを理解し合えるような関係づくりに力を入れている。

2 評価項目2

日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2の講評

子どもが役割を持って活動できる機会の提供に力を入れている

子ども主体のイベント企画や運営を支援し、子どもが自ら考え、話し合い、意思決定を行う経験を積み、主体性や協調性を身に付けられる環境を整えている。子どもスタッフを募り、学童クラブの子どもが楽しめる企画の立案と運営を行っている。その活動の中で、子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができる環境づくりとなるよう工夫している。また、職員も一緒に楽しんでサポートできるように、心がけている。さらに、子ども一人ひとりの個性を生かした活動や遊びの提供を日常的に取り入れることを目指している。

当番活動などを通じて集団活動を提供し、協調的な育成につなげている

日常の場面においては当番活動などを通じて、自然に集団活動を楽しめる機会を提供し、協調的な育成につなげている。また、トラブルが発生した際には、必要に応じて職員も加わり、みんなで話し合うなど、子ども自身が解決策を考えられるよう援助している。集団でどのような活動ができるのかイメージしたり、興味を持てるようにするために、声かけやポスターなどを掲示して注意喚起を促している。帰りの会のゲームや司会進行を子どもたちが担うなどの機会につながり、みんなが参加できるようになっていることがうかがえる。

生活や遊びを通じて基本的な生活習慣を習得できるよう援助している

クラブでの生活が円滑に進むように基本的なルールを設定し、子どもが主体的に取り組めるようにしている。子どもの意見を尊重しながら、職員は必要に応じて助言やサポートを行い、よりよい集団生活の形成を促せるようにしている。具体的には、学習やおやつ、帰りの会などの場でサポートしたり、昼食やおやつ場において食事マナーや掃除の仕方を伝えたり、身の回りの整理整頓や集団を意識した行動ができるようになることを目指している。生活や遊びを通じて、日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう援助していることがうかがえる。

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目3の講評		
<p>集団ゲーム企画を通じて、子どもが企画・運営をする機会を設けている</p> <p>遊びプロジェクトの実施や親子交流会での集団ゲーム企画を通じて、子どもが企画・運営する機会を設けている。また、日々の係活動や帰りの会での司会なども自主的に行うことで、子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく環境の醸成に取り組んでいる。さらに、職員と子どもとの日々の関わりの中で、子どもからやりたいと提案を出す機会や、合わせて保護者にも協力を得られる関係づくりにもつながっていることがうかがえる。子どもの提案や声を拾い、実現につながるアンテナをさらに広げることを目指している。</p> <p>行事開催にあたっては家庭の協力が得られるようにしている</p> <p>行事の有無は「安心でんしょぱと」や「申込書」を通じて保護者に伝えている。また、保護者会では年間の行事予定について説明を行い、学童クラブでの活動について事前に理解を深めてもらう機会を設けている。その上で、家庭でもサポートをお願いする点を明確に伝え、協力が得られるようにしている。子どもが意欲的に行事などに取り組めるよう、準備・実施にあたって、保護者の理解や協力を得るための工夫をしていることがうかがえる。また、学童クラブ内に開催内容などを掲示し、保護者が来た際に自然と目に留まるように工夫をしている。</p>		
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもが主体的に活動できるようサポートしながら運営を工夫している</p> <p>運営や環境づくりについては、子どもの意見を積極的に取り入れ、一人ひとりの性格や特徴に応じた声かけを行うなど、安心感や自己肯定感を高められるよう配慮している。また、子どもの得意なことや好きなことが継続して取り組めるように遊びの提供をしたり、集団遊びや特別おやつ企画など普段できない運営の工夫をして、自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している。子どもの意見を取り入れ、子どもが主体的に活動できるようサポートしながら運営の工夫を行っている。活動をきっかけに、好きな遊びをとことんやる子どもの姿が見られる。</p> <p>子ども自身が時間を意識して生活できるように時間を決めて運営している</p> <p>学習時間やおやつ、帰りの会など、子ども自身が時間を意識して生活できるような体制で運営している。また、ホワイトボードに「今日の予定」を記載し子どもが確認できるようにするなど、共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している。1日のスケジュールは、学校の予定を考慮しながら策定し、子どもたちの体力面・精神面にも配慮した内容となっている。夏休みなどでは、1日を通じて活動バランスを考慮し、学習時間や自由遊びの時間を適切に配分することで、無理なく楽しく過ごせるようにしている。</p> <p>子どものニーズを把握し、要望に応じて環境の充実を図っている</p> <p>環境については帰りの会などを通じて子どもの要望を把握し、要望に応じた遊具などの充実を図っている。活動内容や状況に応じて、常設している座卓の位置を変えたり、第二育成室を活用して環境の工夫に努めている。レゴやシルバニアなど座って遊ぶスペースの確保や、パズルなど静かに集中して遊ぶスペースの確保を状況に応じて行うなど、子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している。さらに、上級生が下級生の様子にも関心を持ち、目を向けられるようにする環境づくりを目指している。</p>		

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当

評価項目5の講評

学校と密に情報共有しながら、学童クラブで安心して過ごせるようにしている
 不登校など課題を抱える子どもについては、学校と密に情報共有しながら子どもが安心して過ごせるよう、その子のペースに合った丁寧な対応に努めている。日頃より様子をよく観察し、子どもの気持ちに丁寧に応えながら不安を解消できるようにしている。学校との連携状況を把握し、子どもに対しては無理のないペースで子どもが安心して過ごせるよう、受け入れながら声をかけ、過ごし方の選択肢を増やすなど、子どもに合わせた支援に努めている。さらに、保護者からの話などで気付きや違和感があった際は、学校と共有し見守りを行うようにしている。

発達面で特に配慮が必要な子どもの援助は関係機関と連携を図って取り組んでいる
 発達面で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、教育機関、福祉関係機関、医療機関などの関係機関と連携を図って取り組んでいる。懇談会記録、巡回指導記録、特別支援児育成記録、個人面談記録、日誌、学童クラブ打ち合わせ会議録など、詳しい経過観察記録を残して、支援・援助の参考になるようにしている。なお、学校以外の関係機関との連携をより図れるようにしたり、職員の加配制度を設けて積極的に取り組み、個々の課題を解決できるようにすることを目指している。

6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当

評価項目6の講評

子どもが楽しく、落ち着いて「おやつ」をとれるようにバイキング形式を採用している
 子どもが楽しく、落ち着いて「おやつ」をとれるようにバイキング形式にし、好きなものを自分で選べるようにしている。また、縦割り班で「おやつ時間」を過ごし、他校の子どもとも交流できるよう工夫するなど、雰囲気づくりに配慮している。さらに、子どもの来所時間や夕食の時間帯などを考慮して、1年生と2年生以上の時間をずらすなど、おやつ時間を2段階に分けて実施している。基本的には「3～4種類のおやつ」を提供し、大きさや甘味、塩味、冷やしものでバランスを考慮している。子ども同士認め合いながら生活する練習の場となっている。

アレルギーや賞味期限の確認を複数の目で行い管理を徹底している
 食物アレルギー対応のおやつは具体的な内容をはじめ、名前や原材料名(成分)を提示することで、誤食がないように随時職員が確認を行い、子どもが安心しておやつを楽しめる環境を整えている。アレルギーに対しては、アレルギーに該当するものは購入しないという対応をしている。また、提供時には保存容器を使い、ほかの子どものおやつと混ざらないようにしている。提供前に複数の目で、期限やアレルギー成分の確認をしている。アレルギーや賞味期限の確認を複数の目で行い、事故がないように管理を徹底している。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>体調不良やケガの際、子どもが安心して職員に訴え、迅速な対応を定着させている</p> <p>来所時や食事、おやつ前の手洗いを徹底し、さらに運動遊びの合間に水分補給を促している。感染症流行時期には特に「でんしょぼと」において注意喚起を促し、体調の変化に気が付いた時やケガをした時にはすぐに職員に伝えるように日頃から声かけをしている。訴えがあった時は子どもの気持ちにも寄り添いながら丁寧に対応し、子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やケガを予防・防止できるよう援助している。</p> <p>医療的なケアを必要とする際の仕組みを見直すことを課題としている</p> <p>医療的なケアを必要とする際には、担当医からの指示書に基づいて対応することになっている。学校の担任や養護教諭、看護師などと情報共有し、自立も視野に入れ保護者とも相談しながら対応する流れとしており、他児も安心して過ごせるようにしている。さらに、医療的ケア児巡回記録、保護者との連絡記録、校内医療的ケア安全委員会議事録、看護師仕様書などを設けていることを踏まえ、簡素化することで子どもと向き合う時間をさらに創出したり、職員の適切な育成につながるようになることをクラブでは目指している。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者の就労状況に応じた延長利用や柔軟な出欠・退室時刻の変更に対応している</p> <p>学童クラブの通常利用時間は17時までであるが、保護者の就労状況に応じて1時間の延長利用を認めており、平日は1日あたり4、5名、土曜日は約10名が利用している。また、出欠席および退室予定時刻の変更については、前開所日17時まで、システム上で手続きが可能である。さらに、当日13時まではアプリからの連絡を受け付けており、13時以降であっても急な事情に対応するため、電話での変更依頼に柔軟に対応している。このほかに、今年度より長期休業期間において配食サービスを開始し、保護者の弁当作りの負担軽減を図っている。</p> <p>親子交流会や子ども祭りなどを通じて、保護者同士の交流や行事への協力を促している</p> <p>保護者が参加できる行事は、システム上から申し込みができるよう整備している。また、小学校体育館で実施する親子交流会には、今年は子どもと保護者を合わせて86名の参加があった。前半は子どもが企画・司会を担当したミニゲームを行い、後半には親子対抗リレーを実施した。その後、保護者会を開催し、保護者同士の情報共有の機会とした。さらに、地域や併設の児童館と共催して実施する子ども祭りでは、保護者から協力者を募り、例年、綿あめ屋のスタッフとして10名程度の保護者が参加し、当日の準備および運営に協力を得ている。</p> <p>年3回の保護者会のほか、個人面談を実施するなど、保護者との連携強化に努めている</p> <p>保護者会は年度初めに開催し、1年の運営目標や行事計画について説明を行っている。また、縦割りのグループ分けを行い、保護者の自己紹介を行ったうえで、上級生の保護者に聞きたいことや、続けてよかったと感じている点を共有するグループ懇談会を実施している。さらに、夏休み前および親子交流会後にも保護者会を開催し、保護者同士の交流の場としている。個人面談は、春に1年生および新入会の子どもの保護者全員に、秋には2年生以上の希望者を対象に実施している。加えて、必要に応じて随時個別に面談を行い、保護者との連携強化に努めている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目9の講評		
<p>併設児童館と連携し、行事参加を促し、地域とのつながりを深める取り組みを行っている 小中学校や保育園、保健センター職員、民生児童委員などが参加する地域子育てネットワーク事業においては、併設の児童館と連携し、隣接する公園で実施される盆踊りや小学生向けの子ども祭りなどの行事を子どもたちに、ポスター掲示や声かけを通じて紹介し、保護者とともに参加を促している。また、子ども祭りでは児童館と共催し、保護者や2年生以上の子どもたちが綿あめや的当てなどの出店を担当している。これにより、学童クラブ以外の地域の子どもや保護者との交流の機会が生まれ、地域とのつながりを深める取り組みにつながっている。</p> <p>併設児童館のイベントへの参加を通じて、地域の乳幼児親子との交流を図っている 近隣には児童養護施設や複数の保育園が所在しており、地域には多様な子育て関連施設が集まっている。これらに通う子どもたちが、併設児童館で開催されるクッキングや工作、犬とのふれあいなどの各種イベントに参加している。学童クラブの子どもたちも積極的に参加を促し、地域の乳幼児親子との交流を図り、異年齢・異世代との関わりが広がるよう支援している。また、ハロウィンの際には商店街の協力を得て、訪問した際に子どもたちに菓子を渡してもらうなど、地域の大人との交流を通して、子どもたちの社会性を育む機会となっている。</p> <p>児童館の交流会や町会合同防災訓練などに参加し、地域社会とのつながりを深めている 2月頃には、近隣6児童館によるドッジボール交流会が開催されており、当クラブも併設児童館と合同で参加している。この交流会は他地域の子どもとの関わりを広げる貴重な場であるとともに、競技を通してチームワークの大切さを学ぶ機会にもなっている。また、秋には町会合同防災訓練に子どもたちが参加し、地域住民とともに避難行動や消火訓練を体験し、防災意識の向上を図るとともに、地域の安全に対する理解を深めている。加えて、近隣中学校の文化祭には職員が引率し、子どもたちが見学するなど、地域社会とのつながりを深めている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-1-3	事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる
タイトル①	家庭と連携しつつ、子どもの居場所づくりに重点を置いて業務にあたっている	
内容①	<p>日常的な観察や対話を通じて子どもの様子や家庭状況の把握に努めており、個々の子どもに応じた関わりを実施する基盤が整えられている。保護者との連絡や面談を通じて情報共有が図られており、家庭と連携した支援体制が構築されている。子どもの居場所づくりに重点が置かれており、安心して過ごすことができる環境の整備が進められている。職員は子ども一人ひとりの言動や感情に着目し、丁寧な関わりを行うことを意識して業務にあたっている。職員間の情報共有が徹底されており、組織として一貫した対応が行われている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-5	子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている
タイトル②	保護者や学校と連絡を取り合い、各種の援助に反映させている	
内容②	<p>学童クラブ利用者の担任教員とは連携を図っており、気になることがあればその都度情報交換を行うことで、子ども一人ひとりの様子に合わせた支援ができるよう努めている。また、特別支援児に加え、気になる子の学校や学童クラブでの様子や家庭での状況などについても情報共有に努めている。必要に応じて連絡を取りながら、子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報共有を密に連携しながら援助している。保護者や学校と連絡を取り合い、クラブでの生活に不安を抱える子どもがいないようにしていることがうかがえる。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル③	併設児童館と連携し、卒会後も身近な居場所として継続的に関わられるよう支援している	
内容③	<p>当クラブは児童館併設という特性を生かし、連携しながら、複数の部屋で子どもたちがそれぞれの興味や気分に応じて遊び方や過ごし方を選択できる環境を整えている。また、児童館と共催で子ども祭りに出店し、地域住民との交流の機会を創出したり、近隣6児童館によるドッジボール交流会に合同で参加し、地域との関わりを広げている。また、児童館で開催される1年生歓迎会、発表会、遠足などのイベントを周知し、積極的に参加を促し、卒会後も子どもたちが児童館を居場所として利用し続けられるよう、つながりづくりに努めている。</p>	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	個別面談や連絡ファイル、電話連絡を通じて保護者との信頼関係の構築に努めている
	内容	1年生および途中入会の新入会児童の保護者に対しては、春にほぼ全員と個別面談を実施しているほか、子どもの様子については連絡ファイルを通じて日常的に共有している。さらに、ケガやトラブル、良かった点などについては、電話でこまめに連絡を行っている。このような丁寧な情報共有を積み重ね、保護者との信頼関係構築に努めている。今回の保護者アンケートでは「子どものことをよく見てくれている」という意見が複数寄せられており、クラブの総合満足度については「大変満足」「満足」を合わせて94.2%という高い評価を得ている。
2	タイトル	行事を通じて興味関心を広げ、さまざまなことに進んで取り組めるようサポートしている
	内容	クラブ行事や児童館行事への参加を都度促しており、行事を通じて興味関心を広げ、さまざまなことに進んで取り組めるようサポートしている。特に、日常の中で、子どもがやりたいと思うことをまずは職員に伝えられる雰囲気づくりに努め、実現できるようサポートすることになっている。行事などの実施にあたっては、子どもが自ら進んで取り組めるよう工夫している。子どもの声を大切に、楽しく充実した活動ができるようなイベントを企画・実施することで、目的を持って少しずつ段階を踏んで進めるような支援に力を入れている。
3	タイトル	職員間の認識共有を基盤とした組織的な支援体制が確立されている
	内容	子どもへの対応において職員間の連携体制が確立されており、一人ひとりの子どもに対する支援が組織的に行われている。日常的な打ち合わせや振り返りを通じて情報共有が図られており、課題や対応方針について職員全体で認識を統一する仕組みが機能している。また、一人の職員で対応が困難な場合には、ほかの職員が補完的に関わるなど、チームとしての対応力が発揮されている。さらに、役割分担が明確化されており、例えば身体活動に関する取り組みについては担当職員を中心に実施するなど、各職員の特性を活かした運営が行われている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	課題検討の時間確保と共有体制の強化が求められる
	内容	非常勤職員も参加している朝の打ち合わせや終業前の振り返りにおいて、情報共有を行っているものの、時間が限られているため、課題検討が不十分となり、結果として検討事項が翌日に持ち越されることがある。学童クラブとして、今後は検討のための時間を意識的に確保するとともに、話し合った内容の「見える化」を行う必要があると考えている。このため常勤職員間で課題を整理・検討したうえで非常勤職員に共有し、意見を聞く流れを検討しており、さらに、職員会議の回数を月2回に増やし、課題を早期解決できる体制の構築を目指している。
2	タイトル	配慮が必要な子どもに対しては、課題をもって支援していくことを目指している
	内容	発達面で特に配慮が必要な子どもが、同じ遊びを通じて他児との交流ができるようサポートしたり、言葉や気持ちを代弁して意思疎通ができるようにしている。成長の違いに疑問を感じた他児には障害ではなく特性として伝えており、支援児が苦手な行動などには、今頑張っている課題として伝え理解を得られるようにしている。日々の生活の見守りを中心としつつ、ほかの子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助することに努めている。なお、学校や保護者、関係機関と連絡を取り合い、課題をもって支援していく必要があることを認識している。
3	タイトル	子どもの意向把握の体系化と活動機会の充実に向けた取り組みが求められる
	内容	子どもの意向の把握については、アンケートや日常の関わりを通じて実施されているものの、より体系的に収集・分析し、事業運営に反映させる仕組みの強化が求められる。また、外遊びの機会については一定程度確保されているが、近隣公園等の地域資源の活用を含め、実施頻度や内容の充実に向けた検討も望みたい。加えて、子どもの主体的な活動については一定の成果が見られるものの、参加機会の均等化や継続的な取り組みとしての定着に向けた検討が求められる。これらの点について、既存の取り組みを踏まえた具体的な改善が期待される。

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

令和 8年 3月 31日

杉並区長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町1丁目5番地4-712

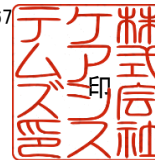
評価機関名 株式会社 ケアシステムズ

認証評価機関番号

機構 06 - 167

電話番号 03-3511-5035

代表者氏名 和田 俊一



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	伊藤 一郎	経営	H1601010
	②	坂本 里香子	福祉	H1302028
	③	和田 輝美	福祉	H1001021
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	杉七学童クラブ			
事業所連絡先	〒	166-0004		
	所在地	東京都杉並区阿佐谷南3丁目19番2号 杉並第七小学校併設		
	TEL	03-5347-0661		
事業所代表者氏名	クラブ長 横山 友香			
契約日	2025 年 7 月 15 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 10 月 15 日			
利用者調査結果報告日	2026 年 1 月 17 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 10 月 15 日			
自己評価結果報告日	2026 年 1 月 17 日			
訪問調査日	2026 年 1 月 24 日			
評価合議日	2026 年 1 月 24 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は、調査実施日現在、当事業所を利用している全ての利用者を対象にアンケートを実施した。事業所と評価機関の連名による依頼状にアンケート用紙と返信用封筒を同封して対象者に配付、回答は評価機関に直接送付してもらった。 事業評価に際しては、事前説明を行うとともに、職員からも個々の標準項目にチェックを入れた分析シートを回収し参考とした。 第三者性の確保については、当評価機関、担当評価者と事業者との間に事実上、人事上の関係は一切存在しないことを確認し、中立公正な評価に努めた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません
- 別添の理由書により、公表には同意しません

年 月 日

事業者代表者氏名 クラブ長 横山 友香 印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)あたたかな環境の中で「ほっとした気持ちになる」居場所づくり 2)信頼の繋がりのもと職員・子ども・保護者が共に育ちあう 3)職員が子どもたちの成長を理解し関わりを積極的に深めていく 4)集団を通して他児とあたたかな関わり 5)生活の場として、挨拶や思いやりを育む</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち一人ひとりに寄り添い、想いや願いを受け止め、誠実に対応する ・保護者の立場になり考え、安心できる関係性をつくる ・子どもたちに様々なことにチャレンジし、豊かでのびのびと過ごせる環境をつくる <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人理念に基づき、子どもたち・保護者へ寄り添い誠実に向き合うこと ・学童クラブの生活の中で子どもたち・保護者と共に成長していくこと ・子どもたちの発信を見逃さず、受け止める。また発信しやすいような環境・関係性をつくる

調査対象

調査日現在、当事業所の利用登録者総数である110名を調査対象とした。回答者の年齢構成は、1年生22名、2年生11名、3年生14名であった。

調査方法

アンケートは、QRコードを付した依頼文を配付し、評価機関に直接電送してもらう方法と、アンケート用紙を事業所にて配付してもらい回答は返信用封筒にて評価機関に直接送付してもらう方法の2種類で実施した。

利用者総数

110

共通評価項目による調査対象者数

アンケート	聞き取り	計
110	0	110
47	0	47
42.7	0.0	42.7

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

利用者調査全体のコメント

回答者の属性は、「利用者本人」が42.6%、「家族と相談」が51.0%、「家族が代弁」が6.4%であった。総合的な満足度に関する調査の結果は、対象者の87.2%が「よい」または「ややよい」と回答し、「どちらともいえない」が8.5%、「ややよくない」が4.3%であり、大変高い満足度が得られている。項目別では、＜生活について＞に関する5設問は3設問において、大変高い満足度であった。特に「約束ごとの説明」では、89.3%の大変高い満足度が得られている。＜安心・快適性＞に関する4設問は2設問において、大変高い満足度であった。特に「けが・体調不良時の対応」では、91.5%の大変高い満足度が得られている。＜あなたを大切にしてくれているか＞に関する2設問は1設問において、高い満足度であった。「気持ちを大切にしてくれているか」では、76.6%の高い満足度が得られている。＜不満・要望への対応＞では、「不満や要望への対応」は、概ねの利用者が満足とする回答を得られているが、「外部の苦情相談窓口の案内」については、さらに高い満足度が望まれる結果であった。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	38	7	1	1
「はい」が80.9%、「どちらともいえない」が14.9%、「いいえ」が2.1%、「無回答・非該当」が2.1%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「すごく楽しくて、いつも遊びたい気持ちでいっぱいです」、「とっても楽しいです」、「楽しい時は楽しいし、楽しくない時は楽しくない」という声が聞かれた。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	36	6	2	3
「はい」が76.6%、「どちらともいえない」が12.7%、「いいえ」が4.3%、「無回答・非該当」が6.4%であり、高い満足度であった。自由意見では、「困っていたらいろいろな意見を聞いて解決してくれます」、「時と場合による」、「話を聞いてくれない職員もいる」という声が聞かれた。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	39	5	3	0
「はい」が83.0%、「どちらともいえない」が10.6%、「いいえ」が6.4%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「お友だちとトラブルになっていた時も、きちんと対応してくれて良かったです、おいしくて楽しい時間です」、「グミがおいしいです」、「お友だちがうるさい」という声が聞かれた。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	28	9	1	9
「はい」が59.6%、「どちらともいえない」が19.1%、「いいえ」が2.2%、「無回答・非該当」が19.1%であった。自由意見では、「そんなに話し合う経験がない」という声が聞かれた。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	42	2	0	3
「はい」が89.3%、「どちらともいえない」が4.3%、「無回答・非該当」が6.4%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「わかりにくい時もあるけど、「わからない」と言ったら答えてくれる」という声が聞かれた。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	27	10	4	6
「はい」が57.4%、「どちらともいえない」が21.3%、「いいえ」が8.5%、「無回答・非該当」が12.8%であった。自由意見では、「畳の場所におもちゃが散らばっていることがある」、「落とし物が多い」、「トイレのスリッパがいつもグチャグチャになっていて気になっている」という声が聞かれた。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	38	3	1	5
「はい」が80.9%、「どちらともいえない」が6.4%、「いいえ」が2.1%、「無回答・非該当」が10.6%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「みんなかわいい」、「嫌な気持ちにはなっていない」、「たまに名前を忘れられる」という声が聞かれた。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	43	2	1	1
「はい」が91.5%、「どちらともいえない」が4.3%、「いいえ」が2.1%、「無回答・非該当」が2.1%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「伝えたら助けてくれる」、「すぐに来てくれる」、「ケガをしたり、具合が悪い時はなかった」という声が聞かれた。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	37	6	2	2
「はい」が78.6%、「どちらともいえない」が12.8%、「いいえ」が4.3%、「無回答・非該当」が4.3%であり、高い満足度であった。自由意見では、「先生たちが自分より早く気づいて対応してくれるのが良いなと思った」、「まだないからわからない」、「子どもたちが言わないと気づかない」という声が聞かれた。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	36	5	1	5
「はい」が76.6%、「どちらともいえない」10.6%、「いいえ」が2.2%、「無回答・非該当」が10.6%であり、高い満足度であった。自由意見は特になかった。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	26	3	0	18
<p>「はい」が55.3%、「どちらともいえない」が6.4%、「無回答・非該当」が38.3%であった。自由意見では、「ないしょの話などを、話したことがないからわからない」、「内緒の話が今のところない」、「職員に内緒の話をしたことがない」という声が聞かれた。</p>				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	28	7	2	10
<p>「はい」が59.6%、「どちらともいえない」が14.8%、「いいえ」が4.3%、「無回答・非該当」が21.3%であった。自由意見では、「学童では嫌なことがない」、「そんな状況になったことがないです」、「困ったりした時がないから、わからない」という声が聞かれた。</p>				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	21	3	5	18
<p>「はい」が44.7%、「どちらともいえない」が6.4%、「いいえ」が10.6%、「無回答・非該当」が38.3%であった。自由意見では、「困ってないから」、「そのようなシーンがあったかわからない」という声が聞かれた。</p>				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている 〇非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している 〇非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える 〇非該当
	カテゴリー1の講評	
	方針と判断の流れを整理し責任の所在を明確にしている 育成や運営に関する最終判断はクラブ長が担い、日常的な事案や保護者からの要望についても判断主体が明確に整理されている。重大な事故や判断を要する事案については、統括クラブ長や関係機関へ報告・相談する流れが定められており、内容に応じた判断経路が共有されている。ケガへの対応では、軽微に見える場合でも複数職員で状況を確認し、家庭への連絡を行うなど、具体的な判断基準が職員間で明文化されている。入会相談時においても、指数不足をクラブ長が説明する権限を持ち、判断の一貫性が保たれている。	
	決定事項を会議と文書で共有し職員ごとの理解の差に対応している 決定事項は職員会議や法人からのオンライン説明を通じて共有され、背景や決定過程を含めて伝える工夫が行われている。内容に応じて非常勤職員にも周知する仕組みがあり、文書や記録として残すことで情報の確認が可能となっている。身体接触に関する対応では、非常勤職員の行動に対し他職員が気づき注意を行った事例があり、理解差に直面した際の対応経験が語られている。理解確認を形式的に行う仕組みは設けていないが、実際の場面で気づきや声かけを通じて、判断や対応の方向性を揃えようとする姿勢が見られる。	
	不在時判断の基準を整理し現場での迷いを減らしている クラブ長不在時に判断を迷いやすい場面として、保護者からの相談や子ども同士のトラブル対応が挙げられており、その際は児童館やプラザの長へ相談する流れとしている。判断範囲やエスカレーションの基準は事前に共有され、常勤職員や経験を積んだ非常勤職員が理解している。下校後の対応など、実例が生じていない場面についてもルールを定めており、想定に基づいた整理が行われている。判断を個人に委ねず、組織として対応する前提をつくることで、現場での対応の揺れを抑えている。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>合同会議と年度末確認を通じて、全職員で取り組みの理解を共有している</p> <p>事業計画の進捗は、年1回の合同会議でリーダー層が集まり振り返りを行い、議事録を持ち帰って職員会議で非常勤職員も含め共有している。年度末にもクラブ内で状況を確認し、次年度計画の作成へつなげている。達成基準は数値化しにくく、子どもへの寄り添いなどは判断が主観に寄りやすいが、会議の場で取り組みを明文化し直し、職員間で理解のずれを小さくしている。重点課題として情報共有を掲げ、非常勤職員が中心となる体制でも同じ方向を見られるよう、共有範囲と伝達先を明確にし、会議の結果を現場の判断材料として運用している。</p> <p>医療的ケア児受け入れと職員補充・新制度の影響を運営課題とし職員全員へ周知している</p> <p>毎年、クラブのスローガンを職員全体で決定し、事業計画が示す方向性を常勤・非常勤共に共有の機会を設けている。医療的ケアが必要な子どもの入室に伴い、派遣看護師を配置し、支援体制と安全確保の前提条件を整理し、運営上の重要な変化として位置づけ、職員数の不足という課題についても全職員で共有し、年度途中で補充を行った経過を含めて説明している。さらに、区主導で開始されたケータリングサービスについては、支払いの流れ、安全面、アレルギー管理における役割分担を整理し、保護者が区へ直接支払う仕組みも含めて周知している。</p> <p>役割分担と引き継ぎ・共有の枠を整え計画の内容を毎日の業務に結び付けている</p> <p>計画を日々の行動へ落とし取り組みとして、役割分担を定め、特別支援が必要な子どもに関する情報共有を行っている。医療的ケア児の受け入れでも、派遣看護師の交代を見据えて引き継ぎノートを整え、看護師からの情報をクラブ長の指示で昼の打ち合わせで全職員に共有している。役割分担は示されているが、計画を行動レベルまで具体化した説明、やめた・変えた行動としての整理、見直しの循環は具体的に示されていない。日々の行動手順の統一は整理途上であり、役割以外の共通手順を整えることが望まれる。</p>		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ-3の講評

個人情報の取り扱いを規程と具体的手順で整理し管理している

個人情報や守秘義務については、法人の個人情報保護規程に基づき管理方法を整理し、採用時研修で内容を周知している。個人情報は鍵付きロッカーで保管し、利用時は声かけを行ったうえで常勤職員のみが扱う運用としている。クラブ外へ持ち出す場合は持ち出し簿に記入し、返却まで管理する手順を設けている。非常勤職員には個人情報に触れないことを明確に伝え、役割を限定している。杉並区の履行評価での確認を踏まえ、区の指示と法人規程に沿った管理を日常業務の中で徹底している。

入会時説明と日常の案内は複数資料で同意を得ながら伝えている

保護者への説明は、区の入会のしおりを基にクラブ独自の資料を整え、入会時にクラブ長が説明を行っている。1日の流れや行事内容、個人情報の取り扱いについては書面で示し、同意書を受け取っている。説明の場には児童館やプラザの館長・所長が同席し、内容を補足している。説明後の反応は、質問の有無や新1年生の入退室の様子など、日常のやり取りを通じて把握している。評価として整理する仕組みは設けていないが、個別対応の基準を持ち、必要に応じて説明を重ねている。

学校や地域と役割を分け安全を前提に継続的な調整の場を設けている

学校、児童館、プラザ、クラブ、PTA、居場所事業の関係者が参加する調整会議を毎月開催し、それぞれの役割分担を確認している。学校施設の利用や地域行事への参加、児童館での催しなどについて具体的な調整事例があり、安全を最優先にした判断が共有されている。役割分担は整理されているが、客観的な判断基準が十分ではないため、調整は会議での協議を通じて行われている。継続的な会議体を持つことで関係性を保ち、地域資源を活用しながら運営上の判断を進めている。

カテゴリ-4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>月例訓練を通じて防災対応を共有し現場課題を話し合っている</p> <p>毎月の防災訓練や防犯訓練を実施し、子どもの動きや避難時の留意点について職員間で確認するとともに、地域の広域避難場所への移動や消防と連携した訓練も行い、その内容を運営報告として整理している。医療的ケア児が在籍する状況を踏まえ、派遣看護師とともに訓練を行い、対応時の配慮点を職員間で共有している。また、訓練後には現場で気づいた課題を話題にして状況認識を揃え、実際の動きを確認することを重視している。改善点を文書化し、月例訓練を通じて、現場での対応を具体的に確認し合う取り組みが行われている。</p> <p>初動対応の役割を明確にし訓練で理解の差を調整している</p> <p>緊急時の初動対応については、法人から示されたマニュアルや危機管理マニュアルを基に役割分担を整理し、常勤・非常勤を含めて共有するとともに、防災訓練時には職員一人ひとりの動きを確認し、理解の差が見られた点を振り返りの中で調整している。初動対応の役割は明確にされており、理解差が生じることを前提として確認を重ねる運用が行われている。実際の緊急事態での対応経験は多く語られていないが、訓練を通じて役割認識を繰り返し確認し、共通理解を保つための工夫が積み重ねられている。</p> <p>医療的ケア児対応を看護師と連携し情報共有で支えている</p> <p>医療的ケア児への対応では、派遣看護師を中心とした役割分担と緊急時の判断者を明確にし、看護師が不在の場合は出席できないルールを定めることで、対応可能な体制を前提とした運営を行っている。看護師交代時にも情報が途切れないよう引き継ぎ用のノートを作成し、日常的な状況や留意点を共有している。ヒヤリハットの共有では医療的ケア児の視点も含め、昼のミーティングを通じて全職員に伝えている。クラブ長の指示の下、専門職と職員が連携しながら、日常運営上のリスクを整理して対応している。</p>		

5			カテゴリ-5	
5			職員と組織の能力向上	
			サブカテゴリ-1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			12/12	
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		<input type="radio"/> 非該当	
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当	
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		<input type="radio"/> 非該当	
			サブカテゴリ-2(5-2)	
組織力の向上に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			3/3	
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当	

カテゴリ5の講評

入職後の節目を意識し面談とメンターで不安を把握している

採用後の定着に影響する時期として入職後数年を意識し、クラブ長が年2～3回の面談を通じて将来の希望や業務上の悩みを聞き取り、リーダー層は法人管理の下で年2回の面談を行い、役割に応じた支援の場を確保している。入職時にはメンター制度を運用し、不安が見られた場合はクラブ長と連携する仕組みがある。職員のスキルに応じて、子どもと関わる業務から出欠管理等へと役割を広げ、配置に反映している。定着につながった実感は共有されているが、個別事例として整理されるまでには至っておらず、日常的な支援の積み重ねとして捉えられている。

研修の学びを共有し支援児対応の工夫を職員間で生かすよう配慮している

研修参加後は学んだ内容を職員間で共有する体制になっており、研修の知見をクラブ内の質向上につなげている。支援が必要な子どもへの関わりでは、研修で得た視点を日常の対応に反映し、子どもの笑顔が増えたことや出席日数が増えたことを共有している。エピソードの研修も区で受講し、内容を共有して対応の理解を揃えている。中止した対応やマニュアルへの反映は具体的に示していないが、振り返りの場を持ち、研修内容を現場の支援に結び付ける流れを整えている。共有を通じて職員の対応のぶれを小さくし、支援の質を揃える工夫を行っている。

関係性の変化を巡回と面談で把握し組織として調整している

職員間の関係性の変化は、日常の様子を観察し、発言や態度の変化に気づく視点を持って把握している。問題が生じた際はブロック長が巡回時に状況を確認し、クラブ長や職員と面談を行い、それぞれの言い分を聞き取る手順を定めている。早期に介入し、関係整理へつなげる流れが組織内で共有されている。個別の対立の解消を個人に任せず、役割者が関わる枠組みで扱っている点が運営上の特徴として挙げられる。杉七は良好なクラブとされ、関係性の把握と調整が日常の運営に組み込まれている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

学年が上がるにつれ、学童クラブの活動内容では物足りなさを感じる子どもが見られる状況を踏まえ、卒業後の生活を見据えた支援として、居場所事業との連携を重要課題として位置付けている。同一法人内で運営している強みを活かし、日常的に学童と居場所事業との行き来ができる環境を整えている。学童在籍のまま居場所事業の行事に参加する機会を設けるなど、子どもが年齢や興味に応じて活動の幅を広げられるようにしている。こうした連携は、子どもが環境の変化に戸惑うことなく次の居場所へ移行できることをねらいとしており、職員間でも取り組みの趣旨や対象となる子ども像を共有して進めている。地域や学校との関係についても、単独で判断するのではなく、館長や所長と相談しながら進める方針を徹底し、安全面を前提とした連携を計画している。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

居場所事業との行き来は日常的に行われており、学年が上の子どもが学童以外の活動を選択する姿が見られている。対象となる子ども像は職員間で共有され、連携そのものは継続的に行われている。一方で、取り組みの成果を子どもの変化として整理し、どのような成長や安定につながったかを明文化するまでには至っていない。学校や地域との調整についても、困難な判断事例として振り返られる具体例は挙げられておらず、判断基準や検証は館長・所長との協議の中で完結している。子どもの声を反映した取り組みとしては、意見箱や日常の関わりから要望を把握し、利用場所を時間制にするなど環境改善につなげた事例があり、昼のミーティングで共有されている。連携の枠組みは維持されており、今後は取り組みの結果を職員間で整理し、再確認することで、活動の位置付けをより明確にしていくことが望まれる。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

職員体制が不安定になる場面が生じやすいことから、欠員時にも運営が滞らない体制づくりと業務の再現性確保を重要課題としている。支援が必要な子どもを受け入れている状況を前提に、欠員が出た場合は法人内の複数クラブから応援を調整する仕組みを整えている。最優先で守る基準を明確にし、役割の穴埋めはクラブ長の判断で他職員が担うことを職員に周知している。また、退職につながりやすいサインについては、ブロック長が巡回時に表情や発言を確認し、意向調査も活用して把握する体制を設けている。業務については、1日の流れなど標準化できている部分と、保護者対応や個別対応など属人化しやすい業務について整理し、特に保護者からの情報は必ずクラブ長へ報告することをルールとしている。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った<input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった<input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った<input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた<input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

欠員が生じた際には、他クラブからの応援調整や活動内容の見直しを行い、混乱を抑えた対応が行われてきた経験が語られている。優先順位や判断の考え方は職員間で共有されており、活動調整を行った事例も複数ある。退職につながりやすいサインについては、ブロック長を中心に早期に察知し、面談や配置変更、場合によっては異動を含めた対応を行った結果、改善につながった例が挙げられている。一方で、業務標準化については、属人化している業務を認識する段階にとどまり、改善計画や見直しのルールとして整理されていない。職員が業務整理に主体的に関わる仕組みも明確ではない。欠員対応や人材確保の運用は実践されているが、再現性を高めるための文書化や整理は今後の検討事項として残されている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>法人のHPでは運営する事業のほか、理念や職員の行動指針などを見ることができる</p> <p>区のHPにて、学童クラブを検索すると、区内の一覧表を見ることができ、クラブ名や住所、電話番号などの基本情報に加え、利用時間、休業日、地図などを確認することができる。また、法人のHPでは、児童養護施設や保育園など法人が運営する事業について、サービス概要などが紹介されており、理念や職員の行動指針も公開されているほか、パンフレットのダウンロードも可能となっている。さらに、学童クラブのページには、クラブの概要説明や基本方針、利用可能日・時間のほか、外観画像とともに住所、電話番号、定員などの情報が掲載されている。</p> <p>見学時、職員が目が行き届きやすく、細やかな対応が可能であることを説明している</p> <p>見学の問い合わせを電話で受け付けており、希望者の都合に合わせて日程を調整したうえで、子どもが在室している時間帯に来所してもらい、活動の様子を見てもらっている。対応はクラブ長が行っているが、不在の場合は常勤職員が学童クラブの概要や育成方針、子どもの遊びの様子などを説明している。その際学童クラブの特徴として、施設は広くはないものの職員が目が行き届き、細やかな対応が可能であること、また子ども同士の距離が近いため仲良くなりやすく、異学年との関わりも自然に生まれ、互いにフォローし合える環境であることを伝えている。</p>		

サブカテゴリ-2

2 サービスの開始・終了時の対応

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

8/8

評価項目1

サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている

評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

評点(00000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-2の講評

入会面談では保護者と子どもから、家庭や保育園での様子などを聞き取っている

入会希望者には申請書類を提出してもらい、入会面談のために保護者と子どもに来館してもらっている。面談では、常勤職員と書記の2名で書類の不備を確認するとともに、保護者や子どもから家庭や保育園での様子などを聞き取っている。また、当クラブでの生活を安心して始められるよう、利用方法や過ごし方について丁寧に説明している。さらに、トラブルが起きた際に大人へ助けを求められるか、急に大人数や年上の子どもたちの中に入っても問題なく過ごせるかなど、子どもが新しい環境で、必要な行動が取れるかについても確認している。

日程が合わない場合には個別に日程を調整し、説明会にて必要事項の説明を行っている

入会希望者に対しては、入会条件を満たした段階で新入会説明会の案内を郵送している。また、日程が合わない場合には個別に日程を調整し、別日での参加が可能となるよう柔軟に対応している。説明会では「入会のしおり」を配付し、クラブ長がマニュアルに基づいて、入会期間や育成日・時間、学校のある日・ない日の1日の流れ、出欠席や帰宅時間の連絡方法、持ち物、費用、災害時や学級閉鎖時の対応など、必要な事項を網羅的に説明している。さらに、保護者からの質問に対しては、内容を十分に理解してもらえるよう丁寧に説明を行っている。

新入会の子どもには職員だけでなく在籍児が施設を案内するなど、温かく迎えている

新入会の子どもには、入学前に学童クラブの体験機会を設け、職員による迎え入れのほか、在籍する2・3年生が施設内を案内するなど、子ども同士の関わりを通じて安心感を醸成している。開始当初は保護者の送迎を促し、慣れに応じて一人帰りへと移行するなど、安全面への配慮も見られる。また、定員を超える申し込みがある中で、3年生を超えると退会する子どもが多く、退会後も子どもや保護者への声かけや相談対応を継続する旨を伝えるほか、在籍中から地域の居場所事業と連携した外遊びや合同イベントを通じて、円滑に移行できるよう支援している。

サブカテゴリー3

3 個別状況の記録と計画策定 サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 10/10

評価項目1
子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している 評点(0000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2
子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー3の講評

年間計画に加え、クラブのスローガンを決定し職員の一体感や方向性の共有を行っている
 学童クラブの年間計画に加え、法人全体の運営目標を踏まえて、年度初めに職員全体でスローガンを決定し、一体感や方向性の共有を行っている。今年度は子どもたちの入れ替わりが多かったことを受け、昨年度に引き続き「つなごう、みんなのいちばん星」というスローガンを掲げ、実現に向けて、職員がそれぞれ短期目標を設定し、日々の実践に落とし込んでいる。また、年間計画には「尊重と安心・安全」「子育て支援」などの項目ごとに重点目標が明示されており、1日のタイムスケジュールや活動方針、行事予定などが体系的に整理されている。

個別支援計画の作成の際は巡回指導の助言を取り入れ、日々の支援に反映させている
 障害児や配慮が必要な児童に対しては、区の定める書式に基づき、個別支援計画を作成しており、適切な支援体制を整えている。巡回指導では、具体的な助言や質問への対応を通じて支援方法を学び、計画の見直しや日々の支援に反映させている。また、日々の様子は担当職員が記録・ファイリングし、全職員で情報を共有することで、誰でも対応できる体制の構築に努めている。これらの子どもについては、個々の特性を理解し、安心して過ごせるよう配慮されており、時間帯ごとの見守りや担当外の職員によるフォローなど、柔軟な支援が図られている。

保護者会において支援計画を説明し、毎月のお知らせで翌月の予定などを共有している
 育成支援の目標や計画は、年度初めの保護者会において法人の理念やスローガン、運営方針とあわせて丁寧に説明しており、保護者の理解と協力を得るための取り組みがなされている。毎月のお知らせでは、子どもの様子や翌月の予定などを記載し、家庭との情報共有を図っている。また、子ども同士のトラブルやけが、体調不良などについては日誌や個別の児童台帳などに記載するとともに、内容に応じて電話や対面で保護者に直接伝えるなど、丁寧な対応が行われている。連絡帳は全員に配付されており、必要に応じて記入し、保護者との共有を図っている。

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリー5の講評			
<p>個人情報の内容や利用目的など、書面説明と同意の記録を取ることも求めたい</p> <p>収集する個人情報の内容や利用目的、ならびに本人の同意なく第三者へ提供しないことを明記した「プライバシーポリシー」を法人HP上で公開している。学童クラブ利用者に対しては、保育園や学校、医療機関などからの情報収集に関する「同意書」を入会面談時に任意で署名を得ているが、「入会のしおり」などには個人情報の内容や利用目的などの記載はない。また、子どもの名前や写真を館内掲示やクラブ便りなどの掲載の可否は、現状保護者会での口頭説明のみであり、今後は書面での説明と同意の記録を取ることも検討願いたい。</p> <p>遊びを選択できる環境を整え、子どもたちの興味や要望などを聞き取るようにしている</p> <p>子どもたちが自由に行動できるよう、2つのクラスを自ら移動して遊びを選択できるようにしている。また、体調が優れない子どもについては静養室で休めるように配慮し、障害のある子どもが落ち着きたいときにはパーテーションを用いて一人になれる環境を整えている。加えて、学童クラブの中で一人ひとりが輝ける場を見つけてほしいという思いから、「つなごう、みんなのいちばん星」というスローガンを掲げ、その実現に向けて、子どもたちのできることや興味、要望などを日常的に聞き取り、年間計画や行事を定期的に見直している。</p> <p>ほかの子とトラブルにならないよう相手にどのように伝えればよいかを一緒に考えている</p> <p>低学年の子どもが多いため、自分の気持ちを言葉で伝えることが難しい場面がある。そのため、相手にどのように伝えればよいかを一緒に考え、ほかの子どもとトラブルにならないよう、学童クラブでの集団活動の意味や目的をその都度丁寧に伝えるようにしている。また、利用者アンケートの「困ったり『いやだな』『してほしいな』と思ったことを伝えるとき、職員はよくなるようにしてくれますか」という設問では、「学童では嫌なことがない」「困ったりした時がない」などの記述があり、一定の評価を受けていることがうかがえる。</p>			

サブカテゴリー6

6 事業所業務の標準化

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー6の講評

マニュアルをもとに点検表などを作り、業務の実施状況を確認できるようにしている

学童クラブにおける業務マニュアルは、区が作成している「児童館・学童クラブ運営マニュアル」に加え、法人が定める「常勤の業務(事務・会議関連)」などを基礎としている。クラブでは、これらをもとに掃除、おやつ、帰りの会、誕生会など、業務ごとの詳細な手順を独自に整備している。また、学校の決まりに合わせた「校庭利用マニュアル」も作成し、学校との連携を図っている。さらに、「役割分担」や「閉め作業チェック表」「安全点検表」などを作成し、職員の誰もが日々の業務が確実に実施されているかを確認できる仕組みを整えている。

職員の自己点検のほか外部の目も入れ、運営が適正に行われているか確認している

業務がマニュアル通りに実施されているかは、常勤職員は法人で定められたチェック表を用いて年3回の自己点検を行っている。また、日常的にはクラブ長が各クラスを巡回し、業務の実施状況を確認するとともに、法人や区の職員も随時来館し、運営が適正に行われているかの確認を行っている。新任職員が入職した際には、常勤職員がマニュアルに基づき、学童クラブの役割や業務内容について説明する時間を設けている。また、マニュアル類を確認してもクラブ長のみでは判断が難しい場合には、区へ確認を行ったうえで支援にあたっている。

マニュアルの活用に向けて、さらなる活用方法の検討を願いたい

マニュアルはファイルにまとめて事務室に保管しており、職員が不明点を確認したいときにいつでも閲覧できるようになっている。しかし、今回行った職員自己評価では「わからない時や業務点検の手段として手順書等を活用している」と回答した割合は46.2%にとどまっている。これは、日常的に不明点が生じた際はクラブ長へ直接尋ねることが多いためと考えられる。今後は、相談を受けた際にマニュアルをクラブ長とともに確認したり、事故対応や感染症対応など重要な事項はマニュアルを用いた研修の実施など、さらなる活用方法の検討も願いたい。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
		29 / 29	
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>継続した記録と共有により、子ども一人ひとりの理解を深めながら援助につなげている</p> <p>入会面談では保育園での様子や家庭での状況を丁寧に聞き取り、子どもの姿を多面的に把握することを意識している。聞き取った内容に面談記録に残し、入所決定後は非常勤職員を含めて子どもの特徴や配慮点を共有し、運営開始時から共通理解を持てるようにしている。年度途中で気になる様子が見られた場合には児童台帳(2号様式)へ追記を行い、日々の変化を記録として積み重ねている。トラブルや生活場面での出来事についても記録を残し、火・木・金曜日のミーティングで確認することで、勤務形態に関わらず子どもの状況を把握できる体制を整えている。</p> <p>日常生活と遊びを通して、互いを意識した関わりが自然に生まれるよう援助している</p> <p>異年齢で構成される班活動を取り入れ、おやつ時にはテーブル拭きやごみの片付けなどを子ども同士で分担しながら生活を進めている。役割を通して年齢差のある関わりが生まれ、上級生が下級生の様子を気にかける姿につながっている。広いスペースを活用した活動では異年齢で一緒に遊ぶ機会が多く、人気のドッジボールも室内環境に合わせて布製ボールを使用し、独自のルールを設けることで安全面に配慮しながら実施している。活動の中では年齢や体格の違いを意識しながら遊ぶ姿が見られ、職員は必要に応じて声をかけながら関係づくりを支えている。</p> <p>背景の異なる子どもが同じ場で過ごせるよう、理解と連携を基盤にした援助を行っている</p> <p>外国籍の子どもや配慮が必要な子どもについては、言葉や特性への理解を職員間で共有し、日常の関わりの中で無理なく生活できるよう配慮している。子ども同士は自然に遊びの中へ入り、特別視されることなく関わりが広がっている。医療的ケアが必要な子どもについては、常勤職員や法人から派遣されている看護師が中心となり、立ち合いや保護者対応を含めて安全に過ごせる体制を整えている。敷地内の小学校からの利用児童が多い一方で他校からの利用もあるため、まず職員との信頼関係づくりを大切に、その後子ども同士の関係へとつなげている。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p>生活の流れを整えながら活動へ移行できるよう援助している</p> <p>来所した際には、まず宿題に取り組むことを声かけし、宿題がない場合は読書を促すなど、活動に入る前に気持ちを落ち着ける時間を設けている。来所直後から遊びに移るのではなく、生活の流れを意識した導入を行うことで、子どもが無理なく放課後の時間へ切り替えられるようにしている。おやつ前には遊びを一度片付け、テーブル拭きや手洗いを行うなど、生活場面の区切りを明確にしなが日常の習慣を身につけられるよう援助している。帰宅時間に合わせて帰りの会を複数回設定し、利用状況に応じて活動から次の行動へ移りやすい環境づくりを進めている。</p> <p>子どもが自分で遊びを選び主体的に活動できる環境を整えている</p> <p>立体迷路やコマ、ブロック、人形遊び、ままごとなど複数の遊びを用意し、子どもがその日の気分や関心に応じて自由に選択できるようにしている。おやつ後は校庭遊びの時間を設定し、多くの子どもが楽しみにしている外遊びを生活の中に位置付けている。帰りの会では2・3年生が司会を担当し、支援員による紙芝居の後に子どもたちが進行しながらゲームを行うなど、子どもが主体的に関わる場面を取り入れている。実施するゲームも子どもの声をもとに決めることで、自分たちで活動をつくる経験につなげている。</p> <p>季節や利用状況に応じて活動内容を調整し生活を豊かにしている</p> <p>放課後の通常利用では外遊びや自由遊びを中心にしながら、長期休みには時間を活用して製作活動などに取り組むなど、時期に応じて活動内容を工夫している。暑さで外遊びが難しい場合には、室内活動を充実させるために製作を取り入れ、子どもが集中して取り組める時間を確保している。夏季には午前中の木陰を利用してビニールプールやジョイントマットを設置し、職員が作成した水鉄砲やシャボン玉遊びなど、環境条件に合わせた遊びを工夫して実施している。また、保護者の希望に応じて終業前に学習時間を設けるなど、家庭の意向にも配慮している。</p>			

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当	
評価項目3の講評			
<p>子どもが行事に主体的に関わりながら取り組めるよう工夫している</p> <p>1年生の歓迎会では、2・3年生が手作りのプレゼントを準備するなど、上級生が役割を持って関われる機会を設けており、行事を職員が進めるだけでなく、子ども同士の関わりの中で行事が形づくられるようにしている。夏休みには風鈴づくりやキーホルダーづくりなど、一定期間を設けて全員が無理なく参加できる製作活動を取り入れ、取り組みのペースを子ども自身が調整できるよう配慮している。子どもたちがやりたいゲームやお店の内容を話し合いながら決める「わいわいらんど」など、子どもが考え、選び、役割を担う経験が積み重なるよう援助している。</p> <p>長期休みの期間では日常とは異なる体験の機会を設けている</p> <p>夏休みには学童クラブの近くにある大学相撲部の協力を得て、しこふみ体験を行うなど、地域とのつながりを生かした活動を毎年継続し、普段の遊びとは異なる体験を通して、子どもが新しい活動に触れる機会をつくっている。また、空き箱工作や水遊びを交互に実施するなど、活動内容に変化を持たせながら長期休みの生活が単調にならないよう工夫している。放課後居場所事業「わいわい」との合同によるスポーツ大会では、体育館を活用しリレーやドッジボールを行い、異なる集団との交流の場としており、行事を通して多くの経験を積むことができている。</p> <p>保護者と連携しながら行事の準備や実施を進めている</p> <p>行事の実施にあたっては、毎月のおたよりで予定を伝えとともに、特別なイベントについてはアプリを活用して保護者へ手伝いを呼びかけている。「わいわいらんど」では保護者が準備や運営に関わり、父母会による出店なども行われるなど、学童クラブの活動を支える関係が築かれている。兄弟姉妹で長く利用している家庭も多く、学童クラブの取り組みに対する理解が進んでいることから、行事への協力が得られやすい状況となっている。行事が地域的な広がりを持ち、子どもが安心して参加できる環境づくりにもつながっている。</p>			
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当	
評価項目4の講評			
<p>入会児が学童での生活に慣れられるよう段階的に援助している</p> <p>新学期の1年生については、入所当初は1年生のみで過ごす時間を設け、学童クラブでの生活の流れや室内の使い方、校庭利用のルールなどを丁寧に伝えている。入学式までの期間は一日育成となるため、生活リズムを整えながら安心して過ごせるよう配慮している。一日の流れや活動時間は掲示でも分かりやすく示し、子ども自身が見通しを持てるようにしている。生活の流れはおおむね1週間ほどで理解できるものの、自分のペースで過ごせるようになるまでには時間がかかることを踏まえ、夏前頃までを目安にゆるやかに支援している。</p> <p>安心して過ごせる環境を整え子どもの主体的な生活を支えている</p> <p>育成室には一人ひとりのロッカーを設置し、入室後は荷物を置いて手洗いを行うなど、生活の基本的な流れが自然に身につくようにしている。畳のスペースでは本や漫画を読んだり、それぞれが思い思いに過ごせる環境を整えているほか、室内でも体を動かして遊べる場所を確保し、子どもが過ごし方を選べるようにしている。わからないことや不安なことがあれば支援員へ伝えるよう日常的に声をかけ、安心して過ごせる関係づくりを進めている。上級生が1年生に生活のルールを伝える場面もあり、子ども同士の関わりの中で生活が成り立つよう支援している。</p> <p>放課後居場所事業との連携を通して生活の継続性を意識している</p> <p>放課後居場所事業は体育館で活動しており、同一法人が運営していることから、支援員同士が日常的に情報共有を行いながら連携している。4年生になると学童クラブから放課後居場所へ移行する子どもが多いことを踏まえ、3年生の段階から併用して利用する子どもも見られ、環境の変化に少しずつ慣れていけるよう配慮している。ドッジボールや児童館まつりなどのイベントでも双方の関わりを持つことで、活動のつながりが生まれている。学童クラブでの生活が次の居場所へと自然に移行できるよう、日常の交流や行事を通して関係づくりを進めている。</p>			

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>小学校との情報共有を継続し子どもの生活の連続性を支えている</p> <p>小学校とは毎月の調整会議を行い、子どもの様子や行事予定について情報共有を続けている。日常の中でも必要に応じて学校での出来事や学童クラブでの様子を伝え合い、子どもの生活が学校と放課後で分断されないようにしている。副校長や校長が学童クラブの運営に関心を持ち見学を行うなど、相互理解を深める関係が築かれている。1年生の下校時には門の前で子どもを迎え、予定を確認しながら安全に来所できるよう見守るなど、学校生活から学童生活への移行を丁寧に支えている。</p> <p>子どもの気持ちに寄り添いながら学校生活での出来事にも対応している</p> <p>子ども同士のトラブルについては、児童台帳への記録や一日の流れへの付箋による共有を行い、職員全体で状況を把握できるようにしている。学校でのトラブルについても情報を共有し、子どもの様子を見ながら声をかけるなど、放課後の時間の中で気持ちを整えられるよう援助している。気持ちが落ち着くまで外で一緒に過ごすなど、急いで解決を求めめるのではなく、子どもの気持ちに寄り添う関わりを大切にしている様子がうかがえる。丁寧に話を聞くことを基本とし、子ども自身が安心して思いを伝えられる関係づくりを意識している。</p> <p>関係機関と連携しながら配慮が必要な子どもの理解を深めている</p> <p>特別支援学校とは定例の会議はないものの、連絡帳を通して子どもの状況を確認し、日々の様子の把握に努めている。年度初めには支援学校を見学する機会を持ち、子どもが過ごす環境や支援の内容を理解した上で学童クラブでの関わりにつなげている。学校や関係機関から得た情報をもとに、子どもの特徴や配慮点を職員間で共有し、日常の援助に反映できるようにしている。現時点では不登校児童はいない状況であるが、日頃から関係機関とのつながりを持つことで、今後配慮が必要となる場合にも対応できる基盤を整えている。</p>		
6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p>生活の流れを整えながら落ち着いておやつを食べられるようにしている</p> <p>おやつは全学年一斉に3時半から開始し、全体で同じ時間におやつをとることで落ち着いた雰囲気をつくり、安心して過ごせる時間となるよう配慮している。それまで行っていた遊びや玩具は一度すべて片付け、手洗いを済ませて班ごとに席へ着く流れを定着させることで、活動から食事への切り替えが自然に行えるようにしている。支援員がおやつをカゴに用意し、班ごとに配付した後は子ども自身が取りに行き着席して食べるなど、日常の中で役割を持ちながら進めている。生活の流れを整えながら、おやつの時間が日々の区切りとして機能するよう援助している。</p> <p>行事や季節感を取り入れおやつの時間を楽しめるよう工夫している</p> <p>おやつの内容は3種類をバランスよく組み合わせ、日常的な楽しみとなるよう工夫している。ハロウィンや節分などの行事に合わせて特別感のある内容を取り入れるほか、月末には誕生日ウイークとしてケーキなどの誕生日おやつや誕生日カードを用意し、子どもが楽しみにできる機会としている。夏休みには卒業生や保護者の会による流しそうめんやかき氷を実施するなど、地域や保護者との関わりの中で特別なおやつ体験が生まれている。父母会によるお楽しみ会での提供もあり、行事と結びついたおやつの時間が子どもにとっての楽しみとなっている。</p> <p>アレルギーや生活時間に配慮し安全に食事ができるよう対応している</p> <p>食物アレルギーのある子どもが多いことから、チェック表を用いて一覧で把握し、毎日提供内容を支援員が確認する体制をとっている。提供時には色付きの皿を使用し、アレルギー児には最初におやつを配ることで混入防止に努めている。飲み物はジュースまたは麦茶を毎日用意し、子どもが無理なく水分を摂取できるようにしている。また、一日育成時には配食サービスや弁当による昼食をとり、食後は本読みやお絵かき、折り紙などで静かに過ごす食休み時間を設けている。食事の場面が慌ただしくならないよう安全面と生活リズムの両方を意識している。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>日常の声かけと体調観察を通して健康管理を行っている</p> <p>外遊びから戻った時やおやつ前、食事前など生活の区切りごとに手洗いの声かけを行い、日常の中で衛生習慣が身につくようにしている。支援員は日頃から子どもの様子をよく観察し、いつもと異なる様子が見られた場合には体温を測るなど早めの対応を行っており、発熱が確認された際は保護者へ連絡し、お迎えにつなげるなど安全面に配慮している。体調不良時には職員室でカーテンを開けて休める環境を確保し、落ち着いて過ごせるようにしているほか、体調面だけでなく気持ちを切り替えたい場合にも一人で休める場所として活用している。</p> <p>ケガや医療的ケアに対応できる体制を整えて安全に配慮している</p> <p>感染症への対応として消毒を行い、子どもへ注意喚起を行うほか、咳が出る場合にはマスク着用を促すなど状況に応じて対応している。ケガについては小さなものでも記録と報告を行い、外遊びでは職員が付き添いながら処置も行っている。ケガが多い時期には準備運動や声かけを行い、予防を意識した関わりも取り入れている。医療的ケアが必要な児童には看護師が必ず対応し、必要な処置を行う際には仕切りを使用してスペースを確保するなど環境面にも配慮している。送迎についてもボランティアと連携し、安全に登所・降所できる体制を整えている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>休みや時間延長などの手続きは入退室管理アプリや電話連絡により柔軟に対応している</p> <p>学童クラブの利用申請や休み、時間延長などの手続きは、入退室管理アプリを通じて当日の13時まで行えるようになっており、保護者の利便性に配慮した運用がなされている。13時以降の急な変更についても電話連絡により柔軟に対応しており、家庭の状況に応じたきめ細やかな対応で実施されている。また、保護者同士の交流の機会として、父母会共催による「親子お楽しみ会」を開催し、子どもと保護者が小学校の体育館でドッジボールなどを楽しみ、その後育成室にて保護者が焼いたフランクフルトと一緒に食べながら交流する場を設けている。</p> <p>年度初めのほか、夏休み前に保護者会を行い、直接対話による相互理解を深めている</p> <p>年度初めには保護者会を開催し、学童クラブの年間計画や危機管理体制などの説明のほか、職員紹介や保護者への依頼事項などを丁寧に説明し、保護者との信頼関係の構築に努めている。また、7月には夏休みの過ごし方や行事内容についての説明会を実施し、家庭との連携を意識した育成支援が図られている。日々の保育においても、帰宅時にその日の遊びの様子や子どもの変化などを保護者に伝えており、きめ細やかな情報共有を図っている。また、保護者会では学年別に子どもの様子を伝える時間も設け、直接対話による相互理解の機会となっている。</p> <p>連絡サイト上で各種連絡「学童クラブだより」を発信するほかアンケートを実施している</p> <p>当クラブでは、Web上の連絡サイトを活用し、学童クラブからの各種連絡を発信するほか、毎月の「学童クラブだより」にて子どもたちの様子を保護者と共有している。さらに、年1回、同サイト上で子どもと保護者を対象としたアンケートを実施し、要望や意見を把握する機会を図っている。また、新入会児は6月に、既存児童は10月に個別面談を行っているほか、保護者の希望に応じて随時面談を行っている。さまざまな取り組みにより、保護者アンケートにおける総合的な満足度は、「大変満足」「満足」を合わせて96.2%という高い評価を受けている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目9の講評		
<p>他事業所や保護者OB会と連携して定期的な行事を開催し、地域交流の場となっている</p> <p>児童館や放課後等居場所事業と共催し、毎年お祭りを開催しており、小学生とその保護者が参加できる地域行事として定着している。学童クラブからも、子どもたち自身が企画・準備したゲームを出店し、店員として運営に関わることで、主体性や協働性を育む機会となっている。また、夏休みには学校の保護者OB会と連携し、かき氷づくりや本物の竹を使った流しそうめんなど、特別な体験を提供しており、地域の大人との温かな交流が生まれている。こうした取り組みを通じて、子どもたちが学童クラブ以外の地域資源との関わりがもてるよう支援している。</p> <p>放課後等居場所事業にスムーズに移行できるよう、連携して交流の機会を作っている</p> <p>放課後等居場所事業の子どもたちと合同スポーツ大会を実施するほか、同事業で行われている「太鼓プログラム」に参加し、学校の校庭で開催される夏祭りでは太鼓演奏を披露している。また、居場所事業を利用したことがない子どもについては、年度末に訪問する機会を設け、次年度にスムーズに移行できるよう環境づくりを連携して進めている。さらに、近隣の大学相撲部を訪問し、しこやすり足などの基本動作を教えてもらう相撲体験も行っている。これらの交流活動は毎年継続して実施しており、地域との協力体制が構築されている。</p> <p>関係機関などと地域貢献について具体的に話し合う機会を拡充したいと考えている</p> <p>小学校の行事や学校主催の避難訓練を見学させてもらうなど、日常的な連携体制を構築している。さらに、運営協議会や地域ネットワーク会議においては、小学校に加え、保育園、児童館、民生委員などと情報を共有し、学童クラブの取り組みを報告することで、関係機関との協力関係の維持・強化に努めている。現在、子どもに関わる地域の機関や団体と定期的に行事を実施できる関係性が形成されている一方で、地域を知り、地域貢献について具体的に話し合う機会が十分とはいえないと感じており、今後はそのような機会を拡充したいとしている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-1-3	事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる
タイトル①	面談と連携を軸に人材定着と支援体制を整えている	
内容①	<p>入職後の定着に影響する時期を意識し、クラブ長による年2～3回の面談で、業務上の悩みや将来の希望を把握している。入職時にはメンター制度を用い、日常の相談を通じて不安を早期に拾い上げる体制を取っている。ブロック長は巡回時に職員の様子を確認し、関係性の変化が見られた場合はクラブ長と連携して面談を行う流れを共有している。医療的ケア児対応では派遣看護師との役割分担を明確にし、引き継ぎノートや昼の打ち合わせで情報を共有している。欠員時は法人内で応援調整を行い、支援体制を崩さない判断基準を職員へ示している。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-5-2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している
タイトル②	学童クラブのスローガンのもと、意見を出しやすい環境づくりに取り組んでいる	
内容②	<p>前年度に続きクラブのスローガンを「つなごう、みんなのいちばん星」とし、子どもたち一人ひとりの思いをつなげる支援を行っている。今年度は子どもたちが「やりたい」と感じたことを実現できるよう、意見を出しやすい環境づくりに取り組み、多様な経験が得られる機会の提供に努めている。また、子どもに活躍の場が広がるよう、18時の帰りの会の司会を2、3年生の希望者が担当している。希望者が多いため、職員が偏りなく順番を調整し、2、3年生はリーダーとしての経験を積み、1年生は「来年は自分もやりたい」という意欲が育っている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-5	子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている
タイトル③	小学校との連携を通して子どもの生活の連続性を意識した支援を行っている	
内容③	<p>小学校とは毎月の調整会議を継続して実施し、子どもの様子や行事予定などについて情報共有を行っている。日常の中でも必要に応じて学校での出来事や学童クラブでの様子を伝え合い、放課後の生活が学校生活と切り離されないよう意識している。学校側の理解や協力が得られていることから、気になる様子や変化についても発信しやすい関係が築かれており、子どもの状況を共通理解のもとで見守る体制につながっている。下校時の見守りや日常の情報交換を含め、学校との連携を通して子どもが安心して過ごせる放課後の環境づくりに取り組んでいる。</p>	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもたちの学習時間にミーティングを行い、子どもへの具体的な声かけや対応の仕方についても共有されている
	内容	職員の自己評価では、「職員間の関係が良好」「困ったことをすぐに相談できる」といった声が挙がっており、日常的なコミュニケーションの円滑さや情報共有のしやすさがうかがえる。運営前には打ち合わせを行い、子どもの様子や報告事項、育成に関する検討内容を共有することになっているが、学校の授業時間の都合により実施できない日もある。そのため、職員の提案により、子どもたちの学習時間を活用し、ミーティングの時間を設けている。そこでは、その日の振り返りに加え、子どもへの具体的な声かけや対応の仕方についても共有している。
2	タイトル	日常の関わりを重ねながら子どもとの信頼関係を築いている
	内容	子どもの話を丁寧に聞く姿勢を大切にし、日々の関わりの中で安心して過ごせる関係づくりに取り組んでいる。登所から帰所までの生活の中で子どもの様子をよく見ながら関わり、必要に応じて声かけや対応を行うなど、一人ひとりの状態を踏まえた援助が行われている。長く勤務している職員がいることで、子どもの成長や変化を継続的に見守ることができ、日常の小さな変化にも気づきやすい環境となっている。日常的な関わり積み重ねにより、子どもが安心して過ごし、自分の思いを伝えやすい雰囲気がつくられている様子がうかがえる。
3	タイトル	職員間の対話を基盤に判断と支援の方向性を揃えている
	内容	日常的に職員同士が話しやすい関係が築かれており、打ち合わせや振り返りを通じて小さな気づきを共有するよう努めている。育成に関する最終判断はクラブ長が担い、重大事案は統括クラブ長や関係機関へ報告する流れが整理されている。ケガへの対応や保護者対応では判断基準を明文化し、複数職員で確認する姿勢が取られている。決定事項は会議や文書で共有され、非常勤職員も含めて理解を共有する工夫が見られる。判断を個人に委ねず、組織として支援や対応の方向性を合わせる運営が行われている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	子どもからの声かけに対する対応の工夫を通じ、見通しを示す声かけや職員間での対応の統一を図ることが期待される
	内容	「どのように言葉で伝えるか」や「相手を不快にさせないためにはどうするか」といった具体的な子どもたちへの声かけや行動例を職員間で共有し、質の向上に努めている。一方、今回の利用者アンケートでは「『ちょっと待って』と言われることが多い」という意見が複数寄せられている。これは司会をしている職員に子どもが話しかけた時などの状況で生じている。今後は、「今話したい」という気持ちを受け止めつつ、「これが終わったら」など見通しを示す声かけを行うとともに、職員間で対応方法を共有し統一した環境づくりを進めることが期待される。
2	タイトル	子どもの思いを反映した行事内容の検討を進めようとしている
	内容	これまで継続してきた恒例行事や地域との関わりは、学童クラブの活動として定着しており、子どもが楽しみにする機会となっている。一方で、活動が継続する中で内容が固定化しやすい面もあることから、子どもの興味やその時々を思いをより反映できる行事のあり方について検討している。従来の取り組みを大切にしながらも、子どもが自分たちで考えたり選択したりできる要素をどのように取り入れていくかを課題として捉えている。子どもの声や活動の様子を踏まえながら、行事が子ども主体の活動として展開できるよう工夫をしていくことを意識している。
3	タイトル	面談後の対応経過を整理する仕組みづくりを課題とする
	内容	入職後数年を定着の重要な時期と捉え、面談やメンター制度を通じて職員の悩みや希望を聞き取り、配置変更や役割調整を行っているが、その判断に至った経過や対応後の変化を記録として整理する仕組みは明確ではない。例えば、業務内容を軽減した場合や担当を変更した場合に、その後どのような様子の変化があったのかを振り返る機会が限られている。面談で把握した内容がどのように運営判断につながり、その結果がどうであったかを共有する流れは十分に形づくられていないことが課題となっている。

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

令和 8年 3月 31日

杉並区長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町1丁目5番地4-712

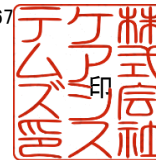
評価機関名 株式会社 ケアシテムズ

認証評価機関番号

機構 06 - 167

電話番号 03-3511-5035

代表者氏名 和田 俊一



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	井上 和男	福祉	H2001039
	②	和田 俊一	経営	H0601057
	③	和田 輝美	福祉	H1001021
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	桃一学童クラブ			
事業所連絡先	〒	167-0034		
	所在地	東京都杉並区桃井2丁目6番1号 桃井第一小学校併設		
	TEL	03-3396-8431		
事業所代表者氏名	クラブ長 土橋 巧			
契約日	2025 年 7 月 15 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 10 月 15 日			
利用者調査結果報告日	2026 年 2 月 9 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 10 月 15 日			
自己評価結果報告日	2026 年 2 月 9 日			
訪問調査日	2026 年 2 月 16 日			
評価合議日	2026 年 2 月 16 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は、調査実施日現在、当事業所を利用している全ての利用者を対象にアンケートを実施した。事業所と評価機関の連名による依頼状にアンケート用紙と返信用封筒を同封して対象者に配付、回答は評価機関に直接送付してもらった。 事業評価に際しては、事前説明を行うとともに、職員からも個々の標準項目にチェックを入れた分析シートを回収し参考とした。 第三者性確保については、当評価機関と事業者の間には特別な関係は存在せず、中立公正な立場で調査を実施した。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません
- 別添の理由書により、公表には同意しません

年 月 日

事業者代表者氏名 株式会社マミー・インターナショナル代表取締役 伊藤勝康 印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)企業理念:会社の存在意義は、マミーで働いている方々が幸せになるお手伝いをするためにある。そのことで、子ども達や関わるすべての人々を笑顔にすることが私たちの願いです。 2)企業スローガン:【Mommy,always there for you.(マミーはいつも人のためにあります。)]子どもから高齢者まで、全ての人のためにあります。 3)社員行動指針:【忘己利他(己を忘れて他を利する)】マミー・インターナショナルの社員として、自分を中心に物事を考えてまわりに望むだけでなく、自分をすててまずは自助の精神で行動します。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>人材像:常勤は、放課後支援員資格取得者。コミュニケーション能力があり、周囲や児童の状況を細やかに察知し、忘己利他の精神があること。 役割:児童の心に寄り添い、自分で考え、やりたいことが実現できるという3点を大切に、職員全員が同じ方向性を持って支援できること。児童がやりたいと言える環境があり、やりたいが実現できること、そして困った時には一緒に考える支援者であること。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>私たちの運営する施設は自治体からの委託事業であって、関わっている職員はすべて本事業の職員として、その責任と自覚を持ち、当事者意識をもって業務にあたる。</p>

調査対象

調査日現在、当事業所の利用登録者総数である95名を調査対象とした。回答者の年齢構成は、1年生16名、2年生9名、3年生2名であった。

調査方法

アンケートは、QRコードを付した依頼文を配付し、評価機関に直接電送してもらう方法と、アンケート用紙を事業所にて配付してもらい回答は返信用封筒にて評価機関に直接送付してもらう方法の2種類で実施した。

利用者総数

95

共通評価項目による調査対象者数

アンケート	聞き取り	計
95	0	95
27	0	27
28.4	0.0	28.4

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

利用者調査全体のコメント

回答者の属性は、「利用者本人」が33.3%、「家族と相談」が63.0%、「家族が代弁」が3.7%であった。総合的な満足度に関する調査の結果は、対象者の81.5%が「よい」または「ややよい」と回答し、「どちらともいえない」が11.1%、「ややよくない」が3.7%、「よくない」が3.7%であり、大変高い満足度が得られている。

項目別では、＜生活について＞に関する5設問は「学童での生活や遊びは楽しく興味が持てるか」、「約束ごとの説明」において、85.2%の大変高い満足度が得られている。

＜安心・快適性＞に関する4設問は2設問において、大変高い満足度であった。特に「けが・体調不良時の対応」では、88.9%の大変高い満足度が得られている。

＜あなたを大切にしてくれているか＞に関する2設問は「気持ちを大切にしてくれるか」において、70.4%の高い満足度が得られている。ただし「職員は秘密を守ってくれるか」については、さらに高い満足度が望まれる結果であった。

＜嫌なことや、してほしいことについて＞では「職員以外への相談の案内」については、さらに高い満足度が望まれる結果であった。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	23	1	3	0
「はい」が85.2%、「どちらともいえない」が3.7%、「いいえ」が11.1%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「本を読むのが楽しい」、「プラレールが楽しい」、「おもちゃが少ない」という声が聞かれた。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	15	3	2	7
「はい」が55.6%、「どちらともいえない」が11.1%、「いいえ」が7.4%、「無回答・非該当」が25.9%であった。自由意見では、「仕事がいそがしそう」、「あまり相談したことがない」、「特に話したいことはない」という声が聞かれた。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	19	3	4	1
「はい」が70.4%、「どちらともいえない」が11.1%、「いいえ」が14.8%、「無回答・非該当」が3.7%であり、高い満足度であった。自由意見では、「お菓子がいっぱいあるといっぱい食べたくてしまうので、元から数を決めてほしい」、「おやつ量が少ない」、「あまり好きじゃないおやつが出ると嬉しくない」という声が聞かれた。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	12	6	1	8
「はい」が44. 5%、「どちらともいえない」が22. 2%、「いいえ」が3. 7%、「無回答・非該当」が29. 6%であった。自由意見では、「今のところ、考えを伝える機会はない」という声が聞かれた。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	23	3	1	0
「はい」が85. 2%、「どちらともいえない」が11. 1%、「いいえ」が3. 7%であり、大変高い満足度であった。自由意見は特になかった。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	19	3	3	2
「はい」が70. 4%、「どちらともいえない」が11. 1%、「いいえ」が11. 1%、「無回答・非該当」が7. 4%であり、高い満足度であった。自由意見では、「本を読むところが汚い」、「1階のおもちゃ(レゴ)が散らかっている」という声が聞かれた。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	23	3	0	1
「はい」が85. 2%、「どちらともいえない」が11. 1%、「無回答・非該当」が3. 7%であり、大変高い満足度であった。自由意見は特になかった。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	24	0	0	3
「はい」が88. 9%、「無回答・非該当」が11. 1%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「体調不良やケガはない」、「ケガをしたことがないからわからない」という声が聞かれた。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	19	4	1	3
「はい」が70. 4%、「どちらともいえない」が14. 8%、「いいえ」が3. 7%、「無回答・非該当」が11. 1%であり、高い満足度であった。自由意見では、「ケンカをしているところを見たことない」、「そのような状況下でない」という声が聞かれた。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	19	3	0	5
「はい」が70. 4%、「どちらともいえない」が11. 1%、「無回答・非該当」が18. 5%であり、高い満足度であった。自由意見は特になかった。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	11	3	0	13
「はい」が40.8%、「どちらともいえない」が11.1%、「無回答・非該当」が48.1%であった。自由意見では、「話したことがない」、「秘密がない」、「そのような状況下でない」という声が聞かれた。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	16	2	0	9
「はい」が59.3%、「どちらともいえない」が7.4%、「無回答・非該当」が33.3%であった。自由意見では、「頑張っているが、なおっていない」、「そのような状況下でない」という声が聞かれた。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	11	2	3	11
「はい」が40.8%、「どちらともいえない」が7.4%、「いいえ」が11.1%、「無回答・非該当」が40.7%であった。自由意見では、「そのような状況下でない」という声が聞かれた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている 〇非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している 〇非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える 〇非該当
	カテゴリー1の講評	
	企業理念やスローガンを事業計画で示し、子どもや保護者、職員に伝えている 企業理念「子どもたちや関わる全ての人々を笑顔にすることが私たちの願いです」やスローガン「ママはいつも人のためにあります」をホームページや事業計画で示し、杉並区学童クラブ運営指針・杉並区子ども家庭計画に基づいて、学童クラブ運営計画(委託)を作成し、職員には年度初めのキックオフミーティングで共有し、方向性を統一し、掲示や研修、代表との語らう会でも伝えている。子どもには活動の中で伝え、保護者には入会説明会や見学会、保護者会、クラブ便り、クラブが大切にしていることを説明して、信頼関係の構築に努めている。	
	経営層は、計画達成に向けてリーダーシップをもって運営にあたっている 理念やスローガン、行動指針、行動規範、方針等は、事業計画に明記し、年度初めのキックオフミーティングで職員に伝え、共有している。日々のミーティングでは、学童クラブで大切にしていることなどを常に確認し、入職時研修や階層別研修、施設長会議、管理者会議などでは、経営層及び職員一人ひとりの役割と責任を職員に伝え、共有している。経営層は、職員一丸となって計画達成に向けて取り組めるよう、リーダーシップをもって運営にあたり、職員と常にコミュニケーションを図り、職員一人ひとりが目標を達成できるように支援している。	
	全ての案件は、子どもや保護者、職員の意見を参考に検討した上で決定している 全ての案件は、毎日実施しているミーティングにて、子どもや保護者、職員の意見を参考に必ず検討した上で決定している。学童クラブでは判断できない案件に関しては、学童クラブ→エリアマネジャー→法人→区→所属児童館館長の順に相談しながら、検討・決定を行っている。特に重要な案件については、区から法人への通達を通して、現場へ情報が周知されている。決定事項はミーティングで周知し、ミーティングノートではサインによって全職員への周知を確認している。保護者には、保護者会やクラブ便り、掲示、区内統一の支援システムで伝えている。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>子ども、保護者、職員、地域のニーズや課題を運営に反映させている</p> <p>子どもの意向は、意見箱「なないろBOX」や活動の中で把握に努め、うまく言葉で表現できない子どもからは、表情やしぐさから読み取るように努めている。保護者からは、利用者アンケートや意見箱、保護者会、個人面談、区内の学童クラブ統一の支援システム上のメール、何より送迎時などのコミュニケーションから把握に努めている。職員からは、ブラザー&シスター制度、面談意向調査、自己他己評価シートで把握し、地域のニーズや課題は、所属児童館館長や地域の子育てネットワーク、小学校との調整会議で把握に努め、運営に反映させている。</p> <p>区と法人の中長期計画に基づいて、学童クラブの運営計画と事業計画を作成している</p> <p>福祉事業全体の動向は、杉並区行政教育部の定例部会をはじめとする行政からの情報や法人から把握に努めている。学童クラブ単独の中長期計画は作成しておらず、杉並区総合計画・実行計画や杉並区保健福祉計画、行政教育部の中長期計画と法人の中長期計画に基づいて、学童クラブの単年度運営計画と事業計画を作成している。予算は計画に沿って編成され、適切な管理と執行を行っている。運営計画では、「子ども一人ひとりの尊重と安心、安全」「子どもの健やかな成長」「子育て支援」「特別支援児童」の4項目を重点目標に掲げている。</p> <p>具体的な数値(%)目標を設定して、進捗状況の確認や見直しを行っている</p> <p>年度初めに役割分担を行い、行事やプログラムを実施し、子どもの様子や成長に合わせて見直しをしながら取り組んでいる。目標の達成度合いを測るため、具体的な数値(%)目標を設定している。新入職員は毎月目標を立ててブラザーまたはシスターと確認している。ミーティングや職員会議で、進捗状況の確認や見直しを行い、毎月区に報告し、保護者にも進捗を報告している。年度末には学童クラブ運営状況報告と事業計画の振り返りシートを作成し、次年度の計画に反映させている。</p>		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ3の講評

セルフチェックシートや心構えチェックシートによる行動規範の点検を行っている

児童青少年課主催の研修で、子どもの権利の基本的な考え方や「杉並区子どもの権利に関する条約」「杉並区の子どもの権利救済制度の概要」などについて学んでいる。ほかにも倫理研修の実施と報告書提出、就業規則を含む職員マニュアルや事業計画の配付による再周知、毎週のセルフチェックシートや毎月の心構えチェックシートによる点検も行っている。年度初めのキックオフミーティングでは行動規範の読み合わせを、毎日のミーティングでも随時確認を行っている。その上で、エリアマネージャーが巡回時にはシートの確認などを行っている。

不適切行為については研修とセルフチェックシートを使用して点検を行っている

「杉並区子どもの権利相談・救済窓口」や「杉並保健福祉サービス苦情調整委員」について説明し、いつでも自由に相談できることを保護者会などで説明し、連絡先を掲示して周知を図っている。発生した場合には、苦情対応マニュアルに沿って法人と区に報告し、児童館館長とも共有しながら最適な対応ができるような体制を構築している。不適切行為については研修とセルフチェックシートを使用した点検を毎週行い、法人に相談窓口があることを掲示している。家庭などで疑いがある場合は、子ども家庭支援センターなどと連携して対応している。

子育てネットワーク会議や地域行事に参画して、地域のニーズや課題の把握に努めている

クラブの活動内容は、区や法人のホームページで紹介し、子育てネットワーク会議や地域行事に参画して伝えるとともに、地域のニーズや課題の把握に努めている。ボランティアや実習生の受け入れ体制を整え、マラソン大会、餅つき会、ドッジボール大会などの地域活動に参加し、職員も手伝いとして携わるなど関係づくりに努めている。小学校との調整会議や避難訓練への参加、子育てネットワークを通して保育園やゆうゆう館とのつながりができ、地域交流の機会が増えている。クラブの人材などを考えると、さらなる地域交流・地域貢献が期待される。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー4の講評		
<p>リスクマネジメントシートや事故報告書、訓練報告書からリスクを洗い出している</p> <p>安全対策・危機管理マニュアルを策定し、マニュアルに従い対策を講じている。法人内施設長で安全管理部を設置し、各施設のセーフティキーパー(安全管理担当)が年4回程度参加し、安全に関するマニュアルの読み合わせや、各施設で作成したリスクマネジメントシートの検討を行っている。事故やケガの記録を日々振り返り、リスクマネジメントシートや事故報告書、訓練報告書からリスクを洗い出しているものの、ヒヤリハットの充実を求めたい。災害時などの職員配置を日案に記入し、普通救命講習は全職員が受講している。</p> <p>毎月危機管理訓練や防災訓練を行うことで、適切かつ迅速に対応できるように努めている</p> <p>BCP(事業継続計画)を策定し、災害用備蓄品の管理を行っている。保護者には、年度初めの保護者会で、災害時や感染症の対応について説明し、災害時の連絡手段や災害時対策の171訓練(災害用伝言ダイヤル)を保護者にも周知している。定期的に便りなどの配付物で、訓練や災害時対応について知らせている。火災や水害、地震などの自然災害リスクについては、学校との連携を密にし、柔軟に対応できる体制を作り、毎月危機管理訓練や防災訓練を行うことで、万が一の発生時にも職員が落ち着いて適切かつ迅速に対応できるよう努めている。</p> <p>法人ではプライバシーマークを取得しており、個人情報を厳格に管理している</p> <p>個人情報の取り扱いは、区と法人の規程に沿って対応している。法人ではプライバシーマークを取得しており、個人情報を厳格に管理している。個人情報の取り扱いマニュアルを整備し、職員全員に周知し、コンプライアンス研修で理解を深めている。保護者には区の指示に従い、入会時に説明し、同意書などに記載してもらい、同意を得ている。特に重要な情報はネットワークに未接続の専用パソコンを用意し、パスワードで管理している。電子データはパスワードとアクセス制限で、書類は鍵付きキャビネットで保管するなど、個人情報は厳格に管理している。</p>		

5 カテゴリー5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ-5の講評

2次面接評価シートを使用して適切な人材を採用し、育成に努めている

ハローワークや就職フェア、ホームページ、ネット求人等を活用して広く募集し、面接では必要な要件を満たし、必要な能力や人格であることを見極めている。面接は2次まで行い、現場面接では採用後のミスマッチを防ぐため十分な説明をするとともに、2次面接評価シートを使用して適切な人材か判断している。採用した人材は、年齢や経験、能力、本人の意向を考慮しながら、最も輝ける配置になるよう配慮している。ブラザー&シスター制度により毎月1回振り返りや面談を行いながら、育成に努めている。

自己他己評価シートを基に、職員一人ひとりの育成計画を設定し育成に努めている

自己他己評価シートを基に、施設長やエリアマネジャーとの面談で、職員一人ひとりの育成計画を設定し、育成に努め、年度途中で振り返りを行っている。職員育成のための研修は豊富に用意され、児童青少年課の課内研修のほかに、施設内研修と施設外研修、他施設との交流研修が設けられている。施設内研修は、全職員研修と役職別に分かれており、全職員研修は通年を通じた支援の動画研修と月2～3回の研修により専門性の向上を図っている。研修後は報告書とミーティングで情報を共有し、一人の学びをクラブ全体の学びとしている。

風通しの良い職場づくりに努め、子どもや保護者に寄り添った支援を提供している

自己他己評価シートによる自己評価後、施設長やエリアマネジャーと面談を行い、評価の参考にしている。毎日のミーティングでは、全職員が発言できる場面を設け、発言しやすい雰囲気づくりに努めている。有給休暇を取得しやすいように工夫し、時間外勤務を把握して時間内で終了できるよう役割分担を見直し、年に1回ストレスチェックや健康診断を行っている。話しやすく、相談しやすい、風通しの良い、他を認め合う職場づくりに努めている。結果、良好なチームワークと高いホスピタリティーにより、子どもや保護者に寄り添った支援を提供している。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題】

- ①子どもの自立に向けた支援
- ②卒会を見据えた地域機関などの利用と連携

【抽出理由】

桃一学童クラブに入会できずに親館である桃井児童館内にある桃井学童クラブに入会する子どもが多数いることや、学童クラブに入会できなかった場合、桃井児童館や放課後等居場所事業の利用に慣れておくことで、新しい居場所での生活をスムーズに始められるようにするため。

【取り組みと結果】

年度初め、学期初めに職員ミーティングで、職員の力を頼らずに子ども同士で遊びを成立させ、身支度等も自分で行うことを最終目標とし、段階を踏んで少しずつ自力でできるよう子どもと接することを確認した。
 桃一学童クラブに入会できなかった際の居場所として桃井学童クラブ、桃井児童館、放課後等居場所事業があるため、桃井児童館や放課後等居場所事業で開催されているイベントに参加し、慣れる機会を設けた。新1年生については、まずは桃一学童クラブでの生活が安定するまでは、職員を介して交流の時間を確保し、新2年生以上についても個人差があるため、個々に合わせた対応を考え、共有している。今後とも2年間かけて自立を育ていけるよう、時期や学年に合わせた目標を設定していく。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

【考察】

桃井第一小学校が4~5クラスと多く、学童クラブのニーズも高い。今年度も定員を超える最大受け入れ数(95名)の登録があり、次年度も50名以上の新規入会申請が見込まれている。学年が上がるにつれ入会審査により入会が厳しくなり、次年度は現在2年生以上の子どもが桃井学童クラブに入会することも予想されている。桃井第一小学校にて放課後等居場所事業が開設され、学童クラブと放課後等居場所事業で連携し、子どもの居場所支援を行っている。
 今後、桃井学童クラブへ入会する子どもや、両学童クラブへの入会が叶わず、桃井児童館や放課後等居場所事業で過ごす子どもが増加することを想定し、桃一学童クラブの保育の中で桃井児童館や放課後等居場所事業に子どもを引率する機会を設け、新しい放課後の過ごし方に慣れるよう取り組んでいる。
 学童クラブを移る子どもや、学童に入会できない子どもの環境変化による不安軽減のために、活動の中で自然な形で交流の時間を設けている。個人差も考え無理なく時間をかける姿勢から、子ども中心の姿勢が現れている。これらの取り組みは、学童クラブを移る子どもや入会できない子どもへの継続的な支援につながっており、その姿勢は評価できる。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題】

利用者だけでなく職員間においても、誰もが「ホッとする居場所」づくりを心がける

【抽出理由】

職員にとって安心して仕事ができる場所であれば職員個々のパフォーマンスを最大限に引き出すことができ、それらが利用者のためになると考えるため。

【取り組みと結果】

- ・利用者、職員関係なく挨拶から報連相まで、誰が受け止めても気持ちの良い声のかけ合いとホスピタリティーを心がける。
- ・職員間で意見を出しやすい状況を作るために、ミーティングの進行は輪番制にし、非常勤職員にも意見がないか確認する。
- ・クラブ長又はクラブ長補佐が職員全員と定期的に個人面談を行う。
- ・仕事量に偏りがないように年間業務分担表を作成し、進捗状況を都度確認し合い、負担が多い場合は別の職員でサポートし合えるよう連携を図る。
- ・非常勤職員の業務分担、業務フローを可視化し、より働きやすい仕組みをつくる。
- ・誰に対しても丁寧な対応を心がける一方、改善すべき点についても意見を出し合えるよう、妥協のない意見交換ができるよう意識する。
- ・丁寧な対応と毅然とした対応を区別し、メリハリをつけた対応ができることを目指す。

目標の設定と 取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

【考察】

「存在意義は、マミーで働いている方々が幸せになる手伝いをするためにある」という理念を、そのまま実現しようとするような課題である。訪問すると、職員のモチベーションが高く、献身性の高いチームであることに気づくが、自然にできたものではなく、今回のような取り組みを続けて醸成してきた成果であることが理解できた。

ワークライフバランスやチームワークの向上はどの施設も目指すことであるが、互いに認め合う関係を作ることは非常に困難である。毎日しっかりとミーティングを行うなどの好条件はあるものの、互いに認め合う関係が根付いていることをまず評価したい。また、職業倫理や行動指針などの周知には取り組んでいるものの、特別なサービスマナーなどの研修を行っているわけではないにもかかわらず、ホスピタリティーが非常に高い点は驚きでもある。

その高いホスピタリティーとチーム力があって、初めて一人ひとりの子どもらしさを引き出し、子どもや保護者に寄り添った支援提供が可能となっている。さらに高めていくことを期待したい。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー1の講評		
<p>各種の媒体を設け利用を希望する子どもや保護者への情報を提供している</p> <p>入会のしおり、おたより、入会説明会、夏休み前保護者会、新入会説明会などで、子どもや保護者が入手できる媒体で、学童クラブの情報を提供している。写真や氏名は保護者の同意を得て、保護者会でスライドなどで紹介している。さらに、杉並区のホームページには入会の募集情報を掲載するとともに、学童クラブ内にも区のポスターを掲示し、視認性を高めている。また、法人のHPIにおいても学童クラブの写真や受け入れ人数を掲載し、入会を検討する保護者が具体的なイメージを持てるよう工夫している。</p> <p>子どもには提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている</p> <p>区が発行するパンフレットは、児童館などの公共施設や各学童クラブに閲覧用として設置されている。また、小学校の就学時健康診断の際に学童クラブの案内を配付し、周知を図っている。年度ごとに学童クラブ入会案内を作成・配付し、説明を行うほか、入会説明会では資料を提供しながら詳細な情報を伝えている。子どもへの情報提供については、イラストなどを用いて案内するなど、子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている。学校におたよりを配布し、活動の内容を紹介している。</p> <p>見学時には学童クラブの雰囲気や活動を理解しやすくすることに努めている</p> <p>問い合わせや要望があった場合は、館長や法人とも共有し、早急に解決できるようにしている。いつでも見学を受け入れており、活動の様子や学童クラブの様子を説明している。見学時は当学童クラブの特徴として、校庭を使って遊べる時間が多いことや子どもがやりたいことを支援していることについて、画像を使いながら説明している。利用を希望する子どもや保護者が、学童クラブの雰囲気や活動を理解しやすくすることに努めている。さらに、関係機関を通じて学童クラブの年間行事や関係資料を配布するなど、地域への情報提供が行われている。</p>		

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	8/8
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>入会説明会では各種の書式を設けて丁寧に説明し理解を促している</p> <p>入会説明会の際には、入会のしおりをはじめ、同意書、災害時児童引渡し申出書、常備薬、エピペン確認書、アレルギー確認書などの各種の書式を設けて説明を行うことにしている。アレルギーや配慮の必要な子どもについては個別に面談を行い、健康面や生活面について聞き取りを行うことで、安全にクラブで過ごせるように配慮している。基本的ルールや重要事項、サービス内容、利用者負担金などについては子どもや保護者の状況に応じて説明して理解を得るようにしている。</p> <p>利用開始時には子どもの不安やストレスが軽減されるよう配慮している</p> <p>入会時の面談では、健康状況、病気やアレルギーの有無、集団での様子、配慮してほしいこと等を把握し、家庭環境や子どもの特性を把握している。子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、ミーティングなどで情報を共有している。子どもの様子は連絡帳やお迎えなどを通じて、詳しく伝えるようにしている。また、上級生が1年生にクラブのルールを教えたり、異学年の班編成を作り、分からないことを聞きやすい環境を作るなど、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している。</p> <p>児童館交流や合同保護者会を行うことでスムーズな移行ができるように配慮している</p> <p>2年生からは指数の関係で、受け入れ人数の多い桃井学童クラブへ入会する傾向があるため、桃井学童クラブへのスムーズな入会ができるよう、児童館との交流や合同の保護者会を開催している。また、次年度に待機児童となる可能性も踏まえて、放課後等居場所事業の利用を推奨している。学童クラブに通っている子どもも、放課後等居場所事業へのイベント参加や合同遊びに参加している。退会時への配慮として、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っていることがうかがえる。</p>			

サブカテゴリー3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

10/10

評価項目1

子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している

評点(0000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー3の講評

必要に応じて支援方法や運営の見直しに取り組んでいる

前年度の反省や子どもの様子をベースに当該年度の目標を作成しており、特別支援児童については個別に育成計画を立てている。年度初めのキックオフミーティングで理念や目標を共有し、育成支援の目標に沿って年間を見通して作成している。さらに、日々のミーティングでは子どもの様子や運営状況をもとに、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、必要に応じて支援方法や運営の見直しに取り組んでいる。また、保護者の理解を得られるよう、入会説明会や保護者会において丁寧に説明することを心がけ理解を促している。

日常的に収集した各種の情報を、支援・援助にさらに反映させることを目指している

キックオフミーティングや日々のミーティングで情報共有を図り、育成支援の計画の内容や記録を全職員が活用できるようにしている。日々のミーティングを重視しており、クラブで大切にしたいことや子どもの心に寄り添い、やりたいことが実現できるクラブ目標を常に共有することに努めている。個人面談において保護者から聞き取った内容を記録に残し、全職員を招集してミーティングで共有している。なお、勤務日数が少ない非常勤職員も含めて、職員一人ひとりがさらに理解を深めることができるような工夫を検討している。

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリー5の講評			
<p>日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重する仕組みを設けている</p> <p>入会時には個人情報の取り扱いについては、同意書や入会のしおりによって説明し、同意を得ている。個人情報の取り扱いを遵守することを目的に、マニュアルの読み合わせや心構えチェックシート、プライバシーマークテストなどを用いて注意喚起を促している。また、日々のスケジュールをホワイトボードに記載し、子どもが時間管理をしながらクラブ生活を送れる環境づくりをしたり、なないろBOXを設置して意見を出しやすい環境などを整えるなど、日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重する仕組みを設けている。</p> <p>児童虐待に関わる研修への参加などにより組織的に予防・再発防止を徹底している</p> <p>気になるトラブルや問題があった際はミーティングで共有しており、必要に応じて保護者にも相談して多くの目で確認・フォローする流れとしている。また、児童虐待に関わる研修への参加などにより、クラブ内の子ども間の暴力・いじめなどが行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している。子どもの気になる言動を見逃さず、職員の対応力と気付きの部分を上向きさせている。定期的にミーティングで話し合いの機会をもち、虐待などに関する研修など全職員がさらにさまざまな研修を受講できる機会を多く持つ体制を整えている。</p>			

サブカテゴリー6

6 事業所業務の標準化

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映している	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー6の講評

各種のマニュアルを整備して提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている

区や法人の各種のマニュアルを整備しており、全職員が閲覧できるようにして、提供している支援の基本事項や手順等を明確にしている。提供している支援や援助が定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを、各専門部会会議などを通じて定期的に点検・見直しをしている。マニュアルはキャビネットに保管し、いつでも誰でも閲覧できるようにしている。新入職員については、プラザー&シスター制度を活用し、わからない点を適宜相談する担当者を設置して解決できるようにしている。

職員や子ども・保護者などからの意見や提案を援助に反映している

マニュアルは運営の状況などに合わせて年度末に振り返りを行うなど、提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている。また、利用者アンケートから出された意見を運営に反映するようにするなど、提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映している。アンケートに出された意見や要望を運営に反映し、結果内容を紙で配付しているが、保護者への周知と内容の理解が十分ではない部分もあるため、周知方法の工夫を検討している。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
		29 / 29	
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>職員間で子どもの状況を共有しながら一人ひとりの理解を深めている</p> <p>毎日のミーティングでは前日の子どもの様子や支援の必要な場面について共有している。共有内容はミーティングノートに記録し、当日勤務していない職員も確認できるようにしているほか、日誌にも子どもの様子や対応を記録している。記録は月末に館長へ提出され、運営状況の確認にもつなげている。日常の出来事をその日のうちに振り返ることで子どもの変化を見落とさないようにしており、職員間で共通理解を持ちながら関わり方を検討している。共有を通して、子ども一人ひとりの生活や発達の状況を踏まえた援助につなげている。</p> <p>子どもの思いを聞き取りながらトラブルへの対応を行っている</p> <p>子ども同士のトラブルが生じた際には、けんかを止めることを目的とするのではなく、それぞれの思いを聞き取りながら状況を整理できるようにしている。職員は双方の話を聞き、何が起きていたのかを一緒に確認しながら、相手の立場や気持ちについて考えられるよう声をかけている。仲直りにつながる関係づくりを意識した関わりを行っており、子ども自身がその後の関係をどうしていくかを考える機会としている。関係がこじれないよう仲直りにつながる関わりを行い、子ども同士が関係を築いていく経験となるよう援助している。</p> <p>配慮が必要な子どもについて職員間で関わり方を共有している</p> <p>発達面などで配慮が必要な子どもについては個別の支援ノートを作成し、その日の様子や必要な援助について職員間で共有できるようにしている。長期休みなど生活時間が長くなる時期には特に情報共有を行い、どのような声かけや対応が必要かを日々確認し、どの職員でも同じ対応ができるように努めている。活動では得意な分野を伸ばせるよう支援し、必要に応じてクールダウンできる環境を整えるなど、子どもの状態に応じて配慮している。保護者との面談を通して家庭での様子を確認することもあり、情報を共有しながら子どもの生活を支えている。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p>子どもがやってみたくいことを取り入れ、経験が広がるよう環境を整えている</p> <p>育成室は1階と2階に分かれており、1年生のロッカーは1階に設け、生活の動線が分かりやすくなるようにしている。2階は広いスペースに机を多く配置し、おやつを食べる場所としても利用している。遊びのスペースに加え、本のコーナーにはマットを敷き、寝転んで読書ができるなど落ち着いて過ごせる場所としている。人気のある玩具については順番で利用できるよう予約表を取り入れるなど、子どもの意見を反映しながらルールを整えている。また、夏休みのお楽しみ会ではダンスやけん玉、漫才など子どもが得意なことを発表する機会を設けている。</p> <p>当番活動を通して子どもが主体的に生活に関わる機会を設けている</p> <p>当番活動を取り入れ、子どもが生活の流れや、自分の役割を意識しながら行動することで、主体的に関わる経験となるようにしている。新1年生に対しては「おめでとうデイ」を行い、上級生からのプレゼントと一緒に遊ぶ機会を設け、学童クラブの約束についてはクイズ形式で伝え、理解しやすいよう工夫している。初日は保護者も室内に入り生活の流れを確認しており、入所当初から安心して過ごせるようにしている。入所後は職員と一緒に遊びながら関係づくりを行い、夏休み頃まで継続し、子どもが集団の中で過ごしやすくなるよう援助している。</p> <p>生活や遊びを通して基本的な生活習慣が身につくようにしている</p> <p>1日の流れはホワイトボードに記入しており、子どもが生活の順序を自分で確認できるようにしている。おやつ時間までは宿題や自由遊びとなるが、おやつ時間前には片付けの声かけを行い、時間の切り替えを意識できるようにしている。遊び道具はボックスやカゴに種類別に整理し、片付けやすい環境を整えている。持ち物の置き方などについて掲示を行い、生活の中で確認できるようにしており、金曜日にはロッカー整理を行い、作品や持ち物の整理を促している。年度当初は特に丁寧に説明を行い、上級生が一年生に教える姿も見られている。</p>			

3	評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目3の講評			
<p>子どもが興味を持って参加できる行事を計画している</p> <p>誕生日会ではインタビューを行い、その子の好きなことや日頃の様子を共有し、特別なおやつを用意して子どもを迎えている。誕生日カードには写真を添えて渡しているが、一人で写った写真ではなく、友だちと遊んでいる場面や活動の中での様子を選ぶことで、学童クラブでの生活を振り返ることができるようにしている。夏休みには「なんでも発表会」を行い、事前にアンケートを取り、子どもがやりたい内容をもとに企画し、準備の段階から見通しを持って取り組めるよう職員が関わりながら、子どもが自分の得意なことに挑戦できる機会としている。</p> <p>子ども同士が関わりながら行事や活動に取り組んでいる</p> <p>地域の学童クラブと合同でドッジボール大会に参加し、多くの子どもと関わる機会を設けている。交流試合としてほかの学童クラブへ出向くこともあり、日常とは異なる環境での活動となっている。学童クラブ内ではトランプのスピード大会やサイコロゲームなどを行い、遊びを通して子ども同士の関係が広がる場としている。けん玉検定は桃井児童館で実施されており、地域の施設と連携した活動となっている。学校の祭りでは学童クラブとして出店し、準備や当日の活動を通して子ども同士が関わり、関係が広がる経験となっている。</p> <p>保護者に活動の様子を伝えながら行事への理解を得ている</p> <p>行事の内容や取り組みについては、おたよりやイベント参加カードを通して保護者に伝えている。保護者会ではスライドを用いて日常の活動や行事の様子を紹介しており、子どもがどのように過ごしているかを具体的に伝えている。日々のお迎えの際にも子どもの様子を伝えることで、行事への取り組みや当日の様子を共有し保護者が活動の内容を把握できるようにしながら、行事への理解につなげている。また、お楽しみ会の当日は学校や児童館、公民館、児童青少年課の関係者などが来場し、活動を見てもらう機会となっている。</p>			
4	評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目4の講評			
<p>子どもが安心して通い続けられるよう個別の状況に応じた関わりを行っている</p> <p>子どもの様子を日常的に確認しながら、気になる様子が見られる場合には個別に声をかけるようにしており、友だち関係や遊びの内容、生活環境など、なじめない理由があれば整理しながら関わり方を検討している。また、状況に応じて保護者や学校とも情報を共有し、子どもの様子を多面的に捉えることを大切にしており、職員間ではミーティングを通して関わり方を確認し、共通した対応ができるようにしている。子どもが安心して過ごせるように工夫を重ねながら、学童クラブが子どもにとって安心できる場所となるよう援助している。</p> <p>生活の流れを示し子どもが見通しを持って過ごせるようにしている</p> <p>子どもが活動の順序を確認できるよう予定を掲示し、時計を見ながら行動することを意識できるよう、職員が声をかけながら時間の区切りを伝えている。一日育成では活動時間を複数に分け、どの時間帯に参加するかを示すことで生活の見通しを持てるようにしている。通常育成でもおやつまでの時間に取り組める学習スペースを設け、宿題専用の席を用意している。帰りの会ではその日の出来事や連絡事項を共有し、忘れ物の確認や帰宅準備を行う流れとしており、人数に応じて1階と2階に分かれて実施し、落ち着いて参加できるようにしている。</p> <p>活動や環境を工夫し子どもが自分に合った過ごし方を選べるようにしている</p> <p>夏休みには体育館を毎日利用できるため、午前・午後・夕方の時間帯に分けて活動を行い、集団で取り組める遊びを取り入れることで子ども同士が関わりながら体を動かす機会としている。外遊びの時間帯には室内の一部を学習や読書の場として使うなど、静かに過ごしたい子どもにも対応している。学校の補習や図書館開放などの取り組みもあり、子どもがそれぞれの活動を選べる環境となっている。校内の放課後居場所事業「ももちスマイルラボ」とはおたよりの交換や活動時間の調整を行いながら連携し、子どもが活動に参加しやすいようにしている。</p>			

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目5の講評		
<p>学校との情報共有を通して子どもの生活の連続性を保っている</p> <p>毎年5月頃には1年生の各学級担任と情報交換会を行い、入所初期の子どもの様子や生活面での配慮点について共有している。日常的にも担任と子どもの様子を伝え合い、学校での出来事や気になる様子について連絡を受けるほか、学童クラブでの過ごし方や変化についても伝えている。学童クラブ内でのトラブルやケガについても電話や対面で共有を行っており、担任が来室し、直接状況を確認する場面も見られている。日々のやり取りを重ねることで、学校と学童クラブの双方で子どもの様子を把握しながら、生活が途切れないようにしている。</p> <p>調整会議を通して関係機関と連携しながら運営している</p> <p>毎月の調整会議にはクラブ長が参加し、校長、副校長と情報交換を行っている。会議には放課後居場所事業「ももいちスマイルラボ」や児童館の職員も参加しており、それぞれの活動内容や予定されている行事について共有している。校内で複数の事業が関わる中で、活動時や利用の仕方について調整を行い、子どもが無理なく参加できるようにしている。各事業の取り組みを把握しながら連携することで、子どもが放課後の時間を安心して過ごせる環境づくりにつなげている。</p> <p>配慮が必要な子どもについて関係機関と連携しながら対応している</p> <p>学校では授業に入りにくい子どもに対して校長室で対応する取り組みがあり、状況に応じて学童クラブの職員が迎えに行くなど連携した対応を行っている。トラブルや気になる様子が見られた際には、副校長や担任と情報共有を行い、学校での関わり方につながる場合もある。療育機関との関係については保護者を通して情報を共有しているほか、療育の職員が学童クラブを訪問し子どもの様子を確認することもするなど、関係機関からの助言を受けながら関わり方を整理し、子どもの状況に応じた支援につなげている。</p>		
6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りで配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目6の講評		
<p>子どもが落ち着いて楽しめるおやつ時間となるようにしている</p> <p>月曜日と金曜日は班で、火曜日から木曜日はグループ内で食べる形とし、関わる相手を変えながら過ごせるようにしている。おやつはトレイを並べて子どもが自分で取るバイキング形式としており、自分で選んで席に着く流れとすることで、子どもが主体的に関わる時間としている。配膳や片付けは子ども同士で協力して行っており、声をかけ合いながら取り組む姿が見られている。職員はおやつ時間に各グループを回り、子どもの様子を確認しながら声をかけている。給水機を設置し、冷水を自由に飲めるようにするなど、落ち着いて過ごせる環境を整えている。</p> <p>子どもの状況に応じておやつの内容や提供方法を工夫している</p> <p>おやつは基本3種類を用意し、子どもの食べる量や様子に応じておかわりができるようにしている。必要に応じて4つ目を選ぶ場合もあり、個々の状況に応じて調整できるようにしている。家庭での夕食への影響を考え、学年に応じておかわりの量を調整している。特別なおやつとしてロールケーキなどを取り入れることもあり、日常のおやつとは異なる楽しみとなるよう工夫している。日々のメニューはおたよりで保護者にも伝えており、家庭との情報共有につなげている。子どもの生活リズムを踏まえながら提供方法を工夫している。</p> <p>食育やアレルギー対応を通して安心して食べられる環境を整えている</p> <p>季節に応じた食育を取り入れ、桜餅や栗饅頭など季節感のあるおやつを提供している。はちみつについて説明したうえで関連するおやつを出すなど、食べ物への関心が広がるようにしている。防災の視点から非常食を提供する機会も設けており、ようかん、かんぱん、お湯を入れて食べるおにぎりなどを体験できるようにしている。3月には非常食を取り入れることを計画的に実施している。食物アレルギーのある子どもについては別のトレイで提供し、提供時には職員が確認しながら対応し、安全に食べられるようにしている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>日常生活の中で健康や安全への意識が持てるようにしている</p> <p>おやつ前の手洗いを行うなど、日常生活の中で基本的な衛生習慣が身につくようにしている。室内での過ごし方については、歩いて移動することや座って遊ぶこと、人の体に触れないことなどを帰りの会で繰り返し伝え、生活の場面ごとに具体的な行動を示すことで、子どもが自分で意識できるようにしている。ケガが発生した際には水で洗うなどの応急対応を行い、状況に応じてケガの対応記録を作成している。内容は連絡帳や電話で保護者に伝え、家庭と共有している。日常的に子どもの様子を確認し、気になる場合には体温を測るなど状態を把握している。</p> <p>研修や連携を通して緊急時に対応できる体制を整えている</p> <p>日常の備えと連携によって、子どもの健康と安全を支える体制を整えており、子どもの体調に変化が見られた際には保護者へ連絡を行い、状況を共有しながら対応している。エビペンの使用が必要な子どもについては入会前に保護者と面談を行い、対応方法や留意点を確認し、職員は研修を受講し、必要な場面で適切に対応できるようにしている。嘔吐への対応についても研修を行い、嘔吐処理セットは1階と2階にそれぞれ配置し、どの場所でも迅速に対応できるようにしている。また、会議では事例検討を行い、実際の対応を振り返りながら職員間で共有している。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者の子育ての考え方を把握し、支援に反映させることにしている</p> <p>入会時面談や個人面談などの機会を通じて保護者の子育ての考え方を把握し、就労などの個々の事情に配慮して支援に反映させることにしている。また、お迎え時には玄関スペースで保護者を迎え、お迎え時間が重なっている保護者同士と一緒に掲示物や子どもの活動写真集などを見ることができるようスペースを設置し、保護者同士が交流できる機会を設けている。話しやすい、相談しやすい関係づくりのため、お迎えの際にこまめに情報共有に取り組み、ミーティングなどを通じ、全職員に共有している。</p> <p>子どもの出欠確認を入退室アプリで行い保護者と協力した安全確保に取り組んでいる</p> <p>入退室アプリに帰宅時間の入力がない場合や、子どもの申告時間とアプリの時間が違う場合は電話により保護者に確認するようにしている。連絡帳内のコメントも毎日確認しており、子どもの出欠席確認は保護者と協力して安全確保できるよう取り組んでいる。一方で、保護者へのお知らせはアプリでの配信が基本となっているが、開封率が100%ではないため、お知らせを見落としている保護者が多数いる状況である。お知らせ内容によってはアプリ配信に加えておたよりを連絡帳に入れて配付するなどの対応や電話での個別確認などの検討も期待したい。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域資源を活用して子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している</p> <p>定期的に児童館交流や地域交流館でのイベント参加、公園遊びを行っており、地域資源を活用して子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している。夏のお楽しみ会(発表会)に地域関係者を招待したことで、地域から桃一学童クラブへの認知度が深まり、各保育園の園長や主任児童委員、地域交流施設から評価の声が聞かれている。保育園の園長から、保育園児にも学童の様子を見せてほしい旨の提案をもらうことにつながっている。年長の園児を対象に、知ってもらう機会につながるよう計画している。</p> <p>子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している</p> <p>近隣の「ゆうゆう桃井館(福祉施設)」での折り紙教室に参加し、地域の人との交流の機会などを設けている。クラブの行事に地域の人への参加を呼びかけ、地域の行事に参加するなど、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している。学童クラブのイベントに招待したことをきっかけに、ゆうゆう桃井館でのイベント(折り紙教室)に招待され、桃一学童クラブの子どもが存分に楽しめるように時間枠を得られたことにつながっている。折り紙教室では一般の参加者も多く、余った時間は子どもと一般参加者との交流の機会となった。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-1-3	事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる
タイトル①	施設内研修、外部研修、他施設研修を効果的に組み合わせて専門性の向上を図っている	
内容①	充実した研修による職員育成に取り組み、子どもたちの生活や遊びを見守り、健全な育成を支援する「放課後児童支援員」の資格を受講可能な全職員が取得することを目標とし、安心・安全な施設運営を目指している。新人はブラザー&シスター制度により丁寧な育成に努め、児童青少年課の課内研修のほかに、全職員対象の通年を通じた支援の動画研修と月2～3回の施設内研修、役職別研修、外部研修、他施設研修を効果的に組み合わせて専門性の向上を図っている。研修後は報告書とミーティングで情報を共有し、一人の学びを学童クラブ全体の学びとしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-2	子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している
タイトル②	子ども一人ひとりに関する必要な情報を記録して共有している	
内容②	子どもの成長や支援内容は日誌に記載しており、ケガ等については連絡帳にも記載している。日々のミーティングでは子どもの様子を共有し、子ども一人ひとりに関する必要な情報を記録している。また、具体的な支援の内容については、日誌やミーティングノートに記載して、育成支援の計画に沿った援助内容について具体的に記録している。発達面で特に配慮が必要な子どもについては、日誌やミーティングノートに子どもの様子や成長、支援の方向性を記載して、一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している
タイトル③	職員間での共有を基盤とし子どもの状況を全体で把握しながら関わっている	
内容③	日々のミーティングを通して子どもの様子や対応について共有し、職員全体で状況を把握できるようにしており、ミーティングノートを活用し、勤務時間帯の異なる職員も内容を確認できる仕組みとしている。子どもの変化や気づきを職員同士で出し合いながら関わり方を整理しており、どの職員も同じ視点で対応できるように努めている。子どもが安心して話せる関係づくりを意識し、日常の中で声をかけながら関わることを大切にしている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を図っている
	内容	「おたより」によって子どもの様子を発信することをはじめ、年2回の個人面談、お迎え時のこまめな情報交換を通じて、保護者と職員の信頼関係の構築に取り組んでいる。保護者会ではスライドで子どもの様子を紹介したり、写真を印刷してお迎え時に閲覧できるようにするなど、子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得られるようにしている。個人面談では、保護者から要望や意見を聞き取り、運営協議会では保護者代表者と意見交換を行うなど、保護者に寄り添うことに努めている。
2	タイトル	落ち着いた生活環境の中で子ども一人ひとりに目が届く体制としている
	内容	育成室全体に落ち着いた雰囲気があり、子どもが安心して過ごせる環境となっており、職員の配置が確保されていることで、日常の様子や子どもの変化に気づきやすい状況となっている。子ども一人ひとりの様子を丁寧に見ながら関わりことができおり、困りごとや気持ちの変化にも気づきやすい関係がつけられている。子どもが職員に話しかけやすい雰囲気があり、日常のやり取りの中で関係が築かれている様子がうかがえる。
3	タイトル	チームワークと丁寧な関わりにより子ども主体の支援を実践している
	内容	話しやすく、相談しやすい、風通しの良い職場づくりに努め、お互いに認め合う関係が作られ、良好なチームワークで支援にあたっている。また、キックオフミーティングや研修により理念や倫理、行動指針、マナーなどの浸透が図られ、職員のホスピタリティは非常に高くなっている。また、充実した研修により、子ども一人ひとりの有する強みを捉えて、育む力も高くなっている。良好なチームワークと丁寧で配慮の行き届いた対応により、子ども一人ひとりと真摯に向き合い、子どもの想いに寄り添った支援を提供して成長を見守っている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した援助を充実させることを目指している
	内容	なないろボックスを活用して子どもが意見、相談、要望を投函できる仕組みを設け、投函された内容に対して職員が返事を記入して貼り出している。なないろボックスでは相談より、おやつや玩具に対する要望が多くなっており、困っていることの相談や運営に対する意見・声が聞けるように、活用方法やさまざまなジャンルの見本を掲示して、さらに幅広い意見を把握することを目指している。保護者の保育に関する考えを受け止めて共感するなど、子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した援助を充実させることにしている。
2	タイトル	保護者への情報の伝え方をさらに工夫していくことを課題としている
	内容	保護者への情報発信については、おたよりやアプリ、イベントカード、保護者会やお迎え時のやり取りなど複数の方法で行っているが、すべての保護者に十分に届いているとは言えない状況があると捉えている。情報を確認する機会や方法に差があり、子どもが参加を希望している行事について保護者に伝わらず参加につながらないケースも見られている。現在の伝達方法を整理しながら、保護者が情報を把握しやすい形で伝える工夫を重ねていくこととしている。
3	タイトル	保護者参加の機会を充実させ活動の可視化をすることで、さらなる信頼関係の向上を期待したい
	内容	利用者アンケートや意見箱、保護者会、個人面談、区内の学童クラブ統一の支援システム上のメールで意向把握に努め、保護者とのコミュニケーションも取れていることは、家族アンケートからも読み取ることができる。今後は、保護者参加のイベントを企画し、送迎時以外にも保護者とコミュニケーションを図る機会を増やすことも求められる。実際の活動を共有することにより、さらなる信頼関係の構築も期待できる。また、イベントや工作などは若干新鮮味に欠ける一面もあるため、子どもたちの成長を促す新鮮な活動を企画・実践していくことも期待したい。

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

令和 8年 3月 31日

杉並区長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町1丁目5番地4-712

評価機関名 株式会社 ケアシステムズ

認証評価機関番号

機構 06 - 167

電話番号 03-3511-5035

代表者氏名 和田 俊一



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	井上 和男	福祉	H2001039
	②	大輪 光宏	経営	H2201047
	③	和田 俊一	経営	H0601057
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	桃三学童クラブ			
事業所連絡先	〒	167-0042		
	所在地	東京都杉並区西荻北2丁目10番7号 桃井第三小学校併設		
	TEL	03-3396-3501		
事業所代表者氏名	クラブ長 須藤 夕貴			
契約日	2025 年 7 月 15 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 10 月 15 日			
利用者調査結果報告日	2026 年 1 月 16 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 10 月 15 日			
自己評価結果報告日	2026 年 1 月 16 日			
訪問調査日	2026 年 1 月 22 日			
評価合議日	2026 年 1 月 22 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は、調査実施日現在、当事業所を利用している全ての利用者を対象にアンケートを実施した。事業所と評価機関の連名による依頼状にアンケート用紙と返信用封筒を同封して対象者に配付、回答は評価機関に直接送付してもらった。 事業評価に際しては、事前説明を行うとともに、職員からも個々の標準項目にチェックを入れた分析シートを回収し参考とした。 第三者性の確保については、当評価機関、担当評価者と事業者との間に事実上、人事上の関係は一切存在しないことを確認し、中立公正な評価に努めた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません
- 別添の理由書により、公表には同意しません

年 月 日

事業者代表者氏名 クラブ長 須藤 夕貴 印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)人生の様々な場面において、総合的な教育やケアサービスを行うことにより、お客様の自己実現を支援し、豊かな社会づくりに貢献する 2)自己実現の支援:顧客(子ども、保護者、利用者)一人ひとりのニーズに応じたサービスを提供し、自立と成長を支える 3)総合的な教育・ケア:乳幼児期の教育から、介護・リハビリまで、人生のステージに応じた狡猾的なサービスを提供 4)LuLLの精神:子守歌を歌うような「愛情の働きかけと信頼」を重視し、温かく安心できる環境を作る 5)社会貢献:女性が活躍できる社会の実現や、豊かな社会づくりへの貢献を目指す</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>職員の役割は、子どもたちが安心・安全に過ごせる居場所の運営、地域住民や学校、関係機関との連携、子どもたちの発達を促す活動プログラムの企画、運営、保護者や地域の人々の安心・安全の確保など多岐に渡ります。責任者は役割を十分に理解し、児童への保育や保護者対応も丁寧に行えるよう、指導員歴15年～20年の経験を持つ職員を配置しています。また、その他の職員は教員免許や放課後児童支援員の資格を持った職員を中心に年齢や男女のバランスを考慮しています。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>保護者の大切なお子様を預かる運営において、保育の質を決めるのは職員そのものであり、職員一人ひとりの意識、技術、価値観、そして専門性と人間性こそが施設運営の最大の基盤です。職員には子どもたちに対する思いやりや忍耐力を持っていることをはじめ、子どもへの愛情、子どもの変化を察知し、状況に応じた適切な解決策を見つけることが重要です。保護者や学校との連携、そして安全への配慮も重要で、教育と福祉の両面から子どもたちの成長を支えることができる人材が求められます。</p>

調査対象	調査日現在、当事業所の利用登録者総数である120名を調査対象とした。回答者の年齢構成は、1年生27名、2年生21名、3年生19名であった。
調査方法	アンケートは、QRコードを付した依頼文を配付し、評価機関に直接電送してもらう方法と、アンケート用紙を事業所にて配付してもらい回答は返信用封筒にて評価機関に直接送付してもらう方法の2種類で実施した。

利用者総数 120

	アンケート	聞き取り	計
共通評価項目による調査対象者数	120	0	120
共通評価項目による調査の有効回答者数	67	0	67
利用者総数に対する回答者割合(%)	55.8	0.0	55.8

利用者調査全体のコメント

回答者の属性は、「利用者本人」が35.8%、「家族と相談」が58.2%、「家族が代弁」が6.0%であった。総合的な満足度に関する調査の結果は、対象者の89.6%が「よい」または「ややよい」と回答し、「どちらともいえない」が10.4%であり、大変高い満足度が得られている。

項目別では、＜生活について＞に関する5設問は2設問において、大変高い満足度であった。特に「学童での生活や遊びは楽しく興味が持てるか」では、85.0%の大変高い満足度が得られている。

＜安心・快適性＞に関する4設問は3設問において、大変高い満足度であった。特に「職員の接遇・態度」、「けが・体調不良時の対応」では、89.5%の大変高い満足度が得られている。

＜あなたを大切にしてくれているか＞に関する2設問は1設問において、高い満足度であった。「気持ちを大切にしてくれるか」では、73.1%の高い満足度が得られている。

＜嫌なことや、してほしいことについて＞では、「困ったり、してほしいこと」は、概ねの利用者が満足とする回答を得られているが、「職員以外への相談の案内」については、さらに高い満足度が望まれる結果であった。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	57	6	0	4
「はい」が85.0%、「どちらともいえない」が9.0%、「無回答・非該当」が6.0%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「イベントや行事がたくさんあり、とっても楽しい」、「いっぱい友だちとかるたをするのが好き」、「うるさすぎる」という声が聞かれた。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	50	12	0	5
「はい」が74.6%、「どちらともいえない」が17.9%、「無回答・非該当」が7.5%であり、高い満足度であった。自由意見では、「毎日優しく対応してくれて、とてもありがたいです」、「どんな先生でも、いったんやってみよう、みたいな方向に進んでくれるので、嬉しい」、「聞いてくれるが、「ちょっと待ってね」と忙しそうで、言いにくい場合もある」という声が聞かれた。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	54	8	1	4
「はい」が80.6%、「どちらともいえない」が11.9%、「いいえ」が1.5%、「無回答・非該当」が6.0%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「美味しい」、「いろいろなおやつがあって嬉しい」、「好きじゃないものも出てくるから」という声が聞かれた。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	39	8	1	19
「はい」が58.2%、「どちらともいえない」が11.9%、「いいえ」が1.5%、「無回答・非該当」が28.4%であった。自由意見では、「一人だけでなく、みんなに意見を聞いてくれて優しいと思います」、「話しを聞いてくれる」、「自分から話せない」という声が聞かれた。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	45	7	4	11
「はい」が67.2%、「どちらともいえない」が10.4%、「いいえ」が6.0%、「無回答・非該当」が16.4%であった。自由意見では、「これはだめだよ!」だけでなく、『なぜいけないのか』などもちゃんと教えてください」、「ちゃんとわかるように教えてくれるから嬉しい」、「人による」という声が聞かれた。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	45	11	6	5
「はい」が67.2%、「どちらともいえない」が16.3%、「いいえ」が9.0%、「無回答・非該当」が7.5%であった。自由意見では、「みんなトイレとかのスリッパの向きを直してくれるからうれしい」、「ちょっとだけきれい」、「レゴとかが散乱してる」という声が聞かれた。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	60	5	1	1
「はい」が89.5%、「どちらともいえない」が7.5%、「いいえ」が1.5%、「無回答・非該当」が1.5%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「みんな同じ服を着ているので、すごい」、「もっとフレンドリーで良い」、「たまに言い方がキツイ時がある」という声が聞かれた。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	60	0	1	6
「はい」が89.5%、「いいえ」が1.5%、「無回答・非該当」が9.0%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「早い対応でいつも助けられています」、「いろいろなところでケガをした時、先生が気にしてくれて嬉しいです」、「具合が悪くなったことがない」という声が聞かれた。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	54	8	0	5
「はい」が80.6%、「どちらともいえない」が11.9%、「無回答・非該当」が7.5%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「嫌なことがあったとき話を聞いて、本人に話してくれたのが嬉しかった」、「言えば、気づけば、助けてくれるとのこと」、「加害者の時だけ報告があるように感じます」という声が聞かれた。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	49	10	2	6
「はい」が73.1%、「どちらともいえない」が14.9%、「いいえ」が3.0%、「無回答・非該当」が9.0%であり、高い満足度であった。自由意見では、「みんな大切にしてくれている」、「ふつう」、「もう少し時間をかけて話を聞いてほしい時がある」という声が聞かれた。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	36	5	2	24
「はい」が53.7%、「どちらともいえない」が7.5%、「いいえ」が3.0%、「無回答・非該当」が35.8%であった。自由意見では、「そういう場面にあったことがないけど、守ってくれそう」、「内緒のことがない」、「経験がない」という声が聞かれた。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	44	8	0	15
「はい」が65.7%、「どちらともいえない」が11.9%、「無回答・非該当」が22.4%であった。自由意見では、「そういう場面にあったことがないけど、よくなるようにしてくれそう」、「よくなるようにしてくれるが、よくなるらない」、「覚えてない」という声が聞かれた。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	22	5	14	26
「はい」が32.8%、「どちらともいえない」が7.5%、「いいえ」が20.9%、「無回答・非該当」が38.8%であった。自由意見では、「そういう話はあまり聞いたことがありません」、「そういう場面がまだありません」という声が聞かれた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている 〇非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している 〇非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている 〇非該当
	カテゴリー1の講評	
	法人理念をホームページで示し、運営指針・運営計画を説明している 法人理念「総合的な教育やケアサービスを行うことにより、お客様の自己実現を支援し、豊かな社会づくりに貢献する」をホームページで示し、杉並区学童クラブ運営指針・杉並区子ども家庭計画に基づいて、学童クラブ運営計画(委託)を作成し職員には採用時と年度初めに説明している。子どもには活動の中で伝え、保護者には年2回開催の保護者会や個人面談などで丁寧に伝えるとともに、積極的なコミュニケーションにより、気軽に相談できる関係性の構築に努めている。法人案内や理念などは施設内に掲示している。 理念や運営方針を明確に示し、一人ひとりの役割と責任を職員に伝えている 法人としての理念や運営方針を明確に示し、達成に向けた経営層及び職員一人ひとりの役割と責任を職員に伝えている。学童クラブ運営方針(委託)は、職員全員が作成に関わっているため、自分たちが作成した計画であるとの意識が高い。新年度や年度末には、職員に方針を伝え、年度初めには予算や職員配置、分担表を示し、職員一丸となって運営計画達成に向けて取り組めるようリーダーシップをもって説明している。自己申告書や定期的な個人面談のほか、常にコミュニケーションを図り、職員一人ひとりが個人目標を達成できるように支援している。 全ての案件は、毎日実施している会議で必ず検討した上で決定している 重要な案件については、区から法人への通達を通して、現場へ情報が周知される体制が整備されている。全ての案件は、毎日実施している常勤会議や全体会議で必ず検討したうえで決定している。クラブでは判断できない案件に関しては、エリアマネジャーを通して法人や行政に指示を仰いでいる。決定事項は、その経緯も含めて全体会議で周知するとともに、必要な場合には資料を作成し配付している。子どもには活動の中で伝え、保護者にはお便りへの記載やメールにより周知徹底を図っているものの、更なるコミュニケーションの必要性を感じている。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>子ども、保護者、地域、職員の意向を運営に反映させている</p> <p>子どもの意向は、日々の活動の中で把握に努め、うまく言葉で表現できない子どもからは、活動中の表情やしぐさを見逃さず、読み取るように努めている。保護者の意向は、区内の学童クラブ統一の支援システム上のメールを中心に把握しているが、直接伝えに来る保護者もいる。地域のニーズや課題は、年2回開催している小学校校長や民生委員、保護者などが参加する運営協議会で把握に努め、運営に反映させている。職員の意向は、自己申告書や定期的な面談で把握し、何より風通しが良いことから日常的に相談・提案できる体制となっている。</p> <p>行政教育部の中長期計画に基づいて、学童クラブの単年度運営計画を作成している</p> <p>福祉事業全体の動向は、杉並区行政教育部の定例会をはじめとする行政からの情報や法人からの情報を基に把握に努めている。学童クラブ単独の中長期計画は作成しておらず、杉並区総合計画・実行計画や杉並区保健福祉計画、行政教育部の中長期計画に基づいて、学童クラブの単年度運営計画を作成している。予算は計画に沿って編成され、適切な管理と執行を行っている。運営計画では、「子ども一人ひとりの尊重と安心、安全」「子どもの健やかな成長」「子育て支援」「特別支援児童」の4項目を重点目標に上げている。</p> <p>運営計画の進捗は、毎日の職員会議で確認し、毎月区に報告している</p> <p>法人のビジョンや理念などは施設内に掲示し、学童クラブ運営計画(委託)を達成するため、組織目標のほか、職員一人ひとりが個人目標を定めている。その年度内達成に向けて、年2回の面談や日々のコミュニケーションの中で施設長やエリアマネージャーがアドバイスをを行っている。運営計画の進捗は、毎月の行事や避難訓練などの安全点検の結果や感想などを参考に、毎日の職員会議で確認し、毎月区に日誌を通じて報告している。学童クラブ運営状況報告において、年間の活動を総括し、結果を次年度に反映させている。</p>		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ3の講評

運営マニュアルに基づき、守るべき法や規範、倫理遵守に努めている

運営マニュアルを各施設に常設することで、社会人および福祉サービスに従事する者として守るべき法や規範、倫理を理解し、遵守できるように努めている。保育の基本に関する研修を実施し、児童青少年課主催の「子どもの権利と杉並区の条例について学ぶ」研修では、子どもの権利の基本的な考え方や「杉並区子どもの権利に関する条約」「杉並区の子どもの権利救済制度の概要」などについて学び、子どもの権利を尊重した対応の意識を高めている。研修参加後は、職員会議で共有し、全職員が子どもの権利を常に意識した支援の徹底に努めている。

苦情になる前の希望や要望の段階での対応を心がけ、改善に取り組んでいる

「杉並区子どもの権利相談・救済窓口」や「杉並保健福祉サービス苦情調整委員」について説明し、掲示して周知を図っている。発生した場合には、法人の苦情解決責任者へ報告し、解決に向けて迅速に対応する体制を整備している。クラブでは苦情になる前の希望や要望の段階での対応を心がけ、活動中の子どもの観察や傾聴に注力し、保護者からの意見は課題として検討、改善に取り組んでいる。虐待防止においては、研修と確認を定期的に行い、疑うような事例が発生した場合には学校、児童相談所、区、法人が連携して対応する体制を構築している。

地域連携会議や地域ネットワーク会議に参画して地域のニーズや課題の把握に努めている

クラブの活動内容は、クラブ便りや法人のホームページで紹介し、地域連携会議や地域ネットワーク会議に参画して伝えるとともに、地域のニーズや課題の把握に努めている。ボランティアやインターンシップの受け入れ体制を整え、祭りは地域の協力を得て開催することができおり、小中学生のボランティアなどの積極的な参加を促している。放課後子ども教室などの小学生とはイベントを通して交流を図り、警察署や消防署と連携して避難訓練や防犯訓練を実施することで、子どもたちの安全の確保に努めている。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー4の講評		
<p>毎月危機管理訓練や防災訓練を行うことで、万が一の発生に備えている</p> <p>火災や水害、地震などの自然災害リスクについては、学校との連携を密にし、柔軟に対応できる体制と危機管理マニュアルを整備して備えている。毎月危機管理訓練や防災訓練を行うことで、万が一の発生にも職員が落ち着いて適切かつ迅速に対応できるように努めている。地震や火災発生、不審者が来た時の対応に関する内容を実施し、子どもに対しても防災や防犯、交通ルールについて常に注意喚起を行っている。</p> <p>BCPにより、業務の継続や早期復旧への対応方針や手順が明確になっている</p> <p>法人ではBCP(事業継続計画)を安全対策部が策定し、各施設に常設している。BCPにより、業務の継続や早期復旧への対応方針や手順が明確になっている。BCPには参集リストも整備されているが、BCPの訓練は今後の課題としている。事故、感染症、侵入、災害などが発生した場合には、行政のルールを遵守し、速やかな報告を義務付け、拡大防止に努めている。事故報告書の分析による再発防止やヒヤリハットによる事故防止に努めているものの、ヒヤリハットの件数がまだ少ないため、今後の充実に期待したい。</p> <p>個人情報の収集、保管、管理は個人情報保護マニュアルに基づいて適正に行っている</p> <p>個人情報の取り扱いに関しては、入会時に説明し、同意を得ている。開示請求があった場合には、行政の制度に従い開示している。職員からは入職時に、在職中はもとより退職後も個人情報保護を遵守する旨の誓約書提出を受け、定期的に研修と個人情報保護テストを実施している。個人情報の収集、保管、管理は個人情報保護マニュアルに基づいて行い、個人情報は鍵付きの書庫で保管し、パソコンはパスワードで保護し、USBなどによるデータ持ち出しは禁止としている。保管年数などは行政の基準と法人のルールに従い、適正な廃棄を行っている。</p>		

5 カテゴリー5		
職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ-5の講評

人材の確保に取り組み、常勤・非常勤の格差のない風通しの良い職場環境が作られている

ハローワークや就職フェア、ホームページ、ネット求人などを活用して広く募集し、募集には必要な要件を明記し、適正検査の実施により求める人材の確保に取り組んでいる。採用した人材は、年齢や経験、能力に応じて、自己申告書を基に最適な配置を目指している。その結果、幅広い年齢層の職員が経験に合わせて配置され、常勤・非常勤の格差のない風通しの良い職場環境が作られている。職員数が増えたこともあり、毎日の会議でも活発な意見交換がなされ、サービス向上に向けて共通認識のもと取り組んでいる。

自己申告書を基に、職員一人ひとりの育成計画を立案している

自己申告書を基に、クラブ長やエリアマネージャーとの面談を通して、運営計画達成のための自己目標のほか、課題や研修希望、自己実現目標などを把握し、職員一人ひとりの育成計画を立案している。新入職員はOJTを中心に育成に努めている。毎日の常勤会議と全体会議では、サービス向上に向けて日々振り返りを重ねている。事故やケガなどへの対応、アレルギーチェック、子どもの希望や要望の聞き取り、過ごしやすい環境整備などの情報が共有されていることから、120名定員で特別な支援が必要な子どもも積極的に受け入れることができる。

研修参加後は、職員会議で研修内容を共有し、一人の学びをクラブ全体の学びとしている

職員一人ひとりの育成計画に基づき、研修を受講している。研修は、杉並区人材育成方針に基づき児童青少年課で課内研修が企画されている。研修参加後は、職員会議で研修内容を共有し、一人の学びをクラブ全体の学びとしている。ほかにも、「児童との接し方」「ハラスメント」「個人情報保護」「アレルギー」「身だしなみ・マナー」などの、保育に必要で日頃から実践すべき内容に関しては、繰り返し研修を行うことで理解を促している。今後は、新入職育成のためのマニュアル類の整備と外部研修の充実にも期待したい。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題】

子ども(児童)、保護者にとって安心安全で信頼される施設を目標に、クラブ長を中心にして常勤・非常勤に関わらず全職員がコミュニケーションを図り、細かな事案でも相談し合える体制を整える。問題となった事案は皆で話し合い、改善策を検討し、実行に移すようにする。

【抽出理由】

多くの子どもを預かる中、様々な事案が発生するため、子ども、保護者のもとより、行政にまで信頼を損なわないよう真摯に対応していく必要がある。子どものケガへの対応が不十分で、施設運営に重大な問題を引き起こす案件が発生したことから、上記を課題とした。

【取り組みと結果】

「児童との接し方」「ハラスメント研修」「個人情報保護」「アレルギー研修」「身だしなみマナー研修」など日頃から実施すべきルーチンの研修を繰り返し行い、周知徹底と理解を促した。特に問題の正確な把握、報告、連絡、相談、関係各所への正確な報告ができるよう研修やロールプレイを実施した。

課題はあるものの、全職員の連携と子どもへの注意喚起により大きなケガなどを伴う問題の発生は防ぐことができた。

今後とも保護者の協力も得ながら、法人と連携して事故やケガのない安心安全な施設運営を目指したい。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</p> <p><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</p> <p><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</p>
<p>取り組みの検証</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</p> <p><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</p> <p><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p>
<p>検証結果の反映</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</p> <p><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</p> <p><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p>

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

【考察】

今回の取り組みの結果として、今年度は子どものケガや事故などの大きな問題は発生することなく、保護者からも信頼を得ることができている。繰り返し研修やロールプレイを行った成果でもあるが、何より毎日しっかりと会議を行い、職員間で情報共有と意識統一を図った効果が大きい。しかしながら、今回の家族アンケートでは、ケガやトラブルの報告に関してはより丁寧な報告を求める声もあった。個人名が特定されないようにするなど報告方法は難しいが、ケガやトラブルに関しては当事者だけでなくほかの保護者にも対応の経過を伝えることで、より信頼関係が強まるのではないだろうか。

子どもたちは毎日楽しく登所しており、安心安全で楽しい施設としての役割を遂行できている。ケガや事故は一人ひとりが注意していても起こることであり、発生の事情もさまざまであることから、ますます職員の対応は難しくなってくる。特別な支援を要する子どもも増えることが想定され、今後はさらに万々に備えてあらゆる方向から問題を考え、俯瞰できるよう「問題の先見性」を備えることが必要であり、そのためにはヒヤリハットの充実を期待したい。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題】

自己実現の支援として子ども、保護者、利用者一人ひとりのニーズに応じたサービスを提供し、自立と成長を支える

【抽出理由】

通う子どもは多様で、本来は一人ひとりの子どもに向き合い、成長を促していくことが求められる。しかし職員の人手不足などにより、受け入れ人数や長時間の保育が難しく、きめ細かな対応ができていないと言いつい難い現状にある。

【取り組みと結果】

子どもの安心安全な居場所を確保し、子どもの過ごす場において育成支援を行い、保護者から信頼を得て、保護者が安心して就労できる施設とする必要がある。一人ひとりのニーズに応えるため、各種の研修を都度実施し、特に職員の採用時には保育の基礎知識を学び、実践できるよう基礎的な研修を実施し、職員の理解を深めている。

一日保育などの職員が多忙な時期に実施できなかったことなど、本来であれば何度でも繰り返し実施するべき保育の基礎研修が十分にはできなかった。特に施設開設時から勤務している職員へ再研修ができないままとなっている。

特別な支援を要する子どもも増えていることから、今後とも計画的な研修を継続して、職員の支援力強化を図りたい。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った<input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった<input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った<input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた<input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

【考察】

学童クラブは子どもたちの安心安全を見守り、子どもの成長を支えることで、保護者の子育てを力強くフォローする施設である。保護者の考え方は、預け先から子どもの成長を促す多様な体験の場へと変化し、安心・安全の確保に加え、プログラムの充実、柔軟な利用時間、保護者との密な連携、子どもの意見尊重などを求める傾向が強まっている。そのため、職員の充実、専門性、質の向上が喫緊の課題であり、研修などの実施により職員のスキルアップを図る必要がある。

離職者を上回る採用が進み増員することができ、常勤・非常勤の格差のない風通しの良い職場環境が作られ、毎日の会議でも活発な意見交換がなされ、サービス向上に向けて共通認識のもと取り組んでいる。

しかし、職員アンケートではマニュアルや新入職員への研修制度に不安の声もあがっている。無資格や未経験、外国人職員も活用できるよう、さらに詳細なマニュアル、フローチャートや画像、チェックシートを備えた使いやすいものにブラッシュアップする必要がある。職員が増員された現在、新任研修や現任研修を再構築するチャンスでもある。マニュアル類をブラッシュアップし、研修体制を再構築することを期待したい。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>		
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
サブカテゴリー1の講評		
<p>保護者の了承のもと写真を施設内に掲示して、活動の様子を視覚的に伝えている</p> <p>当クラブの情報は、杉並区のHPの学童クラブのページに掲載されている。また、学童クラブ内には、保護者の了承を得たうえで写真を多数掲示して学童クラブの活動の様子を伝えている。毎年3月には入会説明会を開催し、入会のしおり(クラブ作成の入会案内)と学童クラブ利用案内(杉並区資料)を配付してクラブの情報や申し込み手続きについて詳細に説明している。さらに、年度初めや夏休み前には保護者会を開催し必要な情報を適時提供するなど、子どもや保護者が必要な情報を適切に得られるよう取り組んでいる。</p> <p>学童クラブ利用案内には運営内容や費用など詳細な情報を掲載している</p> <p>年度ごとに当クラブ作成の入会のしおりを作成して入会説明会で情報を伝え、杉並区作成の学童クラブ利用案内では、利用対象の子どもや入会期間、運営内容や費用などを詳しく掲載している。入会の申請から入会までの手続きの流れも図解入りでわかりやすさに努めている。学童クラブ利用案内は、説明会で配布するとともに、杉並区のHPからダウンロードできるようにしており、利便性を確保している。</p> <p>見学の場合は短時間の説明とともに子どものリアルな活動を見てもらっている</p> <p>見学の申し込みなどの問い合わせの電話は常勤職員が対応し、希望日時を確認して必要事項を的確に伝えるようにしている。電話対応の内容は電話記録として記録し、ほかの職員が見学の対応をする場合でも一貫した対応となるよう心がけている。また、運営時間外での見学時には館内に掲示した写真の閲覧や、育成内容、遊びの様子を時間をかけて詳しく説明し、運営時間内の見学の場合は短時間の説明とともにリアルな活動の様子を見もらうなど、状況に応じた対応に努めている。</p>		

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	8/8
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(00000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>健康状況やアレルギー、生活の様子などを確認し一人ひとりに応じた支援に努めている</p> <p>施設利用にあたり、不安や疑問点が解消されるよう申請書の提出時の面談や、施設の見学を実施し、また新規入会者に向けた入会説明会を入会前の3月に実施して保護者からの質問にも丁寧に対応している。さらに、入会面談や保護者会の際に健康状況などを詳しく確認し、面談記録などに記録して入会後の支援に活用している。加えて、保育園・幼稚園・子ども園などでの集団生活の様子や、必要な配慮事項についても確認し、子ども一人ひとりに応じた支援が実現できるよう体制を整えている。</p> <p>入会の子どもには環境に慣れるまで積極的にコミュニケーションを取るよう配慮している</p> <p>入会面談で保育園などにいた時の集団や家庭での様子、個人の不安な点などを確認し、利用時に配慮すべき内容を職員間で共有している。アレルギー(エビペン所持の有無)や健康状況について詳細に聞き取り、「学童クラブアレルギー調査表」などを提出してもらい適切に管理している。4月から5月は、小学校入学と学童クラブ入会という新しい生活が同時に始まる時期であり、新入会の子どもが新しい環境に慣れるまで職員から積極的にコミュニケーションを取り、子どもが自分の居場所として感じてもらえるよう特に配慮している。</p> <p>配慮が必要な子どもには、配慮すべき内容を特に詳しく聴取して職員間で共有している</p> <p>配慮が必要な子どもの受け入れに際し、環境整備と情報共有を図っている。入会時に、現在自身でできること、サポートが必要なこと、配慮してもらいたいことなどを保護者や保育園、小学校などから聴取して生活状況調査票を作成し、職員間で共有して適切な対応に努めている。また、利用開始後も、日々の支援の状況を生活記録に毎日記録し、職員間で共有して特性に応じた支援となるよう努めている。さらに、退会時には、必要であれば移転先の居場所事業所に当クラブでの様子やサポートが必要なことなどを共有し、生活の連続性を考慮した支援に努めている。</p>			

サブカテゴリー3

3 個別状況の記録と計画策定 サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 10/10

評価項目1
 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している 評点(0000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2
 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3
 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー3の講評

育成支援の目標に沿った計画を策定し、適切な支援を行っている
 クラブ長は、法人の経営理念・保育方針を念頭に置き、区の学童クラブ運営方針に則して年度ごとの目標を設定し学童クラブ運営計画を策定している。今年度は、子ども一人ひとりの尊重や安心安全、健やかな成長、子育て支援などを重点目標として定め、日々の運営に取り組んでいる。特に配慮が必要な子どもについては、特別支援児童プロフィールを作成し、職員間で情報を共有することで一貫した支援を実施している。さらに、4月と7月に開催する保護者会では、学童クラブ運営計画を説明し、保護者の理解を得よう努めている。

日々の子どもの様子を朝・夕のミーティングで共有し、必ずノートや日誌に記録している
 日々の子どもの様子について、朝・夕のミーティングで話した内容をミーティングノートに記録している。保護者にも連絡帳にて記載して伝えている。運営中のトラブル、ケガ、体調不良は学童クラブ日誌に記録し、緊急を要する場合は電話等で保護者に報告している。気になる点や家庭からの相談内容は、必ずミーティングで共有して健全な育成につなげるよう努めている。また、特に支援が必要な子どもについては、配慮すべき点を継続的に支援できるよう、日誌のほかに「生活記録」(個別の育成記録)に記載して職員間での情報共有を図っている。

ミーティングノートの漏れのない記録と全職員の確実な共有に向けた工夫が期待される
 朝・夕のミーティングの時間を利用して、トラブルやトピックのあった子どもに関して、保護者の状況の変化など個別の事情や支援の方向性について話し合う機会を持つようにしている。さらに、子ども一人ひとりの理解を深めるため、定期的な振り返りを行い、具体的な支援方法の見直しも進めている。一方、休暇などでミーティングに出席できなかった職員は、ミーティングノートで内容を共有することとしているが、確実なノートの確認を担保できる仕組みとはなっておらず、課題としている。漏れのない記録と確実な共有に向けての工夫が期待される。

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリー5の講評			
<p>子どもや保護者のプライバシー保護を徹底するための体制を整えている</p> <p>入会手続き時に、個人情報の取り扱いに関する同意書に署名を得、さらに、保育園や小学校などに話を聞く際も保護者に連絡をとり了解を得たうえで実施している。また、子どもの活動の様子を記録した写真は学童クラブ内の掲示に限定し、クラブだよりなどの広報誌には掲載せず、保護者と重要な話をする際も個室利用とするなどプライバシーを確保している。法人では育児分野の個人情報マニュアルを整備し、プライバシーに関する研修を実施するなど、職員の個人情報取り扱いに関する意識向上を図っている。</p> <p>子どもの「自分で決める権利」を守り、意思を尊重する支援に努めている</p> <p>子どもが主体的に行動できるよう、その日のスケジュールをホワイトボードに記して「見える化」し、子どもが自ら考えて遊びを選び、自分の流れに乗れるような環境を整えている。自分で決められずに流れに乗れない様子であれば、前向きになれるような声かけや見守りをしながら、急かさずに余裕をもって次の行動に移れるよう寄り添うことを心がけている。入会時の面談や個人面談を通じて保護者の思いを傾聴し、学童クラブで対応できることを話し合い、家庭の価値観に配慮した支援に努めている。</p> <p>常時複数職員が見守る体制を整え、子どもの安全確保とトラブル防止に努めている</p> <p>子どもが活動する部屋は全3室あり、それぞれに原則3名の職員を配置し、職員1名が外しても常時複数職員が見守れる体制を整えて事故やトラブルに対処できるよう配慮している。子どもの口調、行動など少しでも気になる様子があった場合は、ミーティング時に報告し、対象の子どもがどの部屋にいても継続的に見守れるよう全職員が連携して対応している。また、喧嘩やいじめなどのトラブルの際は、子どもごとに個別に聞き取りをした上で対応を検討し、必要に応じて双方の保護者に連絡をとり解決を図るよう取り組んでいる。</p>			

サブカテゴリー6

6 事業所業務の標準化

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

3/5

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(○○●)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(○●)

評価	標準項目	
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映している	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー6の講評

区、法人、クラブ策定の各種マニュアルを整備し、職員が活用できる体制を整えている

法人策定の安全管理マニュアルや杉並区策定のマニュアルなど各種マニュアルを整備し、事務室に常設して職員がいつでも閲覧できるようにしている。また、当学童クラブ独自のマニュアルも作成され、おやつ提供など具体的なルールを定めている。一方、繁忙時など、ゆとりがない状況においては自分のやりやすい方法で対応する職員もおり、改善すべき課題としている。職員全員が一貫した対応を徹底することで、子どもたちが安心して過ごせる学童クラブとなるよう、さらなる業務の標準化が期待される。

業務点検やマニュアル見直しのルール化など、業務標準化の取り組みが望まれる

当学童クラブでは、区の入会事務説明会や委託学童クラブ担当者会議で変更点が生じた場合、マニュアルを改訂し、最新の基準に沿った運営に努めている。法人でもマニュアル見直しを実施した場合は、エリアマネージャーから共有され、資料の差し替えをして職員に周知している。一方、業務の定期的な点検の体制やマニュアル類の見直しの基準は整備されておらず、第三者評価における職員調査でも職員の自己評価が不明瞭となっている。例えば、年に一度のチェックリストによる業務点検やマニュアル見直しのルール化など、業務標準化の取り組みが望まれる。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
		29 / 29	
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している			
		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>子ども一人ひとりの全体的な姿を把握のもとに支援・援助に取り組んでいる</p> <p>子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などは、児童台帳、日誌、連絡帳、ミーティングノートなどで把握しており、子ども一人ひとりの全体的な姿を職員間で共有し、さらに、入会面談や入所後の個人面談、日々の相談などにおいて把握した情報を加味し、支援・援助に反映している。異学年同士で自然と交流できるようなイベントを含め、日常的な遊びでも職員が軸となり、交流の輪が広がるよう努めている。支援が必要な子どもに対しても、ほかの子どもと分け隔てなく、対応することで共通認識の下、お互いの関係を豊かに作り出せるよう援助している。</p> <p>子ども同士がお互いを認め尊重し合えるよう援助している</p> <p>発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対しては、ほかの子どもと分け隔てない対応を基本に、過度な支援はしないよう配慮している。感情が高ぶった際には、声がけは控え、その子が落ち着ける環境に移動し、自然と自分で気持ちを鎮めるのを見守る姿勢を基本としている。子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげることなどに対応できるよう援助している。子どもの見守り対応をする職員が固定でないことから、支援に違いが生じないように対応後にその日の行動記録を残し、全体でも共有して担当でない職員も配慮できる体制にしている。</p> <p>子ども一人ひとりの特性を受け入れ、柔軟な対応を心がけている</p> <p>発達面で特に配慮が必要な子どもへの日々の対応について確認したい内容は、保護者や保護者を通じて学校の先生に相談している。また、巡回指導者からの助言は口頭での共有とレポートの確認を徹底しており、共通理解のもと継続的な支援を心がけている。ほかの子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している。支援が必要な子どもに関しては、そのタイミングまで待つことが難しい状態があることから、簡易テントなど、一人になれる空間を用意するなどの改善が求められる。現在は、普段利用場所としていない廊下をクールダウンする場としている。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している			
		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p>子どもの自主性を尊重し、安心して過ごせる環境づくりに取り組んでいる</p> <p>育成室は3部屋あるが、各部屋に種類の異なる遊具を置き、「勉強とおやつ」以外は自分の好きな遊具で遊べるようにしている。また、子どもが提案・運営する夏祭り・ハロウィン・クリスマスなどのイベントを実施するなど、子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している。当番活動などで子どもたちの中心となる活動の場を増やすことで、継続的に行うことで自然とお互いを支え合い、声をかけ合える関係性を築き、子どもたちがより自主性を育める支援を目指している。</p> <p>何をすべきか事前に把握し、自主的に行動できるよう子どもに呼びかけている</p> <p>今日の過ごし方やイベントなど予定や帰宅時間を自分で確認し、対応できるようにホワイトボードの用意をしている。また、全体への周知を深めるため、全員が集まるタイミングで各部屋でホワイトボードを基に口頭説明をするなどにより、子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している。集団生活において、何をすべきか事前に把握し、自主的に行動できるよう子どもたちに呼びかけている。また、ほかの子どもとの関わりの中で、トラブルなどの話し合いの場では、子ども同士の話し合いが進められるように職員がサポートすることになっている。</p> <p>生活や遊びを通して基本的な生活習慣を習得できるよう援助している</p> <p>生活のルールは習慣となるよう、入所当初はより丁寧に伝えることを心がけている。日々の活動の中で、手洗い・うがい・水分補給・食事のマナー・座って遊ぶことなどについては、繰り返し声をかけ、習慣化できるよう援助している。遊びははじめにルールの確認をみんなで行い、その中でトラブルが起こるようであれば関わった子ども全員でルールの再確認と変更点などを話し合えるようサポートすることによって、生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している。</p>			

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3の講評		
<p>日常的な外遊びなどのイベントについても増やすことを目指している</p> <p>行事などの実施にあたっては、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している。毎月、工作・検定・グループ遊びなどさまざまなものを季節感を取り入れながら、企画している。現在は、夏まつりやハロウィン、クリスマス会など大きなイベントの企画を主に実施しているが、今後は、日常的な外遊びなどのイベントについても企画してもらえる機会を増やすことを目指している。子どもが関わるイベントを増やしたことで、子どももやりがいを持って積極的に参加している様子が見受けられるとして、今後も拡充を計画している。</p> <p>子どもが意欲的に行事へ取り組めるよう、保護者の理解や協力を得る工夫している</p> <p>行事を行う際には、保護者に行事の詳細を記載した学童クラブのお便りなどを電子配付をして、周知を図っている。保護者会では、年間の行事予定について説明を行い、学童クラブでの活動について事前に理解を深めてもらう機会を設けている。子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者にも活動を見てもらえるよう、活動の写真を保護者が参加する会の資料やお迎えに来る玄関口に掲載している。またお便りにて活動の様子を伝えるなど、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている。</p>		
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4の講評		
<p>子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している</p> <p>1日の過ごし方を掲示と全体での口頭説明にて事前に伝えている。自主的に行動できるよう共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している。室内では、同類の遊びで場所を分け、遊びやすい環境設定をしたり、宿題の取り組みなどで静かな環境を望む子どもには、外遊び等で活動しない部屋が出た際に提供するなど、子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している。遊具やイベントなどのリクエストボックスの設置など、子どもの意見が反映される機会を増やすことを検討している。</p> <p>学童クラブでの時間がより充実したものとなるよう援助している</p> <p>子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように、学童クラブから参加できるものに関しては、参加方法や人数設定など放課後等居場所事業の職員との打ち合わせを行い、職員が引率し、連携を取りながらイベントに参加できるように援助している。環境については子どものニーズを把握し、要望に応じた遊具や図書の実装を図っており、学童クラブでの時間がより充実したものとなるよう援助している。</p>		

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当

評価項目5の講評

学校や関係機関との情報共有に努めている

子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、月に1度行政の職員も含め、学校との情報共有の会議を実施して、情報交換や情報共有など連携している。不登校など課題を抱える子どもについては、学校と行政と相談の上対応を決定するなど、密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している。学校には、会議の場だけでなく、気になる子どもの様子やケガや喧嘩等のトラブルについて日常的に報告、相談をしている。学校からも学童クラブに通う子どもについて学校で起きた出来事の対応などを共有している。

特に配慮が必要な子どもへの支援は関係機関との連携を深めることに取り組んでいる

発達面で特に配慮が必要な子どもや養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、保護者に内容を伝え、担任の先生に相談をしてもらい共有する流れとしている。養護学校、子ども発達支援センター、放課後等デイサービスなどの関係機関と情報を共有し、実際に関係機関で過ごす子どもの様子を見学に行く機会なども図っている。養護学校の先生が学童クラブの様子をみるために見学に来所したこともあり、教育機関、福祉関係機関、医療機関等と連携をとり支援を行っている。共有不足がないよう、今後も連携して支援することを目指している。

6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当

評価項目6の講評

子どもの自主性を尊重して楽しく「おやつ」が食べられるようにしている

楽しみながら食べることを大切に、学童クラブならではの温かい雰囲気の中で、子どもたちが安心して過ごせるよう努めている。子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるよう、同じ学年で仲のいい子どもや他学年を混合し、安心して落ち着けるおやつタイムになるよう工夫し、雰囲気作りに配慮している。友だちと一緒に喫食できることになっているなど自由度が高く、子どもたちの自主性を尊重するクラブの意向を読み取ることができる。

子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している

1食3品用意しており、お菓子のほか、保護者からの要望もある補食になるような焼きおにぎりなどの食品も提供している。長期休みには、手作りおやつを実施したり、季節のイベントには特別感のあるおやつを提供するなど、おいしく楽しくおやつ時間を過ごせるよう工夫している。なお、入所時に提出する調査表(アレルギー調査表、アレルギー確認表)をもとに対応している。アレルギーの有無については、複数の職員で成分表とチェック表の確認をし、全体に周知を図っている。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>子どもが自分の健康や安全に関心を持てるよう援助している 来所時や食事の前後の手洗いが習慣化されるよう見守り、適宜声かけをして対応している。体調に違和感があるとき、ケガをした際は、近くにいる職員に声をかけるよう常時子どもたちには伝えるなどにより、子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やケガを予防・防止できるよう援助している。手洗いの方法や感染予防などは、口頭のみでの対応をしていたことの反省から、ポスター掲示により子どもにより伝わりやすい形で情報提供し、手洗い習慣や予防を身につけられるよう改善していくことを目指している。</p> <p>医療的ケアが必要な子どもの援助ができる体制を整えている 医療的ケアが必要な子どもなどに関しては、入所の手続きの際に全家庭にかかりつけ医の確認をして専門機関等との連携に基づく対応をしている。実例をもとにケガの事故を想定したロールプレイングを交えた研修を実施し、全職員で対応の確認を行っている。また、アナフィラキシーが起こった際の症状や対処法、使用方法についてエピペン研修を実施している。骨折をした子どもに対しての対応が不十分な事案があったため、引き続き事例をもとに、ケガが起きた際の対応を全職員が動けるよう定期的に研修の開催を計画している。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>個々の事情に配慮し、保護者が安心して子育てできるよう支援に努めている 入会の面談時に保護者の就労の状況や子どもの様子を聴取し、毎年6月は個人面談期間とし、随時面談を実施して家庭での様子などを確認するなど、子ども一人ひとりに適した対応ができるよう努めている。保護者会を年に2回開催して保護者との意見交換の機会とし、子どもの成長について共に考える貴重な場となっている。さらに、迎えの際の会話や連絡帳、電話など、子どもの様子を適宜伝えることで信頼関係を構築し、就労等で多忙な保護者も安心して子育てができるようサポートしている。</p> <p>保護者同士の交流の場を積極的に設け、支援の充実を図っている 保護者会を年2回開催し、その中でグループトークの時間を設けて保護者同士が直接交流しながら子どもの成長について情報交換できる場となるよう配慮している。また、保護者も参加するイベントでは、保護者同士が自然な形で関係を築ける機会ともなっており、保護者会主催でのイベント開催も計画されている。さまざまな取り組みにより、保護者同士がつながりを深め、学童クラブと家庭が連携しながら子どもを育む環境を形成しており、今後も交流の機会を継続し、より円滑な保護者支援を目指している。</p> <p>保護者と連携しながら子どもの安全を確保する取り組みが行われている 学童クラブでの気になる様子やケガなどは連絡帳でこまめに保護者に伝え、相互に連絡をとりやすい関係性の構築に努めている。出欠席の管理は、区の情報伝達アプリを活用して保護者から出欠予定を得て出欠確認を実施している。予定の連絡がない場合や、連絡がない状態で子どもから帰宅時間の申し出があった場合などは、必ず保護者に電話で連絡を取り確認している。迎えの際には、その日の遊びやトラブル、ケガの有無を伝えることで、保護者と日々の様子を共有し、保護者が安心して子どもを預けられるような環境を整えている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域資源を活用し、子どもが多様な体験ができる環境を整えている</p> <p>周辺には広場や公園も多く、日常的に公園を利用して身体を動かす遊びを積極的に取り入れ、子どもが屋外で自然と触れ合いながらのびのびと活動できる機会を多く設けている。公園では、保育園や学童クラブ以外の子どもに会う機会も多く、時間を共有している。また、夏休みには近隣の図書館へ出かけ、1日の長い時間の中で気分転換する時間も創出している。さらに、上層階のスマイルスクール(放課後等居場所事業)とも連携して放課後の活動の選択肢を増やすなど、地域のさまざまな環境や人と関わる機会を確保し、生活の幅を広げることに取り組んでいる。</p> <p>「スマイル子ども縁日」を開催し、地域の子どもや大人との触れ合いに取り組んでいる</p> <p>学童クラブでは、地域との交流を大切にし、子どもが地域社会と関わる機会を提供している。地域の行事のお知らせはポスターを掲示し、子どもたちが興味を持つイベントに参加しやすいよう促している。また、小学校のPTA主催の夏祭りには、学童クラブで「むかし遊び」コーナーを担当し参加している。さらに、スマイルスクールと合同で「スマイル子ども縁日」(秋祭り)を開催し、地域の子どもや大人と触れ合う機会づくりに努めている。子どもが地域の一員としての意識を育み社会性を身につけられるような機会づくりに取り組んでいる。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル①	安全対策マニュアル・安全対策ニュース・BCPIによる安全対策を推し進めている	
内容①	法人では、施設運営のバイブルともいえる「安全対策マニュアル」を安全対策部が中心に作成し、全施設に常設している。「事故予防こそが安全対策の第一歩」と捉え、事前、有事、事故の区分を明確にし、効果的な安全対策を推し進めている。また社会全体や業界内で発生した事件や事故の情報を「安全対策ニュース」として施設に届け、ほかの施設の事例を参考に自施設の安全対策の再点検を行っている。同様にBCPを各施設に常設し、業務の継続や早期復旧への対応方針や手順を明確にしている。参集リストも整備し、万が一の事態に備えている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-5-2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している
タイトル②	子ども自身の選択や決定を尊重し、自分の「居場所」となるよう努めている	
内容②	子ども自身の選択や決定を尊重し、主体的に行動できるよう日々のコミュニケーションや環境づくりに配慮し、子ども中心でつくるイベントの企画を取り入れている。その日のスケジュールをホワイトボードに記して「見える化」し、子どもが自ら考えて遊びを選び、自分の意思の流れに乗れるよう環境を整えている。自分で決められずに流れに乗れない様子でも、急かさずに余裕をもって次の行動に移れるよう寄り添っている。学童クラブが、子ども一人ひとりにとって自分の「居場所」となるような支援、運営に努めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-3	日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している
タイトル③	子どもの主体性を育むイベントを充実することに取り組んでいる	
内容③	夏まつり、ハロウィン、クリスマスと子どもからスタッフを募り、企画から運営まで担うイベントを実施しており、子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている。夏は暑さのために外での活動が難しくなることを考慮し、学童クラブ内で楽しめる機会作りに取り組み、子どもが主体となったゲームの企画・運営などの機会にもつながっている。また、活動を通じて異学年の交流を深める場にもなっている。イベントの準備には時間をかけ、子どもたちが主体的に関わりながら充実した経験につながるよう配慮している。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもたちが実行委員となり地域参加のイベントを企画するなど、地域の一員としての意識を育めるよう取り組んでいる
	内容	地域との交流を重視し、数多くのイベントや外遊びの場を用意して、子どもたちが地域社会と関わる機会の提供に取り組んでいる。イベントは盛りだくさんで、小学校のPTA主催の夏祭りには、子どもたちが実行委員となって「むかし遊び」コーナーを担当し、スマイルスクールと合同開催の「スマイル子ども縁日」では、地域自治会と協力して子どもと大人の触れ合いの場としている。ハロウィンやクリスマス会も子どもたちが実行委員となって企画し、子ども主体で地域の一員としての意識を育めるよう取り組んでいる。
2	タイトル	子どもが楽しく学童クラブに通い続けられるような支援・援助に取り組んでいる
	内容	子どもが自ら進んで学童クラブに通い続ける運営を目指しており、「続きがある検定や工作」などを取り入れ、継続的に通う楽しみをもってもらえるようなイベント企画に力を入れている。また日常的に居場所として安心して過ごしてもらえよう、生活リズムに大きな変化をつけないよう心がけて援助している。職員から声をかけ、子ども自身からも話をしやすい関係性を築くことで、「来なくてはいけない場所」ではなく、「居心地のいい自分の居場所」として感じてもらえるような対応に取り組んでいる。
3	タイトル	風通しの良い職場環境と良好なチームワークが、子ども一人ひとりと向き合い、安心安全を見守り、成長を支えている
	内容	幅広い年齢層の職員が、経験に合わせて配置され、常勤・非常勤の格差の無い風通しの良い職場環境が作られ、良好なチームワークのもと支援が提供されている。今回職員数が増えたこともあり、毎日の会議はより充実が図られ、活発な意見交換により日々改善が進められ、共通認識のもとサービス向上に向けて取り組んでいる。その結果、職員全員が子ども一人ひとりと向き合い、気持ちを尊重した丁寧な支援が提供に努めている。特別な支援が必要な子どもも積極的に受け入れ、安心安全を見守り、成長を支えている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	定期的な業務点検やマニュアル見直しのルール化など「活用されるマニュアルづくり」を進め、さらなる業務の標準化が望まれる
	内容	法人の安全管理マニュアルや杉並区策定のマニュアル、学童クラブ独自の各種手順書など、事務室に常置して職員がいつでも閲覧できるようにしている。一方、第三者評価における職員自己評価では、多くの項目で良好な理解度が示されている中、業務標準化項目の「日常的な手引書活用」や「手順書改変・見直し」については「そうは思わない」や「わからない」という回答が多く見られる。チェックリストによる定期的な業務点検やマニュアル見直しのルール化など、「活用されるマニュアルづくり」を進め、さらなる業務の標準化が望まれる。
2	タイトル	職員間の連携や情報共有の充実を目指している
	内容	職員間の情報共有のため、日々2回ミーティングを実施しており、内容は記録に残して休みの職員も共有ができる体制を設けている。また、ミーティングは、内容や今後の対応など事案について詳細を共有し話し合う場としても活用している。また、終業ミーティング時の内容は、休み明けに確認するように伝えているが、適切に共有されていないことを学童クラブでは認識している。さらに、記録に関しても終業時と始業時の内容に差異や漏れがあることを踏まえ、情報共有の精度を高める具体的な工夫が求められる。
3	タイトル	マニュアル類のブラッシュアップと研修体制の再構築に期待したい
	内容	自己申告書を基に、面談を通して職員一人ひとりの育成計画を立案、計画に基づき育成にあたり、研修を受講している。研修は、杉並区児童青少年課の課内研修を中心としながらも、「児童との接し方」「ハラスメント」「個人情報保護」「アレルギー」「身だしなみ・マナー」等の研修や外部研修にも参加し、参加後は、職員会議で研修内容を共有し、一人の学びをクラブ全体の学びとしている。しかし、職員アンケートではマニュアルや新入職員への研修制度に不安の声もあることから、マニュアル類のブラッシュアップと研修体制の再構築に期待したい。

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

令和 8年 3月 31日

杉並区長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町1丁目5番地4-712

評価機関名 株式会社 ケアシステムズ

認証評価機関番号

機構 06 - 167

電話番号 03-3511-5035

代表者氏名 和田 俊一



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	大輪 光宏	経営	H2201047
	②	坂本 里香子	福祉	H1302028
	③	和田 輝美	福祉	H1001021
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	桃五学童クラブ			
事業所連絡先	〒	167-0022		
	所在地	東京都杉並区下井草4丁目23番8号		
	TEL	03-3399-5185		
事業所代表者氏名	クラブ長 立花 郁子			
契約日	2025 年 7 月 15 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 10 月 20 日			
利用者調査結果報告日	2026 年 1 月 24 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 10 月 20 日			
自己評価結果報告日	2026 年 1 月 24 日			
訪問調査日	2026 年 1 月 31 日			
評価合議日	2026 年 1 月 31 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は、調査実施日現在、当事業所を利用している全ての利用者を対象にアンケートを実施した。事業所と評価機関の連名による依頼状にアンケート用紙と返信用封筒を同封して対象者に配付、回答は評価機関に直接送付してもらった。 事業評価に際しては、事前説明を行うとともに、職員からも個々の標準項目にチェックを入れた分析シートを回収し参考とした。 第三者性の確保については、当評価機関、担当評価者と事業者との間に事実上、人事上の関係は一切存在しないことを確認し、中立公正な評価に努めた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません
- 別添の理由書により、公表には同意しません

年 月 日

事業者代表者氏名 社会福祉法人福音寮 秋山 由美子 印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)あたたかな環境の中で「ほっとした気持ちになる」居場所づくり 2)信頼の繋がりのもと、職員・子ども・保護者が共に育ち合う 3)職員が子どもたちの成長を理解し、関わりを積極的に深めていく 4)集団をとおして他児とのあたたかな関わり 5)生活の場として思いやりを育む</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち一人ひとりに寄り添うことができ、思いや願いを受け止め、誠実に対応する。子どものことを第一に考えられる職員 ・温かな眼差しを持った職員 ・子どもと共に成長できる職員 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども、保護者に対し、常に誠実な姿勢、態度、対応をする ・誰からも信頼されるような関係づくり ・職員自ら成長しようという意欲を持つ

調査対象

調査日現在、当事業所の利用登録者総数である142名を調査対象とした。回答者の年齢構成は、1年生22名、2年生16名、3年生8名、4年生5名であった。

調査方法

アンケートは、QRコードを付した依頼文を配付し、評価機関に直接電送してもらう方法と、アンケート用紙を事業所にて配付してもらい回答は返信用封筒にて評価機関に直接送付してもらう方法の2種類で実施した。

利用者総数

142

共通評価項目による調査対象者数

アンケート	聞き取り	計
142	0	142
51	0	51
35.9	0.0	35.9

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

利用者調査全体のコメント

回答者の属性は、「利用者本人」が29.4%、「家族と相談」が64.7%、「家族が代弁」が5.9%であった。総合的な満足度に関する調査の結果は、対象者の68.6%が「よい」または「ややよい」と回答し、「どちらともいえない」が15.7%、「ややよくない」が9.8%、「よくない」が5.9%であった。項目別では、＜生活について＞に関する5設問は3設問において、概ねの利用者が満足とする回答を得られている。＜安心・快適性＞に関する4設問は2設問において、高い満足度であった。特に「けが・体調不良時の対応」では、76.5%の高い満足度が得られている。ただし「学童クラブ内の清潔な環境」については、さらに高い満足度が望まれる結果であった。＜あなたを大切にしてくれているか＞に関する2設問は「気持ちを大切にしてくれるか」において、70.5%の高い満足度が得られている。＜嫌なことや、してほしいことについて＞では、「不満や要望への対応」は、概ねの利用者が満足とする回答を得られているが、「外部の苦情相談窓口の案内」については、さらに高い満足度が望まれる結果であった。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	33	10	4	4
「はい」が64.8%、「どちらともいえない」が19.6%、「いいえ」が7.8%、「無回答・非該当」が7.8%であった。自由意見では、「友だちとたくさん遊べるのが楽しい」、「みんなと工作遊びしたりするのが楽しいです」、「楽しいことはあるけど、外で遊べる時間が少ない」という声が聞かれた。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	30	10	4	7
「はい」が58.9%、「どちらともいえない」が19.6%、「いいえ」が7.8%、「無回答・非該当」が13.7%であった。自由意見では、「友だちとたくさん遊べるのが楽しい」、「みんなと工作遊びしたりするのが楽しいです」、「忙しい時もあり、あまり聞いてくれないこともある」という声が聞かれた。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	35	10	5	1
「はい」が68.6%、「どちらともいえない」が19.6%、「いいえ」が9.8%、「無回答・非該当」が2.0%であった。自由意見では、「美味しい」、「好きなおやつがでる」、「おいしいけど、ほしいおやつが回ってこない」という声が聞かれた。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	24	6	4	17
「はい」が47.1%、「どちらともいえない」が11.8%、「いいえ」が7.8%、「無回答・非該当」が33.3%であった。自由意見では、「トラブルがあったときに話を聞いてくれる」、「職員の方から相談してくれる」、「発言したことがない」という声が聞かれた。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	35	7	4	5
「はい」が68.7%、「どちらともいえない」が13.7%、「いいえ」が7.8%、「無回答・非該当」が9.8%であった。自由意見では、「個別ではなく全員に伝えてくれています」、「周りがルールを破っている時にちゃんと言っている」、「言葉が難しくわからない時がある」という声が聞かれた。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	19	18	11	3
「はい」が37.2%、「どちらともいえない」が35.3%、「いいえ」が21.6%、「無回答・非該当」が5.9%であった。自由意見では、「夏休みの時に整理整頓を手伝った」、「職員がよくきかないところを掃除してくれる」、「テーブルが汚い」という声が聞かれた。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	38	7	3	3
「はい」が74.5%、「どちらともいえない」が13.7%、「いいえ」が5.9%、「無回答・非該当」が5.9%であり、高い満足度であった。自由意見では、「だいたいの人は大丈夫」、「～ちゃん」で呼ばれるより、呼び捨てのほうが嬉しいです、「怒る時は言葉が強い」という声が聞かれた。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	39	3	0	9
「はい」が76.5%、「どちらともいえない」が5.9%、「無回答・非該当」が17.6%であり、高い満足度であった。自由意見では、「絆創膏とかくれます」、「よく咳などをすると心配してくれます」、「まだそのようなことがない」という声が聞かれた。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	31	9	3	8
「はい」が60.8%、「どちらともいえない」が17.6%、「いいえ」が5.9%、「無回答・非該当」が15.7%であった。自由意見では、「自分はないけど、お友だちがケンカしたときには助けてくれていた」、「助けてくれた」、「助けてくれる時とくれない時がある」という声が聞かれた。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	36	6	1	8
「はい」が70.5%、「どちらともいえない」が11.8%、「いいえ」が2.0%、「無回答・非該当」が15.7%であり、高い満足度であった。自由意見では、「話を聞いてくれる」、「困ったりしたことがあまりない」、「なし」という声が聞かれた。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	27	3	1	20
「はい」が52.9%、「どちらともいえない」が5.9%、「いいえ」が2.0%、「無回答・非該当」が39.2%であった。自由意見では、「ないしょの話をしたことがないのでわからない」、「ないしょ話がないからわからない」、「誕生日とか言わないでほしい」という声が聞かれた。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	28	6	2	15
「はい」が54.9%、「どちらともいえない」が11.8%、「いいえ」が3.9%、「無回答・非該当」が29.4%であった。自由意見では、「友だちに「学童へ行かず遊びに行こう」と誘われた時に、職員に相談したことがある。「お母さんと相談して、前もって友だちと約束して、学童をお休みするか決めてね」と言われた」、「言ったことないのでわからない」、「困ったことはあまりない」という声が聞かれた。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	10	4	12	25
「はい」が19.7%、「どちらともいえない」が7.8%、「いいえ」が23.5%、「無回答・非該当」が49.0%であった。自由意見では、「聞いたことないそうです」、「はじめて聞いた」、「その状況になったことがない」という声が聞かれた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている 〇非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している 〇非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える 〇非該当
	カテゴリー1の講評	
	保護者向けのお便りやメール文の最後に法人理念を一行加え周を図っている 区の学童クラブ運営指針や法人理念をもとに、クラブ理念・運営指針を明確に示し、職員や利用者、保護者に対して周知を図っている。年初にはWeb会議を活用した法人理念の説明や、各クラブの実態に合わせた運営計画を策定し、毎月の会議では、理念を確認し現場実践に落とし込むこととしている。また、毎月のお便りやメール文の最後に必ず法人理念を一行加え、利用者や保護者に伝えるようにしている。さらに、セーフガードポリシー(行動指針)の冒頭に理念を置き、保護者会資料に記載して説明するなど、理念の理解を促す取り組みでいる。	
	大規模学童クラブの組織管理と現場運営の両立を課題とし体制強化を検討している 法人理念や運営方針を明確にし、その実現に向けた役割と責任を職員に伝えている。特に、年度当初のリーダー層が参加する法人の合同会議では、学童クラブ事業部の方針を示し、職員が取り組むべき方向性を共有している。クラブ長はクラブ全体のマネジメントから現場の実務運営に至るまで強力なリーダーシップを発揮して組織を牽引している。一方、当クラブは定員数200名・2ユニット編成の大規模な学童クラブであり、リーダー層1名体制での管理範囲は過大であることから、法人では、組織管理と現場運営の両立を課題として体制強化を検討している。	
	重要案件の周知手順が整備されている一方、さらなるガバナンス体制の整備が求められる 重要な案件については、区から法人への通達を経て、現場へ情報が共有される手順としている。例えば、大規模学童クラブ化に際しては、区職員が経緯を説明し、現場運営に関する詳細はクラブ側から保護者に説明する形で進められている。また、クラブ長の異動など、体制変更の際には法人から保護者に手紙を出して報告している。一方、大規模な学童クラブにおいては職員数も多く、意思決定や検討プロセスの整備も重要と思われる。リーダー層の複数化や会議体における検討体制など、さらなるガバナンス体制の整備が求められる。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>地域や保護者からの情報を活用しクラブ運営の課題解決に活かしている</p> <p>区が主体となって実施する利用者アンケートの声を受け止め、クラブの運営改善につなげるように努め、行政との連携を通じて子ども人口や保育園利用状況などの情報を収集し、運営体制の整備に活用している。また、職場内では、ミーティングや会議、必要に応じ「個別の時間」を設けて職員との相談など、あらゆる機会を通じて職員の意見を把握している。さらに、児童館館長会報告や関連機関からの情報を把握し、中学校区の地域教育連絡会に桃五学童クラブ・スマイルひろばの代表として参加して、収集した情報をクラブ運営に活かしている。</p> <p>学童クラブとして中長期の視点でのビジョンや計画の策定が望まれる</p> <p>区の学童クラブ運営指針や法人理念を基に、学童クラブ事業部の事業計画を策定し、それに基づいてクラブの年間計画を作成しており、事業計画の重点目標策定については事業部幹部で議論のうえ決定しクラブ職員に共有している。一方、法人の全事業を統べる中長期計画はあるものの、学童クラブ事業に関する中長期計画の策定はできていない。受託事業で、区の運営方針との整合を図る必要があることから学童クラブの中長期計画の策定には課題もあると考えられる。しかし、中長期の視点に立った計画策定が望まれる。</p> <p>期末の取り組み検証について会議体での確実な報告確認が期待される</p> <p>年度初めにクラブの年間計画を策定し、スローガンや月単位の目標、行事計画などを職員会議やミーティングで検討し決定している。策定プロセスに職員が参加することで、計画の目的と内容を理解し認識を共有している。また、期末の事業報告書には、各学童クラブの振り返りや結果に対する考察が記載され、次年度へ向けた課題の把握に活用している。一方、計画の進捗状況は半期に1回、合同会議で確認し、必要に応じた修正やアドバイスを実施しているが、期末の取り組みの検証については会議体での確認、報告が不明瞭となっており課題としている。</p>		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ3の講評

セーフガードポリシー(行動指針)を定め、具体的行動を定期的にチェックしている

法人では、職員一人ひとりが目指す方向性を再確認し、あるべき行動を「セーフガードポリシー(行動指針)」として定めている。理念、行動指針に加え、地域貢献や多様性・人権尊重、最善の利益追求や虐待不許など、8項目を列挙して、福祉に従事する者として守るべき法や規範、倫理を理解し、遵守できるよう周知を図っている。また、セーフガードポリシーに照らした具体的行動をチェックする「人権擁護・人権侵害防止チェックシート」を定期的の実施して、法や規範の遵守に向けた実効性のある仕組みの構築に努めている。

子どもと保護者双方の意見に応える仕組みを整えている

区や法人の設けている苦情等の相談制度のポスターを掲示し、周知している。日頃の運営では常勤職員を中心に、利用者である子どもから意見・要望を聞き、内容について検討し運営に反映している。保護者からの意見や要望については、常勤職員が聞き取りを行い、対応内容を協議する体制があるほか、苦情解決制度を周知を促し、公正で中立的な第三者機関の利用を可能にしている。虐待防止においては、「人権擁護・人権侵害防止チェックシート」の確認を定期的に行い、職員間での情報共有を通じて組織的な防止策に取り組んでいる。

小学校や居場所事業との連携や、中瀬フェス参加など地域協働、地域交流に努めている

地域の中学生の社会体験などボランティアの受け入れにより、地域とのつながりを深め、中瀬フェス(中瀬中学校区地域教育連絡協議会の行事)に参加して子どもたちが楽しめるゲームコーナーを中学生と協力して運営するなど、地域交流に努めている。また、行政連絡会への参加を通じて地域ネットワークとの連携を図り、小学校・居場所事業職員、関係機関と情報共有や共通課題の解決に取り組んでいる。一方、地域の会議や行事には、クラブ長のみが参加する機会が多く、他職員を含めた地域活動への組織的な参画を今後の課題としている。

カテゴリ-4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>リアリティをもった訓練を毎月実施して職員の対応力を高めている</p> <p>危機管理マニュアルや事業継続計画(BCP)を整備し、職員の区の感染症研修受講などを通じて各種リスクに備えている。水害や地震などの災害リスクについては、小学校や居場所事業との連携を密にし、避難場所の変更が予想される場合でも柔軟に対応できる体制を整えている。毎月の危機管理や防災訓練では、防犯(不審者侵入)訓練などリアリティをもった訓練を実施して対応力を高めている。区の情報共有アプリを活用し緊急時の保護者へ迎え依頼の連絡体制を整備し、児童に対しても帰りの会などで防災や防犯、交通ルールについて注意喚起に努めている。</p> <p>学童クラブ事業全体のBCPにクラブ実態に即した内容を付加し、有事に備えている</p> <p>災害や感染症の発生時には、行政のルールを遵守し、関係機関と連携しながら迅速に対応している。学童クラブ事業全体の事業継続計画(BCP)にクラブの実態に即した内容の別紙を付加し、感染症や大規模災害時の事業継続を期している。また、防災訓練では、BCPに則した内容の訓練も実施し、有事の際に職員が取るべき行動を周知している。一方、職員自己評価では、リスクの優先順位を付けた対策や事業継続計画について不明瞭な回答も散見され、非常勤職員を含めたリスク対策に関するさらなる周知徹底が期待される。</p> <p>情報共有アプリでの入退室情報やお知らせの管理など適切な情報管理に努めている</p> <p>書類の管理や廃棄書類の対応は所属する児童館と連携し、児童台帳など重要書類は鍵付きキャビネットに保管し、利用権限を常勤職員に限定するなど安全性を確保している。また、個人情報書類の紛失を避けるため、毎日施錠時にチェック簿を活用して「しまい忘れ」を防ぐ対応を実施している。情報閲覧については、区からのお知らせや関係機関の情報をデータファイル化して職員が自由に閲覧できる仕組みを整え、区の情報共有アプリにより入退室情報やお知らせを管理するなど、適切な個人情報管理とセキュリティの確保に努めている。</p>		

5 カテゴリー5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ-5の講評

職員面談は、キャリア形成の確認や成果評価の機会として位置付けられている

法人では、常勤職員を適性検査、筆記試験、理事長面接を経て採用し、リーダー層の育成のための人事異動及び職員配置に取り組んでいる。大規模クラブ化に伴い職員不足が課題となっており、学童クラブ事業部が非常勤職員募集を担当し、クラブ間での応援派遣を実施するなど、相互の連携を図っている。職員面談などで人事考課制度を人材育成ツールとして活用し、役割等級制度要綱によりキャリアパスを明示し、職員に伝えている。職員面談は、学童クラブ事業部の幹部が年2回実施し、職員のキャリアプランの確認や成果に応じた給与決定の要素としている。

一人ひとりの育成の成果を確認し個人別育成計画へ反映する仕組みの構築が期待される

学童クラブ事業部で職員の経験や役職に応じた研修を計画し実施しており、区の研修などにも常勤・嘱託職員を中心に参加している。新任研修やOJTを通じて現場での実践力向上に取り組み、研修後にはアンケートや意見収集を行い、職員会議で共有して支援の品質向上の糧としている。一方、職員一人ひとりの意向や経験等に基づいた個人別の育成計画は策定しておらず、職員自己評価でも、個人別育成計画に関する各質問項目の回答は不明瞭となっている。職員一人ひとりの育成成果の確認を行い、個人別育成計画へ反映する仕組みの構築が期待される。

非常勤職員の研修受講が課題であり、短時間の動画視聴など工夫が望まれる

職員会議やミーティングを大切にし、現状の学童クラブの課題を共有して職員で相談しながら目指すべき方向性を確認している。一人ひとりのスキルはさまざまであり、情報共有を綿密に実施する中で子どもたちへの対応の手法を広げられるよう模索し、課題解決に努めている。一方、職員ごとのスキルが未発達な状況もあり、クラブにおける日常のOJTに加えて法人内での研修への参加を増加させることを課題としている。特に、非常勤職員の研修受講の促進が課題で、短時間の動画視聴など受講しやすい工夫が望まれる。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】学童クラブでのルールやマナーを職員と子どもたちで考え安心できる居場所づくりを進める。

【取り組み】

- ・職員体制を拡充し、職員一人ひとりが安定して働き続けられるようにチームづくりに取り組んだ。
- ・子どもたちの言葉に乱れが認められ、職員も穏やかな言葉で働きかけ、禁止用語ではなく、してほしい行動に導く言い方を励行した。
- ・子どもたちとともにルールを見直し、子どもたち自身が考えたルールやマナーを自ら守り遊べるよう推進した。

【取り組みの結果】

- ・安定した職員体制で話し合いを進め、職員それぞれ同じような働きかけができるよう共通認識が生まれた。
- ・中途入職の職員も多く、一人ひとりの力量を上げることは容易ではないが、少しずつ理解者が増えてきていると感じる。
- ・問題行動は一部の子どもの行動であり、少しずつ変容させていくことで、安心できる場所になってきたという声が聞かれるようになった。

【今後の方向性】

- ・令和7年度は、「笑顔でただいま・さようなら！」をスローガンとして掲げ取り組むこととした。
- ・話し合いやアンガーマネジメントの方法を教え、いけないことをしっかり伝えられる職員集団に育成していく。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

定員200名の大規模学童クラブで、一部の問題行動をとる子どもたちの存在もあり、クラブ全体の雰囲気は荒れていたが、「ルールやマナーを説明し、職員と子どもたちで一緒に考えていく」ことを目標に、職員体制の拡充や職員の子どもの接し方を工夫して改善に取り組んだ。職員の力量に差があり、子どもによっては、人を見て好き勝手にしてしまう子どももあり、区の職員から指導される状況も発生していた。職員体制やチームワークを強化し、子どもへの禁止用語をなくして、肯定しながら「してほしい行動」に導く言い方を徹底するなどの取り組みを進めた。その結果、一部の子どもの問題行動も少しずつ変容し、ほかの子どもたちから安心できる場所になってきたという声が聞かれるようになったとのことである。令和7年度は、「笑顔でただいま～おかえり」をスローガンを立て、子どもたちにも話し合いやアンガーマネジメントの方法を教え、また、ルールをしっかり伝えられる職員を増やしていくことを課題として取り組むこととしている。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】子どもたちがクラブの生活の中で楽しみを見つけ、また、上級生の姿に憧れを感じられるようなクラブづくりを推進する。

【取り組み】

- ・日頃のあそびを通して、自分の好きなことを広げられるよう、コマ・おままごと・ブラレールなど広い場所を必要とする様々なあそびを用意して環境構築を進めた。
- ・クラブOBの中学生のボランティアを受け入れ、家事教育のワークショップを開催した。

【取り組みの結果】

・以前はあそびでの既存棟の利用が少なかったが、場所を広く使うあそびを既存棟に用意したことで、子どもたちが定着してあそぶようになった。

・家事のワークショップは、定員15名で募集したが、男女半々程度の希望児が集まり、米とぎ体験や洗濯たたみゲームなど、家事についての体験型の学びの場となった。学童クラブを利用していた先輩から教えてもらうということで、子どもたちに尊敬や憧れの眼差しが見られた。

【今後の方向性】

・引き続き、あそびの部屋のすみ分けや手作りおやつを実施することとし、クラブの生活の中で楽しみを見つけ、上級生の姿に憧れを感じられるような取り組みを進めていく。

目標の設定と
取り組み

- 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

子どもたちがクラブの生活の中で楽しみを見つけ、上級生の姿に憧れを感じられるようなクラブづくりに取り組んでいる。日頃のあそびを通して、自分の好きなことを広げられるよう、コマ・おままごと・ブラレールなど広い場所を必要とするさまざまなあそびを用意して環境を構築した。また、クラブOBの中学生からの申し入れで、家事についての教育ワークショップを企画し、定員15名で参加者を募ったところ、男女半々程度で希望児が多数集まり、米とぎ体験や洗濯たたみゲームなど、家事についての体験型の学びの場となった。憧れの中学生が家事を教えてくれる機会となり、参加した子どもたちには尊敬や憧れの眼差しが見られたとクラブでは評価している。今年度も引き続き、あそびの部屋のすみ分けや、手作りおやつの実施など、楽しみを見つけれられるクラブづくりに取り組むこととし、上級生の遊ぶ姿に憧れを感じ、子どもたちが成長できるよう取り組みをすすめることとしている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>		
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
サブカテゴリー1の講評		
<p>法人HPでは学童クラブの基本方針や外観画像のほか、理念などを見ることができる</p> <p>法人HPでは、運営している保育園や放課後等居場所事業などが紹介されており、学童クラブのページには、基本方針や外観画像、住所、電話番号、定員などの情報に加え、「子ども達そして関係する人々みんなが、あたたかな環境の中でほっとした気持ちになり、信頼のつながりのもとで互いに育ちあうこと」という理念や、「常に“誠実さ”を大切にし、誰からも“信頼”されるような関係づくりと自らの“成長”という行動指針が掲載されている。さらに、ダウンロード可能な法人全体のパンフレットには、事業内容が画像とともに詳しく紹介されている。</p> <p>学童クラブの運営日時、1日の流れ、年間行事などを載せたパンフレットを作成している</p> <p>区の学童クラブ入会案内のほか、法人が作成した学童クラブの理念や方針・目標、運営日時、1日の流れ、年間行事、さらに法人が運営する学童クラブおよび放課後等居場所事業の一覧を掲載した3つ折りパンフレットを作成している。また、パンフレットは利用者に親近感を持ってもらえるよう、イラストやふりがなを用いるなど、内容を分かりやすく工夫している。そして、これらはの資料は受付に設置し、自由に手に取ってもらえるようにしている。さらに、保育園や幼稚園などから要望があった場合には、当該3つ折りパンフレットを配付している。</p> <p>見学時には小学校との連携により校庭を使用できることなどの特徴を説明している</p> <p>見学時には、子どもたちの様子や掲示板に掲示している学童クラブ便りや職員紹介などを案内している。また、異年齢交流を行っていることや、定員200名の大規模クラブであるため遊びが分散できること、小学校との連携により校庭を使用できることなど、当クラブの特徴についても丁寧に説明している。加えて、出席予定の児童が来所しない場合には保護者へ連絡し所在確認を行うこと、子どもの安全確保の観点から30分単位で帰宅時間を設定しているため、保護者にもその時間に合わせて迎えに来てもらう必要があることを説明している。</p>		

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	8/8
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>入会前には保護者と児童との3者面談を行い、子どもおよび家庭の様子を聞き取っている</p> <p>入会前面談では、聞き取りを担当する常勤職員と書記役の職員の2名で実施している。支援児の場合には区の職員も同席のうえ、保護者と児童との3者面談を行い、子どもおよび家庭の様子を丁寧に聞き取っている。児童に対しては、名前を言えるか、その際に恥ずかしがる様子があるかなどを確認している。また、友達とどのような遊びをしているか、好きな遊びや食べ物、電話番号を言えるかなどを尋ね、小学校に入学することを理解できているかを把握している。一方、保護者に対しては、健康状態などについて区の基準に基づき聞き取りを行っている。</p> <p>新入会説明会の日程が合わない保護者には、就労状況に合わせて説明会を開催している</p> <p>新入会説明会は、新年度開始前に実施しているが、日程が合わない保護者には、個別対応として平日の夜間や土曜日にも、就労状況に合わせて説明会を開催している。説明内容はマニュアルに従い、入会のしおりを配付したうえで、育成日および育成時間、学校のある日・ない日それぞれの1日の流れ、出欠席や帰宅時間の連絡方法、お迎えの取り扱い、持ち物、費用、災害や学級閉鎖等の非常時の対応などについて説明している。さらに、緊急時の引き渡し方法や、おやつ・アレルギー対応に関する資料なども用いて、必要事項を説明している。</p> <p>歓迎会を実施するほか、段階的に学童クラブの生活に適應できるよう配慮している</p> <p>玄関には職員紹介を掲示し、職員を知ってもらうことで、保護者および児童が安心して過ごせるよう努めている。また、入学前の4月1日から春休み期間中に、学習の時間を活用して、学童クラブを知る機会や同学年の児童同士が交流する場を設け、新入児童が環境になじみやすくなるよう支援している。さらに、4月初日の週には歓迎会を実施し、生活の流れや施設内の使い方について丁寧に説明している。慣れるまでの間はおやつを食べる居室を上級生と分けるなど、環境の整備に努め、子どもたちが段階的に学童クラブの生活に適應できるよう配慮している。</p>			

サブカテゴリー3

3 個別状況の記録と計画策定 サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 10/10

評価項目1
子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している 評点(0000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2
子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー3の講評

年間計画は前年度の評価を行ったうえで、職員から意見を反映できるよう努めている
 年間計画を策定するにあたり、まず前年度の重点目標に対して実施した内容やその評価を行っている。そのうえで、職員から次年度の目標や改善点に関する意見を出してもらい、計画に反映できるよう努めている。年間計画では、子どもの尊重と安心・安全、子育て支援などの重点目標を設定している。また、学校稼働日・休業日別の1日の流れ、活動ごとの方針および留意点を明確にしている。さらに、特別支援児童に関する方針や留意点や、年間の行事予定なども盛り込み、学童クラブ全体として一貫した運営が行えるようにしている。

巡回指導でのカンファレンスを通じて得られた学びや気づきを個別の計画に反映している
 障害のある子どもは毎年度数名在籍しており、初年度は年1回、その後は2年に1回の巡回指導を受けている。巡回指導では、カンファレンスを通じて得られた学びや気づきを個別の支援計画に反映し、日々の支援に活かすよう努めている。その際には、障害児以外の気になる子どもについても相談に応じてもらっており、支援の質の向上に役立っている。日々の活動内容や子どもたちの様子については日誌に記録している。さらに、個別の支援計画を作成している子どもに対しては、日々の様子を詳細に「個人記録ファイル」に記録し、継続的な支援につなげている。

1日2回のミーティングのほか、毎月非常勤職員も参加する職員会議を開催している
 毎日、子どもたちの登所前には常勤職員が、夕方には非常勤職員を中心にミーティングの機会を設けている。夕方のミーティングでは、その日に起きた出来事や困った場面での対応について共有を行っている。また、毎月第1部は常勤職員と嘱託職員、第2部からは非常勤職員も加わる形で職員会議を実施している。行事については担当職員が「プログラムシート」という行事計画書を作成し、周知のために職員へ回覧している。しかし、現状では行事結果まで十分に記録・共有できていないため、今後はPDCAサイクルを回せる体制を整えていくことが望まれる。

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリー5の講評			
<p>利用者への個人情報の取り扱いに関する説明をより丁寧に行う体制整備を期待したい</p> <p>法人のHPには「プライバシーポリシー」が公開されており、収集した氏名や連絡先などの個人情報については、サービス提供や連絡対応などの目的で利用し、本人の同意なく第三者へ提供しないことが明記されている。現在は、保育園やこども発達センター、学校、医療機関などから情報収集を行う旨の同意書を、入会面談時に保護者へ任意で提出を促しているのみで、学童クラブの利用者に対しては、個人情報の取り扱いに関する説明が十分に行われていない。今後は利用者に対しての説明をより丁寧に行い、理解を得られるような体制整備が望まれる。</p> <p>写真や氏名の取扱いについて書面による同意取得の仕組みの整備が望まれる</p> <p>学童クラブだよりに子どもの顔が写った写真を掲載しないなど、個人情報の取り扱いには細心の注意を払っている。クラブ内には個人情報が掲示されていることから、学童クラブの行事への参加を広く呼びかけることは控えている。入会説明会の際には、写真の使用を希望しない場合は申し出てほしい旨を口頭で伝えているが、画像や名前の掲載・掲示は、学童クラブだよりだけでなく、館内掲示や保護者会での説明資料として使用する場面もある。そのため、今後は写真や氏名の取り扱いについて、書面による同意取得の仕組みづくりを整備することが望まれる。</p> <p>配慮が必要な児童を受け入れた際は、小学校とも連携しながら支援している</p> <p>日本語でのコミュニケーションが難しい配慮が必要な児童を受け入れた際には、小学校とも連携しながら、どのように支援体制を整えるかを協議し、受け入れ方法を模索しており、保護者とのやり取りを参考に職員も関わることで、少しずつ意思疎通が可能になった。時間をかけて関係づくりを進め、児童自身も安心して過ごせるようになり、会話の幅も徐々に広がっている。また、学童クラブの環境に慣れるまでの間は、静養室で落ち着いて過ごせる時間を確保し、段階的に関わりを増やすことで、児童が安心して集団に参加できる環境を整えている。</p>			

サブカテゴリー6	
6 事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している <input type="radio"/>非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映している <input type="radio"/>非該当
サブカテゴリー6の講評	
<p>区から支給されているマニュアルをもとに、より細かな手順書を独自に整備している</p> <p>区から支給されている「児童館・学童クラブ運営マニュアル」には、運営方針や1日の流れ、施設環境の整備・保全、健康状態の確認、事件・事故発生時の対応など、学童クラブ運営に関わる基本事項が網羅的にまとめられている。クラブでは、このマニュアルを基礎として、「トイレ掃除」「アレルギーチェック」「送り出し」など、より実務に即した細かな手順書を独自に整備している。また、職員体制は日々変動するため、その日の配置や役割分担を明確にする「タイムテーブル」を毎日作成し、出勤者全員に配付している。</p> <p>手順の必要箇所への掲示やチェック表を活用し、業務の抜け漏れ防止の徹底に努めている</p> <p>マニュアル類はファイルに綴じて事務所に保管し、職員が必要なときにいつでも確認できるよう整備している。また、水道の使い方やアレルギーに関わるおやつ準備手順などは、実際に作業を行う場所の壁面に掲示し、誰もが即座に確認できるようにしている。さらに、職員自身が自己点検できるよう、「閉館前チェックリスト」や「消毒・水道掃除チェック表」などを活用し、業務の抜け漏れ防止の徹底を図っている。マニュアル通りに業務が実施されているかについては、クラブ長が日常的に見回るほか、区の職員が月2回巡回し、運営状況をチェックしている。</p> <p>職員の手順書活用状況から、業務の質向上に向けた継続的な取り組みが求められる</p> <p>職員からの水道周りの床が滑りやすく危険であるという指摘を受け、マットを敷く対応を行うなど、職員会議などで意見を出し合いながら随時ルールの見直しを行っている。しかし、職員の自己評価では「わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手順書等を活用している」という設問に対し、「はい」と回答した割合は58.3%であった。非常勤職員の出入りが少なくない状況において、手順書の活用が十分に浸透しているとは言い難く、今後は継続的にマニュアルの確認と共有を行い、職員全体の意識統一と業務の質の向上を期待したい。</p>	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	29 / 29
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目1の講評			
<p>日々のミーティングを通して子どもの状況を共有し援助につなげている</p> <p>毎日昼に約30分程度のミーティングを行い、子どもの様子や対応が必要な事項について職員間で共有している。夕方にもその日の出来事を振り返る時間を設け、対応の経過や気づきを確認している。ミーティング専用の記録は作成していないが、内容は日誌に記録し、常勤・非常勤を含めて確認できるようにしている。日々の共有を重ねることで、子どもの変化や関わり方について共通理解を持ち、継続した援助につなげている。複数の職員が同じ情報を把握することで、担当者が変わっても対応が途切れないう意識している。</p> <p>異年齢の班活動を通して子ども同士の関わりや役割を育てている</p> <p>おやつ時間は異年齢で構成した班に分かれて過ごしており、6年生までの子どもと一緒に過ごす機会となっている。班は職員が子どもの関係性や全体のバランスを考慮して編成し、安心して過ごせるよう配慮している。昨年末からは、おやつ終了後に班ごとでゴミをまとめ、テーブル拭きやごちそうさまの挨拶を行う流れを取り入れており、役割分担をしながら活動する姿が見られるようになってきている。異年齢で関わる中で、年上の子どもが行動を示しながら進める場面もあり、生活の中で自然に協力する経験を重ねている。</p> <p>支援が必要な子どもを含め安全に過ごせる環境づくりを行っている</p> <p>各支援室に職員を配置し、校庭遊びの時間も必ず見守りを行うなど、安全面に配慮した体制を整えている。危険な行動が見られた場合にはその場で止めるとともに、ほかの人に迷惑をかけないことを継続的に伝えている。状況に応じて家庭や学校へ連絡を行い、学童だけで対応が難しい内容については学校と相談しながら対応を進めている。加配対応を行う子どもや支援学校からの利用児も受け入れており、同じ班の中で一緒に過ごすことで周囲の子どもが気にかける姿も見られている。集団の中で無理なく過ごせるよう、日常的な見守りと調整を続けている。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2の講評			
<p>利用人数に応じたユニット運営により子どもが過ごしやすい環境を整えている</p> <p>利用人数が多いことから、育成室を「たいよう」「つき」「ほし」の3つのユニットに分けて受け入れや送り出しを行っている。学年によって下校時間が異なるため、おやつまでの時間は自由遊びとしており、宿題をする、本や漫画を読む、玩具で遊ぶなど、子どもが自分で過ごし方を選べる時間となっている。「ほし」育成室はテーブルを置かず広く使えるようにし、ボール遊びなど体を使った活動ができる環境としている。体格差や精神面への配慮から学年ごとに利用時間を分けることもあるが、人数が少ない場合は合同で遊ぶなど、状況に応じて対応している。</p> <p>遊びの内容やルールを子どもと確認しながら集団生活を支えている</p> <p>遊びの内容については、子どもと話し合いながらルールや名称を見直し、マナーや言葉遣いに配慮した形へ変更する取り組みを行っている。決定したルールは掲示し、誰もが確認できるようにしている。学校の校庭は16時から45分間利用でき、職員が付き添って見守りと一緒に遊ぶ対応を行っている。校庭遊びを楽しみにしている子どもも多く、学年を超えて縄跳びやフラフープ、ゲームなどを楽しむ姿が見られる。また、室内遊びを選ぶ子どもは「たいよう」「つき」育成室で過ごすなど、子どもが自分に合った過ごし方を選択できるようにしている。</p> <p>日常生活習慣を意識しながら子どもの自立的な生活を援助している</p> <p>各育成室には一人ひとりのロッカーを設置し、来所後は荷物を整理してから遊びに入る流れとしている。ロッカーの片づけや整理整頓は基本的に子どもに任せているが、帰りの準備の際には忘れ物がないよう職員が声をかけている。保護者には季節に応じた着替えの準備や持ち物について連絡し、生活面での協力を依頼している。着替えが必要となる場面は多くないものの、夏の水遊びや低学年着替えが必要な場面も生じるため対応できるよう準備している。日常の流れの中で生活習慣が身につくよう、必要な声かけと見守りを行っている。</p>			

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもの意見を取り入れながら行事づくりを進めている 地域合同で行われる夏祭りでは、小学校体育館を会場として学童クラブからも出店することができるため、子どもたちがやりたい内容を募集して企画を進めている。2年生以上の子どもを中心に、当日の役割分担や準備を職員と一緒に進めており、金魚すくいやコロコロポーリングなどの内容も活動の中で準備している。土曜日開催の行事として7年ほど継続しており、子どもが主体的に関わる経験の場となっている。職員は安全面や進行を支えながら、子どもが自分たちで取り組める部分を残すよう意識している。</p> <p>日常の活動の中で季節や子どもの興味に応じた取り組みを行っている 誕生日ウィークでは写真入りの誕生日カードを作成し、好きなおやつを選ぶ取り組みを行うなど、子どもが楽しみに行える工夫を取り入れている。コマ・けん玉週間や季節の工作、水遊びなども子どもの様子を見ながら準備を進めており、ハロウィンでは全体で一つの制作に取り組む活動を行っている。ちぎり絵の工作は全体で取り組むことができるため子どもからの反応が良く、クリスマスツリー制作へと活動が広がっている。夏休みの水遊びは暑さ指数を確認しながら実施し、人数や着替え場所の関係から男女別で行うなど、状況に応じた方法で実施している。</p> <p>行事や活動の様子を保護者へ継続的に伝える取り組みを行っている 保護者には月のおたよりに写真を掲載し、学童クラブでの活動の様子が伝わるように工夫している。おたよりは安心でんしよぼと(杉並区メール配信システム)を活用して届けており、玄関への掲示も併用しながら情報共有を行っている。クリスマス会では父母会と協力して土曜日に実施し、1年間の活動の様子をスライドショーで紹介する機会を設けている。日々の活動が見えにくくなりやすい学童クラブの運営において、写真や映像を通じて子どもの姿を伝える取り組みを大切に考えて継続している。</p>		
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当
評価項目4の講評		
<p>新1年生が安心して学童生活を始められるよう段階的な受け入れを行っている 1年生は春休み中の4月1日から利用が始まるため、初日は職員紹介や施設案内を行ったうえで一緒に遊ぶ時間を設け、学童生活への導入を行っている。名札をつけて過ごし、子ども同士が顔を覚えやすいようにしているほか、1年生のみで避難訓練を実施するなど、生活に慣れるための取り組みを行っている。4月中は昼食やおやつを1年生だけで「つき」育成室で過ごし、子どもの様子を見ながら5月以降に異年齢班へ移行している。入学式前から同学年で過ごす経験が入学への安心につながっている様子も見られ、困ったときは職員へ伝えるよう声をかけている。</p> <p>生活の区切りを明確にし見通しを持って過ごせるようにしている 子どもの人数が多いことから、日々の育成では帰宅時間に合わせた生活の流れをつくり、5時帰りの子どもは4時45分に決められた場所に並ぶなど、混乱しないように具体的なルールを設けている。帰宅前は準備やゲームなどを行い、一度気持ちを落ち着けてから帰れるようにしている。活動から帰宅への切り替えを意識することで、慌ただしくならず安全に帰宅できるよう配慮している。日々の生活の中で時間の流れを理解し、自分で行動を切り替えられるように支援しており、職員が声をかけながら見通しを持って過ごせる環境づくりを行っている。</p> <p>他事業との連携を通して子どもの選択肢を広げている 学童クラブは6年生まで利用可能であるが、4年生以降は「スマイルひろば」へ移行する子どもも多く、曜日ごとに使い分ける利用も行われている。「スマイルひろば」とは行事だけでなく日常的な交流もあり、校庭遊びの時間を共有したり、フラダンスなどのプログラムに希望者が参加できるよう連携している。参加時には職員が送迎を行い安全面に配慮しているほか、校庭遊びでは双方の職員と一緒に見守りを行い、情報共有もしている。複数の居場所を行き来できる環境を整え、子どもたちの過ごし方の幅を広げている。</p>		

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当

評価項目5の講評

学校や地域関係者との会議を通して連携体制を築いている

現在ほとんどの子どもが同一小学校からの利用となっており、学校との連携を基盤に運営を行っている。クラブ長は「スマイルひろば」の調整会議に参加し、地域関係者、学校関係者、子育てプラザ、区職員などと情報共有を行っている。会議後には校長や関係機関と個別の子どもについて相談する機会もあり、学童での様子や課題について共有している。また、施設利用に関する会議が年2回実施されており、校庭や体育館の利用については学校利用の次に学童クラブが優先されるなど、日常の活動を支える連携体制が整えられている。

学校と共通認識を持ちながら子どもの課題に対応している

子ども同士のトラブルが生じた場合には、状況に応じて学校へ報告を行い、共通の課題として対応を依頼することがある。担任教諭が学童での子どもの様子を見に来る場面もあり、学校生活と放課後の様子を相互に確認しながら支援につなげている。学童は生活の場であり学校とは役割が異なるため、言葉遣いや態度、友だちや下級生への関わりなど指導に限界がある部分については、保護者や学校へ状況を伝え、共通理解のもとで対応できるようにしている。日常的な連携を通じて子どもの生活の連続性を意識した支援を行っている。

支援が必要な子どもへの援助を関係機関と連携して進めている

支援が必要な子どもについては、年度初めに担当課による研修実施があり、学童職員が基本的な理解を共有できるようにしている。ケース会議にも参加し、子どもの状況や支援方法について情報を共有しながら学童での関わりをいかすようにしている。学童職員が支援学校の運動会を見学することもあり、子どもの生活全体を理解するための機会としている。また、計画担当者が学童を訪問し、保護者への助言を行うなどの取り組みもあり、必要なサービスにつながるよう関係機関と連携して子どもへの支援を進めている。

6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作り等に配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当

評価項目6の講評

おやつ時間の流れを整え落ち着いて過ごせる環境をつくっている

おやつ時間の約10分前になると片付けを知らせる音楽を流し、それまで遊んでいた玩具や本を片付けてから手洗いを行う流れとしている。3時35分頃を目安に「つき」「たいよう」育成室へ移動し、班ごとのテーブルに分かれて着席する。おやつ準備は職員が行い、当日のおやつの種類や内容を説明した後、班ごとに配膳台まで取りに来る方法を取っている。食べ終わる時間はそれぞれ異なるが、全体でごちそうさまの挨拶をするまでは席で本や漫画を読みながら待つこととしており、落ち着いた雰囲気の中で過ごせるようにしている。

子どもの帰宅時間に合わせた運営を行い情報共有の機会としている

帰宅時間は学年や家庭の事情によりそれぞれ異なるため、職員は日々の人数や帰宅予定を確認しながら対応している。そのため、全員に共通して伝える必要がある連絡事項については、子どもが比較的そろそろおやつ時間の間に伝えるようにしており、伝達漏れが生じないように配慮している。おやつ時間は食事の場面としてだけではなく、生活の区切りとして気持ちを切り替える時間でもあり、友達同士の会話や関わりが生まれる機会にもなっている。日々繰り返される流れの中で、子どもが自然に生活のルールや集団で過ごす際の約束を理解できるようにしている。

アレルギーへの配慮を行い安全に提供できるようにしている

おやつ提供場面では職員が全体を確認しながら進行し安全面に配慮しており、個別対応と全体運営の両立を意識しながら実施している。アレルギーのある子どもについては、提供時の混乱や取り違えを防ぐため最初に取りに来てもらう流れとしている。個別に対応が必要な場合には、保護者からおやつを預かって提供するケースもあり、子どもの状況に応じた対応に取り組んでいる。日常的に同じ流れで進めることで子ども自身も理解しやすくなり、安心しておやつ時間を過ごせるようにしている。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>日常の観察を通して子どもの体調変化を把握し早めの対応につなげている</p> <p>下校時には子どもの表情や顔色などを確認し、日々の様子の変化に気づけるようにしている。いつもと違う様子が見られた場合には、体調や食欲について声をかけ、必要に応じて検温を行うなど状況に応じた対応を行っている。体温が37.5度以上の場合には保護者へ連絡することとしているが、熱の有無だけでなく全体の様子を見て判断し、早めに連絡を行うこともある。静養室を設けており、迎えまで静かに過ごせる環境を確保している。日常的な観察を通して子どもの健康状態を把握し、安心して過ごせるよう援助している。</p> <p>ケガや感染症予防への対応を行い安全に過ごせる環境を整えている</p> <p>利用中に発生したケガについては必ず保健記録を作成し、経過や対応内容を残すことで保護者からの問い合わせにも説明できるようにしている。記録内容や共有方法については職員間で周知し、対応が統一されるようにしている。おやつ前には手洗いの声かけを行い、コロナ禍以降はアルコール消毒も取り入れるなど感染予防にも配慮している。エビペン携帯が必要な子どもについてはランドセル内での保管を確認するとともに、ロッカーの位置を職員が把握しやすいようにしており、緊急時に速やかに対応できる体制を整えている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>延長申請は柔軟に対応し、伝達漏れを防止するため、電話対応の記録書式を見直している</p> <p>学童クラブの利用や時間延長の申請については、入室管理アプリにより前開所日の17時まで変更が可能となっているほか、当日の連絡ファイルによる申請も受け付けている。当日13時まではアプリ上での連絡を受理し、それ以降についても電話連絡を可能としている。一方で、連絡がないまま児童が来所しない事例も日常的に発生しており、その都度保護者へ電話等で所在確認を行っている。これらの対応に日々多くの時間を要している状況であり、伝達漏れなどを防止するため、電話対応の記録書式を見直し、より正確に記録できるよう改善を図っている。</p> <p>クリスマス会は保護者や子どもも企画に参加し、家族ぐるみで楽しめる行事となっている</p> <p>学童クラブと父母会が共催し、毎年近隣の小学校の体育館を借りてクリスマス会を開催している。開催にあたっては、職員のみで内容を企画するのではなく、保護者にもゲームの準備を依頼している。また、子どもたちの意見を取り入れ、実行委員を募ってビンゴ大会を実施するなど、参加型の取り組みを行っている。参加対象は学童クラブ利用児だけでなく、そのきょうだいも含まれており、家族ぐるみで楽しめる行事となっている。さらに、このクリスマス会は保護者同士が交流できる貴重な機会ともなっており、学童クラブと家庭との連携強化に取り組んでいる。</p> <p>保護者との信頼関係をより深めるため、保護者会の回数を増やすことを検討している</p> <p>6月には1年生を対象にグループ面談を開催し、4月からの学童クラブでの過ごし方やおやつの様子などについて全体で共有している。その後、所属部屋ごとのグループに分かれ、保護者同士の交流の時間を設けている。また、11月には2年生以上の保護者を対象とした希望制の個人面談を実施している。年度初めの保護者会では、職員や新入会保護者の紹介を行い、育成方針を説明している。加えて、夏休み前や年度末にも説明会や懇談の機会を設けているが、保護者との信頼関係をより深められるよう、開催回数をもう1回増やすことを検討している。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目9の講評		
<p>小学校の校庭や体育館を利用するほか、地域の公園など、地域資源を活用している</p> <p>隣接する小学校とは連携し、週に4回校庭を使用できる環境になっている。また、夏季には体育館を開放してもらい、熱中症のリスクを避けながら運動遊びができるよう配慮している。さらに、夏休みには小学校の図書館も開放してもらい、読書活動の場として活用している。所外育成としては、地域にある大きな公園へ出かけているほか、避難訓練を兼ねた遠足として広域避難場所へ出向く取り組みも行っている。さらに、中学校区の学校関係者団体が主催する地域イベントに、学童クラブの職員も積極的に参加し、運営の手伝いを行い、地域との連携を深めている。</p> <p>地域の夏祭りや七夕行事への参加などを通じて地域と日常的に連携に取り組んでいる</p> <p>小学校の体育館で行われる地域の夏祭りには、児童が有志で参加し、部屋ごとに金魚すくいやボウリングなど4つの出店を担当した。2年生以上の希望者が店番を担当し、地域の人々と交流を図っている。また、七夕の時期には子育てプラザや放課後等居場所事業と連携し、地域住民から提供された笹を用いて短冊や吹き流しを作成している。加えて、地域住民からリサイクル用品の提供を受けるなど、日常的に協力関係を築いており、学童クラブ前の通りで交通事故が発生した際には、職員が応急手当や家族への連絡を行い、地域の一員として協力している。</p> <p>父母会OB会や卒会した中学生と連携し、多世代交流と学びの機会を創出している</p> <p>父母会OB会には、毎年花見や芋ほりといった季節行事を企画してもらっているほか、行事の際にはジュースの差し入れやクリスマス会ではサンタ役を務めてもらうなど、協力体制を築いている。さらに、卒会した中学生が学校のカリキュラムの一環として、小学生に対する男女平等教育や家事に関する学びの場を探しているとの相談があり、学童クラブでは希望者を募り、米のとき方や洗濯物のたたみ方など、ゲームを交えながら楽しく学べる中学生によるワークショップを実施した。中学生が講師役となり、小学生に教えるという貴重な交流の機会となった。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	1-1-1	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している
タイトル①	理念・行動指針の周知、理解を促す取り組みを繰り返し徹底している	
内容①	区の学童クラブ運営指針や法人理念をもとに、クラブ理念・運営指針を明確に示し、職員や利用者、保護者に対して周知を促している。特に法人理念は、年初のWeb会議を活用して職員に周知を図り、また、「セーフガードポリシー(行動指針)」の冒頭項目に法人理念・職員行動指針を掲げ職員が理念の実現に向けて考え、行動することを求めている。さらに、セーフガードポリシーの内容を具体的な行動に展開したチェックシートを用い、毎学期ごとに理解確認を繰り返し、理念・行動指針の周知と理解促進を徹底している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-1	子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している
タイトル②	スローガンや重点目標に基づき行事や訓練を計画的に実施し、保護者から評価を得ている	
内容②	「笑顔でただいま・さようなら！」をクラブの今年度のスローガンに掲げ、年間計画では重点目標を設定し、それに沿って1日のタイムスケジュールや行事などの年間行事を計画している。さらに、子どもたちの安全を確保するため、地震・火災・不審者対策を含む訓練や救命救急訓練を合わせて年10回実施し、毎月区へ実施状況を報告している。また、公園への外出などの行事を毎月計画し、担当が分担しながら実施している。保護者アンケートでは、クラブの良い点として複数の保護者がイベントを挙げており、取り組みが評価されている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している
タイトル③	支援が必要な子どもを含めて一緒に取り組める活動に力を入れている	
内容③	ハロウィンの制作活動では、年齢や障害の有無に関わらず取り組めるちぎり絵制作を行い、子ども同士が同じ場で活動できる機会となった。子どもからの反応も良く、その経験がクリスマスツリーのちぎり絵へとつながっている。特別な支援として分けるのではなく、同じ活動の中でそれぞれが参加できる形を工夫することで、子ども同士が自然に関わる場面が生まれている。今後も、誰もが一緒に取り組める活動を広げながら、支援が必要な子どもを含めた集団の中で過ごせる環境づくりを進めていくことを目指している。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	小学校と連携し、活動環境を安定させ、退会後は放課後等居場所への移行を支えている
	内容	隣接する小学校とは日常的に協力関係を築いており、校庭は週4日使用できるほか、体育館・図書館などの学校施設を利用し、子どもたちの遊び場や活動場所を安定的に確保している。また、退会後の子どもたちの居場所づくりとして、同法人が実施している居場所事業と連携している。学童クラブと居場所事業の子どもたちが一緒に校庭や体育館を利用するほか、所属館である子ども子育てプラザの行事にも協力して参加している。これにより、子どもたちだけでなく保護者にも居場所事業の内容を理解してもらい、スムーズな移行を検討できる環境を整えている。
2	タイトル	子どもが安心して遊びに参加できるよう遊びの進め方を整えている
	内容	大規模学童クラブであり人数が多い中でも子どもが安心して遊びに参加できるよう、遊びのルールや進め方について職員間で共有しながら取り組んでいる。審判や判断が必要な遊びでは、対応に差が出ないようにすることで、子どもが納得して遊びを続けられるよう配慮している。また、マナー面などの理由で一時中断していた遊びについては、子どもたちと話し合いを行い、遊びの名前や進め方を見直したうえで再開している。子ども自身が話し合いに関わることで、ルールへの理解や意識が深まり、安心して遊びに参加できる環境につながっている。
3	タイトル	56項目の具体的な行動を確認する「人権擁護・人権侵害防止チェックシート」を毎学期に実施し、権利擁護・虐待防止に取り組んでいる
	内容	法人では、利用者の最善の利益追求や虐待不許など8項目の職員がとるべき行動を「セーフガードポリシー（行動指針）」にまとめ、守るべき法令や規範、倫理を理解し、遵守できるよう周知を図っている。さらに、セーフガードポリシーの8項目を、56の具体的な行動ルールに展開し、実行の有無をチェックする「人権擁護・人権侵害防止チェックシート」を定期的に実施している。チェックシートを毎学期ごとに全職員で実施し、権利擁護や虐待防止はもとより、法人理念の理解促進や社会貢献への意識付けに取り組んでいる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	保護者の指摘を踏まえ、職員全員で研修を受け子どもへの対応力向上に取り組んでいる
	内容	保護者や利用者のアンケートでは、改善を求める意見として「暴言」や「暴力」に関する指摘が数件寄せられており、学童クラブとしても真摯に受け止めている。現状として、注目を集めようとする子どもの行動がエスカレートしやすく、言葉遣いの乱れやいたずらなどが見られる。こうした状況で、現時点では職員が十分に注意しきれていないという課題がある。そのため、職員会議では勉強会を実施し、学びを深めているが、さらに、職員全員が共通理解を持って対応できるよう、外部研修を全員で受講する準備を進めており、支援力の向上を目指している。
2	タイトル	感情面への対応を職員全体で共有しながら進めていくことを課題としている
	内容	子ども同士のトラブルが生じた際には、必ず双方の意見を聞きながら状況を整理し、周囲の子どもの意見も参考にしつつ丁寧な対応に努めている。感情が高ぶっている場合には別室へ誘導するなど、状況に応じた対応の工夫も行っている。感情のコントロールや、集団の中で行動の調整が難しい子どもへの対応については、職員間での役割分担や対応方法について、さらに共有を深めながら、チームとして同じ方向で関わっていける体制づくりを進めていくことを課題としている。
3	タイトル	理念実現に向けたビジョンや目標を設定し、学童クラブの中長期的な視点をもった経営計画策定が望まれる。
	内容	区の学童クラブ運営指針や法人理念を基に、学童クラブ事業部の事業計画とクラブの年間計画を作成している。一方、法人の全体的な中長期計画はあるものの、学童クラブ事業に関する中・長期計画は策定していない。理念の実現に向けたビジョンや目標を設定し、中長期的な視点をもった学童クラブの計画策定が望まれる。受託事業であり、区の中長期の運営方針との関係から学童クラブ独自の計画策定には課題も想定されるものの、当学童クラブまたは学童クラブ事業部として、中長期計画の策定が期待される。

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

令和 8年 3月 31日

杉並区長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町1丁目5番地4-712

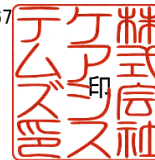
評価機関名 株式会社 ケアシステムズ

認証評価機関番号

機構 06 - 167

電話番号 03-3511-5035

代表者氏名 和田 俊一



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	伊藤 一郎	経営	H1601010
	②	澤村 明子	福祉	H1101015
	③	和田 輝美	福祉	H1001021
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	八成学童クラブ			
事業所連絡先	〒	167-0021		
	所在地	東京都杉並区井草2丁目25番4号 八成小学校併設		
	TEL	03-3301-1260		
事業所代表者氏名	クラブ長 羽柁田 あすみ			
契約日	2025年 7月 15日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025年 10月 15日			
利用者調査結果報告日	2026年 2月 3日			
自己評価の調査票配付日	2025年 10月 15日			
自己評価結果報告日	2026年 2月 3日			
訪問調査日	2026年 2月 10日			
評価合議日	2026年 2月 10日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は、調査実施日現在、当事業所を利用している全ての利用者を対象にアンケートを実施した。事業所と評価機関の連名による依頼状にアンケート用紙と返信用封筒を同封して対象者に配付、回答は評価機関に直接送付してもらった。 事業評価に際しては、事前説明を行うとともに、職員からも個々の標準項目にチェックを入れた分析シートを回収し参考とした。 第三者性の確保については、当評価機関、担当評価者と事業者との間に事実上、人事上の関係は一切存在しないことを確認し、中立公正な評価に努めた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません
- 別添の理由書により、公表には同意しません

年 月 日

事業者代表者氏名 株式会社 マミー・インターナショナル代表取締役 伊藤勝康 印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1) 企業理念:会社の存在意義は、マミーで働いている方々が幸せになるお手伝いをするためにある。そのことで、子ども達や関わるすべての人々を笑顔にすることが私たちの願いです。 2) 企業スローガン:【Mommy,always there for you.(マミーはいつも人のためにあります。)]子どもから高齢者まで、全ての人々のためにあります。 3) 社員行動指針:【忘己利他(己を忘れて他を利する)】マミー・インターナショナルの社員として、自分を中心に物事を考えてまわりに望むだけでなく、自分をすててまずは自助の精神で行動します。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>人材像:放課後児童支援員資格を有し、明るく快活で素直であること 役割:児童の持つ力を理解し、発達段階に応じて支援をすること</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>自治体から委託を受けて、地域や関係機関からの信頼の元、専門職として自覚をもって業務にあたる。</p>

調査対象

調査日現在、当事業所の利用登録者総数である70名を調査対象とした。回答者の年齢構成は、1年生24名、2年生10名、3年生1名であった。

調査方法

アンケートは、QRコードを付した依頼文を配付し、評価機関に直接電送してもらう方法と、アンケート用紙を事業所にて配付してもらい回答は返信用封筒にて評価機関に直接送付してもらう方法の2種類で実施した。

利用者総数

70

共通評価項目による調査対象者数

アンケート	聞き取り	計
70	0	70
35	0	35
50.0	0.0	50.0

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

利用者調査全体のコメント

回答者の属性は、「利用者本人」が48.6%、「家族と相談」が48.5%、「家族が代弁」が2.9%であった。総合的な満足度に関する調査の結果は、対象者の77.1%が「よい」または「ややよい」と回答し、「どちらともいえない」が8.6%、「ややよくない」が11.4%、「よくない」が2.9%であり、高い満足度が得られている。項目別では、＜生活について＞に関する5設問は2設問において、大変高い満足度であった。特に「約束ごとの説明」では、82.9%の非常に高い満足度が得られている。＜安心・快適性＞に関する4設問は1設問において、非常に高い満足度であった。「けが・体調不良時の対応」では、82.9%の非常に高い満足度が得られている。＜あなたを大切にしてくれているか＞に関する2設問は「気持ちを大切にしてくれるか」において、74.3%の非常に高い満足度が得られている。＜嫌なことや、してほしいことについて＞では、「困ったり、してほしいこと」は、概ねの利用者が満足とする回答を得られているが、「職員以外への相談の案内」については、さらに高い満足度が望まれる結果であった。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味を持てるものとなっているか	24	7	2	2
「はい」が68.6%、「どちらともいえない」が20.0%、「いいえ」が5.7%、「無回答・非該当」が5.7%であった。自由意見では、「みんながいて楽しい」、「学どうは楽しいし、すごしやすいです」、「楽しいときもあれば楽しくないときもあります」という声が聞かれた。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	24	7	1	3
「はい」が68.6%、「どちらともいえない」が20.0%、「いいえ」が2.8%、「無回答・非該当」が8.6%であった。自由意見では、「みんな優しい」、「聞いてくれてうれしい」、「先生による」という声が聞かれた。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	28	4	0	3
「はい」が80.0%、「どちらともいえない」が11.4%、「無回答・非該当」が8.6%であり、非常に高い満足度であった。自由意見では、「全部美味しい」、「おいしいものがいっぱいある」、「お友だちメンバーによる。食べたくない日もある」という声が聞かれた。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	20	4	0	11
「はい」が57.1%、「どちらともいえない」が11.4%、「無回答・非該当」が31.5%であった。自由意見では、「おたのしみ会のおぼけやしきの飾りつけの話を聞いてくれた」、「優しい」、「何回か話す少し聞いてくれる」という声が聞かれた。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	29	2	0	4
「はい」が82.9%、「どちらともいえない」が5.7%、「無回答・非該当」が11.4%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「みんなが安心して過ごせる」、「学童の中ではケガをしてしまうから走らないように話してくれます」、「忘れた」という声が聞かれた。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	23	5	5	2
「はい」が65.7%、「どちらともいえない」が14.3%、「いいえ」が14.3%、「無回答・非該当」が5.7%であった。自由意見では、「消しゴムのカスを片付けない人がいるから」、「きれいではないから、やっていない人が片付けている」、「みんなが汚している」という声が聞かれた。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	24	6	1	4
「はい」が68.6%、「どちらともいえない」が17.1%、「いいえ」が2.9%、「無回答・非該当」が11.4%であった。自由意見では、「みんな先生は優しい」という声が聞かれた。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	29	0	0	6
「はい」が82.9%、「無回答・非該当」が17.1%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「具合悪い時に友だちも一緒に言ってくれるから、具合悪いと言う勇気が出る」、「なったことがない」という声が聞かれた。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	25	3	0	7
「はい」が71.4%、「どちらともいえない」が8.6%、「無回答・非該当」が20.0%であり、高い満足度であった。自由意見では、「ケンカをしてる時に助けてくれて嬉しい」、「友だちとケンカをした時にたすけてくれた」、「見ていたら助けてくれる」という声が聞かれた。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	26	2	1	6
「はい」が74.3%、「どちらともいえない」が5.7%、「いいえ」が2.9%、「無回答・非該当」が17.1%であり、高い満足度であった。自由意見では、「最初は緊張していたけど、だんだん慣れてきた」という声が聞かれた。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	20	1	0	14
「はい」が57.1%、「どちらともいえない」が2.9%、「無回答・非該当」が40.0%であった。自由意見では、「守ってくれて嬉しい」、「そういうことがない」、「そのような話をしたことがない」という声が聞かれた。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	19	4	2	10
「はい」が54.3%、「どちらともいえない」が11.4%、「いいえ」が5.7%、「無回答・非該当」が28.6%であった。自由意見では、「忙しい時でも話を聞いてくれる」という声が聞かれた。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	14	1	3	17
「はい」が39.9%、「どちらともいえない」が2.9%、「いいえ」が8.6%、「無回答・非該当」が48.6%であった。自由意見では、「特に聞いたことがない」、「理解できていないようでした」という声が聞かれた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている 〇非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している 〇非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える 〇非該当
	カテゴリ1の講評	
	キックオフミーティングと日々のミーティングを通じて理念の共有を図っている 年初のキックオフミーティングで理念・基本方針を読み合わせ、法人担当も同席して方向性を揃えている。事務室への掲示に加え、施設長会議・管理者会議で得た内容は職員ミーティングで報告し、議事録を回覧して確認の抜けを防いでいる。学校の長期休み前には、その時期の運営上の判断場面を題材に方針を確かめ、日々のミーティングでは活動計画と子どもの様子の差を点検して対応の修正につなげている。確認事項はミーティングノート等に残し、誰がどのタイミングで共有したかが追える形にして、年度内の確認が継続できるよう取り組んでいる。	
	入会前の見学対応と保護者会・便り・運営協議会だよりで方針と目的を丁寧に伝えている 保護者に対してはクラブ長が中心となり「学童クラブで大切にしていること」を口頭と資料で説明している。入会後は保護者会や長期休み前の説明で生活の流れや約束事、活動のねらいを確認し、毎月のクラブだよりで必要事項を伝えている。運営協議会では運営状況や利用者アンケートの扱いも含めて説明し、運営協議会だよりを配付して全家庭へ共有している。保護者から「様子を知りたい」などの声が出た際は、活動報告の中で応えている。必要に応じて送迎時の対話や個別面談でも補足し、個々の心配や質問が残らないよう説明の機会を重ねている。	
	相談ルートと決裁手順を明確にし、職員への確実な周知を図っている 重要な案件は学童クラブ内で状況を整理したうえで法人へ相談し、内容に応じて区や館長とも連携しながら判断を進めている。法人内事項は法人会議や管理者会議で審議し、法人内情報共有システムで決裁手順と承認状況を確認できるようにしている。決定後は職員ミーティングで内容を伝え、ミーティングノートにサインや押印を行い、各自が確認した事実を残して周知の漏れを減らしている。保護者へは保護者会、クラブだより、施設内掲示、連絡アプリ、口頭説明を内容に合わせて使い分けて伝え、情報が止まらない体制を維持している。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>利用者・職員の声を集め課題にしている</p> <p>利用者アンケートを毎年実施し、結果は運営協議会で共有し、クラブとしての対応の方向を整理して保護者へ返している。保護者会や送迎時の対話、連絡帳に加え、意見箱や子ども用「なないろBOX」でも受け止め、内容に応じて個別に返答したり全体へ周知している。面談は1年生は年2回、2年生以上は年1回を基本に、希望があれば学年を問わず随時行い、生活上の困り事や要望を把握している。職員の意向は日々のミーティングで拾い、年1回の面談や自己評価シートの記述も踏まえて確認し、必要に応じて法人側へ共有して検討につなげている。</p> <p>前年度の振り返りを踏まえ計画を立て指標と役割で推進している</p> <p>計画は法人内で決定された枠組みに、杉並区の方針を取り込み、学童クラブの運営計画として具体化している。前年度の課題から毎年度の事業計画を作成し、内容はクラブ長が育成計画にもつなげて整理している。年初に役割分担を明確にし、行事や日々の業務が特定の職員に偏らないよう「見える化」を重視し、各自が今週のやることをTODO表として作成し、職員間で進行状況を把握できる形にして、必要な支援や調整をしやすい状態を整えている。新入職員は月ごとの目標を立て、達成状況を確認し、自己他己評価シートも含めて達成度合いを確認している。</p> <p>TODOシートは月単位で作成し、適宜修正追加している</p> <p>進捗の確認は、週単位のTODOと月単位の育成計画を軸に行い、日々のミーティングで「今週、今月に必要なこと」を具体的に確認している。子どもの様子や要望に合わせて内容を見直す際は、職員間で検討し、必要な内容は法人へも共有し、案件によっては部次長会を通じて法人全体の検討へつなげている。年度末には事業計画の振り返りシートを作成し、次年度の計画策定へ反映する流れを作っている。職員目標として、誰でも同じ対応ができる状態や役割意識のそろえ方を大切にしている。</p>		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ-3の講評

研修と日常確認を重ね倫理意識を行動に結び付けている

入職時と年度ごとに倫理や行動規範の研修を行い、研修後は報告書提出で理解の整理を行っている。年度初めのキックオフでは行動規範の読み合わせを実施し、エリアマネージャー同席で基準の共有を図っている。日常では週1回のセルフチェックシートと月1回の心構えチェックシートを回収し、施設長が内容を確認して必要に応じ面談につなげている。マニュアルは常時参照できる状態に置き、事例が生じた際は業務連絡やミーティングで注意点を整理し、次の関わりに反映している。確認の履歴を残す運用により、理解が一過性にならないよう積み重ねている。

相談先の周知と対応手順を明示し組織で受け止めている

相談窓口や外部相談先は保護者会で伝え、掲示やチラシ、意見箱の設置で日常的に確認できるようにしている。意見や苦情は連絡帳や口頭でも速やかに施設長へ集約し、法人や館長と共有して対応方針を整理している。対応はマニュアルに沿って進め、内容に応じて自治体担当への報告や第三者委員・顧問弁護士への相談までの流れを確保している。状況確認は職員への聞き取りを含めて行い、学童クラブ全体で対応をそろえている。対応経過は記録に残し、保護者への説明方法も場面ごとに使い分けている。

地域への情報開示と連携を日常の活動として広げている

活動内容はクラブだよりを中心に配信し、見学対応や保護者会、個人面談で生活の様子を具体的に伝えている。地域清掃や行事への参加、児童館行事への参画を通じて、子どもが地域に関わる経験を積めるよう支えている。地域連絡会や区のブロック会議に参加し、共有された課題を運営に持ち帰って検討している。八成小学校の避難訓練には職員が参加し、災害時に協力できる関係づくりを意識している。活動は報告書などに整理し、学童クラブとしての関わりが継続的に見える形で残している。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー4の講評		
<p>事故記録と法人横断の検討でリスクを具体的に洗い出している</p> <p>日々のケガやヒヤリハットを含む記録を振り返り、リスクマネジメントシートや訓練報告を基に、どの場面にどの危険が潜んでいるかを整理している。法人内では安全管理部を設置し、各施設のセーフティキーパーが年4回程度の会議に参加して、マニュアルの読み合わせや各施設の事例検討を行っている。他施設で発生した事故事例や気づきも共有され、当学童クラブの環境や子どもの特性に照らして注意点を洗い直している。優先順位は、発生頻度や影響の大きさを踏まえて整理し、職員間で共有され、次の行動に結び付くように取り組んでいる。</p> <p>訓練と掲示を重ね職員と利用者が動ける状態を整えている</p> <p>年間計画に基づき、毎月の危機管理訓練を実施し、不審者対応や災害想定、171訓練は保護者にも周知し、連絡手段や集合方法を実際に確認できる機会としている。緊急時の対応フローは職員コーナーに掲示し、災害時の職員配置は日案に明記して、その日の体制がすぐ分かる形にしている。AED講習は全職員が受講し、対応手順を共通認識としている。備蓄品の管理状況も定期的に確認し、保護者会やお便りで災害時や感染症対応の考え方を説明している。訓練後は振り返りを行い、気づいた点を次回計画に反映させている。</p> <p>BCPと情報管理を現場用に落とし込み再発防止へつなげている</p> <p>事業継続計画は法人が整備した内容を基礎に、学童クラブの立地や学校・児童館・地域住民との関係を踏まえ、学童クラブ用の内容へ整理している。災害や事故が発生した際は、発生状況と要因、対応の経過を事故報告書やリスクマネジメントシートに残し、ミーティングで共有して再発防止策を検討している。必要に応じてセーフティキーパー会議で内容を取り上げ、マニュアルの加筆や更新につなげている。個人情報は、入職時の説明とチェックシートで理解を確認し、年1回の再確認を行っている。保管・持ち出し・廃棄のルールは記録を伴って運用している。</p>		

5			カテゴリ-5	
5			職員と組織の能力向上	
			サブカテゴリ-1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			12/12	
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		<input type="radio"/> 非該当	
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当	
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		<input type="radio"/> 非該当	
			サブカテゴリ-2(5-2)	
組織力の向上に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			3/3	
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当	

カテゴリ5の講評

採用から配置までを一連で捉え人材像とのずれを抑えている

採用段階では必要要件や能力・人格を確認し、現場面接を通じて業務内容や職場環境を具体的に説明している。適性検査も活用し、心理状態や特性を把握したうえで配置を検討している。配置にあたっては年齢構成や男女比、子どもの特徴、地域性を踏まえ、本人の意向も確認しながら役割を割り当てている。自己他己評価シートの提出後には、希望者が面談を行える仕組みを置き、将来像や働き方の見通しを言語化する機会を設けている。非常勤職員も動画研修や外部研修へ参加できるようにし、放課後児童支援員研修の受講要件を満たす場合には受講を勧めている。

研修計画と個人目標を結び付け育成の進み具合を確認している

研修は区や法人の研修、動画研修、学童クラブ内研修を組み合わせ、勤務形態に関わらず参加できる形を整えている。参加者は報告書の様式に沿って内容を整理し、ミーティングで共有することで、当日参加できなかった職員も書面で確認できるようにしている。個人の育成では、自己目標達成シートを基に各自が目標を設定し、クラブ長や補佐とすり合わせて確定させている。進捗は共有サーバで管理され、エリアマネジャーも把握できる形にしている。年に複数回の振り返りでは、紙に落として整理した内容を基に面談を行い、達成状況や課題を明確にしている。

評価と日常対話を通じて組織全体の動きをそろえている

自己他己評価や意向調査、ストレスチェック、適性検査の結果は、施設長やエリアマネジャーが確認し、必要に応じて面談で状況共有、参考にするとともに、業務の割り振りや支援の仕方を見直す材料としている。日々のミーティングでは、研修で得た気づきや業務上の工夫を話題にし、事例を共有して対応の考え方を共有している。TODO表を通じて互いの進行状況が見える化し、手が足りない場面では相互に支え合うチーム醸成につなげている。ヒヤリハットの共有や人権に関する研修内容も運営に反映し、言葉の使い方や関わり方を確認する機会を設けている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度、「子どもが安全に過ごすことができる環境整備を工夫する」を重要課題として設定している。背景には、日々の育成の中で、活動中に落ち着きがなくなる子どもや、集団活動に参加しにくい様子が見られていたことがある。こうした姿は特定の場面に限らず、遊びの切り替え時や集団での話し合い、自由遊びの時間帯などで表れており、個別対応だけではなく組織的な捉え直しが必要と判断している。そこで、職員一人ひとりが個別に対応した内容を、その日のミーティングで共有し、子どもの理解を職員間でそろえる取り組みを進めている。具体的には、子どもと一緒に活動内容を考える場面を設け、指示や注意を優先するのではなく、言葉かけの工夫を通して子どもの気持ちを丁寧に聞き取っている。マイナスの行動に対しては叱責ではなく個別に話し、子ども自身が納得できる落としどころを探している。その際、関わりに時間を要する場面では、ほかの職員が全体対応を補完する体制をとり、チームで支える関わりを意識している。こうした取り組みを通じて、クラブが子どもにとって改めて安心して過ごせる楽しい場となるよう、環境設定の見直しを進めている。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

これらの取り組みの結果、子ども自身が活動内容について意見を出す場面が増え、自分の考えが反映される経験を積む姿が見られている。子どもの意見を日々の生活に取り入れることで、自分が認められているという実感が育ち、自己肯定感の醸成につながっている。活動への参加が消極的だった子どもも、班活動や話し合いの中で役割を持つことで関わりが広がっている。こうした変化は、運営後のミーティングで職員間に共有され、どの職員が対応しても同じ考え方で関わられるよう整理している。職員は、子どもの言動や変化を具体的に言語化し、次の育成にどう生かすかを確認している。振り返りでは、子どもの安全は物理的な環境だけでなく、安心して意見を出せる関係性の中で支えられていると整理している。この考え方は全職員に共有され、日常の声かけや活動設定に反映されている。結果として、子どもが落ち着いて過ごす時間が増え、互いに声をかけ合う姿も見られるようになっていく。こうした姿を成果として捉え、引き続き子どもの理解を基盤とした環境づくりを進めている。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度、「危機管理体制の強化と職員一人ひとりの意識の向上」を重要課題として設定している。背景には、マニュアル自体は整備し周知していたものの、活動記録の書き方や共有、検討の仕方に職員間で差があり、結果として情報の整理や活用が十分でない状況があったことがある。職員自身は周知していると認識していた内容についても、振り返る中で新たな気づき生まれ、記録と共有の重要性を再認識している。そこで、危機管理訓練や研修の内容を見直し、安全点検や利用者対象の訓練に加え、職員向けの訓練内容を工夫している。様々な想定を設定した訓練や、外部講師を招いた講習を実施し、具体的な判断力を高める機会を設けている。また、新入職員、中堅職員、管理的立場の職員など、職責や職歴に応じた研修計画を立て、法人内で共有された事例を基に検討会を行っている。運営自治体のブロック単位での研修にも参加し、共通のルールや考え方を踏まえた対応ができるよう取り組んでいる。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った<input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった<input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った<input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた<input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

これらの取り組みにより、ケガや事故に関する記録の漏れが減少し、発生した事案が正しく周知・報告される流れが定着している。事故報告書の内容を基に確認を行い、記録の質と共有状況の変化を把握している。職員は小さな出来事でも記録に残す意識を持つようになり、情報が集約されやすくなっている。また、危機管理を振り返る中で、環境面の安全確保だけでなく、精神的にも安心して過ごせる環境づくりが重要であると整理している。この考え方は、子ども一人ひとりの関わりを丁寧に積み重ね、信頼関係を築くことにつながっている。振り返り内容はミーティングで全職員に共有し、日常の育成や声かけに反映している。さらに、保護者に配付する資料や、関係者が参加する会議の場でも取り組み内容を説明し、共通理解を図っている。結果として、子ども自身が危険な行動を控え、周囲の状況に気づいて声をかける姿が増えている。こうした変化を検証結果として整理し、引き続き危機管理意識の定着を図っている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>区の一員という立場であり、基本的には区から情報を提供している</p> <p>当クラブのホームページのほか、区から情報を提供しており、区のホームページで確認することができる。入会が決まると入会説明会を開催し、入会のしおりなどで丁寧に説明している。しおりには「学童クラブとは」どういうところなのかの説明から、育成日や時間、学童クラブの生活(学校がある日・学校がお休みの日)、おやつ、持ち物、保護者と学童クラブの連絡、ケガ、病気の対応や、おやつ代や利用料などを詳細に記載している。子ども向けには、クラブの図面などを用いて分かりやすく説明している。</p> <p>施設見学はいつでも受け入れている</p> <p>毎月「クラブだより」を発行して、前月の活動報告や当月の行事予定などを載せている。「クラブだより」は児童館にも確認してもらい、学校の校長、副校長、担任の職員や児童館の館長・学童クラブ職員向けに配付している。見学は電話で依頼を受けることが多いが、施設見学はいつでも受け入れている。校庭遊びなど、何時頃はこんな活動をしていると説明したうえで、見たい時間帯を選んでもらうようにしている。保護者からの質問は多く、案内しながら話を聞いて答えるようにしている。</p>		

サブカテゴリ-2	
2	サービスの開始・終了時の対応
サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 8/8	
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている 評点(000)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している <input type="radio"/>非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(00000)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている <input type="radio"/>非該当
サブカテゴリ-2の講評	
入会説明会にて、入会のしおりに基づき説明をしている 入会説明会は3月の中旬頃に行っている。保護者が参加しやすいように平日の夜や土曜日の午前中に開催するようにしているが、出席できない場合は個別に調整している。しおりに、持ち物や学童クラブに常時置いておくもの、玩具や携帯電話についてなど、学童クラブでの生活におけるルールなどが記載されており、丁寧に説明している。利用料金やおやつ代についても、分かりやすく説明することを心がけている。	
子どもが入会後に集会を開催し、約束事を伝えている 入会前に、児童台帳、生活状況調査票、アレルギーの一覧表など、子どもの状況が分かる情報を保護者に記入して提出するよう依頼している。好きな遊びや食べ物、苦手なものなど子どもの状況を把握しており、職員はミーティングで情報を共有している。入会時は、新入生だけで集まって少人数で自由に遊べる時間を作り、職員が子ども一人ひとりに関わられるようにしたり、異学年で班を作り活動する中で、新入生が上級生に分からないことなどを聞きやすい環境を作るなど、子どもの不安軽減に努めている。	
退会時には、スムーズに移行できるよう支援している 当クラブは低学年が中心のクラブである。学年が上になると受け入れ数の多い近隣の児童館内にある学童クラブに移行していく。そのため、日頃から学童クラブ同士の交流の機会を持ち顔なじみになれるようにしたり、児童館のお祭りに参加するなど、児童館にも馴染めるように支援している。また、児童館で保護者会を実施することで、保護者が移行先の学童クラブを見学できる機会を持てるようにしており、保護者にとっても子どもにとっても安心感が持てる環境になるよう配慮している。	

サブカテゴリー3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

10/10

評価項目1

子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している

評点(0000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー3の講評

運営状況計画に重点目標を定め、目標ごとにやるべき事項を示している

運営に重点目標を定め、目標ごとのやるべき事項を示している。運営状況報告では、それぞれの重点目標について実施した内容とそれについての評価をしており、計画に沿って支援ができたか検証している。計画はその年の子どもの状況を見て作成しており、日々の子どもの様子を見る中で、支援方法や運営の仕方を見直すなど、柔軟な対応をしている。配慮が必要な子どもについては、個別に育成計画を作成して、職員間で支援の方向性の統一に努めている。

ミーティング記録ノートや日誌に必要な情報を記載している

入会時には保護者に記載を依頼する児童台帳、生活状況調査票、アレルギーの一覧表などで子どもについての情報を把握し、支援に活用しており、入会後は日々のミーティング記録ノートや日誌に記載している。ミーティング記録ノートには、その日の子どもの様子、保護者、学校、外部からの連絡事項など、日誌には時系列でその日の状況を記録しており、子ども一人ひとりの状況についても記録している。また、配慮が必要な子どもについては、個別の育成計画に沿って支援している。

職員はミーティング記録ノートや日誌を必ず読んでから業務に入っている

職員は業務に入る前に、必ずミーティング記録ノートと日誌を読むことになっており、職員間での情報の共有に努めている。何か子どもや保護者の状況が変わった場合は、児童台帳にも記録し、重要な部分には付箋を付けてすぐに分かるようにしており、情報は学校とも共有を図っている。さらに、大切なことは口頭でも伝えるようにしている。また、事例共有については毎日話し合い、杉並区と練馬区にある同一法人の施設長会議でも話し合うなど、相互の意見交換に努めている。

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われないよう組織的に予防・再発防止を徹底している		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー5の講評			
<p>入会時に個人情報に関する同意書をもっている</p> <p>入会時には、個人情報に関する区の同意書を説明している。「児童に関する個人情報の収集」として児童の通所施設等における日常生活状況や友人関係等について聞き取りを行うことなど、通所施設などにおける児童の様子を見守ることについて記載し、保護者に署名を得ている。また、当学童クラブ独自で「児童写真の使用(肖像権)に関するお願い」として、当学童クラブの活動紹介に関することに限り使用するなどの旨を記載し、承諾か不承諾かの意思確認を行い、保護者の署名を得ている。</p> <p>着替えなどは、カーテンのある場所で行うようにしている</p> <p>着替えなどは、必ずカーテンのある場所で行っており、プライバシーが守られるようにしている。また体調などにより集団の中に入ることができない場合は、静養室で休んだり、事務室にパーテーションを設け、他から見えないようにしている。記録類などは事務室内の鍵のかかるキャビネットに保管しており、最初に開ける人と最後に閉める人が必ず書類で抜けているものがないかチェックすることとしている。</p> <p>「子ども一人ひとりの尊重と安心、安全のために」を重点目標に掲げている</p> <p>今年度の運営計画の重点目標の一つに「子ども一人ひとりの尊重と安心、安全のために」掲げている。学童クラブの約束や行事の企画については、子どもたちと話し合い、子どもの考えを取り入れて実行している。また、日常的に会話を大切にしており、クラブに来た時には「お帰りなさい」と声をかけ、子どもの様子を見て変化がないかを確認するようにしている。リーダー職員は全体を見ながら、気をつけてほしいポイントを「あの子の関わりを見守ってほしい」などと具体的に伝え、子どもたちの関係性が良好であるように見守ることに努めている。</p>			

サブカテゴリー6

6 事業所業務の標準化

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映している	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー6の講評

各種マニュアルを整備し、事務所内に設置して、職員が確認できるようにしている

杉並区の児童館・学童運営マニュアル、利用者へのけがへの対応、特別な支援が必要な児童の入会・育成の手引き、食物アレルギー緊急時対応マニュアルなど、学童運営に必要なマニュアルを整備している。マニュアルは事務所内に置いており、職員は確認したい時にいつでも確認できるようになっている。職員がマニュアルに沿って援助しているかということについては、施設長などが、支援の状況などを確認して、必要に応じて職員の相談を受けたり話をしている。

マニュアルの見直しは年度末に行っている

クラブ独自のマニュアルについては、毎年年度末に見直しをしている。また、法人で作成しているマニュアルについては、法改正などがあつた時に随時見直しをしており、変更時には施設長から職員全員に内容を伝えている。クラブ独自のマニュアルでは、ほかの施設を見に行った職員が、こんなやり方をしていたと報告したことから変更に至った事例もある。また、お迎えの時間と帰りの会が重なることが多かったことから、帰りの会の時間を5分早めるようにマニュアルを変更するなど、臨機応変に対応している。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	29 / 29
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>子どもの状況を共有しながら一人ひとりの姿を把握して援助している</p> <p>子どもの状況については、入会時の面談で家庭状況やこれまでの生活の様子を確認し、職員間で共有している。日常の様子は日誌やミーティングノートに記録し、非常勤職員からの報告も含めて情報を集めながら子どもの姿を把握している。ケガやトラブルがあった場合も記録を残し、当日のうちに施設長へ報告するなど、複数の職員が状況を共有できるようにしている。毎日の育成開始前にはミーティングを行い、日々の関わりの中で見られた変化や気づきを持ち寄りながら情報を整理し、必要な対応を職員間で確認している。</p> <p>子どもの思いや考えを聞きながらトラブルへの対応を行っている</p> <p>育成時間中は、子ども同士のトラブルからケガに発展しないよう職員が複数で見守り、状況に応じて関わる体制を取っている。子ども同士で解決する力を大切にしつつ、職員が介入できる状態で見守ることを意識している。必要に応じて仲立ちを行いながら、互いの思いに気づく機会となるよう援助している。子どもの気持ちに寄り添うことを基本とし、落ち着いて話ができるよう関わることを大切にしている。出来事については記録を残し、ミーティングで共有することで、同様の場面が生じた際に職員が共通した理解のもとで対応できるようにしている。</p> <p>配慮が必要な子どもも含め共に過ごせるよう関わりを工夫している</p> <p>特別支援学級に在籍する子どもも通所しており、個々の特性に配慮しながら日々の援助を行っている。登所の際にはヘルパーの付き添いがあり、子どもの状況を踏まえながら無理なく生活に参加できるように見守っている。子ども同士の関係では、保育園から関わりのある子どもが声をかけて一緒に過ごす場面もあり、自然な関係づくりが見られている。職員も必要に応じて活動に加わりながら、周囲との関わりを支えている。子どもの様子で気になることがあった場合には保護者へ電話で伝えるなど、家庭と状況を共有している。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p>室内外の環境を整え、子どもが遊びを選びながら過ごせるようにしている</p> <p>育成室は用途に応じて空間を分けて使用し、マットを敷いたスペースでは本や漫画を読んだり宿題を行ったりするなど、落ち着いて過ごす場所として位置づけており、おやつの際にも使用している。ブロック、電車遊び、人形遊びなどができるよう玩具を配置し、けん玉やコマについては専用の場所や板などを用意している。外遊びが難しい場合には室内で体を動かす遊びを取り入れ、柔らかいボールを使うなど安全にも配慮している。子どもがその日の気分や状況に応じて過ごし方を選べるよう環境を整え、生活と遊びの双方が展開されるよう援助している。</p> <p>校庭や体育館を活用し、学年を超えて遊びが広がるよう支援している</p> <p>水曜日には校庭開放があり、おやつの前後に校庭や体育館を使った運動遊びを行っている。また、近隣公園も活用しながら戸外で遊ぶ機会を設けている。外遊びの際には学童用ビブスを着用し、職員の目が届く範囲で活動することを基本としている。遊びの内容は子どもたちが相談して決めることが多く、ボール遊びやなわとび、サッカー、鬼ごっこなど、学年を超えて一緒に遊ぶ姿が見られる。屋外と室内それぞれで活動できる場を設けることで、子どもが体を動かす機会を確保するとともに、集団の中で遊びが広がるよう支援している。</p> <p>約束や生活の流れを共有し、集団生活が円滑に進むようにしている</p> <p>学童クラブでは生活の中で守る約束を掲示し、子どもたちが意識できるようにしている。友だちの呼び方や安全に遊ぶこと、嫌なことを言われた場合は「やめて」と伝えることなどを示し、班ごとに「ふわふわことば」の掲示を行うなど、互いに気持ちよく過ごすための言葉づかいも確認している。帰りの会は帰宅時間に合わせて複数回実施し、ゲームや職員からの話を通して生活の振り返りを行っている。移動時の静かな行動やロッカーの整理など日常生活習慣についても繰り返し伝えながら、集団生活が落ち着いて過ごせるよう援助している。</p>			

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当	
評価項目3の講評			
<p>子どもの興味や意見を取り入れながら行事を企画している</p> <p>行事では子どもへのアンケートを行い、やってみたいことや興味のある活動を取り入れており、夏休みのお楽しみ会では、子どもの意見をもとにプラネタリウムやおぼけやしき、魚つりなどの活動を実施している。プラネタリウムでは段ボールなどの材料を使って準備を進めるなど、日常の活動の中で制作を行いながら当日に向けて取り組んでおり、子どもが企画や準備に参加することで、行事が特別なイベントとしてだけでなく日常の活動の延長として進められている。職員は準備の進め方を支えながら活動を見守り、子どもが主体的に取り組めるよう援助している。</p> <p>季節行事や誕生会を通して活動に変化を持たせている</p> <p>年間を通して季節に応じた行事を実施し、日常の活動に変化が生まれるようにしている。七夕会では短冊を飾り由来について話す機会を設けるほか、豆まき会では班ごとに制作した鬼のパネルを使って活動を行っている。新年のお祝い会や昔遊びに触れる機会も設け、コマやけん玉、かるたなどを取り入れている。また、誕生会では事前にインタビューを行い、好きなことや頑張っていることなどをカードにして紹介し、内容を当てるゲームなどを行い、おやつにはアイスクリームやケーキなど誕生日のリクエストを取り入れるなど特別感を持たせている。</p> <p>行事の様子を保護者と共有し理解につなげている</p> <p>行事や日常の活動の様子については、おたよりを作成し、配信システムを活用して情報を届けている。写真の掲載が難しい場合もあるため、保護者や地域とのつながりを意識しながら行事を進めている。保護者会の場でスライドを用いて活動の様子を紹介しており、行事の内容や子どもの取り組みを伝えることで、学童クラブでの生活を具体的に理解してもらえるようにしている。また、児童館や近隣の学童クラブとの交流会を行い、小学校の校庭で一緒に遊ぶ機会を設けている。地域行事にも参加し、子どもが地域の活動に触れる機会をつくっている。</p>			
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当	
評価項目4の講評			
<p>子どもが安心して通い続けられるよう個々の様子に応じて支援している</p> <p>子ども一人ひとりの様子を確認することを大切にしており、日常の会話からも好きなことや苦手に感じていることなどを聞き取り、その子にとって楽しみとなる活動を見つめられるようにしている。遊びの場面では職員も一緒に過ごしなが見守り、必要に応じて遊びに加わるなどして子どもが安心して参加できるようにしている。また、遊びの時間をあらかじめ決めて一緒に活動するなど、子どもの様子に応じた支援も行っている。取り組みを通して、子どもが自分に合った過ごし方を見つけながら学童クラブでの生活に親しめるようにしている。</p> <p>新1年生が学童生活に慣れるよう段階的に生活を整えている</p> <p>新1年生については、入会当初に安心して過ごせるよう一定期間集まって活動する時間を設けることで、生活の流れを覚えられるようにしている。初めの1週間ほどは職員が校門まで迎えに行き、学童クラブまで一緒に移動することで不安なく通えるようにしている。同じ保育園出身の子ども同士のつながりも多くあり、また、班活動を通して自然に集団に入れるようにしている。上級生が遊び方や生活の流れを伝える場面も見られ、学年を超えた支え合いが生まれており、新1年生が無理なく学童クラブの生活に慣れ、安心して過ごせるよう環境を整えている。</p> <p>生活の流れを示しながら見通しを持って過ごせるよう援助している</p> <p>1日の流れについてはスケジュールを示し、子どもが見通しを持って過ごせるようにしている。1日育成の日には午前と午後運動の時間を設け、体育館や校庭を活用しながら体を動かす機会を確保し、気温が高い時期には室内活動を中心にするなど、状況に応じて過ごし方を調整している。学習の時間として30分時間を設けるほか、食休みには本を読んだり、折り紙や塗り絵など静かな活動ができるようにしている。また、習い事に通う子どもについては事前に届け出を受け、迎えに来るスタッフの情報を共有するなど安全面にも配慮している。</p>			

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>学校生活との連続性を意識し必要な場面で連絡を行っている 子どもが放課後の時間を安心して過ごせるよう、小学校との状況確認を必要に応じて行うようにしている。学童クラブでトラブルや気になる出来事があった場合には学校へ伝え、学校生活への影響がないかを確認している。学校側でも子どもの様子を気にかけており、担任教諭や副校長が学童クラブに立ち寄って子どもの様子を見に来ることがある。また、下校時に声をかける場面や忘れ物を届ける際に近況について話すなど、日常のやり取りを通して学校生活と放課後の様子を確かめながら、子どもが落ち着いて過ごせるよう取り組んでいる。</p> <p>学校との窓口を定め状況に応じて対応している 小学校との連絡については副校長が窓口となることが多く、都度必要な内容を伝えている。状況によっては担任教諭と直接話をすることもあり、学校での出来事と学童クラブで見られる姿を照らし合わせながら子どもの様子を捉えている。子どもの表情や行動に変化が見られた場合には、その背景を確認するため学校での様子を聞くこともある。学校と放課後の双方で見られる子どもの姿を踏まえながら状況を理解し、必要な対応につなげている。</p> <p>保護者や関係者とも状況を確認めながら子どもを支えている 子どもが登所した際には必ず視診を行い、いつもと違う様子が見られる場合には声をかけ、必要に応じて検温を行うなど体調の把握に努めている。発熱以外でも体調不良が疑われる場合には家庭へ連絡し、その後の対応について確認している。また、友人関係や生活の中で気になる姿が見られた際にも子どもの話を聞くようにしており、状況に応じて家庭へ伝えている。家庭での様子も踏まえながら子どもの状況を整理し、学校生活と家庭での様子をあわせて捉えることで、子どもが安心して生活できるよう支援している。</p>		
6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作り等に配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p>おやつの時間を生活の区切りとすることで落ち着いて過ごせるようにしている おやつの時間は1日の生活の区切りとして位置づけ、落ち着いて過ごせるよう準備を行っている。おやつ前には遊びの片付けを行い、班ごとに時間を決めて並ぶようにしている。整列後には職員から必要な連絡を伝えるほか、簡単なゲームなどを取り入れることもあり、気持ちを切り替えておやつの時間に入れるようにしている。基本は3時から提供しているが、下校時間の違いにより来所が遅くなる場合には時間を調整して提供している。班ごとに座って食べることで落ち着いた雰囲気を保ち、生活の流れが整うようにしている。</p> <p>季節感や選ぶ楽しさを取り入れたおやつを提供している おやつの時間を楽しみにしている子どもは多く、内容に変化を持たせながら提供している。みかんなど季節の食材を取り入れるほか、ゼリーやアイスなど時期に応じたおやつを出すこともある。また、3種類程度のおやつを用意し、班ごとに取りに来て自分で選ぶ形にするなど、選ぶ楽しさを感じられる工夫も行っている。食べ物の好き嫌いについては無理に勧めるのではなく、残った分のおかわりを希望する子どもに提供するなど柔軟に対応している。行事や季節に関連した食の話題に触れる食育活動も取り入れ、食への関心を持てるよう支援している。</p> <p>アレルギー対応の手順を整え安全に配慮して提供している 食物アレルギーのある子どもについては事前に内容を確認し、除去対応を行っている。対象となる食品を把握したうえで、アレルギー用のトレイを使用し、名前と対象食品を明記して提供している。座席も離して配置するなど誤食を防ぐための配慮を行っている。エビペンを本人がランドセルの指定の場所に入れ、ロッカー保管し緊急時に対応できる体制を整えている。ロッカーには赤枠を付けてアレルギー児童であることが分かるようにするなど、職員がすぐに確認できる環境としている。日常の提供方法を整えることで、安全に配慮したおやつの提供を行っている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>日常生活の中で健康や安全を意識できるようにしている 戸外で遊ぶ際には水筒を持参するようにし、公園や校庭、体育館に出る際にはカゴを用意してまとめて置いて管理できるようにしている。運動遊びの場面では休憩時に水分補給を促すほか、室内活動の際にも適宜声をかけながら水分をとるようにしている。また、手洗い場は2か所設けられており、おやつの前や運動遊びの後には手洗いを行うように声をかけており、ハンカチを忘れた場合にはペーパータオルを渡すなど衛生面にも配慮している。日常の生活の中で繰り返し伝えることで、子ども自身が健康や衛生を意識できるよう援助している。</p> <p>研修やマニュアルをもとに安全に対応できる体制を整えている アレルギー対応についてはマニュアルを確認しながら職員間で手順を共有しており、研修やシミュレーションを行い、緊急時の対応について確認する機会を定期的に設けている。また、中途で入職した職員にも同様の研修を実施し、対応方法を理解できるようにしている。嘔吐処理についても研修を行い、必要な物品をトイレや事務室に配置している。体調不良や緊急時に速やかに対応できるよう日頃から準備を整え、職員が共通した手順で対応できる体制としている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者会の日程は、その時々できるだけ参加してもらえるように調整している 保護者会の日程は、その時々で保護者の状況や学校行事などを考慮して、できるだけ参加してもらえるように調整して決めている。欠席者には資料の配付や必要に応じて説明をして、情報共有を図っている。また、個人面談も2週間程度の期間を設け、その間はいつでも可能としているが、それも難しい場合は別日にするなど、保護者の事情に配慮している。</p> <p>親子交流会やお祭りなどで、保護者同士が交流できるようにしている 親子交流会は3月に実施しており、子どもに親と一緒にやってみたい遊びなどを聞いてゲームやボール遊びを親子で楽しんでいる。また、お祭りは保護者は見学や参加もしており、いずれも保護者同士が交流する機会となっている。保護者会の際に、同じ方向に帰る子どもの保護者が集まれるようにしたこともある。職員との信頼関係を構築するために、職員は、お迎えの時に積極的に声をかけたり、話しやすい雰囲気を作るように心がけている。</p> <p>保護者会で子どもの成長の様子を伝えたり、日々のお迎え時に情報共有をしている 保護者会では、学年ごとの成長の様子を紹介している。また、お迎えの際にその日の様子を話している。保護者からの連絡は、電話や直接話を聞くことが多いが、連絡帳にメモや付箋を挟んでもらうよう依頼している。子どもに問題行動があった場合はお迎え時に話をしており、家庭で困っていることはないかなど相談にも応じている。子どもの出欠席については入退室アプリを利用して、アプリへの帰宅時間入力を依頼しているが、入力がない場合や子どもが申請した時間とアプリの時間が違う場合は、保護者に電話で確認するなどして、安全を担保している。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目9の講評		
<p>公園や児童館を利用する機会を持っている</p> <p>定期的に公園で遊ぶ時間を持っている。また、学年が上がると、児童館内にある学童クラブに行くことが多いので、日頃から当該児童クラブとの交流を図っている。公園はボール遊びができる公園や遊具のある公園、自然が豊かな公園など、近隣にある5か所の公園を活用している。また、児童館とも連携してお祭りに参加するなどしており、子どもがスムーズに学童クラブを移行できることにもつなげている。</p> <p>地域のイベントへの参加を支援している</p> <p>昨年度の運営計画の重点目標の一つに「地域での遊びの環境作りへの支援」を掲げており、評価として、「地域行事や清掃への参加や、保護者参加行事の実施で交流を深めた」としている。近隣の児童館とは連携してお祭りなども行っており、積極的に参加している。また、主任児童委員、保護者代表、小学校校長、当法人のエリアマネジャー、当クラブ管理者、児童館館長、区の担当者がメンバーとなっている運営協議会に出席しており、そこで出た意見を運営に反映するなどしている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	1-1-2	経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている
タイトル①	職員が同じ判断軸で動けるようにする意思決定と共有の工夫が行われている	
内容①	管理者が中心となり、重要な判断や方針については法人や関係機関と連携しながら決定し、その内容を職員ミーティングや共有ツールを通じて丁寧に伝えている。決定事項は単に周知するのではなく、背景や考え方を説明し、日常業務の中でどう反映するかを確認している。TODO表の活用や業務の見える化を通じて、特定の職員に負担が偏らないよう配慮し、組織として業務を進める体制づくりに力を入れている。職員が状況に応じて主体的に判断し行動できる環境を整えている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-5-2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している
タイトル②	日常的に子どもの意見を尊重するようにしている	
内容②	昨年度も今年度も運営計画の重点目標の一番目に「子ども一人ひとりの尊重と安心、安全のために」を掲げており、子どもの意見を聴く仕組みを整え、実現に向けて子どもたちと考えながら決定し、日常の運営や行事に取り入れることを明記している。実践としては、学童クラブの約束や行事の企画は子どもたちと話し合って決めている。日頃から子どもとの会話を大切に、変化を見逃さないよう努めており、疲れが見られた時は、プライバシーに配慮して、静養室で休めるようにしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-2	日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している
タイトル③	学年を超えた関係が育ち、子ども同士で支え合う姿が見られている	
内容③	学童クラブでは異年齢で過ごす時間が多く、上級生が自然に下級生の様子を気にかける場面が見られている。班活動以外でも、遊び方や生活の流れを上級生が伝えることもあり、下級生が安心して活動に参加できる環境となっている。日常の生活や遊びの中で支え合う経験が積み重なり、子ども同士の関係づくりにつながっている様子がうかがえる。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	小規模の事業所であり、職員も子ども一人ひとりに気づきを持つことができている
	内容	小規模の事業所であり、職員も子ども一人ひとりに気づきが持てる家庭的な環境であることから、子どもに関するエピソードがたくさん出てくる。日常的に会話を大切にしており、クラブに来た時には「お帰りなさい」と声をかけ、子どもの様子を見て変化がないかを見ている。リーダー職員は全体を見ながら、気をつけてほしいポイントを「あの子の関わりを見守ってほしい」などと具体的に伝え、子どもたちの関係性が良好であるように見守ることを大切にしている。
2	タイトル	子どもが自分で考え行動できる力を育てることを大切にしている
	内容	日々の生活や遊びの場面において、子どもの意見を聞くことを大切にしており、やりたいことや興味のある活動について話を聞きながら、できるだけ実現できるよう工夫している。また、対人関係のトラブルが生じた際には、状況を見守りながら必要に応じて職員が支援に入れる体制を整え、子どもが自分の思いを言葉で伝えながら解決に向かえるよう見守り、一人ひとりが生活の中で力を身につけていけるよう支援している。子どもが安心して過ごせる居場所となることを意識した取り組みとなるよう配慮している。
3	タイトル	理念と日常実践を結び付けた組織的な運営が行われている
	内容	年度初めのキックオフミーティングや日々の職員ミーティングを通じて、理念や方針を具体的な育成場面に落とし込みながら共有している。子どもの様子や活動の振り返りを軸に、計画と現場の状況との差を確認し、必要に応じて修正を重ねている。理念を掲げるだけでなく、日常の判断や言葉かけにどう反映するかを職員間で確認する姿勢が根付いており、管理者が方向性を示しつつ現場の声を取り入れる運営が行われている。職員が共通の判断軸を持ち、子ども一人ひとりの状況に応じた対応を組織として行う土台が形成されている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	行事やイベントについては、今後も更なる取り組みが期待される。
	内容	今年度の運営計画の重点目標の一つに「子ども一人ひとりの尊重と安心、安全のために」を重点目標に掲げている。学童クラブの約束や行事の企画については、子どもたちと話し合い、子どもの考えを取り入れて実行している。また、親子交流会の前には、子どもに親と一緒にやってみたい遊びなどを聞いてゲームやボール遊びを親子で楽しんでいる。クラブでは、行事やイベントについては、さらに内容を充実させたいとしているので、取り組みが期待される。
2	タイトル	相手を思いやる言葉づかいを育てる取り組みを継続している
	内容	言葉づかいについては「ふわふわことば」を掲示し、相手が嫌な思いをする言葉について振り返る機会を設けているほか、言葉をめぐるトラブルが生じた際には子どもの話を聞きながら状況を整理し、互いに考える時間をつくっている。言葉づかいをめぐる課題は日常の遊びや集団生活の中で繰り返して生じることもあるため、子ども同士の関係づくりを大切にしている取り組みを基盤としながら、言葉について子ども自身が考える機会をさらに広げていくことを検討している。
3	タイトル	日々の対応や検討内容を組織として整理し活用する仕組みが望まれる
	内容	日々のミーティングや訓練、子ども対応の振り返りの中で多くの気づきや判断が共有されているが、それらを整理して記録として残し、次の対応や計画に生かす仕組みは十分とは言えない。職員間で共有された内容がその場の確認に留まることもあり、後から振り返ったり、別の職員が参考にしたりする形には整理されていない。日々の実践の中で得られた判断や工夫を記録として蓄積し、次の対応や職員間の共有に活用できるようにすることで、組織としての対応の一貫性をより高めることが期待される。